

# 新聞切り抜きに見る 女の16年

VI 翔ぶ女 1978

215号 (特集41号)



女子就業者、戦後最高に

2千万人突破 給与は男の1

男顔負け 繁盛し

くたばれ適齡男  
という女性が多い

女性の権利  
連続「白星」

「夫婦別姓」支持4割超す

トップへ大幅に登用

「差別訴訟」が和

# 平等明記憲法

女性の家事は  
月6万円相当  
時給で427円

高校生って意外と呆っちょり

女の方が男に  
つくすべきだ

異性との交際は半分以上が怪しい

夫の定年は妻の門出  
女に戻った感慨深く

老



# 新聞切り抜きに見る女の16年

1978

## VI 翔ぶ女

「国内行動計画」がようやく行政レベルに浸透したこの年、総理府の男女有識者四一〇〇名を対象とする意識調査では、女性問題の国内行動計画があることすら知らない人が四九%。職場や地域の差別、不平等は日常のこと。女子学生の就職難時代でもあった。

しかし、「翔ぶ女」が流行語となって、主婦の「家庭第一主義」が少しずつ変化の兆しを見せると同時に、職場の女たちの泣き寝入りも、次第に影をひそめてきた。

男女差別に関する提訴のほとんどが勝訴したのに勢いを得て、賃金差別、職種差別の裁判闘争も増えてくる。後にその名を馳せた「鉄道の七人の女たち」の提訴もこの年。

一方、草の根の女性グループは、地婦連を中心に粘り強い運動を続けて、分裂を続けていた「核兵器完全廃止・被爆者援護世界大会」をついに統一。東京・広島・長崎での三度の大会を成功させた。

一九八〇年に予定されていた「国連婦人の十年中間会議」は、テヘランを予定地として、ウィーンで準備会議。世界の足音は、遠く微かながら日本にも伝わってきた。国際女性学会が東京で初めて開かれ、「女性学」が話題になったのもこの年である。

# 新聞切り抜きに見る女の16年 VI 翔ぶ女

年表 ● 1978年の主な出来事

法・制度・裁判	30
労基法／平等法／刑事訴訟法改正／訴える／不当解雇／裁く／その他	
政治・行政	40
婦人白書／婦人の日／婦人週間／婦人予算／婦人労働旬間／従軍看護婦／各地の動き／その他	
労働	50
ILO／前進／問題／民間企業／雇用・就職／内職・パート／調査より	
子ども・教育	62
保育・子育て／保父さん／子育ていろいろ／家庭科／女性教師／学校現場	
からだ・健康	72
出産／試験管ベビー／その他	
活動	78
平和／抗議・要求／製作・出版／グループ／世界へ／作品展／仕事／学ぶ／消費者問題／継続／ボランティア	
集会	90
全国集会／国際女性学会／地方集会／その他	
変化・風潮	96
しきたり／変わる／世相／主婦／子ども／結婚・離婚／雑誌／スポーツ／ファッション・ことば	



調査・統計	116
労働／ヤング・学生／主婦／子ども／結婚・離婚／家族／その他	
意見・投書	126
政治／働く／老人問題／家・夫婦／女・主婦・母／男／子ども・教育・学生／ことば・書く・学ぶ	
相談	148
相談	
人	152
行動／賞／逝去	
本	174
本／映画・演劇	
事件	182
女の敵／女の犯罪／子捨て・子殺し／心中／女の自殺／事故・その他／この年の傾向	
海外	200
アジア／オセアニア／アフリカ／北米／中南米／東・中欧社会主義国／社会主義国一般／西欧／海外一般	
資料	216
五十三年度国の婦人関係予算（案）	

[うた] プレイバックPart2／いい日旅立ち／君のひとみは10000ボルト／  
 時間よ止まれ／ガンダーラ  
 [映画] サード／曾根崎心中／キタキツネ物語／皇帝のいない八月／アニ  
 ーホール／ジュリア／スター・ウォーズ／家族の肖像／未知との遭遇  
 [物価] そば（もりかけ）250円／入浴料155円／白砂糖1kg平均233円／喫  
 茶店コーヒー1杯平均280円／牛肉100グラム当たり平均309円／葬儀料  
 三段飾り28万円、五段飾り39万円／上野動物園入園料大人200円、子ども  
 無料／日雇い労働者の平均賃金5,680円／6か月定期預金利息3.75  
 [人口] 114,898千人 [出生数] 170,9万件 [合計特殊出生率] 1.79  
 [死亡数] 69.6万件 [平均寿命] 女77.95歳 男72.69歳  
 [平均初婚年齢] 女25.1歳 男27.6歳  
 [婚姻] 79.3万件 [離婚] 13.2万件  
 [女子雇用者数] 1,280万人 [配偶関係別女子労働力率] 総47.4%  
 未婚53.5% 有配偶48.2% 死別・離別35.2%  
 [女子15歳以上人口に占める雇用者の割合] 28.5%  
 [雇用労働者の平均年齢] 36.3歳 女34.3歳 男37.2歳  
 [雇用労働者の平均勤続年数] 8.8年 女5.8年 男10.2年  
 [雇用労働者の平均月給] 女108.7千円 男195.2千円  
 [女子パートタイム労働者の1時間当たり所定内給与額] 454円  
 [認可保育所数] 20,604所（公立12,737 私立7,867）  
 [入所児童数] 1,913,140人（公立1,170,673 私立742,467）  
 [公共図書館数] 1,200（蔵書冊数 48,716千冊）  
 [婦人会館] 89（うち宿泊施設あり 41）  
 [婦人会館利用者数] 日帰り248万7千人 宿泊9万4千人  
 [物故] 1月5日 浜田庄司／1月14日 花森安治／1月30日 ダミア／  
 2月9日 石井小浪／4月2日 野宮初枝／4月15日 五島美代子／5  
 月1日 ハチャトリアン／5月15日 網野 菊／5月30日 片山 哲／  
 7月1日 古賀政男／7月24日 杉野芳子／8月1日 塩谷アイ／9月  
 27日 加藤勘十／9月29日 ヨハネ・パウロー世／11月15日 マーガレ  
 ット・ミード／11月20日 ジョルジュ・キリコ／11月24日 大松博文／  
 12月8日 ゴルダ・メイア

【この年】 英で世界初の体外受精児（試験管ベビー）誕生／トマトとジャガイモの体細胞雑種・ポマト創出に成功／米・ギルバートら、大腸菌内でのヒトのインシュリン合成に成功／ウィーンで国際婦人年中間年（テヘラン）会議準備会議／南米ガイアナで「人民寺院」信者、集団自殺／西独のフォルクスワーゲン製「ゴルフ」、世界一の量産車に／「嫌煙権」確立をめざす運動始まる／東京で日本初の国際女性学会議／分裂を続けた原水禁、女性たちの運動で統一世界会議に成功

【ブーム】 ダウンジャケット、スキーウェア、スニーカー愛用の若者増加／ディスコ・ブーム（映画「サタデー・ナイト・フィーバー」ほか）／ファミリー・レストラン盛況／「UFO」「サウスポー」などの歌手・ピンクレディー、人気絶頂／健康機器／竹の子族

【ことば】 フェミニスト／翔ぶ女／田中軍団／窓際族／足切り／ダサイ／な－んちゃって／フィーバー／口裂け女

【賞】 歴史文学賞＝松本幸子／解放文学賞（記録部門）＝野村コマキ／吉川英治賞＝杉本苑子／赤い鳥文学賞＝宮川ひろ／江戸川乱歩賞＝栗本薫／長谷川伸賞＝小河明子／ブルガリア平和と相互理解賞＝宮古みどり／女流文学賞＝竹西寛子、津島佑子／毎日芸術賞＝有吉佐和子／パイオニア賞＝森英恵／シュバイツァー賞＝武藤洋子／安井賞＝上條陽子／鳥井音楽賞＝常森寿子

【本】 家庭科の男女共修をすすめる会編「家庭科・なぜ女だけ！」／日本婦人団体連合会「婦人のあゆみ百年」／福岡県スモンの会編「ひとりで歩きたい」／有吉佐和子「和宮様御留」／金城芳子「なはをんな一代記」／駒尺喜美「魔女の論理」／寿岳章子「日本語の裏方」／須田春子「律令制女性史研究」／中沢けい「海を感じる時」／中野英子「アメリカの女たち」／ペイジ・スミス（東浦めい訳）「アメリカ史のなかの女性」／増田連「杉田久女ノート」／宮尾登美子「一弦の琴」／森崎和江「ふるさと幻想」／山崎朋子「あめゆきさんの歌」／山崎豊子「不毛地帯」／山花郁子「わかれ道おもいで道」／あごら編「いま女性解放は」、「女にとって子どもとは」

【TV】 24時間テレビ・愛は地球を救う／銀河鉄道999／西遊記／9.23～音声多重放送開始

【CM】 あんたが主役／小さな親切、大きなお世話

【コピー】 女の時代／知性の差が顔に出るらしいよ……困ったね

月日	国内の動き	海外の動き
1.21	岡山スモン訴訟の原告103人のうち20人が被告の同、製薬2社との間で「東京地裁方式」の和解に調印。	
1.22	社会市民連合と田英夫ら社会党離党議員、社会民主連合結成準備大会。	
1.23	佐世保重工業(株)、合理化計画を労働組合に提示。経営危機表面化。	
〃	法制審議会、介護人抜き裁判を認める答申。	
〃	日本学術会議第11期会長に伏見康治阪大・名大名誉教授選任。	
1.24	江藤淳(戦後の文学は破産の危機/毎日新聞)に端を発して、本多秋五らとの間で「無条件降伏論争」開始。	ソ連の原子弾頭宇宙衛星、カナダに墜落。
〃		米、CIAなど政府情報機関の不法活動禁止の大統領行政命令発令。
1.25	日本鉄鋼連盟事務局の女性7人、男女差別賞金・配転是正を東京地裁に提訴。	
1.26	主婦連、創立30周年記念消費者ゼミナール開催。	
〃	大蔵省、為替管理の自由化・簡単化措置を発表。	
〃	最高裁、候補者名を連呼のウグイス嬢への報酬を買収と判断。(6.20 公職選挙法改正公布→報酬支払いを認める)	
〃	教育研究全国集会、戦後はじめて沖縄で(～29日)。	
1.27	茨城県水戸、勝田両市で内ゲバ。茨大生ら3人が殺され、3人重軽傷。	
〃	滋賀県大津市の御所ノ内遺跡東側で柱跡10個を確認。大津京の遺構と同県教委が表明。	
1.30	東京地裁、ロッキード事件全日空ルート公判。大久保利森被告、橋本・佐藤ら6人に3000万円贈賄を証言。	EC・中国、貿易協定交渉を開始(4.3協定調印)。
〃	国連への核兵器完全禁止要請署名運動に女性が共同行動、17団体参加。	フランスのシャンソン歌手ダミア死去。88歳。
1.31	徳島の「ラジオ商殺し」の富士茂子さんが5度目の再審請求を徳島地裁に。	
〃	52年度第2次補正予算成立。	
(この月)	●特定職種育児休業利用助成給付金制度発足。	●米・下院本会議で児童ポルノ禁止法案可決。

# 1 月

月日	国内の動き	海外の動き
1. 1	福田首相、経済成長率7%達成を強調。	インド航空機、ボンベイ沖で墜落。213人全員死亡。
1. 2		インド、ガンディーが新党（インディラ会議派）を結成。
1. 4	共産党、袴田里見前副委員長の除名を公表。	米大統領カーター、エジプト大統領サダトと会談(アスワン)。中東和平3原則で声明。
"	円の対ドル相場、1ドル=237円90銭の新高値。	
1. 5	城山三郎『黄金の日々』発刊。	トルコ、エチエビット内閣発足。
1. 8	園田外相訪ソ(1.9グロムイコ外相と平和条約で会談)。	
1.10	美濃県都知事、福田首相に起債550億円の承認を直接要請。	
"	総理府、初の《婦人白書》「婦人の現状と施策—国内行動計画に関する第1回報告書」を発表(女子労働人口2010万人、労働人口の37.4%、うち既婚者60%、平均賃金男子の58.3%)。	
"	東京・世田谷区のアパートで巡回訪問を装った制服警官、清泉女子大生を絞殺。	
1.11	公明党大会、自衛隊の認知など現実主義路線を提唱。	ソ連の宇宙船ソユーズ27号、ソユーズ26号とドッキングしているサリュート6号と、史上初の3宇宙船連結に成功。
1.13	日米経済交渉、共同声明を発表し閉幕。	
1.14	伊豆大島近海地震(M7)、死者28人。	
1.16		イタリアのアンドレオッチ内閣総辞職。
1.17		中東和平政治委員会、エルサレムで開催。
1.19		バール仏首相、中国訪問。
1.20		インドネシアで3月の大統領選挙を前に四大有力紙が発行禁止。学生リーダー100人以上逮捕。
1.21	自民党旧田中派国會議員、政治団体〈政治同友会〉結成。	
"	参議院公害対策委員長に田中寿美子。	
"	52団体、国内行動計画前期重点目標について、文部省へ申し入れ(→1.25・厚生省)。	

月日	国内の動き	海外の動き
2.20	永大産業（株）、会社更生法の適用を申請。負債総額1800億円。	
〃	ガルブレイス『不確実性の時代』発売、10か月で46万部。	
〃	東京都婦人会議（鍛冶千鶴子会長）が東京都行動計画中間報告を提出。	
〃	東北・関東にM6.8の広域地震。30人負傷。	
〃		キプロス、エジプトと断交。
2.23		英下院がスコットランドを単独立国家とする分権法案を可決。
2.24	放射性物質を扱う会社で被曝のアルバイト青年に（大阪地裁は）慰謝料など880万円支払い命令を会社に命じた。	中国、人民政治協商会議第5期全国委員会第1回会議。鄧小平を主席に選出。
〃		韓国、成錫憲ら反体制派60余人、朴政権批判の「3.1民主宣言」を発表。
2.25	米映画「未知との遭遇」封切。SF映画ブームに。	
2.26	新自由クラブ第一回大会、活動報告を承認。	中国、第5期全国人民代表大会第1回会議開幕。「4つの現代化」を明記した新憲法を採択。
2.27	神戸地検、甲山学園の園児殺し容疑で不起訴の保母を再逮捕。	
〃	「婦人の現状と施策—国内行動計画に関する第1回報告書」および「東京都行動計画策定婦人問題会議の中間報告」について検討会（於婦選会館）。	
2.28	衆議院本会議、原子力衛星規制決議を全会一致で採択。	
〃	自民党、総裁公選を控え、党員登録を締切る（党員数151万7761人）。	
〃	東京・営団地下鉄東西線の電車が竜巻で脱線転覆、乗客21人が重軽傷。	
[この月]	● くあんふぁんての会>、「新幹線にベビーコーナーを！」署名を集め、国鉄に要望書提出。	

## 2月

月日	国内の動き	海外の動き
2. 1	初の社会党委員長公選告示。	機密漏えい盗聴事件で西独レーバー国防相解任、6閣僚を入替え。
2. 2	ココム、日立製作所の大型電算機の中国輸出認可。対中輸出商談活発化。	アラブ抵抗戦線首脳会議開催(〜2.4)。アルジェ宣言採択、親ソ政策表明。
”	国立科学博の主任研究員が日本最古の化石鳥の骨格復元図作成に成功。	タイ・カンボジア両国が、国境閉鎖解除、国交正常化で合意。
2. 3	「弁護士抜き裁判法案」法務省が特例法として国会に提出することを決定。	西独・レーバー国防相、国防機密漏えいなどで解任される。
2. 5	宗茂、別府大分マラソンで2時間9分5秒6の世界2位。	
2. 6	千葉県警など機動隊800人、成田空港反対派の鉄塔・要塞の撤去作業を開始。農民・学生ら49人逮捕。	
2. 9		米国防省は1957年8月の核実験参加者8人に白血病が発見され、1人死亡したため約30万人の調査開始を発表。
2.10	国家公務員の週休二日制、4月1日から1年間再試行を閣議決定。	
”	滋賀県野洲町で中学生2人が、友人4人を就寝中に襲い、3人殺傷。	
2.11		ソマリアが事実上の対エチオピア宣戦布告(正規軍派遣)を発表。
2.13	国際人権規約の国会批准、自民の反対で微妙に。	
”	東京都、財政健全化計画を自治省に提出。赤字団体回避へ。	
2.14	円相場高騰関連中小企業対策臨時措置法公布。	英連邦首脳会議のため11か国首脳が滞在するシドニーのホテルで爆発が起き、警官2人死亡。
2.16	日中、長期貿易取決め調印。8年間で双方各100億ドルの輸出を規定。	
2.18	嫌煙権確立をめざす人びとの会結成(東京)。	アジア=アフリカ(AA)人民連帯機構代表者会議、キプロスのニコシアで開催中、武装ゲリラに急襲される。
”	弁護士抜き裁判に反対する2.18集会。千駄ヶ谷区民会館で150人参加。	

月日	国内の動き	海外の動き
3.17		世界の総人口40億人を突破（国連人口年鑑76年）。
3.18	東京・原宿に竹の子族が出現。	中国、全国科学大会。鄧小平、科学技術重視を強調。
3.19	国際婦人年大阪連絡会、「出産白書」の中間報告を兼ねたシンポジウム開催。	
3.20	敦賀の初の国産発電炉「ふげん」、臨界に到達。	仏総選挙、与党が大勝。女性候補は600人で当選者は7人増の17人。
〃	成田「東山事件」、千葉地検、警察側を不起訴。「死因は投石」との判断。	
3.21		米財務省、1月の対日貿易収支の赤字が史上最高10億3500万ドルと発表。
3.22	日電公社、光ファイバーによる海底ケーブル通信の実験に成功と発表。	インドネシアでスハルト現大統領が無競争で3選。
〃	東京都初の保父3人誕生。	
3.23		ベトナム、南部の民間企業を廃止。集団化・国営化へ（12.14 南部の農地私有を全面禁止、国有化）。
3.24	社会党、「男女雇用平等法案」を発表（5月8日国会に提出・廃案）。	
〃	カネミ油症事件で福岡地裁、カネミ倉庫会社工場長に有罪、社長には無罪の判決。	
3.25	〈行動を起こす会〉「主婦の失業者宣言」集会。	ビルマ航空機がラングーン郊外に墜落、日本人6人を含む48人が死亡。
3.26	過激派、成田空港管制室を破壊、逮捕115人。	
〃	社会民主連合結成大会（代表・田英夫）。	
3.27	真宗大谷派、内紛激化（11.16大谷家、東本願寺の独立を宣言）。	
3.28	東証ダウ株価5360円34銭の過去最高記録。	米・カーター大統領、中南米・アフリカ4か国を訪問。
〃	成田空港管制室破壊で、開港延期決定。	
3.29	グアム旅行の長野県の保母ら、ピストルで撃たれ、2人死に1人重体。	タイのクリアンサク首相訪中。
3.30	公正取引委員会、合繊不況カルテル認可。	
〃	米財務省、日本製テレビのダンピング輸出による損害補償を輸入業者に請求。	
〃	予防接種の副作用で死亡児の父母に東京地裁、国と銚子市に940万円の支払いを命令。	
3～4		ウィーンで第27回国連婦人の地位委員会開催。女子差別撤廃条約案と国連婦人の10年―1980年世界会議のためのプログラムについて審議。
(この月)	●北海道「婦人行動計画」策定（以後、各県で策定続く）。	●米・ニューヨークでNGO主催「国際セミナー」開催。46か国の民間代表160人参加。 ●韓国の日系企業で女性工員の悲惨な労働条件が明らかになる。



# 3月

月日	国内の動き	海外の動き
3. 1	久保田真苗、国連の「婦人の地位向上部長」に。赤松良子、総理府婦人問題担当室長に就任。	
"	社会党初の委員長選、飛鳥田委員長長信任。	
"	北陸スモン訴訟で患者側勝訴。	
3. 2	警察庁「未成年者自殺白書」。'77年の9～14歳の自殺、12年前の2倍と発表。	
"	成田へ燃料輸送の一番列車。	
3. 3	永野重雄日商会頭、武器輸出禁止措置緩和を提唱。	ローデシア・スミス首相と黒人穏健派、暫定政府樹立協定に調印。
"	最高裁、「名古屋中郵事件」、「国労松山駅事件」で逆転判決。7被告有罪。	
"	埼玉県でペットのライオン、飼い主を殺す。	
3. 5		中国の全人代第1回会議。新憲法と新人事決定。
3. 6	東京地裁、経団連襲撃事件の4被告全員に懲役6～5年の実刑判決。	
3. 7	稲村総理府総務長官、3月3日を「婦人の日」祝日にする方向で、事務当局に検討指示、女性議員ら反発。	
"	政府、刑事事件の公判の開廷についての特例法案(弁護人抜き裁判)を国会に提出。	
3. 8	3月3日の祝日制定は、男女差別の社会慣習を政府自ら是認するものと、女性議員ら総理府総務長官に、反対申し入れ。	
"	長谷川恒男氏が初のアイガー北壁冬季単独登はんに成功。	
3. 9		ソマリア、エチオピア軍の進撃でエチオピア領からの撤兵表明。米大統領、ソ連・キューバ軍のエチオピア撤兵を要請(3.24 エチオピア、領内全域制圧)。
3.10	カネミ油症事件の全国統一訴訟、被害者勝訴。	カーター米大統領、核拡散防止法案に署名。
3.11	〈地名を守る会〉設立(東京)。	伊・アンドレオッチ新内閣成立。
"	閣僚会議、貿易黒字減らし対策の輸入促進措置決定。	パレスチナ・ゲリラ、テルアビブ郊外で観光バスを襲いイスラエル軍と銃撃戦、市民ら125人死傷。
3.12		仏、総選挙で与党勝利。
3.13		米と西独、ドル安対策を共同発表。スワップ拡大など合意。
3.14	主婦連「ジュース裁判」で上告棄却。	
3.15	小野薬品工業細菌肺炎治療剤FOYを発売。	イスラエル、陸・海・空からレバノン南部のパレスチナ支配地域を襲い占領。
3.16	日銀、公定歩合0.75%引き下げて3.5%に('46以来最低水準)。	仏・ブルターニュ沖でタンカー座礁。
"	集団かぜ患者、空前の296万9000人に。	伊・与党キリスト教民主党総裁モロ、武装ゲリラ組織〈赤い旅団〉に誘拐される(5.9 ローマで射殺死体発見)。

月日	国内の動き	海外の動き
4.18	石油税法公布（エネルギー対策財源）。	米・パナマ、新パナマ運河条約成立。
4.19	日電公社、電子ビームにより、128キロビットのROMの試作に成功と発表。	スペイン共産党第9回党大会、「レーニン主義放棄」を可決、ユーロ・コミュニズム路線を再確認。
〃		米民間調査機関、'77年の世界の出生率は史上最低と発表。
4.21	経済対策閣僚会議、国際収支対策および円高に伴う物価対策を決定。	大韓航空機、北極圏でソ連領空を侵犯、強制着陸させられる（ソ連機の銃撃で死傷者21人、うち日本人1人死亡）。
〃	日ソ両国、漁業協力協定調印。	
〃	大羽綾子、第27回国連婦人の地位委員会報告（婦人会館）。	
4.24	全通、春闘決戦スト中止を決定。	
4.25	交通ゼネスト。	ソ連ブレジネフ書記長が中性子爆弾生産を抑える、と宣明。
〃	伊方原発訴訟で住民側敗訴。	
4.26	政府、身元引受人のあるベトナム難民の定住を認可。	
〃	酒税引き上げ決定。5月実施。	
4.27	口大北極遠征隊5人、北極点到達。	アフガニスタンで軍部クーデター、ダウド大統領死亡。人民民主党が政権を掌握。
4.28	日本とベトナム、公文書交換。	
〃	余暇開発センター、主婦の家事労働は月6万円に相当と発表。	
〃	東京地裁、「宮本身分帳事件」付審判で鬼頭被告に証拠不十分で無罪判決。	
〃	東京地方婦人会議、テーマは「しきたりの中の男女平等—私ならこう改善する」（恵比寿会館）。	
4.30	植村直巳、犬ぞり単独行で北極点に到達。	韓国、領海12カイリ実施。
〃		アフガニスタン、国名をアフガニスタン民主共和国に変更、国家元首にタラキ首相を任命。
〔この月〕		●米海兵隊のマーガレット・ブルーラさん、史上初の女性将官に。

# 4 月

月日	国内の動き	海外の動き
4. 3	平野謙氏死去（70歳）。	中国、ECと貿易協定調印。
4. 4	キャンディーズ、サヨナラコンサートに5万人。	
〃	新東京国際空港、5月20日開港に決定。	
〃	死亡率が15年間に35%低下と厚生省発表。	
〃	53年度予算成立。一般会計は34兆2950億円。	カーター米大統領が中性子爆弾の生産・配備の、当分見合わせを決定。
4. 6	農林省、水田利用再編対策要綱を通達。	
〃	VAN（ヴァン・チャケット）倒産。	
〃	東京拘置所跡地（巣鴨プリズン）に超高層ビル「サンシャイン60」オープン。	
〃	日米加の新漁業条約まとまる。アラスカ近海サケ・マス漁の規制強化。	比暫定国民議会選挙。与党「KBL」勝つ。アキノ前上院議員は落選。
4. 7	郵政省、家庭用データ・バンク（キャプテン・システム）公開。	
4. 8	わが国初の実験放送衛星「ゆり」、アメリカのロケットで打ち上げ。	
4.10	大阪国際フェスティバル・祝祭シリーズ開幕。	
〃	国立水俣病研究センター設置。	シェフチェンコ国連事務次長亡命。
〃	第30回婦人週間。テーマは「男女の平等と婦人の社会参加をすすめる」。	
〃	京都府知事に保守の林田悠紀夫氏当選。28年間の革新府政に終止符。	
4.11	衆・参両議院の超党派議員からなる「国連婦人の10年推進議員連盟」169議員（うち女性22人全員）で結成、会長・山口シヅエ。	
4.12	中国漁船108艘、日本巡視船退去を要求。	ヴァンス米国務長官とオーエン英外相、南部アフリカ3か国を訪問。ローデシアの「愛国戦線」指導者と会談。
〃	日教組、主任手当条例化の32県で手当（月5000円）の全額組合拠出を確認。	
4.15	通産省、'78年度輸出総量を行政主導によって'77年度並みに抑制と決定。	
4.16	シェール西ドイツ大統領来日。	
4.17	横浜市長選挙（共産党を除く6党推薦の細郷道一当選）。	

月日	国内の動き	海外の動き
5.20	新東京国際空港正式開港。	台湾・蔣経国、国民党総統に就任。式典に岸信介ら11人の国会議員参加。
5.22	日銀、輸入決済手形制度実施。	ソ連・アフガニスタン、経済・技術協力協定に調印。
5.23	新日本製鉄(株)、上海宝山製鉄所建設に 関し中国と議定書調印。	初の国連軍縮特別総会、ニューヨーク で開幕(～7.1。6.1 非同盟85か国作 成の見解、総会で配付。核大國を批判。 7.1 軍縮宣言・行動計画など4最終文 書を採択)。
〃	公明・民社・新自由クラブ・社民連4党 党首、初会談。	
〃	中道革新勢力結集をめざす超党派政策集 団「21世紀クラブ」発足(発起人、長州 一二郎)。	
〃	衆議院本会議、国連軍縮特別総会に関す る決議を全会一致で採択。	
〃	高橋悠治「三里塚」初演。	
〃	初の国連軍縮特別総会(～6.30)。日本代 表団、核兵器完全禁止を要請する2千万 署名提出。	
5.24		中国、華僑の大量帰国はベトナム政府 の計画的追放・迫害と非難(5.27 ベ トナム、反論声明)。
5.26		ニューヨークで日本からの原爆被爆者 を含む反戦平和の4000人デモ。
5.27	第19回全国婦人のつどい中央集会、「自 立・連帯・行動」を統一テーマに。800名 参加(品川文化会館)。	米国平和運動グループ主催核兵器廃絶 デモ1万5000人、ニューヨーク中心街 を国連本部へ行進。
〃		韓国、スパイ容疑の徐俊植さん、満期 出所後、再収監。
5.29	愛媛県長浜町住民の「入浜権」訴訟で松 山地裁、住民の請求を棄却。	
5.30		核兵器完全禁止要請の日本国民代表団、 日本人の核兵器禁止署名(1869万4225 人署名)を国連事務総長に手渡す。
〃		NATO首脳会議、ワシントンで。10～15 年の長期防衛計画採択。
(この月)	●井上ひさし「吉里吉里人」(『小説新潮』)	

# 5 月

月日	国内の動き	海外の動き
5. 1	「大佛次郎記念館」開館。	ソ連の作曲家・ハチャトリアン氏死去 (74歳)。
5. 2	岡原最高裁長官、国会審議中の「弁護士抜き裁判法案」は「必要な法」と声明。	
5. 3	福田首相、ホワイトハウスでカーター米大統領と会談。	
5. 4		ソ連ブレジネフ書記長、西独訪問。シュミット首相と会談、長期経済協力協定に調印。
5. 5	福岡市の板付遺跡で縄文末期の水田跡と足跡を発見。	中朝首脳会談。華主席、北朝鮮訪問。
5.10	拓大応援団リンチ事件で新入生、死亡。上級生 7 人逮捕。	チェコスロバキア航空をチェコ人 5 人がハイジャック、西独に亡命求め投降。
5.11		ザイールにコンゴ民族解放戦線が侵入 (5.18 欧州 4 か国、白人救出の共同作戦を開始)。
5.12	むつ関係閣僚会議、長崎県知事・佐世保市長に、佐世保港でのむつ修理を要請。	コモロ、無血クーデターでソワリ大統領監禁される。私有財産制復活。
5.13	新東京国際空港の安全確保に関する緊急措置法公布。	
〃	第23回働く婦人の中央集会が「教育」をテーマに。2000人参加。	
〃	総理府、「全国推計人口」を発表。総人口 1 億1415万人 ('77年10月 1 日現在)。	
5.15	特定不況産業安定臨時措置法公布。	
〃	網野菊死去 (78歳・作家)。	
〃	女性所定内給与月額平均97900円、平均 34.6歳、5.5年勤続と労働省発表。	
〃	ピレンドラ・ネパール国王夫妻来日。	
5.16	人質による強要行為処罰法公布。	ドミニカ、大統領選挙、野党革命党のグスマン当選。
〃	海外旅行者300万人超、総理府「観光白書」で“健全化”を訴える。	
5.17	高知県で自衛隊の飛行機墜落、13人死亡。	エルサルバドルで日系合弁会社社長松本不二雄、武装 4 人組に誘拐される (10.4 遺体発見)。
5.18	妙高高原で地滑りと鉄砲水のため13人生き埋め、死亡。	イタリア上院、妊娠中絶法案を可決。

月日	国内の動き	海外の動き
6.19	3公社5現業のスト権付与につき、公共企業体等基本問題会議、現時点では不適當と政府に意見書提出。	中国、ベトナム対立深刻に。中国、ベトナムの3総領事館閉鎖を通告。
〃		ウィーンで国連婦人の10年中間年—1980年世界会議のための第1回準備委員会開催。同世界会議の議題など審議。赤松良子出席。
〃		OPEC総会、原油価格の年内据え置き決定。
6.21	日韓大陸横断協定実施に伴う石油・天然ガス資源開発特別措置法公布。	
6.22	文部省、「ゆとり」と「多様性」をめざす高校の新指導要領案発表。	
6.23	日活ロマンポルノ裁判で全員無罪判決(東京地裁)。	
6.24		北イエメン・ガシュミ大統領、イエメン人民民主共和国特使と会見中爆発で死亡。南北イエメン国交断絶。
6.26		南イエメン・ルバイ大統領、銃殺される。親ソ派のイスマイル国民戦線書記長が実権掌握(6.27 後任大統領はムハンマド首相)。
〃		仏・ベルサイユ宮殿で時限爆弾が爆発、同宮殿左翼が重要美術品とともに大被害。
6.27	石油開発公団法改正公布、石油公団と改名。	コメコン総会開幕(ブカレスト、～6.29)。
6.28	山形県山辺町の水利工事現場でガス爆発、作業員9人生き埋め、2人死亡。	ベトナム軍の大部隊がカンボジア国内に侵入、と米情報筋が確認。
6.29	日銀、国債買いオペレーションで初の入札方式を実施。	コメコン、ベトナムの加盟を承認。
〃	成田燃料輸送警備のヘリ墜落。鉄道公安員ら5人即死。	
[この月]		●ベトナム、カンボジアに大攻勢。

# 6 月

月日	国内の動き	海外の動き
6. 1	福岡市、異常洪水で1日5時間給水実施。	
”	自民党田中派、総裁公選実現と大平支持を表明。	
”	日銀、コール・レートの弾力化、手形転売の自由化方針を公表。	
6. 2	外務省公電漏えい事件の西山・元毎日新聞記者の最高裁上告棄却、有罪確定。	バングラデシュ、初の大統領選挙。ラーマン大統領圧勝。
6. 6		米カリフォルニア州、住民投票で70億ドルの減税案成立。
6. 7	原子力基本法改正案成立。	国際労働機構 (ILO) 第64回総会、ジュネーブで。
6.12	宮城県沖地震 (M7.5)、死者27人、損壊家屋2844軒。	フィリピン、新憲法による議会内閣制に正式移行。マルコス大統領が初代首相を兼任。
”	地婦連事務局長・田中里子、国連会議場で核軍備撤廃を訴える。	郭沫若中国科学院長 (劇作家) 死去。86歳。
”	皇太子夫妻ブラジル、パラグアイへ親善訪問。	
6.14	元号法制化促進国会議員連盟設立総会 (衆参両院議員411人)。	ASEAN外相会議、タイで。共同コミュニケ採択。引き続き園田外相も参加、初の拡大外相会議。
”	日韓大陸だな協定関連国内法成立。	
6.15	小沢征爾、中国中央楽団を指揮。	伊・レオネ大統領、脱税などを迫及されて辞任。
”	大規模地震対策特別措置法公布。	
6.16	水俣病問題関係係熊本県債発行によるチッソへの救済融資を決定。	中国、4月以降のベトナム帰国華僑は13万3000余人と報道。
”	3年もの利付国債第1回発行。初の公募入札方式採用。	
”	大蔵省、オンライン処理による金融機関相互間の業務提携について通達。	
6.17	厚生省、パーキンソン病の治療費公費負担を決定。	石油輸出国機構 (OPEC) 第51回定例総会ジュネーブで開く (～19日)。
6.18	福島市民マラソン、日射病で30数人が倒れ、2人死亡。	

月日	国内の動き	海外の動き
7.18	生活映像情報システム、光通信による画像・音声・データの双方向多重通信システムを完成。	第15回アフリカ統一機構(OAU)首脳会議開催(ハルツーム)。
〃	自民党総務会、元号法制化で3項目決定。	
7.19	名古屋婦人会館オープン。	韓国で初の原子力発電所が完成。
〃	栗栖統幕議長、「自衛隊は有事の際、超法規的行動をとる」と発言(28日、更迭)。	
7.20	新日本製鉄(株)、八幡製鉄所洞岡の最後の高炉の操業停止。	韓国で初の原子力発電所が完成。
〃	初任給男女同額企業27%、女性のみ適用の結婚退職制度をもつ7%、妊娠出産退職制3%と労働省発表(「女子労働者の雇用管理に関する調査」)。	
7.21	日中平和友好条約締結交渉、3年2か月ぶりに北京で再開。	ボリビア、軍部クーデター。バンセル大統領辞任、ペレダ将軍が大統領就任。
7.22	文部省、「高校学習指導要領案」発表。家庭科女子のみ4単位必修は変わらず、男子に希望あれば選択履修の道。	
〃	「女の生き方を考える—NHKドラマ“夫婦”をめぐる」集会。	NYタイムズ記者、取材メモの提出拒否に州高裁が有罪判決。
7.24	初の国際女性学会・78年東京会議、国立婦人教育会館で(～26日)。	
〃	学術審議会が事実上凍結されていた遺伝子組み替え実験再開の方向を示す。	非同盟諸国外相会議、ベオグラードで開催、86か国参加。「覇権主義に反対」などの宣言を採択。 世界初の体外受精児(女)が英で誕生。
7.25	予防接種法施行令改正。はしか予防接種義務化。	
〃	作曲家・古賀政男死去(73歳)。	ブラジル・エアネス大統領、ソアレス首相を解任。
7.27	福田首相、防衛庁に有事立法と有事の防衛研究の促進を指示、反対運動起きる。	
7.29	第24回日本母親大会に1万人が参加、45の分科会。	ザイルとアンゴラ国交を樹立。
7.30	沖縄県、車両の左側通行制実施。	
7.31	特定不況産業信用基金発足。	南アフリカ、ナミビアの独立受諾を国連に通告。
〃	金丸防衛庁長官、講演で「日・韓・台は運命共同体」と発言、問題化。	
〃	青森老女殺し事件の米谷四郎さん、青森地裁の再審で26年ぶり無罪に。	パリのイラク大使館で銃撃戦。武装パレスチナ人乱入、警官ら7人死傷。
[この月]	● 7月の原子力発電電力量56億8600万kwh、水力発電電力量を上回る。	



# 7 月

月日	国内の動き	海外の動き
7. 1	神奈川県バス協会、車椅子乗車実施 (7.5 東京バス協会も実施)。	国連軍縮総会開幕。軍縮宣言、行動計画など4最終文書を採択。
"	日本人の平均寿命、男72.69歳、女77.95歳。世界一の長寿国に、と厚生省発表。	
"	特定機械情報産業振興臨時措置法公布。通産省、電子計算機など89機種を指定、高度化計画を策定。	
7. 3	立教大学法学部、'79年から高卒で22歳以上の社会人を、一般受験とは別枠で受入れと発表。	中国、ベトナム援助を全面停止。
"	藤原真理、第6回チャイコフスキー国際音楽コンクール・バイオリン／チェロ部門で第2位。	
7. 5	農林水産省発足（農林省改称）。	
"	国鉄リニアモーターカー試験車が時速337キロの世界新記録出す。	韓国大統領選、朴正熙大統領再選。 英自治領ソロモン諸島、独立。 伊、大統領選。社会党・ベルナーニ当選。
7. 6		
7. 7		
7. 8	国鉄運賃値上げ（最低料金80円）。	ソ連、反体制派「ヘルシンキ＝グループ」指導者の裁判開始。 モリタニア、軍部クーデタ。ダッダ大統領逮捕。
"	閣議、生産者米価据置きを決定。奨励金増額で実質1.54%引上げ。	
7.10		
"		スペインのキャンプ場で液化ガス運搬トラックが爆発、死者約200人。
7.11	環境庁、NO <sub>2</sub> の環境基準を大幅緩和。	
7.12	関西相互銀行、住友銀行との合併表明。合併計画の見送り表明。	
"	筑摩書房倒産。負債額出版業界最大の60億円。	中国、アルバニア援助を中止。 ソ連で反体制派裁判、シチャランスキー氏に自由剝奪13年の刑など。
7.13		
7.14	〈首都圏地方自治研究会〉、横浜市でシンポジウム「地方の時代」開催。	
"	中高年齢層や女子の雇用条件悪化を指摘した「労働白書」を閣議了承。	第4回先進国首脳会議がボンで開催、30か国出席。
7.16	福田首相、第4回先進国首脳会議（ボン）に出席。経常収支の黒字縮減と経済成長率7%達成を公約。	
7.17	郵政省、進学積立郵便貯金の取扱い開始。国の進学ローン制度新設。	

月日	国内の動き	海外の動き
8.18	公正取引委員会、ヤミカルテルを結んだ生コン業者に課徴金制度を初適用。	
〃	東京で真夏日連続27日間。	
8.20	P.L学園、第60回全国高校野球選手権記念大会で初優勝。	イランのアバダンで映画館が放火され、死者477人。
8.22		ニカラグア、サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)ゲリラ、閣僚・議員ら400人を人質に国会議事堂を占拠、政治犯釈放を要求(8.24 ゲリラ、釈放政治犯70人とパナマへ亡命、人質釈放)。
〃		ケニヤ・ケニヤツグ大統領没、後任にモイ。
〃		米・ベトナム両国が国交正常化交渉再開で合意。
8.23	〈母と女教師の会〉全国集会在東京で。テーマ「どんな人間に育てたいか」。	
〃	来年度防衛費要求総額は世界第7位。2兆1341億円。今年度より12.3%増。	
8.24	政府、円高差益還元のため電力・ガス料金の暫定引下げ方針を決定。	
〃	7女性団体議会活動連絡委員会、ILO看護職員条約批准実現のため、厚生省など関係各省に陳情。	
8.26		中国・「人民日報」、毛思想絶対化反対の「解放軍報」論文を転載。
〃		第264代教皇ヨハネ・パウロ1世就任。
8.27	香川県知事に前川忠夫氏再選。自民党は大平幹事長のおひざ元で敗北。	イラン・アムゼガル首相辞任、後任にシャリフエマミ上院議長。
8.29	52団体、婦人の年金問題について、厚生省長尾立子年金局年金課長の説明会。	ニカラグア、ソモサ独裁政権打倒を11指す反政府デモ。
8.30	プロ野球、巨人の王選手が通算800号本塁打達成。	
8.31		ジュネーブ軍縮委、最後の定例会期を終える。16年間の歴史に区切り。
[この月]		●米・全米健康統計センターが「15～44歳までのカップル3組に1組が人口不妊、30～44歳までの夫婦の約半分が不妊手術済」と発表。

# 8 月

月日	国内の動き	海外の動き
8. 1	郵便貯金のオンライン化開始。	
〃	婦人問題企画推進本部ニュース「えがりて」創刊。	
〃	「'78核兵器禁止・被爆者援護世界大会」(～2日)。中立系五団体主催、原水爆禁止運動の統一をめざす。	
8. 2		中国、ベトナムの両国国境で華僑の処遇をめぐり、双方に小競り合いが発生。
8. 3	東京地裁、東京スモン訴訟でキノホルム起因と断定。	パリのP L O事務局でカラク同事務所代表ら2人が射殺され、ヨルダン国籍パレスチナ人2人逮捕。
〃	台風8号でフェーン現象、山形・酒田で40.1度。	
8. 4	国民所得統計を国連提示の国民経済計算体系(新SNA)へ切り替えを閣議決定。	
〃	政府、故古賀政男に国民栄誉賞。	
〃	G N P統計を新国民経済計算体系へ切替え閣議決定。	
8. 6		バチカン・教皇パウロ6世没。
8. 7		ホンジュラスで軍事クーデター。
8. 9		中国とリビアが外交関係樹立。
8.11	経済企画庁、経済白書「構造転換を進めつつある日本経済」を発表。	
〃	首都圏で給水制限。	
8.12	日中平和友好条約調印。	
8.13		P L O事務所のあるベイルートのビルに爆弾テロ、1500人以上死亡。
8.15	福田首相、靖国神社参拝(内閣総理大臣の肩書を記帳)。	
8.16	公明党正木政策審議会長、憲法の範囲内で有事立法を認めると発表。	中国・華国鋒主席、ルーマニア・ユーゴスラヴィア・イランを訪問。
〃		米人3人が史上初の気球による大西洋横断に成功。
8.17	福田首相が「昭和」とその後の元号存続の決意を表明。	
〃	フィリピン帰りの横浜市の男性、コレラの診断、以後コレラ患者相次ぐ。	

月日	国内の動き	海外の動き
9.15	福岡歯科大で入学寄附金横領事件発覚。理事会、役員総辞職決定。	
9.16		パキスタン・ハク戒厳令総司令官、大統領に就任。
〃		イランでM7.7の大地震、死者2万5千人。
9.17	総理府婦人問題担当室、「婦人問題に関する有識者調査」の結果を発表。	
9.18	第85回国臨時国会召集。	
〃	大型書店〈八重洲ブックセンター〉開店。	
9.19	チンデマンス・ベルギー首相来日。	第33回国連総会開幕。ソロモン諸島、ドミニカ連邦の加盟承認。加盟1151国に。
〃	運輸審議会、東京、横浜の地下鉄、バスの値上げを承認。10月実施。	
9.20		第3回反サダト・アラブ首脳会議、ダマスカスで開催。キャンプ・デービッド合意に反対する「ダマスカス宣言」を採択。
〃		南アのフォルスター首相、ナミビアの一方的独立実現を発表、辞意表明。
9.21	〈原理運動〉の統一神霊教会、埼玉県神川村で合同見合い。	
〃	農林水産省、国有林野事業改善10か年計画決定。	
〃	防衛庁、有事立法で基本見解発表。	
〃	宇都宮大学長選贈収賄で新学長が辞退。	
9.22	郵政省、NHKと民放6社にテレビ音声多重放送予備免許を交付。	
9.23		中国、西独との採炭設備輸入に関する長期信用導入の議定書に調印。
9.25	〈私たちの男女雇用平等法をつくる会〉結成。	米サンディエゴで旅客機とセスナ機空中衝突、住民ら150人死亡。
9.26	国税庁、税制調査会で預金・納税の実態掌握のため、納税者番号によるコンピュータ管理案を公表。	戦術ミサイルの開発と試験発射に成功、と韓国が発表。
9.29	札幌地裁、ロボットミイ手術で家族の訴えを認め、医師に賠償命令。	国連安保理事会、ナミビア独立に関し国連軍派遣と国連監視下の選挙7か月以内実施決議を採択。
〃	国土庁、住宅地の全国平均上昇率4%、市街化区域は4.5%と「基準地価格」公表。	ヨハネ=パウロ1世急死。
9.30	京都市の市電、全廃。	

# 9 月

月日	国内の動き	海外の動き
9. 1	「全日本フェミニストの会」結成。会長・渥美育子。	ベトナム建国33周年記念日。
9. 2	経済対策閣僚会議、総合経済対策を決定。	カナダ・バンクーバーで水上飛行機が墜落、邦人9人を含む11人死亡。
9. 3	第10回日韓定期閣僚会議、ソウルで開幕。12項目の共同声明発表。	ローデシア航空機、黒人ゲリラに撃墜される。38人死亡。
9. 4	「合成洗剤の主成分LASが河川を汚染」と環境庁化学物質調査結果発表。	イラン・テヘランで反政府デモ（9.8政府、主要都市に戒厳令布告）。
9. 5	福田首相、歴代首相として初めてイランなど中東の産油4か国へ出発。	米、エジプト、イスラエル、中東和平3国首脳会談開催（～9.17）。キャンプ・デービッド合意。
〃	「大須事件」で最高裁、騒乱罪の成立を認め上告棄却。	
9. 6		イラン政府がデモ・集会を禁止。
〃		ベトナム首相、タイ訪問。フィリピン（16日）、インドネシア（20日）も。
〃		米で人工遺伝子を大腸菌に組み込みインシュリン合成に成功。
9. 7	クロロキン網膜症訴訟で患者勝訴、東京地裁が国に賠償支払い命ず。	スリランカ・新憲法施行。国名をスリランカ民主社会主義共和国に変更。
〃	海上自衛隊の対潜しょう戒機、都内を超低空・無灯火飛行。	
9. 8	航空自衛隊練習機、埼玉・狭山市の住宅街に墜落。乗員死亡、住宅全半焼。	イラン、王制打倒の反政府デモの続く中で、政府はテヘランなどに6か月間の戒厳令を布告。デモ激化、軍発砲。
9. 9	社会党・総評ブロック62団体、有事立法粉碎全国共闘会議結成。	北朝鮮政府樹立30周年祝賀式典。
〃		第33回国連総会において国連婦人の10年―1980年世界会議、女子差別撤廃条約案などについて審議（9～12日）。
9.10	愛知県の中神食品工業、離乳用粉末野菜への放射線違法殺菌が発覚。	ニカラグア、FSLNが各地で反政府攻撃を開始（9.13 全土に戒厳令布告）。ソ連、非核保有国への核攻撃を禁止する国際条約草案を発表。
〃		
9.11	総選挙定数めぐり行政訴訟、東京高裁判事9部は合憲、同民事15部は違憲の判断。	
〃	河本通産相が訪中。日中長期貿易取り決めの5年延長などで合意。	
9.12	税制調査会が一般消費税の試案を公表。	
9.13		韓国・ソウル大学反政府集会で、警官と衝突。14日高麗大学でも反政府デモ。

月日	国内の動き	海外の動き
10.16	英のプロゴルフ世界マッチプレー選手権で青木功プロが日本人初の優勝。	
10.17	閣議、元号法制化を決定。	
〃	靖国神社、東条英機・広田弘毅らA級戦犯14人を合祀。	
〃	福岡市美術館、ミロの作品を約2億8千万円で購入決定。	
10.18	ネズミ講絶滅法成立。	
〃	東京外為市場で1ドル181円85銭。さらに急騰、175円50銭に。	
10.19	長野国体の女子走り高跳びで八木たまみ1メートル90の日本新。	
10.20	「特定不況地域離職者臨時措置法」成立。	
〃	「水俣病認定促進法」成立。	
10.21	婦人労働旬間。テーマ「職場における男女平等を進める」。	
10.22	中国・副首相鄧小平・外相黄華ら来日。	ミコヤン・ソ連元最高会議幹部会議長死去（82歳）。
〃		教皇にヨハネ＝パウロ2世即位（ポーランド出身）。
10.23	日中平和友好条約批准書交換式、同日公布発効。	
〃	福田・鄧会談。鄧副首相、「日米安保維持や自衛力の増強は当然」と発言。	
10.24	北海道・有珠山で泥流発生、3人死亡。	シリアのアサド大統領、イラクを公式訪問。エジプト・イスラエル単独和平阻止の「民族憲章」に調印。
〃		カーター米大統領、インフレ対策発表。
10.26		戒厳令下のイランで反政府運動が再燃、各地で軍・警察と激突、死傷者多数。
10.27		'78年度ノーベル平和賞はサダト・エジプト大統領、ベギン・イスラエル首相。
10.29		イラン、反政府運動、オイル＝ストライキにより産油量低下、全国に波及。
10.30	メキシコ・ロペス大統領来日。	
10.31	東京・府中市の小学校4年生、先生に叱られ首吊り自殺（警視庁統計最低年齢）。	
〃	総理府、9月の完全失業率が2.4%を突破、2.42%（125万人）に達したと発表。雇用情勢は最悪事態。	

# 10月

月日	国内の動き	海外の動き
10. 1		ヨルダン川西岸とガザ地区のパレスチナ市町村長ら100人、キャンプ・デービッド合意拒否・PLO支持声明を発表。
10. 2	輸出拡大で米大型貿易使節団来日。	レバノン駐留のシリア軍、キリスト教徒居住地区を攻撃。シリア、レバノン両大統領会談で停戦。
10. 3	新幹線整備5線の具体的実施計画を政府が決定。48年以降の凍結解除。	インド・カルカッタで試験管ベビー誕生。英国につぎ2人目。
10. 4	青函トンネル貫通、25キロで世界最長。	
〃	最高裁、マククリーン訴訟で、外国人の在留期間延長は法務大臣の裁量と判断。	
〃	セ・リーグでヤクルトが初優勝。	
10.10	シュミット西独首相来日。	ソ連、イタリア両共産党が首脳会談開く。協力と連帯強化で共同声明。
〃	焼け焦げのトリブP1に発がん性、と日本のがん学者が国際会議で発表。	
10.11	労働省婦人局が「婦人労働の実情・昭和52年」を発表。	
〃	補修・点検のため原子力船「むつ」、大湊を出港。	
10.12	(株)国土計画、プロ野球新球団〈西武ライオンズ〉創立。	ベトナム首相、マレーシア、シンガポール訪問。
〃	サラ金などの借金による自殺者1～8月で130人、家出1502人。警察庁発表。	
〃	補正予算成立。7151億円。	
10.13		韓国、在野勢力とキリスト教関係者など300人が朴政権の退陣と民主的憲法制定を求める「国民宣言」を発表。
〃		中国、興徳北京市党委第1書記兼同市革命委主任の解任を正式発表。
〃		英のサリドマイド女性(18歳)が健康な女兒を出産。
10.15		米で新エネルギー法案が成立。
10.16	原子力船「むつ」佐世保に入港、阻止全国委、陸海で抗議行動。	
〃	衆議院本会議、日中平和友好条約を全党一致で承認(18日参院通過)。	
〃	茨城県日立市で女子中学生誘拐され、身代金要求(17日遺体発見。19日犯人逮捕)。	

月日	国内の動き	海外の動き
11.16	I.L.O.、ストの大量処分提訴で日教組の主張退ける。	東西両ドイツ、交通協定に調印。
11.18	静岡県大井川で、栃木県議一族9人心中。	南米ガイアナで宗教団体「人民寺院」信者が集団服毒自殺。
11.19	公明党、活動方針で自衛隊を認知。	
11.20	〈'79年国際児童年・子どもの人権を守る連絡会議〉結成大会（代表委員：羽仁説子・柳田ふき、34団体）。	イタリアの画家、ジョルジュ・キリコ死去（90歳）。
〃	労基研、「労働基準法的女子に関する基本的問題」報告書提出。女性に対する時間外労働制限と生理休暇の廃止など。	
11.21	ジャイアンツ、野球協約の盲点をつき江川卓投手と電撃的選手契約。	中国・『人民日報』、「天安門事件（76.4.5）の真相」で抗議を革命的な行動と評価。
11.22	三菱重工、55年10月までに1万人削減案を組合に提示。	国連ユネスコ総会、マスメディア宣言を採択。
〃	福島・郡山市の銀行強盗、1700万円奪う。	
11.23	ラジオ（中波）、新周波数に変更。	ワルシャワ条約機構首脳会議、核兵器排除など「平和と安全の宣言」発表。
11.24		ボリビア、軍事クーデター。
11.25	全国サラ金問題対策協議会結成。	
11.27	日米安保協議委員会「日米防衛協力のための指針」を了承。	ソ連共産党中央委、マズロフ政治局員解任。後任にチェルネンコ氏。
〃	航空自衛隊と米空軍、三沢基地で初の本格的空中戦の合同訓練を実施。	ルーマニアのチャウシェスク大統領、ワルシャワ条約機構の軍備増強反対を強調。
〃	福田首相総裁予備選に敗北、退陣表明。	朝鮮統一のための世界会議閉幕。
〃	日立・G Eのテレビ合併企業は独占禁止法違反と米司法省が断定。	
11.28	政府、アフリカ開発基金・アジア開発基金へ拠出増額を発表（アフリカ開発基金への拠出比率15%となり第1位）。	
〃	公正取引委員会が、不正取引の疑いで日本橋三越に立ち入り検査。	
〃	学術審議会が「遺伝子組み替え実験」の安全指針を文相に建議。	
11.29		メキシコでM7.9の大地震。
〃	東京都「婦人問題解決のための東京都行動計画」発表。	
11.30	「新幹線は運賃取りすぎ」と東京地裁、運賃訴訟で原告の主張認める。	
〃	警視庁「サラ金地獄で1～11月に自殺167人、家出2076人」と発表。	



# 11月

月日	国内の動き	海外の動き
11. 1		米、緊急ドル防衛策を発表。為替市場への介入強化。 米下院国際関係委国際機関小委員会、金大中誘拐はKCIAの犯行と断定。
〃	日本婦人団体連合会、有事立法反対の行動アピール（淡谷のり子、市川房枝ら）。	
〃	朝日新聞世論調査で改憲反対71%、改憲賛成女性1割、男性2割。	
11. 2	第3回日本婦人問題会議。テーマ「男女平等と社会慣習—婦人の活動分野をひろげるために」。サンケイ会館・600人。	アラブ首脳会議（～11.5）。対エジプト「バックダッド宣言採択」。
〃		軌道科学ステーション「サリュート6号」のソ連2飛行士帰還。
11. 3	山梨県立美術館開館。ミレーほかを展示。	ソ連・ベトナム友好協定調印。
〃	ひろしま美術館開館。	ドミニカ連邦独立（旧英自治領ドミニカ島）、（12.18 国連加盟）。
〃		社会主義インター第14回大会・バンクーバーで開催。
11. 5	社会党が一般消費税5%導入の場合、一世帯8万余円と試算。	イラン、シャリフエマミ首相辞任（11.6 軍政に移行）。
〃		オーストリア、原発稼働で国民投票。世論は反対。
11. 6	東本願寺の紛争で、大谷家独立宣言。	イラン軍政に移行。シャリフエマミ首相辞任、後任はアズハリ將軍。
〃	東京・台東区の結婚式場コレラ患者続出。	
11. 7		インドの下院補欠選挙でガンジー前首相が当選、国会へ復帰。
〃		米で中間選挙、民主党優位保つ。ハワイでは初の女性副知事誕生。
〃		韓国の大邱で千人の学生デモ。維新憲法撤廃叫び、派出所を占拠。
11. 8	米ブラウン国防長官、防衛協調強化声明。	
〃	熊本地裁、天下一家の会、第一相互経済研究所にネズミ講初の所得税法違反判決。	
〃	高知スモン訴訟和解・調印。	
11.10	日本、国連安保理事会の非常任理事国選挙でバングラデシュに敗れる。	
〃	女たちの映画祭「女ならやってみな」ほか。	
〃	第17回全国消費者大会（総評・主婦連・生協連・日消連など）、円高差益還元要求・一般消費税反対の運動方針を決定。	
11.11	ネズミ講対策の無限連鎖講防止法公布。	
11.13	同和対策事業特別措置法改正（3年延長）。	
11.14	福岡スモン訴訟原告勝訴。	
11.15	水俣病認定促進臨時措置法公布。	米、ソ連が核積載可能なミグ戦闘機をキューバに配備と指摘。
〃		マーガレット・ミードさん死去（76歳）。
〃		アイスランド航空の旅客機がスリランカで墜落、262人のうち215人が死亡。

月日	国内の動き	海外の動き
12.16	行動を起こす会、与党出席による「政党に聞く一女性が働くための政策は」開催。	OPEC総会開催(アブダビ、～12.17)、'79年の原油価格を4段階方式で14.5%まで値上げ決定。
〃		米中両国が国交正常化、来年1.1から外交関係を樹立と発表。
12.18	東京・永田町の首相公邸前で大平首相襲われる。	中国共産党11期3中全会開催(～12.22)。
12.19		インド下院、ガンディーの投獄・議席はく奪を求める動議を可決。ガンディー、逮捕される。
12.20	園田外相、米中正常化で台湾は日米安保の「極東の範囲」外と表明。	
12.22	今年の米は1258万トンの豊作と閣議報告。	
12.23		北京放送、中国共産党三中全会開催を伝える。中央委人事決定。
〃		SALT II 調印で、首脳会談開催に原則的合意(米ソ外相・ジュネーブで)
〃	日中協力の上海宝山製鉄所基本協定に調印。建設予定地で起工式。	
12.25	少年非行が戦後第三のピーク、5人に1人が少女と警察庁が発表。	ベトナム統一戦線軍カンボジアに侵攻。
12.26	日弁連、「弁護士自治」と「国選弁護士推せん」で独自の改善案発表。	イラン、テヘランを中心に過去3か月で最大の反国王デモ。市街戦に発展、石油生産全面停止へ。
〃	山陽特殊鋼の粉飾決算事件で5被告全員に有罪の判決。	トルコ、宗派抗争で戒厳令布告。
12.27		アルジェリア、ブーメディエン大統領没。
〃		韓国政府、金大中氏を釈放、金芝河氏も減刑。
12.28	消費者米価4.2%上げ、閣議決定。	
〃	俳優・田宮二郎、猟銃自殺。	
〃	環境庁「都市部で高濃度汚染」と発表。	
12.29	東京外為市場1ドル195円10銭で越年。	
[この月]	●53年中の結婚は統計はじまって以来の最低数。乳児死亡率はスウェーデンと並び、世界最低になったと厚生省が発表。	

# 12月

月日	国内の動き	海外の動き
12. 1	自民党臨時大会、大平正芳を新総裁に。	創刊193年の英タイムズ紙休刊。
〃	東証のダウ平均6002円74銭を記録、史上初、6年ぶりの大台替わり。	
〃	改正道交法施行。	
12. 3	社会党が初の中期経済政策を発表。	カンボジア反政府派のカンボジア救国民族統一戦線結成（12.25）。
12. 4	茨城県議選挙で、筑波大生141人の集団不在投票買収が露見。	中・仏、経済開発協力協定に調印、原子炉2基の中国輸出など。
〃	東京・杉並で背番号制反対の「電算化禁止条例」制定直接請求。区議会は否決。	
12. 5	不破哲三、共産党の組織原則（民主集中制）につき、田口富久治と「前衛」誌上で公開論争。	ソ連・アフガニスタン、友好善隣協力条約に調印。
〃	日米農産物交渉妥結（オレンジ・牛肉等の輸入枠拡大）。	ブルガリア、カイロの自国大使館捜査を理由にエジプト大使の国外退去を要求、エジプト、対ブルガリア断交。
〃	東京地検八王子支部、マンションに上水道給水拒否の武蔵野市長を起訴。	E C首脳会議、欧州新通貨制度で合意。
12. 6	福田内閣総辞職。衆参両院大平氏を首相に指名。	スペイン新憲法、国民投票で承認。
12. 7	大平正芳内閣成立。	
12. 8		イスラエル元首相、ゴルダ・メイア女史死去（80歳）。
12.10	沖縄県知事選挙（自民・民社ら推薦の西銘順治当選、革新県政10年で幕）。	イランの首都、テヘランで反国王派による「100万人」デモ。
12.11	大平内閣「支持」42%、「不支持」29%（朝日新聞世論調査）。	
12.12	東京・中野区議会特別委員会、「教育委員の準公選条例」案を全国初の採択。	韓国総選挙、大統領与党の共和党辛勝。
12.14	全通労組、〈マル生〉反対の政府交渉難航、年賀状処理拒否を指令。	
〃	米証券取引委、航空機売り込みでダグラス社を告発。日本高官等に不正支払い。	
12.15	東京都中野区議会で「教育委員準公選条例」可決。	
〃	大手私鉄の運賃値上げ認可（79年1.8から）。	
〃	日ソ漁業交渉妥結、調印。日本の漁獲量は75万トン、対ソ割当量は65万トン。	

# 法・制度・裁判

## 〔労基法〕

差別の「抜け道」をふさげ

労基法三条に「性別」を加える積極策があってもよからう。労組は男女差別に鈍感過ぎはないか。男女同一賃金が男子の賃金水準を低め、女子の進出は男子の就職機会を狭めるなどという観念があるとすれば恥ずべきことでは。(4・10読売「社説」)

生理休暇・深夜業禁止 廃止へ

「女性への手厚い保護は逆に

就職の門戸をせばめ差別を作る」と労働省は抜本的な労基法改正を検討中。労働基準法研究会は年内にも母性保護規定の改正案を答申する見込み。

(10・6毎日)

労基法研究会報告書提出

労組の私的諮問機関、労働基準法研究会は、二〇日、労基法の女子保護に関する報告書を提出した。

主な内容は、生理休暇・時間外規制などの女性保護の廃止をうたう一方、妊娠婦は手厚く保

護し、就業・待遇の平等を保障する男女平等法制定が必要と強調したもの。

これに対し総評と同盟は「形式的平等。婦人労働者の労働条件の切り下げ」ときびしく批判。

(11・21各紙)

労基法提言に各社の社説は

わが国の保護規定はまことに手厚い。三〇年前「男女の機能の相違」「女性の家事負担」を重視したためだ。作業環境が変わり女性の体力と能力が向上、家事負担も少なくなった今日、

提言は一応検討に値する。が、時間外労働や深夜業は男女を問わず減らすことが望ましい。改訂は徐々に進めるべきだ。

(11・22朝日)

深夜業や時間外労働の女子のみの特例や生理休暇の見直しは避けられぬが現実無視ならぬように。

(11・22毎日)

平等法制定の提言は高く評価するが保護は知的職業の者にとられすぎ。深夜業廃止は底辺労働への直撃となる。

(11・22西日本)

現場の労働者の声は

長時間労働・深夜勤務は共働き家庭の破壊にもつながる。取りはすすべきは「女は家庭」という社会通念のはず。

(津村明子・大阪地評)

(11・9朝日)

女性労働をひとつのカッコで

くくりきれない時代、いまある差別をなくすための男女平等法の実現こそ先決なのではないか。

(11・26朝日)

提言に各界から反論続出

\*

福井県鯖江市の織布工場に働くTさん(四三)が最も関心を寄せるのは時間外と深夜業の制限廃止の部分。普通女性には朝五時―午後一時半、午後一時半―同十時の二交代、男性が三交代で深夜の部分も受け持っている。

「割増金を使っても安く使える女性がこのラインにつけば経営者は喜ぶでしょうねえ」。さらに女性も男性といっしょに無制限の残業を強いられることにもなりかねない。

Tさんのいう平等は、まず賃金であり、配転や職制や定年の男女差を解決すること。

男女平等法は社会党が心血注いでつくった男女雇用平等法案そっくり。労働省はこれに見向きもせず外国に責められてあと追いつた。しかも保護撤廃と組み合わせたが、雇用の平等実現が先決。

平等法の提案は役所としては思いついたもの。今後の運営方法が課題。

(花見 忠)

平等法で経営者が女子を敬遠しないよう行政措置を望む。保護は女子には必要。

(地婦連・大友よぶ)

婦人労働者のナマの声を聞かぬ机上論。弱い人への視点が欠落。

(センセン同盟・多田とよ子)

保育機関の不十分な現状では母性保護は大切。保護面のみ削られて他の差別が依然として残ることのないように。

(中林英夫・自由業・六八)

(11・27朝日)

\*

歴史の陰に数多くの無産階級子女の犠牲が払われたことを忘れてはならない。反省の上に定められた女子の深夜就業禁止、生理休暇のはず。

(鈴木翔子・学生・二二)

(11・27朝日(声))

\*

将来は生休も、高度の精神的緊張と体力を必要とする職種以外は週休二日制を前提として廃止すべき。しかし男も含めて労働時間の欧米並み短縮、パートの最低賃金制確立、二重保育問題の解決、学童保育の普及、男女平等の職業教育などが先決。

(白井厚・慶應大学教授)

(11・29信毎)

\*

人間の存在が本来不平等なものであることを認めたうえで、男も女も老人も身障者もすべてがいかに人間らしく平等に生きられるかを考え出そう。女の働きやすい条件に男を合わせる方向を考えたい。

(青木やよひ・評論家)

(12・1毎日)

\*

生理休暇は流れ作業の現場に働く人には取りにくく、大企業の事務職の人には取りやすいという女の中でさえ不平等な面があるうえ、遊びに出かける人もいる現状では必要ない。

(北原とり子・事務員・二四)

(12・2中目)

\*

平等の壁は男社会にある。法ができて現実的に女を締め出す危険が。いま母性保障を肩代わりしているのは多くは同様

の女性。同性に対する理解もほしい。(荻原節子・雑誌記者)

(12・10朝日)

\*

女子の時間外制限や深夜業の制限は男女含めた共通の基準にすべき。

(小木和孝・労働科学研究所)

(12・15毎日)

\*

深夜業のある私の職場では五人中異常ありが二人、やっと生理休暇を取れる状態になった矢先、答申を知った。これ以上、健康破壊が進んでほしくない。(守安千寿子・保母・三)

(12・13毎日)

## 〔平等法〕

男女雇用平等法案

求人、採用で「男子のみ」という差別をなくすため「男女雇用平等法」を設けようと社会党

では法案を作成、国会に提案する運びになった。募集の段階から、労働条件・職業訓練まで、一切の雇用上の性による差別を禁止し、差別を受けた女性の救済制度を設けることが法案の骨子。(3・28読売/3・31朝日)

働く女性に実効ある平等法を

働く女性の実態から離れており、現状のままで保護規定を緩和することがいかに危険であるか、いくら強調してもしすぎることはないだろう。とくに気がかりなのは、労働時間の短縮などで労働条件が向上し、また、生活様式の変化で保護の必要性が少なくなってきたという現状認識、そして、保護が機会均等を制限しているかのようなもののいい方がされていることだ。この報告は働く女性を、母性を切り捨て、男性並みの「会社人間」になる女性と、母性を切

り捨てないために一人前に扱われないパート女性とにふりわけ、差別を拡大すると同時に母性破壊を進行させる役割を果たすことになりかねないと思う。

西独の鉄鋼労働者は週三五時間労働を要求してストライキにはいったが、これに対して使用者側は六週の年次有給休暇を認めた、と伝えられている。日本はILO条約のうち二二もある労働時間に関する条約を、たった一つも批准していないのだ。

これまで私たち女は「女性に対する保護を男性に適用拡大し、男も女も人間らしい労働を」というスローガンを掲げてきた。

私は一九七六年、総評、中立労連、同盟の三団体がまとめた労基法改正案に注目したい。そこには週四〇時間労働、全体の時間外労働、深夜労働の制限、二〇日の年休などが盛り込まれており、これが実現されれば、現在の女性に対する保護の大部分

は、男性にも拡大され、女性だけの特別措置は自然に解消してしまうのである。

第二の課題は「平等法」の制定である。報告は「募集、採用から定年、解雇にいたるまでの雇用の機会と待遇にわたる男女平等のための有効な新しい立法」を提言している。有効な平等法が先行しなければならぬことは明らかだ。引き換えに保護が撤廃されるという結果になりかねない。いま、必要なのは働く女性にとって実効性を期待できるような平等法を作るための運動だろうと思う。

(中島通子・弁護士)  
(12・19毎日)

## 〔刑事訴訟法改正〕

法制審議会、

弁護士抜き裁判を答申

法制審議会(会長、瀬戸山法

相)は一月三日の総会で弁護人不在でも裁判が進められるようにする刑訴法改正を賛成多数で承認、法相に提出した。法務省は改正法案を国会に三月末提出するが、野党が憲法論で真面向から対決するのは必至。

(1・24朝日)

政府、過激派対策法案を諮問

法相はハイジャック以外の「その他ジャック」を包括的に処罰するための「人質強要行為処罰法(仮称)」の要綱を法制審議会に諮問した。法務省は原案通りの答申が得られると見ており、法制面での過激派・ハイジャック対策はほぼ整う。

(1・24朝日)

「暗黒裁判」に反対運動

「弁護人抜き」刑事訴訟法改正に強く反対していた刑法改悪に

反対する日本婦人会議、日本消費者連盟、反弾圧住民運動連絡センターなど四十余の個人、団体は、「強権的な暗黒裁判になる恐れがあり、過激派の問題でなく市民の基本的人權の問題だ」と要望書を各方面に出した。

(1・24朝日)

法務省は刑訴法自体は改正せず「刑事事件公判の開廷特例法案」として国会に提出を決定。が、特例法の対象は過激派に限られるという限定づけが十分かどうか、国会審議ではなお曲折が予想される。(2・3朝日)

日本弁護士連合会は一〇日、立法化を阻むための全国弁護士会会長会議を開き、これまでに

出していた反対決議をさらに進める決議をまとめた。

(2・10朝日)

刑法改悪に反対する婦人会議

などが「一般事件に適用の恐れがある」として千駄ヶ谷区民会館で「弁護人抜き裁判に反対する2・18集会」を開いた。一五〇人が参加。(2・19毎日)

「弁護人抜き裁判法案」に対して、婦人や消費者などの市民団体の間でも反対運動。活発なスケジュールが各所で組まれている。(5・22朝日)

鉄道の賃金格差・仕事差別提訴

〔訴える〕

日本鉄鋼連盟事務局で働く七人の女子職員が、初任給・基本給アップ率・ボーナス支給率の男女格差は男女の賃金差別を禁止した労働基準法四条違反だとして、同連盟を相手どり、一月二五日、男女賃金差別・仕事差別是正を求める民事訴訟を東京地裁に提訴。(1・26朝日)

無実訴え二五年

四分の一世紀にわたり「夫殺し」の汚名をそごうと再審請求を続けている富士茂子さんが五度目の再審請求申し立てを徳島地裁に。作家の瀬戸内寂聴さんや日弁連を中心とした弁護団も全面的にバックアップ。もし再審請求申し立てが認められれば女性で初めてとなる。

事件は二五年前徳島市内で起きた「ラジオ商殺し」で内妻の富士さんが夫の三枝亀三郎さんを殺害した、というもの。

(1・31読売)

性差別の角度から審理を

性による賃金差別と仕事差別を理由に「日本鉄鋼連盟」を相手どって女性職員七人が起こした男女差別訴訟の第一回口頭弁論が一七日東京地裁民事六部で開かれた。原告側の高柳雅子さ

んは「次々と形を変えていく差別の実態を裁判で明らかにしていきたい」と陳述。(3・20載)

### 潜在化する賃金差別

男女の賃金差別は労基法で禁止されており単純な形の賃金差別は少しずつ減っているが、採用、身分、仕事の差別を盛りこんだ職務・職能給の導入で、従来の賃金差別を実質的に継続している。このようにする企業も出てきている。

ある繊維会社の場合「入社七年目でやっと男子の新入社員なみ」、ある商社会社の場合「四〇歳ぐらいになると男子の五〇%まで差が開く」など。

大阪市立大学の竹中恵英子教授は「労基法第三条で雇用、配置、昇進などの労働条件の男女差別の禁止を明記することが必要。アメリカやイギリスのような雇用平等委員会の設置が望ま

れる」と強調。

(2・22、23朝日)

### 娘の損害賠償五八〇〇万円

警官に女子大生の娘を殺された両親が警視庁に賠償を要求。

一〇〇〇万円以上の支出は都議会の承認が必要で警視庁は苦慮。

(6・7朝日)

### この苦しみ証言台で

二三七人の生命を一瞬に奪った福岡県山野鉾のガス爆発事故から一三年、遺族たちは一〇日

ついに民事訴訟にこぎつけた。遺族のだれもが「これっきり死ぬのも、くやしねえ」(足立サカエ遺族会会長)という思い

を抱き、旧山野鉾業と三井鉾山を相手に、夫と息子の「どむらい合戦」に立ち上がったもの。

(6・10西日本)

### 保母さんが職業病の賠償要求

職業病で休職中の保母、寺田久子さん(三〇)はか四人が病

気の回復が近づいたので、リハビリとしての職場復帰を要求。

が、園側が拒否し続けているため名古屋地裁に就労妨害禁止と

一人一〇〇万円の損害賠償を求める訴えを起こした。

(9・12中日)

## 〔不当解雇〕

### 差別判決に女性弁護士結東

昨年一月八日、佐賀地裁唐津支部が、「女性の五五歳の体力は七〇歳の男性と同じであり、女性の解雇は正当」と、性別による雇用差別を認めた判決を不服として、佐賀県唐津市の中島つよしさん(六五)福岡市の倉光アサ子さん(六五)の二女性

が日本赤十字社を相手に控訴中。

これに対して、「裁判所が女性差別を認めるのは、差別の増大につながる」と福岡市在住の七人の女性弁護士のうち六人が、思想や政治的立場を超えて西日本では初めて女性ばかりの弁護士団を結成した。(5・31西日本)

### 予告なき解雇は無効

北九州市の保母、三宅ときわさん(四二)が園児の定員減を理由に事前に説明もなく解雇され、保育園を相手取り訴えていたが、福岡地裁小倉支部は二〇日「人員整理の必要性は認められるものの、従業員になんの予告もない解雇は解雇権の乱用」として解雇無効と解雇日からの未払い賃金の支払いを命じた。

(7・21西日本)

### 妊娠を理由の解雇は不当

妊娠を理由に解雇された元非



常勤講師(熊本市・横山洋子さん・二八)が勤務先の尚絅学園を相手取り起こしていた解雇無効確認訴訟で、熊本地裁は二八日、原告の主張を全面的に認め、解雇無効の判決を言い渡した。

(9・29西日本)

二児の母を理由の解雇は無効

「子供が二人以上いる既婚女性」を理由に解雇された二人の主婦従業員(三二・三七)が、「コバル」を告訴していたが、東京地裁は「会社は解雇を撤回し、職場に復帰させ、解決金四七〇万円を支払え」と命じ、三年一〇か月ぶりに解決。

(12・9朝日)

## 〔裁く〕

### 〔障害者〕

身障児殺しに執行猶予

一五日、浦和地裁・杉山英巳裁判長は、先天性脳性マヒの子を殺し、殺人罪に問われていた父(四九)に、懲役二年六か月執行猶予三年(求刑懲役三年)を言い渡した。「生命は尊いが、一七年の世話を考慮して」と。

(11・15毎日)

精薄児の母に猶予刑

五一年九月重度身障の長女(七)を焼却炉に捨てた母(二七)に横浜地裁は一日、懲役二年執行猶予二年の判決。  
「酒乱の夫のもとで懸命に二児を育ててきた」と。

(12・2各紙)

障害児殺しに懲役

身体の不自由な次男(七)を締め殺し、殺人罪に問われた父(四二)に東京地裁は二八日懲役三年の実刑判決。「生きる権利を奪った」と。

(12・28朝日)

〔赤ちゃんあっせん〕

菊田医師に罰金二〇万円

「赤ちゃんあっせん事件」で、仙台地検は一日、菊田昇・産婦人科医師を医師法違反・公正証書原本不実記載・同行使で略式起訴、二〇万円の罰金に。

「実子あっせんが、一部の医師と助産婦の善意や行為で行なわれているうちは、日本の子殺しはなくならない。私は今後、実子特例法の制定に全力を傾けていく」と菊田医師。

(3・2各紙)

事件をきっかけに「実子特例法」の制定を求める動きが一部に出ている。戸籍制度の基本にかかわる問題だから、すでに採用している諸外国の例を参考にしつつ、その是非を検討していくことが必要だろう。実子、養子の別なく、親子を結ぶ最も強いきずなは、愛情と理解ではないだろうか。

(3・3朝日「社説」)

「赤ちゃんあっせん」には、あまりにも大きな危険と無理がひそんでいる。うそと偏見を捨て、真実と周囲の理解の中で、養親子の愛情が、揺るぎない幸せを築ける社会にしたいものである。(3・3読売「社説」)

赤ちゃんあっせん事件に思う

諸外国では養子の実親からの血縁断絶、子の養い方での完全嫡出化へ向かっている。わが国

でも断絶養子ないし完全養子の採用など、早急な施策が望まれる(中川高男・明治学院大学法学部教授)。(3・2読売)

### 菊田医院の赤ちゃん養子に

石巻市の菊田医師がかけ込み出産した母親から頼まれて養い親を探していたが、内定した。新聞に記事が出たところその日のうちに希望者からの電話が約四〇件も殺到。実親は「赤ちゃんのためによかった」と喜んでおり、家庭裁判所で養子縁組が認められれば正式に決定する。(4・17朝日)

### 赤ちゃんあっせん、法廷へ

宮城県医師会から優生保護医の指定取り消し処分を受けた菊田昇医師(五一)は一二日、同医師会に処分取り消しを求め、国に一〇〇万円の損害賠償を

請求する訴訟を仙台地裁に起こした。

(10・13毎日)

### 〔その他の判決〕

#### 家事労働分も補償

交通事故でけがをした共働きの主婦(宮城県・柄合圭子さん・四五)が「主婦としての家事労働と会社の仕事が両方ともできなくなった」として加害者らと相手どり、入・通院の時期に不可能になった家事労働と、会社を休んだことの両方に対する休業補償や逸失利益、慰謝料など計八八万円の損害賠償を請求していた。大阪地裁、相瑞一雄裁判官は、主婦の家事労働について「同年代の女性の平均賃金と被害者が勤務先から得ている給料の差額を、共働きで補充的立場にある家事労働に対する経済的評価とみるべきだ」と判断

二五一万円を支払うよう命じた。(1・31朝日)

#### 忘恩養子よ贈与財産返せ

山梨県河口湖町の渡辺つねよさん(七五年八〇歳で死去)の「老後を託し全財産を養子に贈与したのに一転して冷酷な仕打ち、老母は生活保護を受ける身となった」という訴えに、最高裁は養子A(医師)に贈られた財産の返却を命じた。(2・24読売)

#### 消費者の苦情、門前払い

主婦連「ジュース訴訟」(「うそつき表示」)に関して公取委が行なった行政処分について一般消費者が手ぬるいとして不服を申し立てられるか)について、最高裁は「行政不服申し立てができるのは行政処分によって直接、法的利益を侵害されたもの

に限られ、間接的利益を受けるにすぎない一般消費者には申し立て権がない」と、主婦連側の上告を棄却。(3・14読売)

#### 「日米養育争い」

国際結婚に破れたアメリカ女性と大阪の会社員が、ひと粒ダネの長女の養育をめぐる争っていた人身保護請求訴訟の判決で、大阪地裁は、長女を母親に引き渡すよう判決。(3・18読売)

\*

国際結婚に破れた米国女性と大阪の会社員が、長女の養育を争っていた人身保護請求訴訟は、最高裁が「子は妻に返せ」とする一審判決を支持して決着。父親の主張するママ代わりの「おばあちゃん」より、やはり「ママ」と。(6・30朝日)

## 予防接種で初めて国の責任

混合ワクチンの予防接種による副作用で幼児を失った夫婦が国と千葉県、銚子市を相手に損害賠償を求めた訴訟で東京地裁は両親勝訴の判決。

(3・31朝日)

## 知る権利事件に有罪決着

事件から六年、最高裁は六月二日、西山記者に有罪判決。報道の自由に条件つきのタガをはめたこの決定に学者などから懸念の声も。一方「片手落ちだ」と嘆いていた連見さんはこの判決に「裁判は公正、胸が晴れた」と喜ぶ。

(6・2朝日)

## 人形ではないと言ったなら

外務省公電漏えい事件では、取材源を秘匿できなかったことが致命的だが、男女間のモラル

を裁くのは世間の良識で、裁判所ではない。「情を通じ」という形で本筋がすりかえられてしまった。女性事務官がもし「私は男にそそのかされて依頼を拒めなくなるような、そんな人形のような女ではない。自分の責任で文書を渡した」と呼び続けたらどうだっただろう。

(6・3朝日「天声人語」)

## えい児殺しの母に猶予刑

産んだばかりの子を殺した母(三四)に対し東京地裁八王子支部は懲役三年執行猶予四年の判決を言い渡した。四人の子の母のため情状的量されたもの。

(6・10毎日)

## トルコぶる側にヘンな軍配

トルコぶるつぶしの目的で近くに児童遊園を急造されたため営業でなくなった山形県のト

ルコぶる経営者が同県を相手取った損害賠償請求訴訟で最高裁の勝訴判決を得たが、この会社が風俗営業取締法違反に問われ、一、二審で罰金七千円の判決を受けていた刑事裁判の上告審でも最高裁はまたもや無罪判決。

(6・16朝日)

## 降車時のけが

老女の訴え再審でも却下

四一年九月、中区栄のバス停での事故で百万円の損害賠償を名古屋市中に求めていた老女(七四)の訴えが名古屋高裁でも却下された。「起訴理由なし」と。

(8・31朝日)

## 妻の家出の責任は夫にも

結婚後三か月で妻に家出された夫が、妻に対し慰謝料を求めている訴訟で、名古屋地裁は、一部夫の主張を認めながらも、

「妻の不満に気付かぬ夫にも責任あり」と判決。(9・14朝日)

## お寺騒動、尼さんに軍配

津市で住職代わりを務める尼僧高橋三和さん(四五)の態度が悪いと、寺の世話人グループが本堂とさい銭箱にカギをかけ追い出し工作。尼さんは津地裁に仮処分を申請、二七日、津地裁は「僧として不適格とは考えられない」と尼さんの訴えに軍配。この間、地域住民は「高橋さんの人権を守り寺を盛り立てる会」を結成、支援してきた。

(9・27中日)

## 卵巣手術隠して結婚したのは

離婚理由にならぬ

手術を隠して見合い結婚し離婚された妻(三〇)に一八日、名古屋地裁は「結婚に際し手術の有無を言う法律上の義務はな

く、夫が一方的に關係を解消するの「不法行為」と夫（教員・三三）に慰謝料三〇万円の支払いを命じた。（10・18中日）

#### 幼女に熱湯の主婦に厳刑

近所の幼女を傷害の主婦（三〇）に、東京地裁は二〇日懲役八年の判決。（10・20読売）

女の足に三五〇万円

犬に足をかまれ傷が残った女高生とその両親が、飼い主を相手取り三五〇万円の損害賠償訴訟を名古屋地裁に。「娘が気にしているのがつらくて」と母親。（11・2朝日）

いやがらせ追突に判決

近所づきあいのこじれから自転車に乗った隣家の主婦に自動車で追突し、大けがをさせた主

婦（四三）に横浜地裁は懲役一年の判決。（11・21朝日）

“嫁をきらった母”殺しに厳罰

東京地裁は、嫁との同居をきらった老母を殺害、死体を一年半放置した息子（三九）に懲役一三年（求刑一五年）の判決を。（11・30毎日）

オニの母に懲役一五年

一人娘に保険金をかけて殺した母（三二）に山形地裁酒田支部は懲役一五年の判決。（12・2朝日）

## 〔その他〕

民法改正と妻の権利

四〇歳以上の女の三人に一人は夫と離死別しているが、自分名義の財産を持たない妻は、旧

民法時代のような「家」による扶養がないため大不利益であり、「妻の財産権」に関する民法改正が今年に具体化しそうだ。

離死別と縁のない円満な家庭の主婦こそ財産権が問題という声も多い。しかし家事労働を金銭に換算することは女の地位向上に重要だろうか。家庭にはいる女は年々外で働く能力を失っていくばかりでなく、「主婦」をもてない女は外で一人前に働くことが難しくなる。外で働く権利が保障されていなければ妻としての権利がいくら保障されても女の人生は夫次第だ。女が働く権利の意味を考え、現実の妻の利益と未来の家庭像の二つに目を向けて法改正は行なわれるべきだ。

（中島通子）

（2・1読売）

保母さん異例の再逮捕

兵庫県西宮市の甲山学園の二

園児が惨殺された事件で、神戸地検は当時の宿直保母、沢崎悦子（二六）を再逮捕した。神戸地検が「新しい証拠をつかんだ」というもの。一方、原告側弁護人は「現在、神戸地裁尼崎で係争中の国家損害賠償請求事件に圧力をかけるためのものだ」と憤慨。（2・27読売）

裁判官採用差別に申し入れ

〈司法研修所における女性差別を許さぬ女性法律家の会〉（世話人金住典子弁護士ら）は、三日、最高裁と司法研修所に「女性研修生に差別的取り扱いをせず、志望者全員を判事に」と申し入れた。（3・4毎日）

遺族年金、寡婦加算アップ

厚生年金法が六月から改善され、一八歳未満の子を持つ寡婦の加算額が子一人につき千円ず

つ増額される。(3・10読売)

### 自衛官の夫の合祀を拒否

中谷康子さん(四四)。キリスト者として信教の自由を侵された、自衛隊などに靖国神社への合祀取り下げを求める訴訟を起こしてまる五年。「夫が死んだとき、故人は公のもの」と最後の別れもさせてくれなかった自衛隊が、こんどは勝手に靖国神社にまつるなんて、国は夫の死を利用して、再び英霊を生み出そうとしているのではない

か」と怒る。(3・15朝日)

### 不合理な老齢年金と遺族年金

厚生年金の老齢年金をもらっていた夫の死後、遺族年金を自分の老齢年金と共に受けることはできないが、国家公務員共済組合から夫婦で受けていた場合は両方とももらえる。もっとも厚生年金には併給調整があり、妻の老齢年金が夫の生前の年金額より少ないときは遺族年金のほかに夫の遺族年金の同額分がもらえる。とはいえ、同じ年

金に完全併給と併給調整がある不公平は厳存するが、共済年金には各種あり、一本化は当分むずかしい。(4・5読売)

### 慰謝料を払い切れない夫に

#### 税金免除を

離婚の際の財産分与の場合、不動産を分与した者に譲渡所得税をかけることになっているが、このような制度では夫がこの税金を払い切れず離婚成立が困難になり、ひいては妻が不利、と日弁連は大蔵省に「財産分与に

離婚の際の財産分与の場合、不動産を分与した者に譲渡所得税をかけることになっているが、

このような制度では夫がこの税金を払い切れず離婚成立が困難になり、ひいては妻が不利、と

日弁連は大蔵省に「財産分与に

は課税しないよう所得税法を改正してほしい」と意見書を提出。(6・24朝日)

### 愛のコリーダ裁判に女証人

この裁判の唯一人の女性証人(弁護側)として小沢遼子さんが出廷。ポルノ論争でも見る側の男の立場からだけ議論されると男性中心社会を批判。「初めて見たときは感動で泣き止んだ」と。(7・18毎日)

## 労基法の改正と男女平等法



青木やよひ

に実効なし

### 労働者の権利を保障する

別なく人間的に生理的に労働の平等化を正しく

小木 和孝



労働法の改正をめぐって

### 補助役に配転



#### 鉄道訴訟

職務給の名で実質上

# 政治・行政

## 〔婦人白書〕

摘している。

(1・10各紙)

## 〔婦人白書〕でる

## 〔婦人白書〕の要旨

総理府は婦人白書ともいうべき「婦人の現状と施策——国内行動計画に関する報告書」を発表。

同報告書では①職場での婦人に対する就職・賃金などについて

の差別②先進国の中でも最も低い女子の四年制大学卒の就学率③婦人の長命化にともなう老後の問題④極端に低い婦人の公務員比率など、まだまだ婦人の地位の現状には問題点ありと指

(教育)六九年以来、女子の高校進学率は男子を越し、七六年には九三・五％。ただ四年制大学への進学率は二二・〇％で先進諸国の中では最も低く、専門分野にも片寄り。

(労働)労働人口の三七・四％を女子が占め、六割以上が既婚者。平均賃金は男子の五八・三％にとどまっている。

(家庭)一人暮らしの老人の四分の三は女性。寝たきり老人の

介護者のうち八六・九％が婦人。夫の家事時間は、共働きで六分間、共働き以外でも七分間だけ。

(1・10朝旦)

婦人の地位向上を考える

総理府が、わが国初の「婦人白書」を発表した。昨年一月の「国内行動計画」を受けて婦人の状況を総ざらいしたものだが、今後の婦人問題についての認識を新たにし婦人自身が生き方を考える上での基礎資料として評価したい。

職場で働く婦人の状況はわず

かであるが改善されている。しかし平均賃金が男子の六割以下という現実もある。国政選挙の投票率では男子を上回っていないが議員は約一％。これらの背景には「男は主、女は従」という役割分担意識があるが、これまでの男女平等論があまりに建前論すぎたり、一部の急進的なウーマン・リブ運動が逆の効果をもたらしているのではないか。何はともあれ婦人自身も視野を広め向上への意欲をもやすべき。

(1・18毎日「社説」)

婦人差別の一掃を急げ

早く設定してほしい。

(樋口恵子・評論家)

(1・20 道新)

総理府が「婦人白書」を発表した以上、労働省は真剣になって一刻も早く婦人差別を一掃する方策を樹立すべきだ。マスコミもその援護のために全力を尽くし、世界に出して恥ずかしいこの現状を追放してほしい。

(会社員・五四)(1・18 朝日)

初の「婦人白書」を読んで

総理府から一〇日、初の「婦人白書」が発表された。五〇〇ページにわたる同白書はこれまでの資料から女性関係のものを抽出したもので目新しいものはない。が、差別の実態が明らかにされた功績がある。男女平等というとすぐ特質論の反論が来るが、人権に性別はない。人権段階での差別を解消し、女が人間らしく生きるために最低何が必要か「ウーマンミニマム」を

## 「婦人の日」

桃の節句祝日案フンサーイ

男性議員たちの桃の節句祝日案に、婦人議員が「時代錯誤もはなはだしい」と反対。超党派で「共闘」へ。「端午の節句だけが休日では男女平等だから女の子の休日を作ろう」というのが何で悪いのかなあ」と男性議員はことの本質を理解できず。

(3・9 朝日)

\*

自民党から共産党まで婦人議員がハンターイ。「えっ、驚きましたな」とぼやくのは、言いだしっぺの公明党大久保国対委員長。かかあ天下で知られる上州生まれの福田さん、さてどうする。

(3・9 読売)

\*

三月三日を祝日に、婦人議員や婦人有権者同盟から一斉に反対の声。女性議員に一言の相談もなかったことも女性議員たちを怒らせた。今さらおためごかしを言われても嬉しがれましかという複雑な思いが女の胸の底にあることを見過している。この問題は、もう一もみも二もみもあって当然だ。

(3・9 読売「よみうり寸評」)

「婦人の祝日」で世論調査

「婦人の日」についての世論調査を総務長官が指示。結果によつては来年から実施する。

(3・13 毎日)

総務長官は一八日の参院予算委で「婦人の日」について調査の考えを明らかにした。

(3・19 毎日)

なぜ「婦人の日」反対か

婦人議員が「婦人の日」に反対している理由は、第一に裏で人形業界が動いていること。第二に男の子と女の子を分けることになって本来の趣旨に逆行する。第三に私たちは「婦人の日」の要求を全然していない。かつて「国民の祝日」制定論議の折に四月一〇日婦人参政権の日を「婦人の日」という主張があったことは事実だが、今は否定している。

(田中寿美子)(4・8 朝日)

「婦人の日」に婦人は戸惑い

読売新聞社が実施した全国世論調査によると、「新設賛成」五五%、「反対」一五%、「わからない・無答」三〇%。賛成の内わけは「桃の節句の三月三日」四一%「婦人参政権の日」四月一〇日「二四%」国際婦人デーの

三月八日「一八%」その他「一七%」三月三日は女性より男性に多く、女性の支持は四割を割り、「四月一日」は逆に女性が多い。(5・4読売)

「婦人の目」賛成世論は四七%

総理府の調査では賛成四七%、反対わずか一四%。「婦人の地位向上に役立つから」が賛成派の四一%、「男女差別につながる」が反対派の三一%。

(6・16朝日)

## 「婦人週間」

婦人週間スタート

第三〇回婦人週間は四月一日から一六日まで労働省主催で実施される。テーマは昨年に引き続き「男女の平等と婦人の社会参加をすすめる」で、各地で会議や集会が開かれる。世界行

動計画にもとづく国内行動計画が策定されて一年、地域社会・職場・家庭を問わず根強く残る婦人への偏見や固定的な男女役割分業意識から生まれた社会慣習を見直し男女平等を推進しようというもの。

行政面では若年定年制や結婚退職制の解消・母性健康管理などの指導・育休制の普及促進・寡婦の就業援助などが本年度の目標。

(4・10毎日)

多様な女性の社会参加

職業に就くことだけが女性の自立や社会参加ではない。各地にできている女性史研究会や、「女性学」研究は、社会の仕組みと関連づけながら、女性の置かれている立場を明確にしている。女性としての自立と社会参加の道をさぐる動きとして注目したい。

(4・10朝日「社説」)

婦人の社会参加を阻むもの

婦人週間が充足してから三〇年、日本の社会は大きく変容したが、これに比べて婦人の歩みはまだたどたどしい。婦人少年局の「男女平等と社会慣習」を見ても古い慣習がいかにびこっているか、改めて驚かされる。

ただ女性自身も、差別改善の意志や社会参加に積極的な姿勢を持ち、連帯して現状を打開する団結力を示さない限り前進は容易ではない。実り豊かな運動を展開するよう期待したい。

(4・10毎日「社説」)

婦人のあゆみ着実に

参政権を得て三二年、三〇回目の婦人週間。「封建性をなくし婦人の自主性を」が言われた昭和二〇年代、「婦人の力を役立たせる」の三〇年代。四〇年代は「能力を生かす」が中心。

そして五〇年代は「平等・発展・平和」にそった目標が。

二二回目の婦人会議での報告によれば、婦人議員が多いか着実な活動をしている自治体では、各種審議会委員なども多いと。しかし末端へいけばいくほど問題が。

(4・13朝日)

## 「婦人労働旬間」

職場の男女平等化を

十月二十一日からの婦人労働旬間・テーマは七五年の国際婦人年以來一貫して「職場における男女平等を進める」。

昨年の婦人雇用者は厳しい就職難にもかかわらず前年より四八人増の一二五万人、既婚者がその六五%を占め、就業分野も確実に増えたが初任給男女差のある企業は七三%、全企業の五二%が「女子には昇進の機会なし」で、残り四八%も「昇進



は係長まで」が最多。一種の社会慣習化している面もあって是正は容易ではない。企業例はまず誤った先入観や偏見を捨て、思いきって婦人の才能を引き出す努力をしてみる。働く婦人の側も逆境を乗り越える気遣が必要。結婚への逃避や無責任は、やる気のある人の足まで引っぱることになる。

(10・24毎日「社説」)

## 「婦人予算」

五三年度の婦人関係予算

〈文部省〉

国立婦人教育会館の充実、婦人たちが泊まりがけで学習活動や交流する場として、昨年、埼玉県嵐山町に完成。ことは体育館・温水プール・日本家屋・茶室が増設される。

〈厚生省〉

母子・寡婦福祉対策、母子家

庭が事業を始める際の貸し付け原資が一三億五〇〇〇万円から二〇億円に増額。

また、主婦、自営業婦人に対する健康診査の実施地区を四〇地区から一二〇地区へ、事業費が四二〇〇万円。

〈農林省〉

農業労働人口の六〇％が女性。農山漁村の婦人対策として、全国六三五の普及所に計三七〇〇万円の対策会議助成金を計上。

〈労働省〉

雇用における男女の平等促進対策推進の講習会、指導パンフレット作り等に五五〇万円。

寡婦等就業援助対策。夫を失った女性のための職場拡充対策費は一億八二〇〇万円から五億二九〇〇万円に増額。

〈総理府〉

地方自治体、労働組合、民間団体等で、女性がどの程度施策に参加しているかの状況調査に、三〇〇〇万円の予算。

## 「従軍看護婦」

(2・27読売)

従軍看護婦に長すぎた戦後

政府は戦後三四年目にしてようやく元従軍看護婦に対する手当制度の検討に乗り出した。

兵役の義務もないのに赤紙召集され、青春を戦場にささげた人々への補償がようやく一歩前進した際には〈恩給請願の会〉(昭和四九年、香川県の森松子さんらにより発足)の運動があった。日赤も昨年からようやく実態調査、動員延べ三万五七〇〇人、戦死一一〇〇人を掌握した。

(2・22読売)

従軍看護婦にやっと補償

総理府はトップ会議を開き戦後三〇余年も放置されてきた補償問題にやっと決着、三年以上

の勤務者に特別給付を決定。大戦中の外地従軍看護婦は約一三、五〇〇人で、三年勤続者はうち三〇％。

(4・1読売)

従軍看護婦に恩給案すむ

戦時中赤紙で召集された日赤看護婦二六、五三五人に対する恩給請願運動は七五五ごろから活発になっているが、政府・自民党は、ようやく前向きな姿勢で対処、五年償還の記名国債を発行、旧軍人恩給基準に準じ給付する方針を決め、来年度予算概算要求に盛り込む。

(6・7朝日)

従軍看護婦へ特別給付を

旧従軍看護婦恩給請願の会は二六日、代表ら一九名が総理府を訪れ①恩給法の軍人なみ適用②遺族への手当支給を陳情、稲村長官は恩給法の適用は不可能

としながらも「来年度予算で支給されるようにしたい」と約束。

(7・27毎日)

### 従軍看護婦の救済予算化

かけがえのない青春を犠牲にしながら全く報われず、赤十字看護婦も恩給法の対象外、「侵略戦争志願」とさえ非難される。「せめて」苦勞さんのひと声を聞かせてほしい」との叫びに答え、総理府や国会はようやく検討を開始、今月初め与野党合意で来年度予算にのせる要求を出す。

(8・15読売)

## 〔各地の動き〕

### 東京

#### 港区に婦人センター

港区では区内女性のアンケートを基に一〇億円の区立婦人セ

ンターを作る。女性参加型の公共施設作りは「三区初の試み」。

センターの内容は①物価・消費者情報②保険・衛生機能③婦人の学習機会提供で、「商品テスト室」「母子保健室」「図書・資料室」「幼児一時預かり所」を用意する。

(2・7読売)

#### 都行動計画、中間報告

全国の自治体に先がけて「東京都婦人行動計画」の策定を進めている美濃部都知事に「東京都婦人問題会議」（鍛冶千鶴子会長）が二〇日、中間報告を出した。

教育、労働、参加、家庭、健康、福祉の六領域で提言。男女平等実現の前提として「女は家庭、育児」という考え方を否定、子育てや老人介護の責任を社会も負担することを明言。秋までに男女差別の解消を目指す「行動計画」を策定する。

(2・21毎日)

#### 都行動計画に都民参加を

東京都独自の「都行動計画」策定を進めている美濃部知事は、「婦人問題会議」の中間報告を受けとめて、さらに手紙・電話・対話集会などで都民から広く意見を吸い上げ、婦人問題会議でできた最終報告は尊重し、これを骨抜きにすることはない、と決意を述べた。

(2・25毎日)

#### 都民参加で行動計画案

都の行動計画に都民の声をと「婦人問題を考える」対話集会シリーズが始まった。

四月三日の信濃町の集会には約一〇〇人が参加、中間報告をたたき台に「差別救済制度を盛り込んだ立法措置が必要」「行動計画に具体的な日程を織り込むべき」など熱心に討議。

(4・4毎日)

#### 都の婦人行動計画最終答申

都婦人問題会議は都民の声をとり入れて、三十一日、最終報告書を都知事に答申した。労働権の確立、審議会・委員会への女性の登用、家庭科の男女共修、乳がんの無料検診、年金制度の改善等を提言。政府の行動計画より一歩進んだ内容。

(6・1各紙)

#### 母子家庭に火災報知器を

中野区が九歳以下の子供がいる家庭に無料で貸し出す。静岡で母が働きに出て留守中二児が焼死した事件の教訓。

(5・11毎日)

#### 「老人保育園構想」流れる

立川・日野・国立・国分寺・

武蔵村山五市共同の構想は市長会で中止決定。作業訓練・文化講座など「通園」して行なう予定だったが、遠隔地ではメリツトがないと。(10・9毎日)

婦人・老人の活動を指導

新宿区教委は一日、五一人の「地域社会教育推進委員」を委嘱、グループ作りやリーダー養成にあたる。全国初の試み。(11・16朝日)

婦人問題情報センター設置を

市川房枝参院議員らが美濃部知事に「公約」の都婦人会館建設が無理なら、日比谷図書館にでも設けてほしいと要望。(12・2朝日)

## 神奈川

ハレンチ町議会に憤慨

酒・女・バクチ…… 神奈川県寒川町のハレンチ町議たちに、見ていられぬと婦人会四〇〇人が立ち上がり、正常化運動を始めた。(3・17毎日)

## 長野

女ひとりに福祉

戦争の頃「適齢期」。相手を戦争で失い未婚のまま過ごした女性には五〇年度の国勢調査で四一万五千人。家を支え親や弟妹の世話をし、いま向老期にさしかかった。長野県では五〇歳以上、前年分所得税非課税の一人暮らしの未婚女性に対する医療費の無料化をすすめ、県下一二二市町村中九四市町村が実施。(8・10・8・15信毎)

発足した婦人問題県民会議

長野県婦人問題県民会議が二〇日、長野県婦人問題研究会など四〇団体でスタートした。「教育・労働」「健康・福祉」「家庭・社会参加」の三部会を持ち、社会参加を進めつつ県や市町村の婦人問題対策に協力する。

初代会長は元長野婦人少年室長の金川文子さん。職能・労働者・婦人・経営者など四〇団体のまとめ役をする。(8・22信毎)

## 愛知

名古屋婦人会館オープン

市で初の女性専門の施設が一九日開館する。地上三階、地下一階、三四三四平方メートル、工費六億九百万円、資料室・相談室・研修室・会議室・託児室・

ボランティアビューロー・屋上プールが設けられ、趣味・実技の講座から婦人問題のゼミなどまで幅広く行なわれるほか電話相談も開設。託児室と電話相談には一〇〇人近いボランティアが担当する。(7・13中日)

名古屋市民局が「女のひろば」を

婦人問題担当室(中山恵子室長)が、女性の意識向上をと、「ナマの女」を考える広報誌を発行する。年三回刊。(9・13朝日)

母子家庭の医療費公費負担

愛知県が今年度の当初予算に市町村と半分ずつ負担することで経費を計上、十一月一日実施される。対象は①義務教育終了前の子供を育てている母子家庭の母と子②父母のない義務教育終了前の子で、母が非課税とい

う所得制限つき。該当者は二万八千人程度と見られる。

(11・1朝日)

子を学校へ「捨て子」?

児童保育など児童の校外活動について調査していた春日井市児童健全育成研究委員会は七日

鈴木市長に対し、共働き家庭にとって厳しい答申。市内全児童の三割近くに達した共働きが本当に必要なかどうかと問いかけて、子供を学校へ「捨て子」しているいまの親を厳しく批判、児童保育についてはしつじぶその必要性を認めた。「市の姿勢はまだまだ親の肩がわりをしてやるという意識が強く、共働き家庭に冷たい」と不満の声。

(11・8朝日)

市政の婦人参画の拡大を―

名古屋市の婦人問題推進協議

会は、五五年度を目標に「審議会・協議会委員に女性の占める比率を二〇%に引き上げ」「女子職員の職域拡大と能力開発」をするよう市議会に提言。

(11・30中日)

### 岐阜

子連れババにうれしい条例

岐阜県八幡町で、父子家庭に全国でもユニークな父子手当支給条例を実現。これをきっかけに、心の面からの援助も進めようとしている。

(11・14中日)

### 京都

「駆け込み寺」に機変わり

京都府婦人相談所を訪れる女性が増えている。もともと赤線にいた女性の更生を助けるための施設だったが、最近では夫の

暴力やサラ金の取り立て、離婚嫁と姑とのあつき等、多様化した世相を反映。一時保護の宿泊設備を持つ唯一の婦人施設のせいか、着のみ着のままで飛び込んでくる女性も。

(10・5朝日)

保母採用に点字受験認めよ

視覚障害の女性(二二)が京都市に訴え。市側は「試験日の直前までに回答」と回答。

(10・14京都)

### 徳島

徳島県下初の農村婦人の家

市場町大保農協は、近く七千万円をかけて、トレーニング室や研修室などを備えた「農村婦人の家」の建設に取りかかる。完成は来年春季の予定。

(1・21徳島)

施設規模全国一の婦人会館

徳島県藍住町に「女性の城」が建つ。工費二億五一〇万円、鉄筋コンクリート二階建て、延べ一九五〇平方メートル。町総合計画「情緒豊かななづくり」の施設として具体化したもの。労働省の「働く婦人」の狭い定義を乗り越え、「すべての婦人」が利用でき、対話交流のできる場を目指す。(4・28徳島)

寝たきり老人預ります

徳島県は予算七五万六千円で「寝たきり老人短期保護事業」を八月一日から開始する。

委託先は市内の特別養護老人ホーム。寝たきり老人の介護者がやむを得ない理由で介護が困難なとき一時的に預かる。六五歳以上の寝たきり老人年間四〇人の入所を予定。原則として七日以内。一日当たり必要経費三

五〇〇円中、飲食費一一〇〇円は申出者負担、生活保護世帯は免除。現在一時に五人まで収容可能。  
(7・13徳島)

## 福岡

### リコール運動に成功

福岡県小郡市で収入役選出をめぐる贈収賄事件から市議会解散要求が出、ついにリコールに成功したが、この推進役は松永ツヤ子さん(五三)ら無名の主婦たち。勝ちめのない闘いと男たちが尻ごみするなか昼も夜も署名を集めた。「女の論理を政治の場に生かさなきゃ」と。

(4・18西日本)

### 婦人関係行政推進会議

福岡県は二七日「婦人関係行政推進会議」(会長・亀井知事)を設置、婦人の地位向上を基本

に総合的に婦人行政を推進していくことになった。同会議は「国内行動計画」を県政に取り入れるため設置したもの。さらに、知事への助言機関として「婦人問題懇話会」を近く設置する。  
(6・28西日本)

### 「働く婦人の家」建設

福岡県は「働く婦人の家」二か所を来年度に建設すると発表。談話室、娯楽室のほか、料理教室や洋裁教室の設備もつくる方針。  
(8・5西日本)

### 保育所二五か所を新増設

福岡市は、同市東区小寺安さくら二六七三人から提出された保育所の新増設と保育内容の改善についての請願をうけ、年度内に二五か所の新増設を急ぎ、一三〇〇人を入園させる。

人口急増に伴い、同市は毎年

保育所の新増設にとりくんでいるが、未措置児は毎年三〇〇〇人台を数えている。

(8・8西日本)

## 〔その他〕

### 総理府長官、意欲を示す

稲村総理府長官は、新聞・テレビの婦人記者と初会合を持った。席上、自身も母子家庭に育ったことを述べ、まず総理府などで民間婦人を起用することなどを進めたいと、やる気十分のところをみせた。  
(1・13毎日)

### 消費者保護行政に強い不満

法施行一〇周年。主婦連は東京・四谷の主婦会館で「これでよいのか消費者行政セミナー」を開催。国や自治体の審議会に消費者代表が少なく、消費者の立場の意見はほとんど聞き入れ

られない、などと不満あれこれ  
(1・27毎日)

### 満一〇歳一転機の消費者保護

消費者保護基本法が施行されて一〇年、消費者行政は世界の最高水準に達し、消費者団体は二九四八、生協を加えると五千に及び、メーカーだけでなく行政にも圧力を加える実力になった。が、サラ金・マルチ商法などの問題も多発、モノからサービスへ移行しつつある。

米国では消費者保護庁新設法案が二月僅差で否決され、ラルフ・ネーダーに代表される戦闘的運動が壁に突き当たった。これはね返りも無視できない。低成長下の対応の必要とともに物価・金融・産業立地・環境政策への食い込み不足をどうしていくか問題だ。  
(5・25朝日)

## 国連婦人の十年推進を

山口シヅエ・田中寿美子氏ら  
両院の婦人議員二人を中心に  
超党派の「国連婦人の十年推進  
議員連盟」が設立されることにな  
り、一日設立総会が開かれる。  
当面国内行動計画の具体化を  
推進する。(4・3毎日)

## 新日本女性党誕生?

一三日、ホテルオークラで  
「弱い女性を泣き寝入りさせない」と旗揚げ会見。党首の中島  
久美子さん(三三)は六本木の  
クラブのママ。昨年の参院選で  
女性党から立ち、三万五千票を  
獲得、票の重みに応えるため、  
結党にふみきったという。党員  
八名、背後に総会屋のウワサも。  
(4・14毎日)

## 女子競輪の復活論議

人気が頭打ちの競輪の振興策  
に「女子選手で人気を呼びもど  
せば」という復活論が通産省で  
持ち上がっている。女子プロレ  
スが大当たりだからか。  
(5・5朝日)

## 85歳の現役国会議員

参院議員の市川房枝さんが一  
五日誕生日を迎え、超党派の婦  
人議員からお祝いの花束。現役  
議員では最高齢。(5・16毎日)

少女締め出し、国技館土俵

「わんぱく相撲」で、予選を  
勝ち進んだ小学五年生の少女が  
女人禁制を理由に、国技館の土  
俵に出場できなくなった。労働  
省婦人少年局の森山真弓局長は、  
日本相撲協会の代表を呼んで真  
意をただす。(5・23朝日)

\*

「女性を不淨だと思っていらっ  
しやるのかしら」との森山局長  
に協会側はタジタジ。

(5・24朝日)

## 世界婦人会議準備会議

八〇年に開かれるテヘランの  
「世界婦人会議」の準備会議が  
六月一九日から二〇日までウィ  
ンで開催、総理府の赤松良子さ  
んが出席。

「女性の労働・雇用の問題が  
次回会議では先進国諸国間の最  
大焦点になりそう」と赤松さん。  
(7・12読売)

## ユネスコの政府代表に女性

縫田暉子さん。ユネスコ総会  
代表メンバーに女性が加わるの  
は坂西志保さん以来二六年ぶり。  
市川房枝参議院議員の「国際会  
議の代表にもっと女性を」との

要望に応えたもの。

(9・21朝日)

## 外務省上級試験合格者

受験者は一一五七人(女性  
は八九人)。合格者二七人中女性  
は二人。  
(10・28朝日)

## 上級国家公務員の採用内定

七〇年の三倍、五万六千人の  
志願者、合格は一一三一人、四  
二・七倍。女性は一二人(昨年  
は二〇人)。だが、行政管理庁は  
一六年ぶり、農林省も二年ぶり  
に二人目、建設省も法文系で初  
めて採用。  
(11・15朝日)

## 大平氏へ婦人の要望を

日本婦人有権者同盟は二八日  
大平氏への要望を協議、①金権  
体質の勢力にどう対処するか②  
その温床の政治資金や選挙制度



# 労働

## 〔ILO〕

大きく前進、婦人労働対策

ILO本部で婦人労働対策を担当した前局長補・高橋展子さんが二年の任期を終えて帰国、「散発的だった婦人労働対策を一つにまとめて推進する組織を設け、各国の婦人労働に関する法制・統計・対策などを世界に知らせる定期刊行物「ウイメン・アット・ワーク」の発行を実現させた。また昨秋ブリュッセルで世界婦人局長会議を開いたほか、ILO105号・111号

条約のほかにもっと強力な条約の草案づくりに着手、123号勧告の「家庭責任を持つ婦人」の「婦人」を削り、勧告をもっと強制力のあるものに改正する努力も始めた」と報告。

(4・10毎日)

看護婦条約の批准めざして

ILOの「看護職員の雇用と労働条件に関する条約」と「勧告」は採択以来一年になるが、日本は「実情に合わず」と棄権のまま。

日本看護協会は批准実現をめ

ざして運動を開始。日本では社会保険審議会や老人医療審議会など看護が主となる政府の審議会にすら看護職員は参加できない。看護職への不当な評価は、女性の職業であることから来ていると協会側。

(6・17朝日)

ILOが夜間労働禁止拡大

夜間労働禁止措置は、男女の区別なく拡大されるべきと、今秋の総会で検討の公算大。

(9・3毎日)

## 〔前進〕

総評委員長のとぎもを抜く

労働組合の書記による労組、総評書記労組に先月末初の女性委員長が誕生。奥島加奈恵さん(三〇)、三児のママ。

例年書記の賃上げや労働条件は加盟組合員の水準を参考に、春闘後総評幹部との団交で決まる。紛争があるわけではないが「不況のしわ寄せは、弱い者に来がちです。そのような時には不本意ながら聞わざるを得ません」と決意表明。楨枝委員長ら



幹部のどきもを抜いた。

(1・22朝日)

## 第一勧銀貸金差額支払い勧告

第一勧銀の男女貸金格差問題について浜松労基署は二四日、是正勧告を同銀行本社責任者に発した。これは浜松支店の女子行員二名から出された申告を認めたもの。二人には、五一・五二年度の差額二〇〇万円が支払われるが、同行には三一〇〇人の女子行員があり、単純計算すれば差額は二三億。大企業への勧告は全く異例で、他企業の〇しにも波紋を呼びそう。

(3・25毎日)

## 国鉄ウーマン誕生

国鉄本来の業務に携る駅などの現業部門にはいままで女性の姿はなかったが、この夏から二人の女性職員が、長野鉄道局に

勤務する。

(3・28信毎)

都立高校に初の女性教頭

春の異動で東京都の女性校長は小中学校に新たに一三人誕生、計七八人に。女性教頭は一三人

新任、昨年に続き女性の管理職への登用が目立った。

(3・31毎日)

女性歯科医官防衛庁に登場

慢性的医師不足に悩む男世帯の防衛庁が五日付で女性歯科医三人を制服自衛官として初採用。一か月間、幹部自衛官基礎課程で教育後、歯科医師官として正式にスタートする。

(6・8徳島)

男女区分廃止の市職員募集

一日、名古屋市が職員採用候補者試験要項を発表。消防関

係を除いて採用の男女区分がなくなった。

(7・11中日)

東陶陶器男女差別撤廃

雇用合理化が顕著な中で東陶陶器(北九州市、八二〇〇人)は男五五歳、女五〇歳だった定年を男女とも六〇歳に延長、これを機会に男女差別も撤廃すると発表。

(7・15朝日)

増えた女性の活動の場

ヤマハ発動機では女性だけの工場を昨年一月七〇人でスタート、好調のため一五〇人に増員した。四六年から女性の海外駐在員制度を始めた三井物産は今年は一〇〇人に増やす。東京電力では副社長に定期的に進言する女性お目付け役四人を採用するなど働く女性は好評。しかしその裏には人件費の安い女性で減速経済を乗り切ろうという計算

も。

(8・17読売)

夫の出産休暇要求

三菱電機労組に非専従ながら婦人問題担当の中執が生まれ産前産後に夫の有給休暇を要求、二年後には婦人も発足させる。同社では石油ショック後女子の採用を中止、一万二千人が七千人にまで減少したが来年からは五〇〇人採用が再開される。

(8・21朝日)

企業内ホーム・エコノミスト

企業と消費者の間をつなぐパイ役として消費者部門や広報部門に女性を採用する企業が増えてきた。消費者サービスや消費者教育などを通して自社の製品を消費者に紹介する一方、消費者の苦情や意見を企業に伝える新製品の開発や改良に助言を与える仕事。女性の新しい職場進

出として注目されている。

(8・21毎日)

乗るのも作るのも女性

昨年二月以来、女性ばかりの

組み立てラインでファミリーバイクを三万台以上組み立てている静岡県磐田市ヤマハ発動機工場。一五三人の女性が従事、

平均年齢二五・六歳。単調な細かい仕事をていねいすると評判。

(9・16毎日)

警察官応募女性六九倍

愛知県警本部の大卒以外の警察官採用試験で。(9・19朝日)

巡視員など応募殺到

長野県警の交通巡視員と婦人補導員四人の募集に新卒女性百五十八人が殺到。(10・26信毎)

二輪車業界に女性進出

鈴木自動車は新工場を建設、

従業員二百数十人のうち一〇〇人までを来春高校を卒業する女性に。

若いうちにやめる人が多いため三、四割の人情費が節約できると本田技研工業や鈴鹿製作所も試験中。(11・16朝日)

## 【問題】

働く女性に広がる職業病

職業病に苦しむ人の補償要求をバックアップするなど勤労者の立場から道内の職業病対策と取り組んでいる北海道職業病対策連絡協議会が五周年を迎えた。現在の会員は六六団体三万八千人。これまで職業病が認定されたのは一八五人で、その九割が女性。計算業務や保母職など発生しやすい職種に女性が多い

ためだが、認定は進んでも予防は進んでおらず、専門病院がほしいと訴えている。

(1・28道新)

低い日本女性の賃金・昇進

世界九か国で、働く女性の事情を調査している婦人労働問題専門家、アメリカのコネル大学名譽教授アリス・H・クック女史(七四)が来日、裁判の形で労働問題を争っている女性たちを中心に調査をすすめた。

「世界の中でも日本の女性は一層困難な状況に置かれているという感じだ。女性というものは補助的労働をし一生懸命働かない、ということがこれほど強く考えられ、企業の側がこれほど大げらにそのことを言い、女性の側も半ばあきらめているという国はほかにはないからだ」と日本の特徴を語った。(3・11朝日)

女工衰史を韓国に輸出

阪本紡績が倒産前に韓国に作った子会社「邦林紡績」は巨額の親会社への送金を強いられ、韓国での「女工衰史」が問題になっている。

(4・10朝日)

長く苦しい保母さんの春闘

福岡県内の私立幼稚園と保育所に勤める教職員や保母さんで結成した県幼児教育労働組合は、公立に比べ初任給で三万六千―二万三千円も安い実態の中で、二年同じ要求額で闘っている。しかし園理事者側との交渉を実現できたのは一園だけ。組織率が一割未満と聞いて要求を頭からはねつける理事者も。一方、組合加入が園側に知れて退職を余儀なくされた職員は三七年の組合結成以来三〇人を下らない。

(5・10西日本)

まだ多い結婚退職制

結婚・妊娠・出産退職制をとる企業は一二〇社。パスガイド二八歳定年、スチュワードス三五歳定年の例もある。労働省調査のこの数字、制度的に差別を明示している企業だけに限られており、不文律は統計外。労働省は改善勧告の方針。

(6・23読売)

「白衣の天使」より「職業婦人」

自治労が全国の九五〇の自治体病院で働く看護婦七万人の中から一万人にアンケート。

看護婦を職業に選んだ理由は①職業人として経済的に自立したい(四三%)②家庭に入ってからも役に立つ(二二・一%)③女性にふさわしい仕事(二一・一%)の順。

看護婦不足から一か月に一〇回以上の夜勤が四割を占め、有

給休暇を完全に消化している人は八・一%にすぎない。

(7・30朝日)

男女平等まだまだ

徳島婦人少年室は県下約二万四千事業所の就業規則に基づく若年定年制・結婚退職制の実態調査を行なったが、七〇企業が男女別定年制で、女性の定年五五歳未満とし、うち二企業は四〇歳未満。が、結婚退社を制度化している企業はなかった。

(8・9徳島)

看護婦が職場を去るとき

看護職の平均年齢は三五・五歳、既婚者の比率は六一・三%。平均勤続年数八・七年だが、一年間に養成されて就業する者一〇〇に対し退職する者は二八。退職理由の七六%が「仕事に不満」。「上司の職場管理の仕方に

納得できない」「忙しすぎ患者の面倒を十分みられない」がその原因。日本看護協会の四千人調査で。

(10・15朝日/10・27日経)

「婦人労働旬間」に連帯性を

企業が制度的改善を施しても職場がやめざるを得ない空気を変質させない限り行政指導も宙に迷う。前進には企業だけでなく、労組と職場の同僚、とりわけ男性の女性に対する理解と協力が最も肝心ではないか。

(10・21京都「社説」)

婦人労働旬間の課題

婦人雇用者数は四八万人もふえたが臨時・パートが中心で二〇三万人が短時間だ。企業が婦人を見る目は依然きびしいが、大卒勤続年数三・五年では女にも責任がある。総理府の有識者

調査では役割分担論に賛成の女性に六%だが、建前と現実のズレは大きい。これを埋める努力が必要。

(10・22読売)

婦人の職業意識と雇用

女子の雇用者は一二五万人となったが婦人の労働市場は若年層の常用労働と再就職の家計補助の主婦労働に分類固定化の傾向。女性が自立した社会人として甘えず、切り捨てられず、人間らしく、人生のなかに労働を位置づけられるのはいつか。

(田辺照子・明治大学教授)

(10・23信毎)

平等を阻むカベを乗り越えて

婦人労働旬間のテーマである「職場における男女平等を進める」は一九七五年以来のものである。既婚者の割合が働く婦人全体の六五%を占めるようになって

てはいるが、婦人を迎え入れる職場には相変わらず問題が多い。

採用、昇進の差別、婦人にも適用される差別的な退職制度など完全には是正することは容易でないが、企業側は誤った先入観や偏見を捨て、思い切った婦人の才能を引き出す努力をしてみることを。

婦人の側も不合理と思っても現実を乗り越えていく気迫が必要。やる気のある人の足まで引張ることのないように。

(10・24毎日「社説」)

男女就職差別撤廃の法律を

今年も女子大生は就職難、NHK教育テレビで特集を見て深刻さに驚く。早く男女差別撤廃の法律を作らなければ。

(高橋清子・主婦・五三)

(10・25朝日)

## 〔民間企業〕

四人に一人ボウコウ炎

日航スチュワーデス六八五人のうち、ボウコウ炎経験者は一七四人。「ボウコウ炎を職業病と認めよ」と組合が会社側に要求、会社側は「因果関係が明らかでない」。

(11・18読売)

共働きや親看病に指名解雇

一〇月三十一日、沖電気工業は三〇〇人に指名解雇通告。

(11・7読売)

二八〇人は指名解雇に応じたが、応じない七八人は解雇された。共働きの松本和子さん(三二)夫妻や勤続二十四年、月収一万で母を扶養してきた梅沢規子さん(四三)ら六十四人は「不当解雇を撤回させる会」を組織。

(11・23朝日)

## 〔雇用・就職〕

大卒女子のみ売れない悩み

長期不況下での本年度の就職シーズンも大詰め。徳島県下では「例年になく厳しい」との予想に反して、中・高卒男女と大卒男子の就職は順調だが、風当たりが強いのは大卒女子で、内定率五〇パーセント。

(1・21徳島)

統計に現われぬ女子失業者

パートの主婦が失業しても必ずしも失業者の数に数えられない場合がある。女子学卒者が就職口がなくて家にいても「家事手伝い」で片づけられる。女の労働権の立ち遅れは、失業権(?)すら差別線上に置く。

(5・16信毎「女の机」)

女子の雇用を考える

女子の就業者は二〇〇万強、雇用労働者は二二〇〇万、毎年着実に伸びている。二五〇〇万で足らみしている男子雇用者と好対照だが、増えている中身はほとんどパート、平均月収五万四千円で企業には好都合だ。フルタイムでも九九%が補助業務。

(7・28—8・4毎日)

女子大生に狭い就職の門

日経が一一七七社を調査した本年度の大卒採用は四社に一社がゼロ。特に女子にしろわやせが目立つ。不況で女子社員の定着率が高まり職場があかなくなっただことも一因。

(8・24日経)

名古屋港に生きる女陸送屋

名古屋港に姿を見せて一〇年、いま三〇人、一三%。一日七

時間、月二十三日の出勤で月収一二万。一日一人平均三〇〇台前後を動かす。(9・5朝日)

### 女子大生のつぶやき

この不況の中、大卒女子を採用する企業は少なく「結婚して家庭という温室に逃げこもうか」とふと思う。

(板谷鮎子・学生・二二)

(9・18西日本)

### 女子大生の就職条件

自宅通勤を採用条件にする企業が続出。「独身女性に事故でも起きたら……」が表向きの理由で「肉親付きでない」と管理上困る」が本音。地方出身の女子大生は受験制度から完全に閉め出される。労働省は悪質な男女差別の典型例として実態調査を開始、行政指導も行なう。

(10・29読売)

### キビシイ就職戦線

大学生の就職試験が一日から開始。二八万人のうち大企業に入社できるのは四万人で九割が内定済み。理工系と女子は苦戦、女子学生は中・小企業をめざしこれからが本番。

(10・19読売/11・1朝日)

### 自ら「門を狭める」女子大生

日本リクルートセンター調査によれば、四年制大卒女子の採用ゼロという有力会社が去年の倍の二四七社もあり、採用予定数も一五一六人と昨年を大幅に下回った。一流企業やムードにこだわらなければ決して厳しい戦線ではない、と言う大学の就職担当者もいるが。(11・2朝日)

### 専門知識生かしたいと求職

東京人材銀行(有楽町駅前)

に登録している女性求職者数は常時三〇人で月に四、五人ずつ新規加入があり、一人か二人が職場を見つける。

登録者は四五から五〇まで。経理・秘書・薬剤師などを希望し、管理・専門職に就くことのできる知識・技能を持つ人が多いが就職できる人はごくわずか。

(11・2読売)

### なぜ女子大生は就職難か

企業にすると、経済コストからみても在職年数の短い大卒女性には敬遠したい、職種のえり好みも強い、というのが原因。

九月に「全日本フェミニストの会」を発足させた渥美育子さんは「女性の個人的な怠惰だけではない現実があります。飛躍しますが女性の価値体系をつくらねばと。政治レベルの働きかけ、つまり女性を何%採用させる、と法律で決めるようにする

とか」「洞察力、冷静さ、企画力といった男らしさの価値観を女性にも備えさせる教育、家庭環境も大切」と語る。

(11・20朝日)

### 就職戦線に敗れて

来春は二五万人の女子大生が社会へ。九社を受験した国立大学経済学部のある女子学生は「敗北宣言」を。「社会が男性優位であることを実感、何よりも自分の甘さを痛感した。どうせ職場の花にされるのなら、自力で生きてみたい」

(12・6読売)

### 女子大生の就職

四年制大卒女子の希望業種は①編集・ジャーナリスト四六・四%②公務員三三・七%③教師三一・四%(日本リクルートセンター五三年七月調査)だが、

望みの職種は狭き門。教員・公務員も男子が増加した。

しかし「定年まで働き続ける」は五五・七％に増加、腰かけ意識は消え始めた。男子より抜群に優秀と見直す企業も。

(12・7朝日)

二人募集に千人殺到

女子大生あこがれの花形職場

女性アナウンサー試験は激戦。

(12・16毎日)

おしどり巡査部長三組誕生

名古屋、中村署刑事一課の築城ひとみ巡査(二八)ほか、

巡査部長昇任試験に見事合格。

(12・17朝日)

ひろがる女性の職域

女性一級酒造技能士第一号は

椎谷和子さん(三六)。運航管

理者実務国家試験合格者は全国で酒井美津子さん(二七)ら二人。女性騎手は土屋薫さん(二

〇)ら二人、ほかに警察大訓練士、潜水指導員など女性の職場は続々拡大中。(12・23朝日)

## 〔内職・パート〕

働けども“銭”に泣く内職

「どれも一時間一〇〇円前後、一日中、部屋にとじこもって月一万円前後」

「単価は五〇銭とか七〇銭。

今でも“銭”の世界。家内労働手帳はおろか、締め切り日まで金額がわからない」

「デパートのあて名書きは三行で二円、月に一万円は稀れ。四か月平均でやる」

「生活費を切りつめたほうがトク。でも金を得る喜びがある」

「あと一万円余分にあれば、ほしいもの、やりたいことがた

くさん。ばかばかしいとわかっていても内職する気になるのだと思う」

「そのお金で水泳教室に行ったり気分的に大ちがいです」

「もっと家の中をきれいにしろ、と夫は不きげん」

「子どもの相手もできず、家事は手ぬき」

読者コーナー特集「主婦と内職」に寄せられた投書から。

(1・26―2・2朝日)

主婦の内職、狭き門

世は不況。内職探しをする主婦が増えているが、仕事は少なく、工賃も一時間二三〇円。内職希望の問い合わせも五年は六五〇〇件。五二年度は一月までにすでに約八〇〇〇件。三人に一人がやっと仕事にありつける状態で、平均月三万円。この物価高では焼け石に水。

(2・2毎日)

奥様パート好評

中央大学多摩校舎(八王子市)

が四月開校。校内の食堂関係業者がパートタイムの主婦を募集したところ一〇倍以上の競争率になった。「子どもに手がかけられなくなったので暇を金にかえたい」というのが主な動機。

(3・18朝日)

増える主婦パート

産業界の減量経営が進むなかで、西日本地区の流通業界でも社員の採用を極力抑えて主婦のパートタイムに置き換える傾向が目立ってきた。スーパー業界の中には社員より主婦パートの数がはるかに多い小売店も出てきた。一人当たりの人件費は社員の三分の一ですむためパート化はさらに高まりそう。

(4・14西日本)

## 女子のパート労働が急増

総理府統計局が発表した五二年度就業構造基本調査では女子有業者二〇一〇万人中、家事のかたわら就労するものが六六七万人で一七・九％も増加。

就業希望の女子の八三・二％がパート仕事を探している。

(4・16毎日)

## 内職希望は激増しているが

内職相談が激増の江東内職公共職業補導所。一〇人中九人以上が初心者で、やさしい仕事を希望する。買手相場に昨年より工賃を下げる業者も。

(4・18朝日)

## 切実、主婦の内職探し

小諸市が開いた内職あっせん講習会で五一六人の求人に百数十人が殺到。長野市の県内職援

助センターでも、連日仕事を求める電話が鳴りつ放しの状態。

パート先で解雇されるなどで内職志願の主婦は増えているのに、内職求人は減る一方。

(4・28信毎)

## 一万人も増えた内職希望者

都の五二年度の内職相談状況調査によれば内職を求めて補導所を訪れた人は三九、七八一人。前年比二万人増。過去三年は横ばいだったのに、不況の影が明確。

(5・13朝日)

## 円高不況で内職激減

徳島県下の内職希望者は増える一方だが円高不況で求人は激減。県内職相談所がまとめた五二年度内職相談業務概要では求職者四人に三人分の内職しかない。

内職の理由は「小遣いが欲し

い」がトップで三八・八％。「世帯主の収入が少ない」も増加し生活苦を反映。賃金は横ばい。(5・16徳島)

## 内職工賃の不払い増加

昨年三月末現在で不払い額は計三〇〇〇万円(七七〇人)だったが、同九月末には八〇〇〇万円(二〇〇〇人)に急増。トラブル防止のための「家内労働手帳」の普及もまだ五割。技術を修得すれば高収入になると、高い授業料や高額を保証金を取ったりするものも横行。

(5・20読売)

## 内職は一時間二四〇円

内職希望者は多いが、実際の内職人口は一〇年前と同じぐらいに減少。時間当たり工賃は女性で二四二円(パートタイマー三七〇円)。一〇〇円から三〇

〇円未満の層に女性の六五・二％が集中。倒産による工賃不払いも深刻。「内職者自身からの不払い申告が実態をつかむ一番の早道。気軽に申し出て」と労働省。今日から労働旬間。

(5・21朝日)

## 家内労働に産業政策を

家内労働手帳の普及は必要だが、家内労働法だけでは手の打ちようがない。政府も家内労働を労働省まかせでなく産業政策として考えねばならぬ時期にきている。必要なものは援助し、転換すべき分野では思い切った職業訓練などの手を打つべきだ。

(5・24朝日「社説」)

## パート雇用の改善を提言

労相は一四日の閣議で「五二年度労働経済の分析」(労働白書)を報告し承された。失業者増

加の中で三次産業の雇用は伸び

ているが女子のパート・日雇いが中心で、一般女子被雇用に比しても著しく劣悪な待遇と報酬、パート増加は一時的現象とはいえないので今後近代的パートタイム雇用の確立をはかり労働条件の改善と労務管理の適正化を推進すべきと六〇歳定年実施の必要と共に提言。

(7・14毎日/読売)

増えた都内の女子パート

五二年七月一日現在の都民の就業構造調査報告では労働人口は九〇三万、就業者は五四〇万、四九年に比べ男子就業者二万九千人増に対し女子は一四万二千八千人増、四〇歳代の就業率は五割を超えた。パート・日雇いは一八万二千八千人増、家事従事の女子の四四％が就業を希望しているが、短時間労働か内職希望が多い。

(7・14朝日)

パートタイマーの概要

全国で三二二万人。雇用者総数の八・七％。うち女子が二〇三万人(五二年)。その大半は第三次産業で働いている。スーバーでのパート数は七万二八〇〇人で九六％が女性(主婦中心)、四八年以来増加。

パートの人件費は社員の半分をやや上回る程度で、大手スーバーの中にはパート比率が四割に達したところもある。

(11・27朝日)

パート活用策

主婦のパートを本当に戦力として活用するための工夫としてある家電チェーン店では自由勤務制を導入。これを支えるのは売り上げ歩合制。最低の時間給で売り上げごとに一定の歩合。主婦たちはいきいき忙しい時をねらって出勤、働く意欲も違ふ。

またあるくつ下メーカーでは私設の保育所を設置。わずかの額で子どもを預けられるしくみ。

(11・27朝日)

企業支えるパート

パート勤めの主婦が激増している。週の平均労働時間が三五時間以内の短時間雇用婦人は二〇三万人、史上最高となった。ある大手スーバーが一一五人のパートを募集したら、二〇〇人が押しかけた。また採用二〇〇人に三五〇人が殺到。社員九六人に対しパートが一七四人のスーパーも。「パートの人件費は、福利厚生費など間接費用を加えても正社員の半額程度ですむ」と企業側。

(12・22朝日)

〔調査より〕

女性が高年男性の脅威?

朝日生命保険レポートによると「女性就業者は昭和三〇年には一七〇〇万人だったが、五二年には二〇三三万人に増えた。とくに農林業から二次・三次産業への流入が目立ち、就業形態も家族従業者より雇用者として増加している。また、定年後再就職を目指す高年齢層は、活発化する女性の職場進出で脅威を受けることになりそう」と展望している。

(3・26朝日)

完全失業者史上三番目に

二月の完全失業者は一三六万人(男九二万四千、女四四万四千)で、昭和三一、三四年に次ぐ記録。男は七七年六月から横ばい、女は一二月に大幅増加したままの水準。



雇用者は前年同月比、男四万人減、女一九万人増。

(3・31毎日)

製造業女子は月収八万六千

労働省の昨年六月分賃金調査(製造業)では平均賃金男子一

六二、五〇〇円、女子八六、八〇〇円で男子九・〇%女子八・二%アップ。平均年齢は男子三六・八歳、女子三五・六歳で共に〇・四歳増。

(4・2毎日/読売)

女医さんの半数は中高年

日本女医学会の女子医学部卒業生一五、一六八人を対象とした調査によると、総医師数二二万八千中、女医は一万二千人で九・七%。年齢は四五―四九歳が二〇・三%、五〇―五四歳が一六・三%、四五―五九歳が四六・六%を占め、科目は内・眼・

小児科の順。(4・9読売)

初任給は低成長だが

日本リクルートセンターが四五〇〇社を対象とした調査では大卒男子は一〇七、六五八円で前年比四・一%増、高卒男子八九、一四三円、四・〇%増と一年間の最低。女子は大卒一〇〇、八〇六円、高卒八七、〇五七円と共に四・七%増で女子大卒が初めて一〇万円台になった。

(5・25朝日)

まかり通る女性差別定年制

雇用での男女差別が顕著だが、代表的なのが男女別定年制と女子のみの若年定年制、結婚・妊娠・出産退職制だ。労働省の調査でも、男女別定年制は一三、三〇〇社、うち四〇歳未満は一三、二〇〇社、結婚・妊娠・出産退職も一二〇〇社に達している。

家計維持の責任者は男という社会通念が根強いのだが、女性の生活権をおびやかすものだ。

女性や労組からの不満の声が少ないが自覚と反省が求められる。また職種別定年に対しても労働省は十分究明し、行政指導すべきだ。(6・26毎日社説)

普通勤務で雇われない

都民の就業構造基本調査では「普通勤務で雇われない」と安定雇用を求める女性性は、三四・四%も。(7・14読売)

零細企業的女子就労増える

六月の労働力調査では就業者五五五〇万人で前年同月比二%増。前月に比し男子は〇・一%減、女子は〇・八%増。増加した女子の多くは零細企業。完全失業者は男八一万、女四六万。

(7・28毎日)

キャリア・ウーマンが進出

BGやOLよりも積極的に働くキャリア・ウーマンが増えたが、出産や家事とのかねあいのほか、相変わらず女を装飾品とみる企業の姿勢に苦悶している。とはいえ、企業の中の男の城は徐々に切り崩されつつある。かつてあれば男がどっかと座っていた家庭の主導権が女に移ったように。(7・31毎日)

女は課長相当までが二七%

婦人少年局の「女子労働者の雇用管理に関する調査」による

と、男女とも採用する方針の企業は高卒六二%、大卒二二%。採用条件男女差なしは高卒七一%、大卒六五%だが、教育訓練男女一律は一九%だけで、女子は受けさせないが一三%。管理職に昇進の機会がある企業は四八%、内わけは係長まで

四一%、課長まで二七%。さらに結婚退職制七%。理由は妊娠・出産退職三%、職場結婚一%。

活用方針は補助的分野で四〇%、特定の範囲のみ三六%、区別なし二六%、積極的に活用一六%。

民間企業五〇〇〇という初の大規模調査で。

(7・21毎日/7・28日経/8・11読売)

## 厳しさ増す労働市場

六月の失業者は男女とも増加一三三万人になった。女子労働者の求人倍率は〇・六、パートは一・〇でパートへの切り換えが目立つ。中高年者と女子の転職条件は悪化、特に女子は同一規模の同年齢労働者の四六%の賃金。(8・26-27日経)

## 家事労働額は年間四四兆円

夫婦二人で月一九万、子ども一人で二四万、病人が一人いると三二万という試算もある。余暇開発センターのレジャー白書は年間家事サービスは四四兆七千億、うち女性が三五兆四千億と発表。が、「家事の大部分は本来各人がやるべきことか社会化すべきことのはず」と青木やよひさん。

学芸大久場靖子助教授は「労働時間・生活時間の中に『家事時間』を入れるべき。欧米各国の労働時間短縮やスウェーデンの父親の育児休暇はその方向」と指摘。(9・4読売)

## 女性ゆえにまだ格差

福岡県労政課は県として初の民間企業で働く勤労婦人を実態調査。女性労働者は三四%、うち既婚者は四割で、その五分の

二の女性が子どもを育てながら働いている。五〇歳以下の定年制が一割強、結婚退職制・妊娠・出産退職制を採用の企業が四%あった。(9・10西日本)

## 婦人労働白書

女子労働人口は二〇七万人、労働人口総数に占める比率は三八%(〇・六%アップ)。就業者数は二〇三三万人(二・九%増)で史上最高に。被雇用者は一二二万人(四%増)で被雇用者総数の三三・二%。年齢別では二〇一二歳で減った以外どの年齢層でも増加し、平均年齢は三三・九歳。

一方、臨時、日雇いも三万人(二二・八%)増、飛躍的な増加率。

が、月給は男子二五万三六九八円に対し二四万一六四四円で男の五五・三%。採用率は高卒なら六二%、大卒は二二%。役

職に昇進の機会が「女子にもある」は四八%、うち「係長まで」四〇・五%、「課長まで」二七・三%。定年差別は二三%の企業にみられる。(10・12各紙)

## 伸びる女性の勤続年数

五二年度の女子の勤続年数は五・八年でわずかずだが伸びている。女子雇用者の平均年齢三三・九歳、既婚者六五・一%と、中高年・既婚者という女子労働者のパターンが、若年・未婚・短期勤続というパターンにとって代わった。婦人労働旬間中、労働省は若年定年制の改善・男女同一労働同一賃金の徹底をはかる。(10・21朝日)

## 職場の男女平等の程度

長野婦人少年室が九月に、八か所の公共職業安定所の窓口を通じて実施(女子一〇〇〇人対

象)した調査では七五%以上の人が「自分の都合」で前の職場を退職。賃金や昇給・定年制等の働く条件が男女別にきめられることについて、「当然だ」一七・五%、「どちらともいえない」三九・九%、「不合理だ」三四・四%。

若い層ほど「どちらともいえない」と回答。平等でない原因は「女だからという考え方が企業にあるため」六七・一%、「女子の職業に対する自覚不足」五一%「女子の職業能力不足」四一・二%で「女子が保護され

酷使にホロホロ「白衣の天使」

職業婦人」を白

四害が月十回は夜勤  
看護婦やめたい「八割」  
出産などに悩み

日本看護協会  
四千人を調査

職場にふえる女王

# 子ども・教育

## 〔保育・子育て〕

和歌山に英才教育塾出現

「英才のめばえは幼児期から」  
こんなキャッチフレーズで、塾  
通い日本一の和歌山市に今春  
幼児英才教室がオープンする。

毎年東大に六、七人合格で評  
判の学術塾の幼稚園で、英・国・  
算・理・社を、小学二、三年の  
実力をつけるという説明会に教  
育ママが殺到。月謝は二万円。

これとは別に、四、五歳の幼  
稚園児のための国・数・理・社  
四科目コースもあり、県の総務

学事課では「望ましい形とは言  
えない」と渋い表情。

和歌山大・北川文雄教授は  
「三、四歳の教育が脳の発達  
を促すというのは残念ながら仮  
説。三、四歳の記憶がいつまで  
もつかも不明。人づきあいや  
創造性も重要だが」と心配。ま  
た東大教育学部田中直人助教授  
は、「三、四歳児の知能は質的  
な転換期にあり、ある程度つめ  
こみも可能だが身につくとは限  
らない。急ぎすぎて根っこが抜  
けるといいうこともある」と批判  
的。  
(1・22毎日)

区立幼稚園で六時間保育

東京・千代田区では来年度か  
ら実験的に三園で保育時間を二  
時間延長する。

幼稚園の保育時間は文部省の  
幼稚園教育要領で四時間とされ  
ており、四五年一月、中央教育  
審議会は時間延長と「幼保一元  
化」に反対。一方、四六年、厚  
生省の中央児童福祉審議会は幼  
稚園と保育園の区別に反対、対  
立していた。

千代田区では、「商工業地帯  
で家族労働が多く、交通安全や  
TVっ子対策を考え、父兄の熱

望もあって」と説明。

(2・15読売)

入れぬ保育所

京都市では保育所入所待ちの  
保育浪人の数は七〇〇〇人を上  
回る。

同市では毎年約一〇か所保育  
所の新設が続けているが、それ  
でも五三年度は約二万五〇〇人  
を措置できただけ。「浪人」の  
多くは乳児で無認可保育所や委  
託の家庭に預けられているが、  
はつきりした数がかかっている  
い。  
(2・18京都)

## 育児大学ブーム

男のための育児大学、全国七か所の応募総数は三九九三人、約一九倍。「講義を聞いたら、出産って大事なんだな、と改めて考えさせられた」とは受講生の声。

(3・2読売)

\*

もく浴実習もやりますと、育児用品メーカーが帝国ホテルで育児大学を呼びかけたところ、定員三〇人に対し一一四〇人も応募。講師の慶應大学・飯塚教授は「最近では陣痛に付き合う夫もでてきました」。

(3・26朝日)

## 好評の足立区ミニ幼稚園

園児数三〇人、園舎は小学校、隔週日曜で計一〇回、五歳児とその保護者のための「幼児家庭教育学級」が予想以上の好評。第二期もスタートした。保育料

は無料。

(9・16朝日)

## 成功したごちゃまぜ保育

福岡県水巻町の町立第一保育園に四月から障害児五人が入所、健常児六五人と一緒に保育したが、身障児・心障児とも結果は上々。

(10・7朝日)

## 夜間保育―社会的に解決を

夜間保育を必要とする母親がふえているが、夜間の公立保育所はゼロ。社会問題として解決したい。(10・19信毎「女の机」)

## 赤ちゃん、保育所の死

東京、三鷹市の無認可保育所でさる一〇月、五か月半の女児が死亡。警察医は、「離乳食が気管につまり窒息死」と診断。保育所側は「病弱」と主張。

(12・13読売)

## 職場保育所、満五年

要望する声が強い。

(2・13毎日)

虎の門病院・虎の子保育園は産休明け、子供を預ける場所がないという一人の看護婦さんの切実な願いから出来た一つ。

都に初の保父さん三人誕生

今は屋上に一〇坪のスペースがあり三人の保母(一人はアルバイト)が各歳児六人を預っている。無認可の不安定さの中、保母確保や財政難との闘いは続いている。

五二年度の東京都保母試験に三五倍の難関を突破して、二二歳、二四歳、三八歳の三男性が合格。

第一回は七五人挑戦してゼロ、今回は八六人受験。全体の受験者は四一一〇人で合格は一二七人。

(12・22毎日)

(3・23毎日)

## 「保父さん」

保父さんの時代に?

保父さん奮闘中

大阪の羽曳野市の保育園で定員四人全員保父さんを採用。子供たちは「お兄ちゃんが来た」と大よろこび。

福岡県下六三〇〇人の保母さんにまじり三人の保父さんが誕生。使命感はおう盛だが、給与をはじめとして待遇はよくない。

(11・14西日本)

苦戦、保父さん一人生

保父が公認されて二年、都内に

の保育学院には六三人の保父が勉強中。うち一〇人が一期生として保育の現場に果立つが、就職内定はまだ一人。

(12・13読売)

## 「子育ていろいろ」

赤ちゃん体操に赤信号

新生児期はカエルのような脚が自然の形。無理に伸ばすと脱臼も。「赤ちゃん体操に気を付けて！」と整形外科医らが指摘。

(3・13朝日)

### 男の子育て

〈婦人民主クラブ〉の集会で保父のリーダーをつとめた江守純史さん(三〇)。最初から家事に積極的だったわけではないが妻の美穂さん(二九)に糾弾されて価値観を変えていった。子育てを男の手に取り戻すこと

が、モータリゼーション時代の労働状況をつきずし、人間らしさを回復する手がかりにならないかと、いま「男の子育てを考えるシンポジウム」を作っている。

(3・20毎日)

### 男が子育てを

「父親はもっと子育てに協力して！」育児に追われる母親の叫びが声高になっているが、「男は子育ての協力者であるだけでなく主体者となるべきだ」という主張もある。

ミニコミ「交流」の編集者、東京・中野区の増野潔さん(四二)は、今年五月発足した〈男の子育てを考える会〉の最年長メンバー。「交流」の連載企画「子育てを考えるシリーズ」をきっかけに知り合った若い父親や母親の語り合いの中から男の子育てを問い直すシンポジウムを開き、そこから会が生まれた。

「体制側にせよ反体制側にせよ、男はいつも女と子供を置き去りにしたまま競争社会を抜き手を切って渡り抜こうとする。それが男の本質のように言われるのがやりきれない。そんな生き方を根底から問い直して、男と女と子供が、みんな共に生きていきたい。」

(10・27毎日)

### 男の子育てを考える会

東京に〈男の子育てを考える会〉ができた。「男にも育児休暇を与えよ」と都庁に押しかけたり、手記を集めた本『現代子育て考』(現代書館刊)を出したり。

(12・12朝日)

### ああベビーホテル

料金は二時間まで二〇〇〇円、三〇分増すごとに六〇〇円。一泊させると一万二〇〇〇円。「でもお金を払えば万全解決、

気苦労がない」と、一五畳の保育室をもつ「メルヘン」は一日四一〇人の利用者で繁盛。

(3・27毎日)

### 母親が主体的に保育に参加

小金井市の私立回帰船保育所は保育を専門の保育者にまかせるのではなくすべての母親が参加することが原則。週一回保育し、よその子とのかかわりの中でわが子への偏見を除いている。「自立した子に育ててほしいと願う親自身が果たして生き生きと自立しているだろうか、子供に迫られた感じ」とある母は語る。

問題は保育に参加できないフルタイムの母とどう共同性を確立していくか、子を持ちながら働くことをどう保障しあっているかなど。専業主婦も含めて協力する契機を見つけたという。

(4・10毎日)

## 母と子のあいさつ運動

子供の非行防止のため、「母と子のあいさつ運動」を進めている愛知主婦同盟では、二八日昭和区役所ホールでこの運動の推進大会を開く。(7・28朝日)

## 夏休み学童保育所開設

徳島県鴨島町飯尾敷地区の働く婦人たちが自主運営の臨時学童保育所「学童保育ひまわりクラブ」を開設した。休み中の事故を心配して看護婦野口和美さん(三九)が、同地区内の働く婦人一八人に呼びかけたもの。現在園児一人、小一生九人。日曜以外八時三〇分―午後五時まで保育。希望があれば、学校開始後も続ける。(8・12徳島)

## 共同保育と勉強会

身寄りもなく、話し相手もい

ない核家族のお母さんたちが週に一回、子育ての不安を相談し合おうと名古屋市で共同保育を始めた。(9・9中日)

## 会員制で子守り

広島市郊外の祇園町では社会福祉協議会の下で幼児を持つ主婦が中心となり、互いに子供を預かりあう。料金は一時間一〇〇円。月に三回集団保育も。(10・10朝日)

## 中野区で「緊急保育ママ」制度

母親の病気・出産などで急に保育できなくなった家庭の子供を一時的に預かる制度を実施。(10・17読売)

## すくすく工場保育所

五二年一〇月倒産したベトリカメラ。労組は工場内に保育所

を作りカンパと奉仕で子供を育てている。(11・22毎日)

## 共同作業所自立へバザー

小牧市内の障害児を持つ母親たちが二三日、「すずかけ共同作業所」でバザー。(11・24朝日)

## 「家庭科」

生徒の声を聞く会

「家庭科の男女共修をすすめる会」が男女高校生五人のなまの声を聞く会を開いた。

「好きなのでやりたいが男子校でチャンスがない」

「二年から選択になり、家庭科をとる男子は五、六人になった。その姿を見て、女は家庭科、男子は体育に疑問を持った」

「共修で、女だけでは味わえない楽しさを感じた」

「教育制度そのものを変えな

ければ本当の共修はできないのでは」

等々、新鮮な意見が印象的。

(1・22朝日)

## 授業に活気、男女共修

大阪教育大助教授の新福さんと大学院生沢田さんの三年間の訪問調査によれば、大阪府の公立中学校八六校のうち六五校が何らかの形で技術科・家庭科を男女共修させている。女子が工具を使ったり、男子がミシンを扱う際のもたつきや遅れはあるものの、テスト正答率はほとんど差がない。教材つくりの難しさなどはあるが、当の中学生は共修を積極的に評価。(6・28朝日)

## “人間”が欠落した家庭科

新高等学校学習指導要領案は女子のみ必修は現行通りで、しかも

学習範囲は家庭生活に限定され、消費者教育など社会に向かって開かれていたはずの窓は、すっかり閉ざされてしまった。美しい言葉を前面に立てて、身をかわしてしまつた要領案作成者たちを卑怯だと思ふ。

(半田たつ子) (6・30読売)

実社会では男も台所へ

「高校では男子も家庭科を必修に」という共修派の主張に対し文部省の姿勢は進歩しないが、社会人を対象にした調査では中年以降の男性ほど「共修必要」の支持が高い。日常生活の場が必要に迫られるからだろう。單身赴任、離死別などで独身暮らしになったその時にあわてても遅い、というわけだ。

『家庭科教育』の半田たつ子編集主任は「家事処理の技術だけが家庭科ではありませんが、一人のとき健康を維持できる食

べ方ができるという程度のことには自立した人間として男性にも要求される。家庭科教育だけでなく、学校教育にきちんと位置づけないと」と言う。(7・27毎日)

男女相互乗り入れ授業

一〇月二六、七日、第一七回関東甲信越地区中学校技術・家庭科研究大会「生徒が自ら学ぶ技術・家庭科の学習」が長野市で。男女別々に学習していたものを、男子の分野から一単元を女子が、女子の分野から一単元を男子が、それぞれ履修、五六年から実施される。

(10・29信毎)

家庭科の男女共修を考える会

婦選会館で大学生男女六人の意見を発表。「よりよく生きるために家庭科は必要」(男)、「男女共修にして、女性問題に

触れてもらいたい」(女)と。反対はゼロ。(11・24毎日)

## 『女性教師』

外から不信、内に偏見、女の先生

教研集会の女子教育分科会で

の報告。女の先生を担任に希望する父母は小学校で一〇%、中学校ではわずかに四%。母親たちが担任の女性教師を降ろそうとする直接行動も報告された。職場内でも五〇歳で肩たたきされる例や、会議の席で発言を封じられた例も。(2・1朝日)

女教師なら「はずれ」か

母親はほとんど例外なくあたり・はずれを気にする。その底

には親の願望があり一概には無視できない。しかし女教師というだけで「はずれ」とするなら、その人の教育観には深刻なゆが

みがある。根強い女性蔑視の中で作られたに違いない。女教師批判は、父より母に強いが、改めて考えてほしい。

(藤田恭平記者) (3・31毎日)

女の先生は増える一方

徳島県下小中学校で依然として女子教員が増加。

五月一日現在の県下教員数調査では、小学校男一四三一人(四三%)、女一八八四人(五七%)、前年比男三人増、女四二人増。

中学校男二二八四人(六九%)、女五八三人(三一%)、前年比男七人減、女四人増。

一般教員比率、小学校男三二%、女六九%。中学校男六四%、女三六%。

今春新規採用者、小学校八三人中、女六四人(七七%)、中学校三九人中、女二四人(六二%)。

(6・3徳島)



増え続ける女の先生

愛知県統計課がまとめた五三年度の学校基本調査によると、幼稚園より保育園に行く幼児が増え、小・中学校の女教師は昨年よりさらに増加。(8・3朝日)

女教師はメダカ

「女教師は自主性がなく始末におえん。女であることに甘えず、形式的な授業をやめて子供たちがわかる授業をしてほしい。父兄はメダカのエサ代出すために税金払っているのと違います」

(新居信正・教諭・四五)  
(10・17読売)

「女教師メダカ論」に大反響

一〇月一七日付投稿をめぐって反論が殺到。

「教師論は、男とか女とかのワクを超えて、人間という土俵

で語ってほしい」

(中学校教師・後藤佑子・二四)  
「教育は一人ではできない。教師としての人間像を考えてみては」(小学校教師・石塚文子)

「男の先生にこそ、校長・教頭ら管理職を意識して、子供への思いは二の次にする人が多いのでは」(主婦・中山博子)  
「女教師に対するモノスゴイ信仰的偏見」(主婦・宮崎宏子)

「やめてもらいたい女教師が多い。おしゃれにばかり関心があって、教育の理想なんて、ひとかけらもない」

(高校教師・匿名希望)

「女教師は結婚すると家庭第一主義で仕事を男教師に押しつける。組合的平等主義に甘んじている」(荒井豊・三九)等々。  
(10・24読売)

男先生増えてます

小学校の新規採用者一万九〇

四八人のうち男子は三二%、六一〇三人で、年々一二%ずつ男子が増加。

中学校でも五一・四%(四九年度)から五六・〇%へ。

五三年度公立学校教員採用状況と五年間の傾向(文部省発表)。  
(11・27朝日)

女子教員退潮にブレイキ

大阪の教員採用試験合格者総数に占める女子の割合が五年ぶりにブレイキがかかり六六・四%、二五三八人に。なかでも短大からの小学校教員は一五・八%から一六・八%へアップ。  
(12・1朝日)

## 「学校現場」

意識先行中学生の「性」

〈東京都中学校性教育研究会〉が都内の中学生五〇〇〇人を対

象に調査。

一対一の交際については「よい」(男子平均五二%、女子四三%)。しかし一対一の交際をしたことがある生徒は男女ともに二、三年生で三人に一人だった。

中学生がキスすることについて「好きな人ならばよい」(男子四二%、女子三四%)。だが、キスの経験について「ある」と答えたのは男女とも全学年平均で七%。意識と行動にズレがあることを示している。

調査を担当した指導室長は「相手(異性)を尊重するふるまいとはどうあるべきかを教えることが大切」。(1・17毎日)

安心してPTA活動を

PTAが主催、共催する活動中のケガに治療費を支給する補償制度が注目され、昨年この制度を発足させた山形県や横浜市

に問い合わせが殺到。

(1・18毎日)

## “女子マネ”定着

高校野球界に女子部員が増加している。かつてのマスコットの存在から次第に脱皮、いまでは確実に部の一員として地歩を築きあげている女子マネージャー。

(1・18朝日)

## 叔父の戦死、教材に生かす

太平洋戦争末期に戦死した操縦士の叔父をテーマに、群馬県の中学教諭・木村ひろみさんが、平和のあり方を説いた英文の自主教材をつくり、沖縄の教研集会分科会で披露。(1・29朝日)

## 女の方が男につくすべき

男子は六一%、女子も四〇%がこの質問を肯定。

「オレたちの考え方って意外に保守的なんだな」というのが都立国立立高校三年四組の仲間の感想。昨秋文化祭で行なった「男と女」をテーマにしたアンケート集計後のつばやき。

(2・3朝日)

## 「しのぶちゃん」の絵日記」

神経質でいつもおどおど、ほとんど話せなかった県立ろう学校小学部の女児(九)が一年三学期につづった九冊の絵日記を通じて担任の教諭(四三)と心を通わせるうち、活発に話し、一般児童も顔負けするような文章表現ができるほどに成長した心の交流の記録が、出版された。ろう児が、どのようにして成長していったのか、その生き生きとした過程を知ることができる貴重な本だと、教育関係者の間で注目されている。(2・14徳島)

## しめつけ女子教育

女子高校の規則は厳しい。それも小さな小さなことまで。

現在全国女子校七〇一(私立七〇%)。その多くが厳格なしつけをモットーとしている。しかしその実態は、単なる規則づくめの、生徒の自主性を無視したしめつけ教育でしかない。

(2・17毎日)

## 「男と女」を自主学習

東京武蔵野市の吉祥女子高校では、高校三年の「倫理・社会」を一月かけて自主学習。テーマは「男と女」。男女交際・恋愛・結婚・同棲・妊娠についての親子の考え方の違い・夫婦ゲンカに見る男女の違い・女性の歴史・女性と仕事・就職における男女差別などをグループで討論。「ふだん聞けない個人の意見が互いに聞けた」「生徒と教

師が本音で向き合えた」と好評だった。(2・20読売)

## タップミノー研究に脚光

子供たちが自然に親しむ機会をと、タップミノーの飼育観察を続け、小学校の科学クラブなどの研究素材として普及させている鳴門市教育研究所の藤沢千代子指導主事(四八)のまとめた論文「カダヤシ(タップミノー)の研究」に、財団法人下中記念財団から科学研究助成金(二〇万円)が。(2・26徳島)

## 増える教育移住

学費も生活費も上がって、子供を都会の学校に出して仕送りすることは大変な負担になってきた。負担に耐えかねて、家をたたみ、子供について一家で移住してしまうケースが少なくない。大学生の四割が東京に集中

する「教育の都会偏在」は、多くの親たちに深刻な悩みをもたらしている。(3・15朝日)

### 全盲少女、公立高校に合格

仙台市の尾形真澄さんは生後間もなく失明したが、本人の努力と、教科書をすべて点訳した両親・教師、黒板の図表はすべて

ブレイズライター(盲人用作文機)に書きうつした友だちらの応援で小、中は普通学校で学び、この春もごと公立高校に合格。全国でも初めて。(3・18毎日)

### 商業高校は女の園

都立商業高校の男女比は一九九にまで広がり、女の園となった。その最大の「功」はある程度の学力水準が維持されていること。男女の学力差が開きすぎ、男女別カリキュラムが必要なほど。(3・23朝日)

### “手伝い”と“分担”の差

ヨーロッパの親は、子の保護者というより指導者。子供に家事の“手伝い”をさせるのではなく“分担”させる。スリッパ整理一つでも責任感とプライドを持って自分の役割をこなす幼児に感心。

(高橋敏・教育評論家)

(4・4読売)

### “大食い”もうこめん

経済性一本やりだった学校給食の象徴、先割れスプーン廃止へと新宿区の母親・栄養士・調理師などの〈学校給食を考える会〉と、民族学研究者・本田総一郎氏らの〈学校給食から先割れスプーンを開放する会〉が立ち上がった。(5・13朝日)

### 夏休みの補習授業廃止

徳島県中学校長会は夏休み中の補習授業は全廃と決定。戦後まもなくから続けられた受験生の夏休み補習はこれで姿を消す。

(5・30徳島)

### 女子大不可思議論

男女共学の学制改革から三〇年。男子大は存在しないのに女子大は四年制では二割、短大では六割を占めている。女子大は存在価値があるのか——連載の「女子大不可思議論」への反論は肯定、「否定」。昔ながらの良妻賢母教育、生ぬるい、束縛が多いという否定論に対し、

「一流大学の男と交際できる、二流の共学校よりずっとトク」

「女ばかりだから授業中にセックスの討論もできる、進んで他大学の聴講にもいく」など肯定論は多彩。「学べば学ぶほど女

子学生は自己矛盾に陥らざるを得ない状況にある。女性差別の延長線上に女子大のイメージを築く社会のあり方こそ問題、女子大不可思議論こそ不毛の論」という鋭い指摘も。

(6・13朝日)

### 少女サッカー活躍

第二回全日本少年サッカー大会に和歌山代表で小学五年生の西由起子ちゃんが出場する。「遊びじゃ面白くない。男の子に負けないワ」と五一年にサッカースポーツ少年団に入団。女子選手の出場は今回が初めてだが、場合によっては最初で最後になるかも知れない。

(7・8読売)

\*

巴御前といわれる西由起子さんが注目を浴びた。この大会の参加規定には男女の区別がない。将来ウーマンパワーが脅威にな

るかも。(8・2読売)

野球に燃える少女たち

名古屋市の古橋晴美さん(一六)が、男の子だけにやらせておくのはおもしろくないと中学・高校生で野球チームを結成。親には内証の人もいる中で自主訓練。(7・12中日)

早まる初潮年齢

戦前の平均は一四歳。以後毎一二日ずつ早まって七七年度は一二歳六か月。市部郡部の差はほとんどない。

男子の精通年齢も、今まで女子より二年遅いと言われていたが一年差。

大阪大学人間科学部沢田助教の「全国初潮調査」(二〇三〇校、一〇万五五〇〇人)で。

(7・18日経)

通知表で大もめ

長崎市の西町小では到達度評価が相對評価かで校長と一部父母の意見が対立、一七日夜、父母・教師など約一二〇人が学校に集まり大討論集会。父兄の到達度評価支持に対し、校長は相對評価を譲らず平行線。終業式では、半数に通知表なしの事態になった。(7・20西日本)

子供野球に女子選手初登場

第一九回子供野球の集い(京軟式野球連盟他主催・参加一四〇チーム)に徳島市勝占Bチームは女子選手三人を登録。

(7・25徳島)

父兄向けテレホンサービス

徳島商業高校は留守番電話利用の父兄向けテレホンサービスを七月中旬から開始。学校情報

を一通話分に集約、一日四〇回を上回る利用率。(8・2徳島)

「戦争体験」児童が聞き書き

大分県教組は児童生徒が父母・祖父母などの大人から聞き書きで集めた戦争の記録を「大分の平和教育・戦争体験記録」として一冊の本にまとめた。「戦争体験をこのまま風化させてはいけない」と二年がかりで完成させた体験集は六日、同県下小中学校の平和授業で副読本として使われる。(8・4西日本)

少年より強く―家出白書―

九月に保護した家出少年は九六八二人で前年比六%増。内わけは、小学生五三一人、中学生三〇四六人、高校生一八八四人、有職少年一五一一人、無職少年一三六一人で、未就学児も三人いた。

中学では男子、高校では女子が多く、五二%が女子。

動機のうち家族関係のトラブルや受験、学校きらい、異性関

を受け話し合うのが望ましい」との指摘も。(9・20朝日)

現代教員の意識構造

東邦大学田中義章講師の調査では小学校の男性教師の半数は女性教師の増加にマユをひそめ、女教師の三割が「自分の子供が女の子なら教師にしたい」と考えている。(9・30毎日)



# からだ・健康

## 〔出産〕

“出産白書”をまとめて集会

一七二五人中、異常分娩が二八五人、陣痛誘発剤を使った計画分娩が三割、その多くは病院側の「休日はずし」が原因。

出産総費用は公立では二〇万円までが九〇％、私立で一四一・二四万円が七二％だが分娩料は一・一三万円とバラバラ。

母性給付は健保では一律一〇万円、国民保険は四一六万円。生活が苦しい人のほうが給付が低い。——国際婦人年大阪連絡

会（四三団体）の“出産白書”中間報告シンポジウムで、出産が「女の共通の問題」として初めて考えられた。（3・19朝日）

誘発剤でまた四つ子

五つ子誕生で話題になった鹿児島市立病院で、三二歳の母が七か月の四つ子を早産。母体は健康だが四つ子は人工呼吸装置で呼吸中。（4・18朝日）

妊婦の喫煙は“胎児の敵”

毎日新聞社が二〇歳以上の男

女三千人に行なった「タバコ世

論調査」によると女性の一三％が喫煙、一日の喫煙量は一〇本未満が四二％、一―二〇が四〇％、三〇本以上のヘビースモ

カーは男一〇％に対し女は五％

国立がんセンター研究所の平山雄俊学部長は「妊娠四か月以降の喫煙で生まれてくる赤ちゃんの体重は平均より軽くなる例が多く、早産・死産の率も高い。乳児のポックリ病もタバコとの関係が疑われている」と。また胎児への影響を自覚しないで喫煙していることは「犯罪行為」だとも警告している。

医者の都合で人工陣痛出産

（5・29毎日）

産科医の「お産お断り」が大都市圏で広がっているが、医師や患者の都合に合わせて陣痛誘発剤で人工的に産む「計画分娩

も、もはや常識化している。人手不足や救急医療体制の不備が理由だが「医学的に必要でないことは医療ではない」と国立医療センターの我妻堯産婦人科部長は批判的。こうした中で〈準備出産協会〉のように出産の本来的姿をとりもどそうという自

宅分娩グループも芽生えているが、一般にはまだ、あなたまかせの出産が多い。

(6・12・16・16読売)

### 助産婦不足

一九七三年の我が国の妊産婦死亡率は出生十万対比でスウェーデンの二・七よりはるかに高く三八・三、医療後進国といわれるイタリア並み。助産婦の少ないことが悲劇を生んでいる。産科救急医療のスタッフ確保が急務、と救急シンポジウムで「日本看護協会」の山西みな子さんが提言。

(7・2読売)

### 「小6」が出産

福岡県八女郡で小学校六年生の女の子(一一)が四月下旬に男児を出産していたことがわかった。久留米市内でバー勤めをしている姉のもとに出入りしてい

るうちに姉の愛人の子を身ごもったもので、両親や教師も出産直前まで全く気付かなかった。

(7・6西日本)

### 里帰り分娩に批判

異常分娩は病院側の都合が原因という指摘がある一方、日本医師会誌と助産婦雑誌に異常分娩が増える傾向にある、と里帰り分娩に対する批判が掲載された。妊娠・分娩・産褥という一連の長い経過をたどるものは、同一施設で管理が理想。夫婦の子供である以上、二人で協力して産むよう努めるべき、と。

(9・22信毎)

### 胎児性アルコール症候群

アルコール中毒の母親は異常児を出産する。国内初の症例学会で日大小児科の高島敬忠氏は「妊娠中の飲酒は控えるべきだ」

と報告。

(10・7毎日)

### 他人の卵子を借り人工授精

シカゴで不妊症女性の夫の精子を別の女性に受精させ、五日後に受精卵を「卵子提供女性」の胎内から取り出し、不妊症の女性に着床させる方法を開発したと発表。

(10・14朝日)

### サリドマイド女性正常出産

英国の一八歳の母が一日健康な女児を出産。遺伝を心配する人々に大きな朗報。母エレインさんは両腕がないが正常児と同じ学校に通い自動車を運転、赤ちゃんの食事・おむつの世話もできる。

(10・14東京)

### 働く婦人の出産

妊婦受診の通院休暇のある企業は一八・六%、つわり休暇一

一%、時差通勤一五%、育児休業六・三%。流産は就労者一四・一、非就労二一・四と差が縮まったが中絶は多く、妊娠中毒症は自営業に目立つ。大規模な全国的調査が必要と、第一九回日本衛生学会でも指摘された。

(10・21読売)

### お産革命

大正期の産婦死亡は毎年六千人、昭和二四年でも四千人台だったが五二年には四〇四人に。しかし産婆という女に扱われていた出産は医師という男の手に移り、最近では切るのが常識に。これを産む側に取り戻そうと夫婦協力の無痛出産などが誕生。

(10・24・11・26朝日)

### 都立産院の分娩料値上げ

今春、一万四千円から二万五千円に上がったばかりだが、さ

(12・12毎日)

らに二倍の五万円に。「国立病院は六万円、生活保護世帯への扶助も六万円。バランスをとった」と都側は説明。看護専門学院授業料も七千円から倍の一万四千元になった。(11・17読売)

## 「試験管ベビー」

試験管ベビー近く誕生

英国で世界で初めての試験管ベビーが誕生する予定。  
(7・11読売)

世界初の試験管ベビー誕生

出産を控えた婦人の不安や運動不足を解消し、丈夫な赤ちゃんを産んでもらうため、瀬戸市は今年五月から母子健康相談所で「安産教室」を開いている。特に初産の人に効果が表れ、お礼の手紙や電話が多い。  
(11・23朝日)

男と女の比率

男女性別は受精の瞬間に男女ほぼ同率になるように決まる。理屈上は男女の産み分けができるが、男女の比率はどうなるか。  
(石塚直隆・名古屋大学長)

この「体外受精第一号」の報道独占権はデイリーメール紙

などを持つグループが三〇万ポンド(約一億二千万円)で取得

しており、詳細はまだ明らかでない。  
(7・26各紙)

試験管ベビーに思う

試験管ベビーの問題点として医学・倫理・未来の三つの側面が考えられる。

奇形児が生まれる可能性は当然ある。技術の適用基準が今後検討されなければならない。

夫婦間以外で使われたら、親子の法律問題に新しい課題が生まれた。社会的な対応を誤らないことが望まれる。

各界の反応は！

\*

受精の操作を外でやり本当のお母さんのハラに戻して育てるから変な現象は起こるはずがない。日本でも試みられるだろう。

(飯塚理八・慶大医学部教授)

技術が完全に開発されれば自然性交で生まれようと、試験管で生まれようとかまわない。

(渡辺格・慶大医学部教授)

他人に頼まれ「子産み屋」をつくる可能性も。化け物人間がたくさんできてしまう。

(菊田昇・医師)

神の領域に人間が入り込むことに強い疑問を感じる。女性解放につながると思わない。

(青木やよひ・評論家)

人体実験とか、本来の人間関係を逸脱するものとか、不安がないわけではないが、そのへんは人間の本能が許さないのでは。そこまで母性失格はしないんじゃないか。

(遠藤周作・作家)

(7・26毎日)

\*



そうまでして「わが子」を産まなければならぬものか。卵管閉そくは不妊の一割たらず、大部分の不妊は原因不明。養子制度など、社会的な解決策を考えるべき。

(愛育病院長・松山栄吉)

福音とはかりはいえない。医学がやらねばならぬことはほかにもたくさんある。

(医事評論家・水野肇)

自分の子の血に固執しても仕方がない。子供を育てることで初めて親になるのでは。

(評論家・桐島洋子)

希望が出てきました。人工授精児に比べれば、ずっと合理的です。(不妊治療中の女性・三五)

(7・26朝日)

新しい生命に祝福を送る反面、医学はここまで来たかという驚

きと未来への不安を感じる。人類はいま避妊・中絶を当然のこととして怪しまない。そういう世相の中に出現した技術が社会をさらにかく乱する恐れがないとは誰も思えない。陪審員制度のような歯止め役が科学の進歩にも開かれてよい。

(7・27朝日「社説」)

\* 成功のかけに、人類の未来を脅かす落とし穴があるように思えてならない。人間にとって、生命の本質とは、科学的に分解され、説明される現象ではなく、科学的な手法での追求を許さない動かしがたい存在内容を持つものではないかと思う。

(7・27読売「社説」)

てんやわんやの英国

オールダムは、試験管ベビーを取材しようとする報道陣でこた返し。ブラウン一家は記事・

写真独占掲載をロンドンの大衆紙「デイリー・メール」に一億円で売った。

ローマ・カトリック教会は子宝は神からの授け物「人倫にもとる」と厳しく実験を非難。

(7・27読売)

\* BBCのインタビュアーで両医師は「胎児を育てるには母胎にまさるものはない。ベビー・ファクトリーなどという考えは、SFしかない」「ブラウン夫人が選ばれたのは実験に最も適当な年齢にあったし、受精卵を体内に移入しても妊娠に耐えられる体と判断したからだ」と回答。

「今度の一連の手術で得られたノウハウを広く世界に伝えるつもりだ。今回の成功は他の原因で不妊症に悩む女性にとって役立つものと思う」と主張している。

(7・27読売)

## 人工授精の現実

慶應大学病院では昨年一年間に約六五〇人が非配偶者間の人工授精(AID)を受け、このうち四〇―四五%が妊娠している。

AIDは夫が無精子症の場合に限られており、父親の実子ではない、という問題がある。精子は医学部の学生から有償で提供を受けており、常時二〇〇人分のストックが冷凍保存されている。AIDを実施しているのは同病院と岩手医大など極めて少ない。

同病院の飯塚理八教授は「今回の体外受精は夫婦間の実子なのだからはるかに問題が少ない。AIDですら日本でもほぼ認知されている現実がある」と。同病院で昭和二十四年八月に第一号が誕生して以来三〇年で五千人の人工授精児が生まれている。

(7・30朝日)

## 試験管ベビー第二号誕生

インドで世界で二番目の試験管ベビー誕生。卵子を排卵前に開腹手術によらず採取、受精卵を一定期間冷凍保存するという新技術。将来は「受精銀行」も可能。死後に子が生まれる可能性も。(10・6・7各紙)

## 試験管ベビー量産へ

世界初の試験管ベビー誕生に成功した英国の両博士は、専門の診療所を作り量産体制に入ると発表。(11・9読売)

## 〔その他〕

### 二〇歳男女を健康診断

福島県安達町では中学生対象の「女子健康手帳」を三年前から配布してきたが、中学生では早すぎると、二〇歳から男女共

に「成人健康手帳」を渡し、健康診断を始めた。受診者中「注意事項なし」は男四五人中二五人、女五九人中四人だけ。「異常出産もこれで予防できる。早く国の行政にも取り上げてほしい」と熱心。(1・13読売)

### 四重「く」を愛えよう

「日本人ほど歩き方の下手な人種は珍しい。おなか、脚のつけ根、ひざ、足首がく」の字リズムなし・威厳なし・不健康」と、四六年以来「歩き方教室」を開いている石井カンナさん(五三)。創作舞踊で文部大臣賞も得たバレリーナ。足首の神経を事故で切断してから歩き方の指導を。(1・13読売)

### 中年期うつ病

主婦の中年期うつ病が増加、母子心中・子殺し・アル中など、

戦前には考えられなかった現象が目立つ。

「女たちをとりまく価値体系は二律背反的。たとえば集団保育の理想に対して母親こそ最良の保育者という。女の自立は経済的自立なのに家庭は主婦のとりで。精神的にあやふやな状態に置かれていて、それが病気に結びつく」と医師。

「この男性支配社会では女はいまだに商品。価値は性的魅力で決まる。中年期はその落下の時代」と大学教授。(1・16毎日)

### 男性用経口避妊薬

英国で、世界初めての男性用経口避妊薬が本格的実験にはいった。これが成功すれば、世界の人口増加抑制に大きな朗報になる。(3・8読売)

## 卵巣腫瘍新手術法

針と真空吸引装置を組み合わせ、腫瘍内容物を吸い出して切り取る新手法が聖路加国際病院産婦人科秋山敬医師によって開発された。(3・13朝日)

### 「指導用カード」も出て

全国の産婦人科開業医の集まり「日本母性保護医協会」が一月から始めた婦人病や妊娠についての「患者指導用カード」は二か月で二五〇万枚の売れ行き。やさしい用語で解説してあるので、医師と患者の思いちがいがなくなり患者が逃げないと医師の間で好評。(3・18読売)

### リユーマチ患者の性生活

我が国のリユーマチ患者の八割は女性。二〇代から三〇代に発病のピークがあり主婦の病氣

とも言われる。都立墨東病院・

主婦の健康調査

人。

(6・13読売)

厚生省の調査でも一八—五九

リユーマチ科吉野医長の調査によれば、膝や股関節障害のために夫婦生活が一年以上もない患者が一分を超す。人工関節の手術は五〇歳以上とされて来たが、

主婦は夫よりも健康診断を受けていないし、ほとんど運動もしていない。

女性の二割は貧血

歳の女性の二—二九%は貧血だ。生理・出産などの影響を受ける女性は鉄分をとるだけでなく鉄分の吸収をよくするたん白質やビタミンCを十分とることが必要。

「花」のうちに性の障害を解消することも適応の一つと考えた

結果がまとまった。過去一年に一週間以上寝込んだ人は一六%以上もあり、その結果人手に困った人が四人に

献血の採血基準合格率は男九五・三%女七五・四%で女の不合格が多く、特に血液比重不足は一七・四%(男〇・七%)に

さえ及ぶ。(7・17読売)

と吉野医長。(6・11読売)

結果がまとまった。

合格が多く、特に血液比重不足は一七・四%(男〇・七%)に

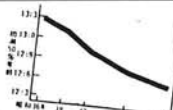
が必要。

## 早まる初潮年齢

「全国調査から」

平均は12歳6カ月

適切な性教育が必要



## 自然分娩に意外な制約

妊婦に安易さも

病院長の都合優先

母子とも順調

2600

家庭

初産の体

英の病院

帝王切開で女子

2600

母子とも順調

2600

母子とも順調

# 活動

## 〔平和〕

世界のママと「ノーモア広島」

軍縮と平和を目指す国際婦人対話集会がニューヨークの公園で開かれ四〇〇人が参加、日本からも〈地婦連〉大友会長ら約一〇〇人が参加。二〇〇〇万人の署名を持参してアピール。

(5・29読売)

軍縮を女性の手で

国連軍縮総会で活躍する緒方貞子さん(国連代表部特命全権

公使)と田中里子さん(全地婦

連事務局長)。一五年間におよ

ぶ原水爆禁止運動の立場から

「核」禁止と軍縮は女性の連帯

でと、女たちの祈りを世界へ訴

える。

(5・30読売)

カナダでも原爆展

国連本部で開催中の広島・長

崎の原爆写真展がニューヨーク

での日程終了後、バンクーバー

での開催が内定。バンクーバー

在住・長崎県出身の女性の尽力

で実現したもの。早ければ八月

中に。

(6・3朝日)

原水禁運動一本化を

原水協・原水禁に分裂した原

水爆反対運動を一本化し、国民

的広がりを持った世界大会を、

と地婦連・生協連など五団体が

アピール。

(7・6読売)

女の意地で「統一原水禁」

周囲から見れば指先ほどの違

いに目クジラ立てて分裂してき

た原水爆禁止運動に女フィクサー

が登場。危ぶまれていた統一原

水禁世界大会が、〈全国地域婦

人団体連絡協議会〉事務局長田

中里子さんの奔走でやっと開催

にこぎつける。全国の婦人会六

五〇万人を持つ〈地婦連〉の強

さ。

(8・1毎日)

核反対で米の法廷に立つ

三輪妙子さんは二七歳。今月

大阪で開かれる原水禁(社会党

総評系)の「生存のための国際

連帯会議」で核の廃絶を訴える。

アメリカのトラIDENT計画

に反対する活動で昨夏起訴され、

被告、現在も審理中。カナダの

バンクーバー在住、一女のママ。

(8・2朝日)

## 「抗議・要求」

悲惨な韓国女子従業員

「第三回韓国キリスト者との連帯を考え、祈る会」を開いたプロテスタント、カトリック両方のキリスト教団体は、この集会で、〈韓国教会女性連合会〉から日本女性への特別アピールを発表。日系企業である邦林紡績の女子労働者たちの悲惨な状況を伝え「日本の女性たちよ、隣国の女性たちの苦しみをなくすために立ち上がって」と訴えた。(3・2朝日)

病院の謝礼廃止運動

久留米大学病院の看護婦、清水久美子さん(二五)は、患者からの「つけ届け」全廃運動を始めた。「患者さんは、医療費だけでなく、差額ベッド料や付添料、身の回りの品物など多く

の負担がかかります。そのうえ謝礼なんて」(1・8朝日)

\*

清水さんの運動に「勇気ある行動」と、共鳴・激励の便りが続々。さわやかな闘いが広がっている。(3・9朝日)

「主婦の失業者宣言」

〈行動を起こす女たちの会〉例会で採択。無職の女性のうち三五〇万人が就業希望。保育所の不備・病人老人の介護などでやむを得ず離職のケースも。就業していても解雇対象とされ、さまざまな形で働く権利を奪われていると、四つの行動目標も添えて。(4・6信毎)

名大ミスコンテスト延期に

大学祭に新風をと会計学ゼミの有志により企画されたが、同学女性問題研究会のメンバーが

抗議。「女は見せ物ではない」「差別などと難しく考えるな」と話は平行線だが結局、開催は無期延期に。(6・7朝日)

戦争独身五〇万女性の碑

反戦のあかしとして、結婚だけがすべてではない女の生き方の証明として、戦中戦後を一人生きぬいた女たちの共同のお墓をと呼びかけるのは〈独婦連〉。大阪支部長の谷嘉代子さん。家族主義の根強い日本で戦争独身五〇万人は定年を迎えはじめている。施設収容主義から、コミュニティケア(地域介護)へと、有料ホームヘルパーの検討も。(6・24読売)

「女人禁制けしからん」

西日本一の霊山・石鎚山の「山開き大会」の開会一、二日が女人禁制とは時代錯誤もはな

はだし、と女性自然保護グループ・石鎚女子森林警備隊が抗議「石鎚山は国定公園内にあり、広く国民に開放されているはず。人間の生命を産みはぐくむ婦人の尊厳を重める男尊女卑思想で許せぬ」と意見書を送った。石鎚神社側は「荒っぽい危険な二日間、女性を守る意味もある」と強調。(7・1徳島)

〈独婦連〉が老後行政改善要求

戦争のために独身生活をよきなくさせられた女たちも向老期に。冷たい国に団結して立ち向かおうと〈独婦連〉が税制・住宅対策などの改善要求。「主婦とも無縁ではない。未亡人の老後不安は目にみえている」と大久保さわ子会長。(7・3毎日)

沖縄女性への偏見に抗議

沖縄の交通方法変更事業で応

援のため全国から沖繩入りする

警察官向けの資料に「南国女性  
はほれっぽい。不用意に誘いに  
乗るな」などの項があることが  
わかり、県内の婦人団体などか  
ら強い抗議が県警に。沖繩入り  
した山本警察庁長官は平謝り。  
廃棄を約束。 (7・7朝日)

### 西鉄値上げに反対する会

「バスや北九州市電運賃の値  
上げは家計に痛手。バス部門は  
黒字というのに」と一九日、福  
岡市で、反対する婦人の会が結  
成された。六五団体の関係者で  
構成、街頭署名や運輸当局に対  
する陳情など運動の輪を広げて  
いく。 (8・20西日本)

### ボルノ自販機を撤去す

名古屋市瑞穂区中根小学校P  
TAでは自販機の場所提供者と  
話し合い、説得。「熱心なお母

さんたちの働きには頭が下がり  
ます」と警察。 (9・23中日)

### 早く市民病院をと要望書

知多市婦人団体連絡協は四日  
間で一九〇〇人の署名を集め要  
望。一年半以上たっても具体化  
しない審議に業を煮やして。

(9・29朝日)

### 女性べっ視像にハンスト

兵庫県と宝塚市が「歌劇と湯  
のまち」の新名物にと宝塚大橋  
に設置を計画した「裸婦像モニ  
メント」は、主婦たちのグルー  
プが据え付け中止を訴え、二九  
日朝から一〇人が市役所前に座  
り込み、うち三人がハンストを  
始めた。

像は「愛の手」と名付けられ、  
大きな男性の手の上に裸婦を配  
した女性差別の姿。

(9・29朝日)

\*

五日間のハンストは中止した  
が「手のひらの中の限られた自  
由は性差別や差別構造をそのま  
ま反映している。何年かかろう  
と像が取り除かれるまで運動の  
輪を広げる」とハンストの主婦  
広田陽子さん(四一)。市長は  
「まさかと思った。残念」。

(10・4朝日)

### 公共施設の託児室充実を

名古屋市婦人会館の「婦人学  
習懇談会」で、子連れの主婦が  
「ほかの方の迷惑になる」と退  
出をうながされた。〈あごら東  
海〉など女性グループは「子連  
れの参加に温かい配慮を」と要  
望書を提出。 (11・2中日)

### 男性よ、もっと自立を

〈日本有職婦人大阪クラブ〉  
が「男女の自立を促進するため

に」というパンフレットを複製。  
職場での仕事はできても身の回  
りのことは母や妻まかせの男性  
に、もっと自立をと。

(12・2朝日)

### 〔製作・出版〕

母子一〇人で料理絵本

小さい子供のためのいい料理  
の本がないと、母子一〇人で協  
力して、実質的、危険性のない  
料理絵本を完成した。日曜の朝  
ごはん、お母さんのいない夜、  
お客さんをよぶ時などにわか  
れている。包丁、ガス、マッチの  
使い方などはくり返しくり返し  
書かれていて、絵本の中の主人  
公は全部動物。 (1・10読売)

### ママが映画作るよ

再生不良性貧血症と闘いなが  
ら死んだ坊やの短い生涯を映画

にと、母であり、〈再生不良性貧血の患者を守る会〉会長でもある野島美弥子さん(二三五)が、仲間五〇〇人と資金集め中。「二年でも三年でもかけて全国行脚するつもりです。一滴でも多くの血を患者にと」。

(2・16読売)

## 難病の実態を映画に

〈再生不良性貧血の患者を守る会〉会長の野島美弥子さん(二三五)はこの難病で五年の短い生涯を閉じた長男を「君はいま光のなかに」で映画化。「訴えることの強さと大きさを知った。映画はやはり抜群に説得力があります」。

(10・3読売)

## ふるさとスライド完成へ

徳島県由岐町婦人会ふるさと探究グループが、江戸時代末期から昭和初期にかけて、海産物

を頭にのせ全国を行商して歩いた「いただきます」と、「海女」のスライドを含む町内史実・伝説のスライド作りを近く完成、三月半ばに発表する。

(2・25徳島)

## 婦人会史づくり進む

徳島県市場町婦人会・公民館・教育委員会は、昨年末、婦人会史編集協議会を発足、会員の宿願だった婦人会史づくりに取り組んでいる。

同町は三〇年の町村合併により婦人会が三つある。その歴史は明治から昭和初期にかけ婦人会として結成。後、愛国婦人会、国防婦人会などと目まぐるしく改称、戦後五年頃までに組織的に現在の前身である三婦人会に再編成。数年前から会史編集の声が高まり、現在編集方法の検討と資料集めに全力を挙げている。

(2・27徳島)

## 男女共学を考える本を作製

「男女平等の教育を考えるシリーズⅠ 男女共学をすすめるために」が〈行動を起こす女たちの会〉教育分科会の手で。共学に関する一問一答式解説、公立高校男女別学状況基礎調査や共学の歴史、その根拠となる関連法を収録。

(4・6朝日)

## 五年がかりで風土記を翻刻

『幻の風土記』として埋もれていた筑前国統風土記の付録編が、福岡県文化会館図書部司書・北村慶子さんから〈福岡古文書を読む会〉の一四人の女性司書の手でみごと活字に翻刻され、上・中・下三巻の絵図入りの本として出版された。(5・17西日本)

## 主婦が自費で石碑を建立

荒廃著しい国の指定史跡、三

河国分寺(愛知県豊川市八幡町)の塔跡の保護を訴え一二年。ついに自費で「建立・豊川市」と刻んだ石碑を注文した杉並区の主婦、岩永連代さん(五五)。一人で全国の国分寺・国分尼寺遺跡の保護活動を続けた。速達返信料付きで五回、口頭で七回の訴えに一度も応答しなかった市が最初によこした手紙が石碑除幕式への招待状とは。

(6・4朝日)

## 新日本婦人の会が映画支援

ガンと闘う少女の記録「翼は心につけて」の映画化に新日本婦人の会が全面支援、普及活動開始。

(8・1読売)

## 母子寮の親子が作文集

「小さな貝の家(ある母子寮の記録)」が大田区の民間の母子寮の手で出版された。地元

町工場の経営者で童話作家島田

ばくさん(五五)の手ほどきを受けた作文、詩が三一編。夫の蒸発、暴力から逃れてきた母子も少なくない。逆境の中にあっても、どの作品にも明日への希望がこめられている。

(9・19朝日)

### 主婦の童話同人誌創刊

自作の童話で子供たちが健やかに育ってくれたらと、愛知県扶桑町の五人の主婦グループが「くわいしこ」を創刊。

(9・21朝日)

### 主婦たちの労作「女性史」

松本市中央公民館の婦人学級セミナーは昨年九月開講以来、身近な女性の体験記録づくりを始め、一年間の活動の成果を約二〇〇ページのガリ版刷り「婦人学級セミナーの記録」にまと

めた。

(10・18信毎)

手づくり絵本で「母乳の味」

渋谷区のへてづくり絵本の会では近く一〇冊以上の「私の絵本」を出す。練馬や世田谷でも次々に製作中。

(10・18毎日)

テレビの見せ方の本を製作

三鷹市の明星幼稚園の母たちの「星の子」グループではテレビの見せ方を研究、三六ページの冊子に。八〇〇部を売りつくし増刷したが、テレビ局との交渉は苦戦中。

(11・2朝日)

女子大生三人で季刊雑誌創刊

駒沢大学文学部三年生の仲間「学生のうちには何かやりたい」と思っていたのが本づくり。

創刊号の目次をのぞくと「あ

なたがいつか息子をもったときのために」「男と女の法律学」など。五万円ずつ出資し、あとは借金で二千部刷った。十数軒の本屋が置いてくれた。来春の二号に向けて企画を練っている。

(11・8朝日)

離婚はこわくない

「行動を起こす女たちの会」離婚分科会が手軽なハンドブックを近く出版する。

(11・12信毎)

女子教職員の歩み出版

長野県教組婦人部が八〇篇の手記・聞き書きを集め「夜明けに向かって」を刊行、差別に耐えた歴史を明らかに。

(11・28信毎)

主婦バレー連盟機関誌を創刊

昨年四月に結成された「愛知

県家庭婦人バレーボール連盟」が機関誌「たいむ」の創刊号を出した。

(12・4朝日)

## 「グループ」

おばさん一座は島から島へ

座員一六人、三〇代後半から八四歳まで、中心は五、六〇代の主婦。瀬戸内、直島の「おんな文楽」は郷土芸能を守って島めぐりを続ける。昭和二十四年以来中断していた島の文楽を復興したおかあちゃんたち。

「おなごばかりのつらさでな、きょうはお客がある、やれ何とかなど、なかなかそろわんのですな」——だから「未亡人がよろし」ということになる。

(1・4読売)

あごら京都

「あごら」の母体は東京の会員



組織の能力預託制度（BOC）。会員相互の情報交換を密にするために機関誌「あこら」を発行。単なる情報の交換だけではなく、女自身のかかえる問題に取り組む。

その活動拠点の一つ、〈あこら京都〉は生まれたてのホヤホヤ。全国で五番目の拠点。「イデオロギーに走ったり何でも反対でなく、調査や記録などの資料をもとにしてポツポツやろうという姿勢が気に入った。当面は読書会形式で参加者の問題意識を深めてゆきたい」と責任者の塚崎美和子さん。

（1・7京都）

### 婦人の地位向上へ連絡会

長野県下の婦人団体二六で、県婦人問題推進連絡協議会を発足。教育労働・健康福祉・家庭社会参加の三つの部会を設置、県と共催で二月一二日松本で県

婦人問題推進総集会を開く。婦人の地位向上に向けて県段階での組織作りが一步前進。

（1・11信毎）

### 母親グループ市政に奔走

新設される東京・稲城市の文化センターに住民の希望を反映させようと、〈平尾文化センターを考える会〉（佐藤松子会長）を四〇人ほどの主婦で結成した。類似施設の長所短所を調べたり、住民にアンケート調査。住民の応接室としてのロビーや、主婦の調査実験室等を設計に盛り込んだ。新しい市民運動のあり方として注目されている。

（3・6朝日）

### 自立をめざす母と子の広場

徳島市内佐古七番町の〈ひまわりぶんこ〉は五年前に計画、今年一月に本格的に発足。「子

育てを夫や他人に押しつけず、生き方の選択ができる女性になるにはどうすればよいか」の話し合いの結果の共同保育。現在二二・六二歳の女性に参加、子供は〇―五歳まで。保育時間は土曜日午後一―五時が共同保育で、約一時間を女性のかかえる問題についての話し合いに。平日は子連れで行きにくい用事のある人のために、午前一〇時―午後四時まで母親二人が待機し子供を預かる。読書室の利用、本の貸出しも可。会員制で会費月額二〇〇〇円。三月からは会報も出す。

（3・8徳島）

### 長野婦人問題研究会

婦人の地位向上を図ることを目的に〈長野婦人問題研究会〉の発起人会が三月一八日、長野市の県勤労者福祉センターで開かれた。趣旨や規約を検討、正式発足へ一歩踏み出した。

（3・20信毎）

### 大学に次々と婦人問題研究会

女性問題を目指して新しく生まれた早大の両性問題研究会、社研から分派した筑波大、東外大では性社会学研究会。他には津田塾にも。活動は、「女のからだ」のスライド作製（東外大）や、貸金差別問題、女性解放と性の解放などの勉強会（早大）の開催など。共通の悩みは新入生との接点。

（5・2朝日）

### 「母子家庭のつどい」

別れて泣いた女、喜んだ女。三くだり半をつきつけた女。まだ一緒にいる女。要は本音か否か。問題から逃げるのか否か。結婚でも離婚でもない、無理があつてはならないと団地の一室で明け方まで本音を出し合うつどい。

（6・8朝日）

リブ二世号日本一周に挑戦

五〇年に単独太平洋横断した小林則子さんがヨット仲間の女性二人と三年がかりで日本一周に挑戦する。「女性クルーによる模範航海を実行し、海から歴史を学びたい」と。

(6・27朝日)

「リブ二世号」無事横浜へ

一四日に北海道・函館を出港約八〇〇キロの荒波を乗り切った女性四人のヨット「リブ二世号」。リーダーの小林則子さんは「昔来えた港に入った日本中を調べたい」と意気さかん。

(7・21毎日)

「主婦の場」を持とう

主婦の平日の在宅時間は一三時間余(除睡眠時間)だが、手を休めたときの場はどこか。

「自分の部屋が持たないと切実に思う」という声を反映、徳島友の会会員は主婦コーナーに取り組み中。

「落着いた勉強には絶対必要。場があったから通信教育で諸資格が取れた」との声も。

(7・3徳島)

お母さん人形劇大人気

愛知県半田市の「岩滑座」は、同市岩滑保育園のお母さんたちの人形劇団。脚本・舞台装置・大道具・小道具・人形すべてお母さんたちの手づくり。

(7・11朝日)

主婦グループ老人施設作り

主婦中心のグループ〈杉並老後を良くする会〉(東京)は、女を老人問題の犠牲にしないですむように、自分たちの手で地域老人のための小規模多目的施設

製作りをと会員中の専門家中心にプロジェクトチームを作り病院や託老所つきの模型を完成。学習塾やそうざい販売で資金作りを始めた。

(7・24毎日)

全日本フェミニストの会

九月一日結成、会長は青山学院大学助教授の渥美育子さん。「もはやフェミニズムが、女権

拡張論」のみを意味する時代は終わった。知的パワーとして女性の価値大系を確立させた文化を創造しようという新しい段階にある。「女性による人間解放主義」とマスコミも用語を統一してほしい」と会の意図を語った。

当面の運動として創刊一年になる女性誌「フェミニスト」の編集に力を入れ、ベティ・フリーダンさんを招いて講演会を開く予定。

(9・8朝日)

自立始めた趣味のサークル

〈コミュニティクラブたまがわ〉は企画から運営まで受講者参加でのサークル作りをしている。

入会金・会費は一切不要。講師への謝礼や材料費など必要経費は参加者のワリカン。スタートから半年で、育ったサークルは〈手作り絵本の会〉〈源氏を読む会〉〈映画鑑賞会〉。

(10・11日経)

女たちの映画祭

世界の女性監督が女をテーマに撮った映画を上映する「78東京女たちの映画祭」が10月11—12日東京で開かれる。

二〇数人の素人の女性からなる実行委員会は、東京以外にも各地の女性グループと協力して全国で開催する計画。「女の生き方に女が励まされるような映画を集めた」と。(11・3朝日)

\*

上映されるのはデンマークの

「女ならやってみな」、フランスの「ほほえむブデー夫人―主婦の動く日―何かが起こる」、アメリカの「アントニア」、田中絹代監督の「お吟さま」など。

パンフ、ポスター、翻訳は全部手づくり。字幕は写植で打ったものをフィルムにして、ネガをプロジェクトで画面に写す仕組み。

(10・31毎日)

「女ならやってみな」

大反響

「女たちの映画祭」で上映されたデンマーク映画の男女役割交代劇に、「よくぞ作ってくれた」、「女の現状がよくわかった」とアンケートが続々。

(11・15読売)

子供預け合い人生見直す

子供を預け合いながら、女の生き方や育児について話し合うグループ「あんなふあんな」は一九七五年発足、預け合いグループは全国に五〇、メンバーは七〇〇人。相互ヘルパー・読書会・保育問題研究会などの活動を続けているが「預け合う」ということが単なるベビーシッター代わりになっている」問題も。

(12・7朝日)

## 「世界へ」

女ばかりの外国ドライブ

主婦二人、独身二人の女四人が、国産車で東ヨーロッパと地中海沿岸諸国へテレビの取材を兼ねたドライブ旅行に出かける。これまで諸大陸を自動車やオートバイでかきめぐった友だち同士。その名も「女子地球走破隊」。

「女ならではの目で世界を見てきたい」と張り切るテレビ局員の森宏子さんら。(1・10朝日)

世界の「村山源氏」へ

「源氏の語り部」を自認する村山リウさんが、広瀬キサ子さんと共に源氏物語訳をテープに収めた。七年半の歳月をかけ、一巻二時間のテープが一二三〇巻という「声の図書館」を。テープのコピーは国内だけでなくコロンビア大、パリのユネスコ本部などへも寄贈された。

(3・17朝日)

飛行機レディ五か国で親善

東洋女性航空連盟発足二周年を記念、日本婦人航空協会の女性パイロット一〇人(二四―六一歳)はインドまで親善飛行二万二千キロ、各国で成果をあげた。(11・25―12・15各紙)

与謝野晶子の歌碑パリに

生誕百年を記念、京都に住む会社社長、富村俊造さん(七二)が自費で。除幕式は来春五月。

(11・29朝日)

## 「作品展」

主婦のアイデア作品展

婦人発明家協会主催の「なるほど展」の審査会が新宿・安田生命第二ビルで開かれるが、ブーツの型くずれを防ぐ「ブーツハングー」、窓の洗たく物干しに便利な「雨よけシート取り付け装置」など、ほほえましい作品がいっぱい。出品者は一九七五歳、職業は主婦が圧倒的。

(2・10読売)

才女五人初の伝統工芸展

染・織・漆・陶の女性五人展

が名鉄百貨店で開かれた。共に東京芸大出身、伝統をふまえた使いやすい品をと。

(6・25中日)

### アイデア母さん作品展

八日、名古屋市のデパートで

〈名古屋地婦協〉と〈婦団連〉

会員が生活の知恵から生まれた「ママの作品展」を開く。

新聞紙でつくる即席便器など主婦ならではのアイデアがいっぱい。

(9・9中日)

### 「赤とんがらしパーティ」

名古屋の若い女性六人がデザイン展を。

男中心のデザイン界にピリリと味をきかそうと。(9・13中日)

### 「節約運動」の成果披露

資源の節約と再利用をみんな

で考える半田市の「リサイクルフェア'78」が、一四日、半田勤労福祉会館で。

主婦らの勉強の成果や「親子リウォームショー」などの作品に人気が集まった。(10・15朝日)

### 身障者チャリティー絵画展

一流画家と身障者らの作品が同時に三越本店で展示される。

ポランティアグループ(東京コミュニティカレッジ)主催。純益金で身障者の作品を常設する「コミュニティ美術館」を建設。

(10・18読売)

### 女性だけの写真展

「都電とその周辺」をテーマに女性のカメラアイでとらえた六〇点を展示。東京駅八重洲北口駅三階、日光ギャラリーにて。

(11・26朝日)

## 〔仕事〕

### 印刷業に挑み二年半

女性四人の印刷会社「あいだ工房」は業界紙、社内報、商店の大量出しの広告などが主な仕事。

「納める日時を守り、きれいで、値段が高くなければ、男女は関係ない。私たちがきつかけで各分野に挑戦する人が出れば」と。(1・29朝日)

### 中年五人で喫茶店

鎌倉に「狐庵(こあ)」という店を出した主婦たち。

営業一か月、収支はトントン。「やってみてよかった」。

(3・4毎日)

### 婦人が育てたホームスパン

全株主が女性、手づくりの毛

織物と取り組んできた盛岡市の〈みちのくあかね会〉が満二〇歳に。年商五千万円、多い人は月収六、七万円。県下の婦人の心の支えだ。(12・3日経)

### 身体不自由婦人に明るい光

社会復帰を目指して今年九月福知山市内に開設された共同作業所「竹毛希望の家」で作製の結婚式用ブーケが評判を呼び、注文が殺到。

府・市側もこの作業所の活動を認め、助成金を贈る見込みとなった。(12・6京都)

### 身障者の授産所づくり

福知山市で石田すえ子さん(六五)が自宅の一部を身障者のための授産所に開放。体の不自由な人に働く場所をと「竹毛希望の家」を開設している人。

(12・23朝日)

## 【学生】

### 女の立場で学問革命

「父権社会の文化を女の視点で正していきたい」と、知的職業につく女たちのグループ（フェミニスト）（東京都世田谷区メ

ンバー・渥美育子さんら）が

「女性学」のテキスト「フェミニストJAPAN」を隔月発行

してすでに三号。発行部数二万

一〇〇〇、生活それ自身の中に

しか学問はないと問い続ける。

が、このグループが「知性による知性の変革」という限り、学問の烏観図の発想のむなしさが返り咲かないとも限らない。

（1・19朝日）

### 伝承文化に女の生き方を学ぶ

民話や民具など民間伝承文化を、知識として学ぶだけでなく、女性がどのように生き、文化を

支えてきたかを学び、自らの「生きざま」を問い直そうと、

福岡市東区地域婦人会連絡協議会と東市民センターは「ふるさ

との伝承文化とおんなの生活」をテーマに「東区婦人の社会科教室」を開く。（8・12西日本）

### 女の歴史を学ぶ

大牟田市の主婦宮崎和子さん

（七十二）ら平均年齢六八歳の五人は、五月から毎月二回、自主

的に女性史の勉強会を開いている。毎回だれかが講師役で問題

提起。女性問題の本を読み、新聞の記事もスクラップ。

（9・15西日本）

### 女性史を原資料で学ぶ

夜間の婦人学級がきっかけで、通史や解説書でなく、原資料を読み通そうというグループ（あゆむ）が世田谷区婦人会館にて

月二回勉強会。講師は折井美那子さん。女性史や婦人問題を知

らなくても「知らぬが仏」で生活は回る。がそれは「奴隷の幸

福」と思潮編を読み続け、区内に住む婦人運動の先達・先学の記録をまとめる計画。

（10・28日経）

## 【消費者問題】

### 主婦が作る「買物天気図」

神戸市消費者協会の主婦たちが毎月一回、一七七か所を調査

して「主婦のお買物天気図」を作成。小売り市場・スーパーな

どの売り値を安い順に並べ、上位四分の一が○（晴れ）、下位

四分の一が●（雨）、中間が曇りとし、各地の掲示板で一斉に

知らせる。安い店で買えば一年で八万円節約に。神戸で一〇万人の会員と市の協力で続けて三年。

（5・24朝日）

### 主婦パワー“過剰包装”追及

大田区消費者の会の五〇人が

区から委託され調査を実施。メーカー・デパートに証拠をつきつけて追及。

（11・11朝日）

### 流通機構にチャレンジ

一五円牛乳からスタート、夫

の邦雄さんと運動を続けた岩根志津子さん（四一）の生活クラ

ブ生協が生協組織一万人大会を三日に武道館で開く。いまや北海道に大農場。将来は「女の家

も作りたいと。（12・2読売）

## 【継続】

### 主婦連の三〇年

粗悪品でなかなか着火しないマッチの追放から始まった（主婦連）が今年で三〇周年。

おしゃもじを看板に消費者連

動の最先端を行く行動力に政府や企業もしばしば立ち往生。

(1・27読売)

\*

「不良マッチ退治主婦大会」から発足、不良品の追及、商品テストなどで活躍した主婦連は、他団体との共闘が進む一方、幹部や会員の高齢化、財源難、原動力まで広がったテーマなどで弱体化、日用品試験室は倉庫同然となった。(11・3中日)

お母さん新聞一年で八〇号

四日に一回の割で母親たちが発行し続けた高槻市北清水小の学級新聞が公約どおり八〇号に。「子供を人質にとられている」間柄になりがちなのが親近感が高まったと先生も母親も驚いている。子供たちのドシドシ新聞(二〇〇号発行)、先生のヨミヨミ新聞(二〇〇号発行)と三紙が相互批判しながら成長したも

の。(4・13朝日)

一〇年迎えた親子読書会

〈世田谷親子読書会〉は親子だけの運営で一〇年。悩みは劇画時代の活字離れによる読書力の低下と受験のための脱会者。それでも野菜作りやドンド焼きなどで理解力を補い、一〇年目の記念誌発行の準備も。

(4・22朝日)

「女エロス」が一〇号に

「何ものにも規定されない女である」との創刊宣言以来、「女権拡張」を越えた根源的な生の解放を求めつけ、原稿料も写真掲載料もタダという原則を貫いて。(4・28信毎)

婦人会機関紙一五周年

徳島県石井町高川原婦人会

(上田電子会長、七〇〇人)は、一三日、三九年四月ガリ刷B4判で発行以来、毎月欠かさず発行、県下一長く続いている機関紙「あゆみ」一五周年記念式を。

(5・14徳島)

名古屋の婦人活動の草分け

「婦人之友」読者の新生活運動グループとして昭和四年から活動している〈友の会〉は、女性たちの意識改革にも貢献してきた。(10・19朝日)

## 「ボランティア」

おばちゃん先生

「入院中の子供たちの勉強をちょっとでもみてやったらいくらかでも迷いを挽回できるかもしれない」そんな願いからボランティアのお母さんたちが「病院教室」(日赤中央病院小児病

棟)を三年半前から開いている。授業は、火・金曜日の週二回。(1・9朝日)

町内ボランティア

名古屋の主婦グループ〈長戸ボランティアグループあじさい〉(会員七〇人)は、老人所帯や核家族も安心して暮らせる町づくりを目指して「地域福祉」に励んでいる。(1・18朝日)

町営ボランティアスクール

寝たきりの老人や独り暮らし老人の事故を防止しようと町ぐるみのネットワークづくりを進めている南安曇郡豊科町で、一四日、初のボランティアスクールを開いた。主婦ら四〇数人がボランティアの「いろは」を学んだ。同町は六〇歳以上老人三六〇〇人、うち独り暮らし九一人、寝たきり九九人。参加主婦

は四、五〇代が主で大半が未経験者。  
(2・17信毎)

テレビよりも「話」を

「テレビにくぎづけになっている子供をテレビから引き離そう」と福岡市の主婦のボランティアグループ「お話会」(会員一人)は「戦争を語り継ぐお話会」などを開き活動中。

(8・10西日本)

シンガポールで援助活動

シンガポールの身体障害児の施設、精神薄弱児ホーム、老人

女手一つで  
映画製作

秩父事件を  
「リブ二世」号、横浜入港

女性ばかり四人 函館から八



初の試みに二人  
主役・中井・半井・二人  
「女たちの映画祭」ついに実現  
世界の女性監督作品を上映



(8・25朝日)

コツコツ朗読録音活動

全国二五万人といわれる目の不自由な人たちのために文字・歴史書などの朗読録音活動をしている奉仕者の中から四人の女性「第八回朗読録音奉仕感謝の集い」で、全国表彰を受ける。

(10・21朝日)

盲人の母親に声の奉仕を

愛知県大府のボランティアグループ「野ばら」が、新聞の家庭欄などをテープに吹き込む声の奉仕者を募集。盲人の母親たちに生活につながる楽しみをと。

いのが現状。

(9・8毎日)

主婦が育てる読書っ子

江南市の江南団地の主婦たちが、団地の子供たちのために開設した「自治会文庫」。毎週三百冊の貸し出し、読書意欲の向上に大きな役割。

「弱視の子らに読書を」と

東京のボランティア主婦グループ「はなびら」が拡大絵本を手づくり。  
(10・28サンケイ)

# 集会

## 〔全国集会〕

職場の「飾り女」になるな

「行動計画への具体的提言」

をテーマに「日本有職婦人クラブ」一三〇人が、志摩で全国連合会。冒頭、東京の吉田あこさんが「飾り女（としてよい地位につく女）になるな」と同クラブの陥りやすい弊害を指摘、自戒の言葉とした。（2・15読売）

## 第三回働く婦人の中央集会

五月二一、一四日、二〇〇〇

人が「教育」をテーマに集会。

「子供の非行化が働く母親と一つながりにされ、教科書には結婚・出産・退職という女のライフサイクルが記され、卒業するまで出席簿その他すべて男子が先。低賃金でヘトヘトの母親に私は子供ができたらかない」と娘は言うが、働くことこそ生きていること、と誇りと自信を持って主張できる世の中を」との発言も。（5・15朝日／読売）

\*

第一九回全国婦人のつどい中央集会は自立・連帯・行動をテーマに品川文化会館で開かれ八〇

〇人が参加。分科会「仕事と家庭」ではお金のためではないのに子供を預けて働くのは母性愛が薄いのでは、とか、子が病気で休むのは気がねなどという出席者に「働くことは自立の喜び、平等実現には堂々と働き続けて」と助言者がハッパをかけた。（5・27読売）

## 第二四回日本母親大会

二九、三〇日、東京で開かれ一万人が参加、四五の分科会で熱のこもった討論。分科会「どんな子供に育てたいか」では基

本的なしつけができていない状態が嘆かれ、「むしろどんな母親になるべきかを問うべき」「母が悩んでいるとき父は何をしているのか」と疑問が投げられ、「共働きと育児」では子供への悪影響はない、自身の努力と夫の協力が必要と確認された。（7・31読売）

## 〈母と女教師の会〉全国集会

八月二三、四日、東京で「どんな人間に育てたいか」をテーマに。「何でもやってみるという活気のあるたくましい子に」



「主體的に判断し行動でき、自分の人生を創造的に切り開いていく子に」「社会との関わりの中で自立した婦人労働者に」と結論。  
(9・5社会新報)

### 先天性四肢障害児父母の会

九月三日、長野市でシンポジウム。「先天異常は人類の危機を知らせるカナリヤのさえずり」と。  
(10・6社会新報)

### 第三回日本婦人問題会議

「男女平等と社会慣習―婦人の活動分野をひろげるために」をテーマに二日、サンケイ会館に全国から六〇〇人が参加、「有職主婦と専業主婦の意識対比調査」(徳島・二月号)「活動報告」(長野県老後をしあわせにする会)「男女の自立について」(日本有職婦人クラブ大阪ク)等の報告。専業主婦と有職

婦人の境界がなくなりつつあるのが今年の特徴。「共に役割分担意識が強く、女がトクと思うのは一五%だけ(徳島)」「夫や親の看病は、命を縮め職を捨てても女がやっている(長野)」などが共通の問題に。

(11・4朝日)

### 子供の人権を守るために

二〇日、東京・一ツ橋の日本教育会館で、総評・日教組・日本子供を守る会等三一団体・五〇〇人が参加、子供に平和と安全な未来をと「国際児童年・子供の人権を守る連絡会議」を結成。  
(11・28社会新報)

### 〔国際女性学会〕

#### 子連れで女性学会に出席

国際女性学会・米側リーダーのメリー・ホワイトさん(三七)。

学会に三か月の坊やを連れて来日。

「心理学者の夫は私にもっとプロになれと励ます。私は彼にもっと家事を励めと励ます」「男も男の論理を捨てて人間らしく生き、労働も女とわかちあいなさい。女性学、即ち、男性学」。  
(7・22読売)

### 初の国際女性学会

二四、二五、二六の三日間、国立婦人教育会館で開催、学問的な立場から女性のあり方を討論、約一〇〇人の参加者は若い女性学者が中心。「主婦の歴史、国境や文化の違いを豊かにイメージしながら語り合いたい」と米国側の学者たちも期待。  
(7・26読売)

\*

一日目、瀬川清子さんの記念講演。「かつての主婦は重要な労働のにない手だった。労働か

ら解放された今の専業主婦は民族史の事実から見てもおかしい」。

二日目、キャサリン・モローニーさんが問題提起。平塚らいてう・山川菊栄・市川房枝の三人を例に、日本の女性運動は戦前戦後と分断されず脈々と続いていると強調。

二日目、ライザ・クリフィールドさん。自らの芸者体験を通して、日本の妻が家事育児専従でホステスの役割は芸者にゆだねている状況を指摘、すべての妻がホステスになれば芸者は消滅するとバラドクシカルに主張、論議をよんだ。

三日目、キャサリン・ルイスさん。日本の消費者運動を分析、特に草の根型運動の根元的な生命重視を評価。スザンナ・ボーゲルさんは「日本の主婦は専門家。稼ぎ手専従の男にとってなくてはならない存在」と分析、日米主婦論争に花が咲いた。

(7・27―31読売)

\*

女性学会の討論は五部会で行

なわれ、海外参加者の研究発表は必ずしも正確といえない部分もあったが日本人の意表をつく問題提起もされた。日本の女性解放運動家の参加がなかったという惜しまれる一面もあったが、まずは成功といえよう。

米国では女性学講座は五〇〇

〇講座、講師数は二三〇〇人、一〇億ドルの研究費がつぎこまれているが、日本でも来春から東女大・お茶大・京都橘女大で女性学が開講される予定。

(7・31毎目)

女性学会報告書を出版

五部会それぞれのテーマごとに内外の研究者たちが報告し、討論した報告書が出版された。女性問題一般に関心のある人々にとっても貴重な出版物。送料共で一四〇〇円。(10・31毎目)

## 〔地方集会〕

婦人のつどいに思う

二月一日「第二回中野市婦人のつどい」が開かれた。プログラムの最後「私たちの喜びと悩み」で生活改善グループの三〇人が、日常の活動・食生活の改善から農村婦人の生きがいまでを散文詩にして朗読した。

婦人のつどいは、まだ市役所・農協・普及所・教育委員会などの公的機関にかかわりのある団体だけのあつまりである。市内の婦人全体から支持される事業にするためにはもっともっと脱皮を繰り返さなければならない。

(水谷正・公民館長)

(1・24信毎)

女教師大会に三五〇人

信濃教育会主催の第三〇回女教師研究大会は長野県下の小中

学校女教師が「児童・生徒の人間性を育てるために、私たちはどのようにしたらよいか」を討論。分科会では、①自己研修の方法②教育効果を高める実践③生き生き活動するために女教師は何をなすべきかを具体的に話し合った。

(2・5信毎)

平等や地位向上求め

「長野県婦人問題推進総集会」が二日松本市で開かれ、二六

団体、主婦ら約千人が参加、各団体からの活動報告・発表が行なわれた。「男女の固定した役割分業が女性差別のもと」「母性保護を土台に職場での男女平等をすすめるべき」などを論じ

たが、一方では、これまでの活動の成果の披露に終始する団体もあり、会場からはテーマがはっきりせず、筋が通ったものがないと不満の声も。

午後は樋口恵子さんの講演

「婦人の自立と社会参加」

(2・13信毎)

「主婦が働くこと」で討論

〈信濃毎日東信地区投稿主婦の会〉が、二〇日、上田市働く婦人の家で開かれ、二九人が参加。「主婦が仕事を持つこと」について賛否両論をたたかわせた。

(2・24信毎)

赤裸々にホンネを語る会

「嫁いで一五年、やっと家の財布の中身がわかった。結婚当初から財布会議が開かれていたら、こんな回り道はなかった」

「今まで愚痴をいうだけの暮らしをしていたことに気がついた。前を向かなくては……」

北信濃木島平村での「豊かな暮らしをすすめる村民のつどい」第四回にはホンネがあふれた。

一回から三回までは、「あんなことをみんなの前で言わなくてもいいのに家の恥だ」など騒々しかったが、今年は感動と共感の輪が……。『女が変われば暮らしが変わる。それにはまず本当のことを語り合おう』——一人一人が大事にされる本当の暮らしを求めて、女たちは光をともした。  
(3・21信毎)

男にとって家事とは何か

日本有職婦人大阪クラブが公開討論会。男の家事は当然という大学助教授。できるけれどしないという技師などが発表。

大阪社会事業短大服部教授は「女の自立のために男も、という対症療法やニューファミリーの風俗としての男の料理教室は危険」と警告。  
(6・9読売)

#### 四国保育団体合同研究会

保育にかかわるさまざまな問題を出しあい、交流を深めようと、第一回研究会が徳島市内で二日間にわたり開かれた。四国四県から保護者・保母・研究者など六〇〇人が参加。保育問題の深刻さ・難しさを浮き彫りに。  
(6・12徳島)

性を考える会

長野市若槻団地では団地独自で家庭での性教育を取り上げ講演会を開く。団地が誕生して一〇年、思春期の子がふえたので、これを契機に子供と話し合おうと。  
(7・2信毎)

#### フェミニズム論争名古屋版

名古屋市婦人会館で「ニュー・フェミニズム宣言」「女性による人間解放主義」を提唱、活発

な論争。

主催は雑誌「フェミニスト」編集長、渥美育子・青山学院大助教授。  
(9・3朝日)

#### 福祉を語る婦人の集い

〈三鷹市の福祉をすすめる婦人の会〉が九月三〇日、「こどもの環境づくり」「安定した老後のために」「市民参加と婦人の役割」で三鷹市の行政責任者と意見交換。  
(10・10社会新報)

#### 勤労婦人問題シンポジウム

二四日、長野市で開かれ一五〇人が参加。パネリストの働く婦人は「女は雑用係。二五過ぎてその地位に気づくころ煙たがられる存在となる。最も平等な公務員でも仕事の内容や昇格では差別される」。働く男性は「婦人の労働条件を向上させようとしても婦人の反応がない」。

共働きの妻は睡眠時間が二時間も短いのに」。経営者は「結婚したらやめると言った人が長くいたり、定年までと言ってた人が結婚退職したり、女は大事な仕事につけられない」と発言。

会場から「まず法制の整備を」の声が出たが生理休暇は意見が二分。  
(10・27信毎)

#### 第八回長野県保育研究会

五、六両日県下の保母ら約八〇〇人で。  
(11・6信毎)

#### 母子福祉愛知県大会

母子家庭などの生活の安定と向上を図るための県母子・寡婦福祉大会が一二日東区の愛知文化講堂で。約一六〇〇人が出席。  
(11・11朝日)

女の生き方、自立とは

信濃毎日「私の声」投稿者を

中心とする第一六回信毎「私の声」県大会が、九日、松本市の中信豊協会館で開かれ、話し合いと丸岡秀子さんの講演。

(11・14信毎)

名古屋で交通遺児激励会

東海三県の交通遺児を励ますつどいが二六日、中区の名古屋商工会議所ホールで。三県下の母子家庭三〇〇世帯から約八五〇人が参加、母と子が真剣に生きようとする姿が、質疑の中で浮き彫りに。(11・27朝日)

## 〔その他〕

潜在看護婦セミナー

家庭に潜在している保健婦や看護婦の知識・能力の向上をは

かる補習セミナーが二月一五、六日に。主催は日本医学協会。

(1・28読売)

出産のための集会

「子産みの場での発見——産む側と取りあげる側で考えよう」という集会在、二九日、四谷公会堂で。主催は準備出産協会設立委員会。(1・28読売)

看護婦と医師は同格

日本看護協会が「国民の健康を守る看護大会」を一〇日九段会館で開き、ILOが七七年六月の総会で採択した、「看護婦条約」の批准を要求した。

(2・12読売)

本当に差別はなくなったか

四日、日弁連主催で「憲法三〇年と男女平等」パネルディス

カッションが開かれた。

「婦人代議士は一・四%、参議院議員は六%、国家公務員は局長以上二四一五人中、女性は一八。これは政治は男の仕事という役割分担意識が根強く残っているから」(市川房枝)

「妊娠・出産を公的なものとしてとらえ、健保の対象にする。採用時の差別禁止を」(星野安三郎)

「夫婦財産制も大半は夫名義。遺族年金は五〇%の給付率、離婚の財産分与は結婚生活二〇年で平均二七五万円。法改正が必要」(大脇雅子)

「職場の男女差別の端的な例がパート、アルバイト。さらに職能給・資格給の隠れみのが障害」(上条貞夫)

男女同権の憲法施行三〇年、まだまだ法と現実のギャップが大きい、が結論だった。

(3・8毎日)

「女性と文学」シンポジウム

ニューヨーク大前教授エレン・モアーズさんが一八世紀以降の女性文学の「ヒロインイズム」について講演。困難な状態に置かれていた女性のためにペンをとることが課題と述べた。日本側の渥美育子さんが創造性は子宮から生まれると主張すると、モアーズさんは頭脳からのみ出ると反論、日本との解放運動の違いを示した。(4・11信毎)

付きそい看護を考える集い

東京看護学セミナー主催で家族・看護婦・付き添い婦それぞれの立場から問題提起。

(4・13朝日)

未来の家族を考える集会

「将来の社会で家族はどう変動するか」をテーマにした公開

シンポジウムが日本社会心理学

会主催で開かれ「核家族化にと

もなう新しい価値観をつくるこ

とが必要」と提言。(6・21朝日)

社会党が都民婦人との懇談会

都知事選について、①政策づ

くりをしつかり②候補者選考で

は発想の転換を③社会党は主体

性をもって選考にあたるべき

等の意見が出された。

(8・22毎日)

賃金の男女差別をなくせ

思想や立場を超えて女性の力

を結集し現状を変えていこうと

いう初の「男女差別賃金をなく

す交流集会」が二一・二二日、

東京・杉並で。超党派の五二団

体約一六〇人が討論。

(10・26朝日/信毎)

学童保育全国研究集会

四一五日、浦和市で第一三回

集会が。母親は心配や苦勞、父

親は子育てへの積極的な声が目

立った。(11・9毎日)

社会主義婦人インター

第一〇回大会が一〇月三十一

日から二日間、カナダのバンクー

バーで。二七か国六四人の代表

が参加、「社会における暴力の

経済的・社会的・文化的側面」

について意見交換。

(11・17社会新報)

「結婚しない女」たちが集い

女がひとりでも生きられる社

会にしてほしい——ひとり暮ら

しの三〇人が京都の関西セミナー

ハウスに集まって、生きがいや

老後の不安などを話し合った。

戦時期に青春を迎え、結婚しな

いまま五、六〇代になっている

女性を中心。呼びかけたのは

「ひとり暮らしの戦後史」を書

いた塩沢美代子さん。

(11・30朝日)

## 学童保育 共働き家庭の

第13回全国研究集会から



高まる人

少ない時間の中で

なす二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

が、二つに分けられ

## 憲法30年と男女平

1弁連のパネルディスカッションが

合成洗剤追放を」全国集会

異境行に坂本策求める

女性の置かれている現状を給点

政治への参加

# 変化・風潮

## 〔しきたり〕

ヒノエウマ女は不幸せ?

ウマ年生まれの南風洋子さんは、実母も娘も夫の母もヒノエウマ。迷信を吹き飛ばすさわやかな一家だ。(1・1読売)

## 京の正月としきたり

若い時には少なからず反発したしきたりを今はなるべくきちんと守るようにしている。『花の中年』世代が多いが、年配の人となると複雑に屈折する。しき

たりを疑いもなく守り続けている人もある反面、「しきたり、しきたり、お言いやすけど、きつちりしたしきたりを守らんなら

なかった時代の女いうもんは、きつうおしたえ」と言う人もある。

京都のしきたりを守る代表格のしにせもほとんど会社制になり、わずらわしさはずっと減った。そうなってみて、京のおんなもしきたりがある程度守る楽しさがわかるようになり、またその必要性の自覚も芽生えてきたよう。

(富士谷あつ子) (1・7読売)

## 手まりとおばあちゃん

秋田県大潟村——ほんのふた昔前までは八郎潟、今はモデル農村。大潟村の村民は国が五次に分けて全国から募集、最初の入植から満一〇年。この村の老人問題は深刻だ。

完全な機械化はお年寄りに何の仕事も与えない。さらに地縁・血縁いっさいなし、言葉さえ隣同士違ふ。

そんな中でおばあさんたちは御殿まり同好会を作り、手まり作りに生きがいを見出している。

(1・8読売)

## 「三ジのババ」に意見殺到

「まだまだ男性中心の社会なんですわねえ、こんなことが問題になるとは。二人で築く家庭、当然でしょう」(女・四〇)

「男が家事をやるべきじゃないなんて、硬直した考えがおかしい」(男・二五)

「男を雑用に使っては出世が遅れます。仕事に全力を注げば家庭に還元します」(女・五九)

「おいお茶! というお父さんのほうがどっしりして存在感があっている」(女・一五)

「父親が家事に精を出すのは

イメージダウンになる」

(女・三六)

「男の育児花ざかり」に一〇〇  
本近い電話が殺到、賛否はほぼ伯  
仲。  
(一・九読売)

男 上げれば父下落

「子連れ狼」や「巨人の星」  
の父は、男としては凄絶な生き  
方だが、子育てとしては失格。  
対照的なのは「ダメおやじ」。

男としても父としてもすばら  
しい父親像は少ない。「日本で  
父親に権威があったと思われて  
いたのは家制度の長として国か  
ら与えられていたもの。そうい  
う人為的ワクがとれば、父に  
残されるのは社会と家庭をつな  
ぐパイプの役割だけ」と高橋均・  
武蔵大教授は分析。(一・一〇読売)

ガイジン締め出し

日本人同士が話しているとこ

ろへ仲間入りするとバツとふん  
いきが変わる。人に何かしてあ  
げたくても、この人デパートか  
ら贈り物を届けさせるのではな  
いか……とか考えて疲れる。率直  
に自分の気持ちを表わす人間同  
士のふれあいがない。閉鎖社会  
に悩む日本人の外人妻の会  
のメンバーたちの声。

(一・一〇読売)

## 「変わる」

女性史学の昨今

混沌の社会といわれるが、女  
性史学は「男性」という価値を  
ゆきぶるのが役割とすれば、そ  
れを收拾するより深める側に立  
つべきだろう。高群にせよ、村  
上信彦にせよ、それだけの「事」  
を持っていたが、女性史学は長  
い間打ち捨ててきた。しかし最  
近資料が掘り起こされ、先人の  
追体験など活力を示し始めた。

同時に女性史研究が運動化して  
きたのも著しい現象である。

今後はこれまで「女工哀史」  
的女性史と「婦人運動史」的女  
性史のはざまにあった「主婦」  
層にも光があてられていくだろ  
うし、生活史と運動史を統合す  
る視点が女性史学から開かれて  
くるかもしれない。

(鹿野政直・日本近代史学者  
(一・一六朝日))

現代風男

競馬とキャバレーの好きな男  
がいる。土曜日は競馬にでかけ、  
儲けたらキャバレーに行こう、  
という。話が底ぬけに明るく、  
遊び好きで遊びもうまい。日曜  
はどうしているのかというとき、  
私設保育園で、子供好きの子供  
のいない彼と妻のところに近所  
の子供がわつと来る。キャバレー  
と競馬と子供好きは矛盾してい  
ない。

(一・一七朝日)

過疎村でがんばる

九州育ちの東京暮らししか知  
らなかった夫婦が四人の子供を  
ひきつれて過疎村に移住。今で  
は村の人たちともなじんで「脱  
都会」の環境のよさを満喫。

昨年暮れに「第一回勤労大賞・  
日本母親賞」が二女から母親に  
贈られた。  
(二・五読売)

息子一家と別居したい老人

「しかし息子が賛成しない」  
という老夫婦の投書に二九五通  
の大反響。うち別居賛成は二三  
九通で圧倒的多数(二・一〇読売)

死を急ぐ少年少女たち

少年の自殺についての全国集  
計(警察庁調べ)によると昨年  
一年間に自殺した少年は七八四  
人。総数では四九年以降減少傾  
向にあるが、小学生の自殺など、

自殺年齢の低下が目立った。入試の失敗、学校きらい、成績不良などの学業問題が原因の自殺が全体の二八%を占めている。

(3・3各紙)

### 「忍耐の時代」は終わった

恋愛結婚した年下の夫が女をつくった。耐えて暮らそうと考えているうち、一三歳年下の男と結ばれ離婚したA子さん。——  
こういうケースが増えている。かつては別れては暮らせなかった妻も、「子供を保育所に預けて働けば何とかなる」時代になった。妻の浮気が原因の離婚もふえている。

(3・6毎日)

### 放火魔封殺へ婦人防火クラブ

徳島市消防本部は、市内火災発生率が増加する一方なのと、生活環境の変化等による火災原因の複雑化のため、家庭を守る

主婦、次世代を担う小学生を対象に、新年度から「婦人防火クラブ」と「少年防火クラブ」を設置する。

(3・23徳島)

### 母親蒸発

昨年、家族から搜索願の出された二〇歳以上の女性の「蒸発者」は、大阪府下で二七五六人うち、主婦は一四四九人で半数を上まわる(大阪府警調べ)。

家出の動機は、家族関係のモツレ、夫婦の不和、異性関係の順。

(3・27毎日)

### 商売繁盛にも内助の功

商業活動を盛り上げようと、市場町で二八日、婦人会員二〇〇人が町商工会婦人部を設立。

当面の活動は、町内商店、事業所の婦人に入部を呼びかけ組織の拡大強化を図ること、レクリエーション等を取り入れた部活

動を進め、部員相互の親睦を図るなど。将来は商売と家事や育児の両立、健康管理なども話し合う。

(3・30徳島)

### 若い女よ、もっと続いて

「今は女の仕事とされている精密機器の仕事も昔は男の仕事。戦争で女にやらせたら女のほうがいい、になった。コンテストに出すものなど、現在の水晶時計の精度を手仕事で……なので、時計と心中したいときもあった」  
「公務員も男の職場で風当たりが強かったが、産休など女たちでカバーしあって権利を拡大してきた」

「今は『仕事は結婚まで』が多く、続く人がいない」  
「子育てがネック」  
「子供べつたりが多い。どこか後退したようで不安」  
「地位向上は男を引きずりおろすことではない。女の地位や

意識が高まらなければ男だって民主化されない」

三〇年働き続けた女性たちを中心とした座談会で。

(3・31朝日)

### ふえた男女平等の意見

第三〇回婦人週間の長野県下の応募論文数は六八編、うち男性から九編。

年代は①四〇代②六〇以上③五〇代の順に多く、総数では昨年の二倍。具体的提案もふえた。

(4・5信毎)

### 増えた男のエプロン姿

男子専科の料理書・テレビ番組・マンガ、さらに男子専科の料理教育もふえ、各種同好会もさかん。が、主に趣味で「遊びより家事分担としての料理」は少なそう。

(4・9朝日)



一年たった都のかけこみ寺

開設以来電話相談六〇八八件  
かけこんだ人五九二人、子も加  
えると九一九人。

開設当初は夫の暴力から逃げ  
出した人が多く、腰をメッタ打  
ちされて歩くこともできない人  
やタバコを体中に押しつけられ  
た人などあきれるほどのケガが  
多かった。

入所原因の四割は夫の暴力・  
酒乱。しかし二週間の保護期間  
後就職できたのは一割に満たず、  
二割は自宅にUターン。

(4・20毎日)

六・五人に一人が喫煙

女性の喫煙者率は一五・一％  
(五一年度全国たばこ喫煙者率  
調査)、その中で二〇代の喫煙  
率は急上昇。女子大のキャンパ  
スにも灰ザラを置くのが常識化  
している。動機には自己回復型・

抑圧回避型・自己顕示型などが  
あり、単なるアクセサリでは  
なく自己主張のための小道具と  
して定着。(5・3・8読売)

女性のみこしかつき手急増

浅草三社祭では女性のかつき  
手が増えたことが今年の特徴。  
五人に一人近くは女性という町  
内も。(5・21朝日)

水着審査廃止

「八王子まつり・ミス八王子  
コンテスト」は今年で一五年目。  
応募希望者の中に水着姿に抵抗  
を感じる人が多く、今年から水  
着姿による審査をやめることに  
なった。(5・25朝日)

娘囃子七人娘

小学五年生六人、中学一年生  
一人の七人の少女が囃子方を結

成、大田区西嶺町の観蔵院で練  
習を続けている。浅草三社祭で  
は猛練習のかいあって、宮神輿  
の先導役をみごとに果たした。

(5・27読売)

発掘は女の適職

メソポタミアの厳しい自然の  
中で発掘作業に追われる各国と  
も女性隊員が多い。

「女性がいけない隊はソ連と日  
本」といわれて長いが、日本隊  
は「一か月前から初めて一人加わっ  
た。(6・6朝日)

俵朋子さん否決さる

空席となっていた中野区監査  
委員に区側が俵朋子さんを起用  
しようとしたが、区議会の共産  
党を除く与野党各会派の反対で  
つぶれた。「専門的な行政知識  
もなく、多忙な俵さんには無理」  
が理由。(6・8朝日)

女性の飲酒、急速に進歩

現在日常生活の中でお酒を飲  
んでいる主婦は四六・六％、〇  
しは勤め婦りにジョッキを傾け  
るなど飲みっぷりはどんどん進  
歩。ボトル・キープする女性も  
増え、業者もインテリアなどを  
女性好みに合わせている。女性  
のフトコロが豊かになったのが  
その理由。(6・20・27読売)

日本人の寿命世界一に

厚生省発表「五二年簡易生命  
表」で男性七二・六九歳、女性  
七七・九五歳に。男性は長寿世  
界一、女性はスウェーデンなど  
と世界一、二を争う長寿国になっ  
た。(7・2各紙)

既婚女性は新劇・音楽会離れ

コンサートや観劇に通うのは  
独身のうだけ。結婚して子供

ができたりすると女性は姿を見

せなくなる。核家族で留守番がいない、ベビーシッター制度が整っていない、料金が高いがその主な原因。「結婚すると気取らなくなるため」(木村尚三郎)

「欧米は一家揃って教会に出かける外出文化、日本はお坊さんが家庭に出張する。おこもり文化」(山本七平・深田祐介)という意見も。(7・3日経)

### 女性のためのミニバイク講習

徳島県三加茂町と同町交通安全を進める会が、二三日、三加茂中学グラウンドで女性だけのバイク安全運転競技会を開催。町内一九地区から家庭の主婦ら三九人が参加。(7・24徳島)

### 増え続ける女子大

女だけ集めて教育することにどんな意味があるか。女子大の

存在そのものが問われている。

「共学では女性はいつも補助的役割。女子大だと何から何まで私たち女性の手でできる」

「今の社会は、仕事も家庭も女性には不利。それを改善する使命が女子大にある」

戦後三〇年、女子大は増え続け、四年制は八四校で全大学の二割を占め、学生数一〇万八千人、大学生の三人に一人は女子大生。が、国としては女子大について特に「理念」を持っていない。(7・24—8・17毎日)

### 女子大生を観光資源に

造船不況の長崎県にとって手っとり早く日銭がかせげるのは観光。というわけで、同県が「花の女子学生・一日課長」を企画。東京・大阪の女子大生を県内主要観光地に無料招待などPR作戦を展開中。(8・2西日本)

### 「耐えない」若い女たち

愛知県婦人相談所に最近もちこまれる悩みごとは、週刊誌的。若い女性は家庭に入ってから夫に尽くし、家族と協力して家庭を作るといった心構えが皆無

私は目覚めた女、自由に生きたいと主張。「耐える」には激しい拒絶反応を示す。(8・9中日)

### Oしなみ——集団漁の海女

海女の本場能登でも海女独特のまげは姿を消しTシャツにヨットウエア。勤務時間は八時から三時まで、昼休み一時間。七人でアワビ六キロ・サザエ八〇キロ・モズク一六〇キロの収穫、手取り五、六千円。服装も心もOしふう。(8・11朝日)

### 夫権失墜——日本酒斜陽化

お父さんが、食卓につくと同

時におちょうしがサッと出る——は昭和一ケタ組さえあやしくなった。日本酒がビールに首位を奪われて一八年、ウイスキーの猛追に二位の座もあぶない。(9・11中日)

### キャリアウーマン・ブーム

人生に職業を組み込み、男性と対等の仕事をするキャリアウーマンに若い女性のがれが目立つ。「キャリアマンはない。真の平等になれば死語になる」という説も。(9・29日経)

### 母親対象の大学公開講座

南山大学と南山短大が、企業人や子をもつ母親を対象に、四講座を開く。(10・4中日)

### 母親にオンブ大学生の就職

「どうかうちの子を」と大学

の就職部にあいさつ、学内選考にもれると「うちの子は成績も悪くないのに」と抗議する母親たち。「息子の就職」で大学まで相談にくる母親が春頃からめつきりふえた。「本人をよこしてください」と言っても本人はいっこうに姿を見せない。

一方、父母を対象にした就職説明会をやる大学もふえた。

口火を切ったのは四年前の関西大学。二〇〇人の会場を用意したところ一五〇〇人が殺到。この背景にあるのは息子を手もとに置きたがる母親がやたらに増えたこと。「幼稚園から大学まで指し図してきた母と、その指し図どおり歩いてきた息子」の關係が恐ろしいほど見えます」と、大学の就職課長。

(10・5朝日)

女が歌うとき

心と体を束縛から解放放ちた

いと歌うてらだまり子さんは「独り立ち」がテーマ。ミニコミ「名なし通信」発行。「自立と解放」は青木とも子さん。「抑圧された女たちのうめき」は松田晴世さん。

(10・5-10・9信毎)

街の發明家、女性が躍進

東海地方のアマチュア發明家たちの《東海發明会》には今夏から婦人部ができ、根気があれば趣味と実益がかねられると大盛況。

(10・6中日)

広がる「女性学」

一九七〇年ごろ米国で生まれ、現在全米で五千講座。

日本でも「女性社会学」「女性性論」をもつ女子大がふえ、お茶の水女子大では来春からスタート。

(10・10中日)

ホームエコノミストが活躍

主婦の立場から商品開発に注文をつけたり企業と消費者の間に立つて苦情処理などにあたるホームエコノミスト(家政の専門家)を抱える企業が目立ってきた。

米国のヒープ(HEIB=Home Economists In Business)

に習って日本ヒープ連絡協議会(事務局、神奈川県大磯町、幹事・篠崎悦子さんら六人)もこのほど結成された。会員は一一八人、食品・化粧品・スーパ、公益事業が主力。二、三年に一回ずつ日米ヒープ会議を開くことも計画。

(10・10朝日)

階実に着つ女性運動

「自立する女性・創造する女性の輪を広げよう」という全日本フェミニストの会。女性の高学歴化で「女性学」の関心も高

まり、各種学会でも女性学者の活躍が目立つ。二一、二日の社会学会では二六人の女性学者が発表する。

一方、「自立する女」をテーマにした本や映画が大受け。「男女雇用平等法を作るための準備会」も結成された。

(10・16日経)

精神科受診の女性ふえる

内面的葛藤から神経症状を呈し精神科を受診する女性、とくに主婦が目立つ。「役割意識・知性・耐久力を女性に望む結果」と精神科医の平井富雄さん。

(10・23読売)

「手前みそ」がウケてます

手作りみそを見直す動きが盛ん。ある生活運動団体はマンション住まいでも手軽にみそ作りをする方法がありますとキャンペー

ン。  
(10・23京都)

### 女子大祭にみる学生気質

白百合女子大「愛してですか、愛されてますか、あなたの中の女たち」、武蔵野女子大「躍動せよ！今、あらたなる時へ」がテーマ、女子美術大は「個人の発想と創意を制限したくない」とテーマなし。(10・28朝日)

### 女性だけの広報部

三和銀行本店と東京本部では  
○しだけで、企画・アンケート  
調査・レポート印刷物作成・配  
布すべてこなす。(10・30毎日)

### 低下する自殺年齢

六月までの上半期だけで二〇  
歳未満がすでに四五四人自殺、  
うち男は二九八、女は二五六人、  
とくに低年齢の子の自殺が増

えているのが特徴で、一月に小  
五の女子、五月に小五男子など  
小学生の自殺も。

警視庁は五月に「少年の自殺  
十則」という小冊子一〇万部を  
学校や家庭に配布、「自殺者は  
その前に必ず助けを求めるサイ  
ンを周囲に出している」と注意  
をうながした。(11・1朝日)

### 消える「女人禁制の伝統」

東京商船大学が一〇〇年以上  
続いた「女人禁制」をやめるこ  
とを決定、早ければ五四年度か  
ら女子の入学者募集を始める。

(11・5信毎)

### 女性の合格七割 社会人入試

立教大の合格者は、男一一人  
女二三人。「面接では女性の方  
が迫力があつた」と大学側。

(11・7各紙)

### ホテルも女性路線

京都には女性専用ホテルなど  
が一〇軒以上あるが、東京のホ  
テルニューオータニも五二年暮  
れから一フロア三〇室全部を女  
性専用にする。(11・8読売)

### 年々二・三割増、既製おせち

約一〇年前から市販品が増加  
紀文ではセットだけで二億円の  
売上げを目指す。(11・11朝日)

### 「持ち帰り寿司」大繁盛

自分一人だけの昼ご飯はめん  
どう、という主婦に大うけ。日  
曜の夜も後片づけなしの魅力で  
住宅街に急増した売り専門の寿  
司屋チェーン。(11・22読売)

### “女性の発想”を戦力に

東急百貨店東横店のアクト・

プロジェクト・チームは女八チー  
ムに対し、男三チーム。また富  
士通のやさしい電算機解説書は  
女性だけで編集、好評。

(11・25朝日/11・26読売)

### A・リッチの講演会大盛況

男女平等をめざす米国女流詩  
人アンドレア・リッチの講演会  
は、六〇〇人以上の女性で満員、  
一五〇人が会場からあふれ、入  
口で押し問答。(12・12朝日)

### 嫁天下くつきり

杉野女子大講師の白井和恵さ  
んは過去一九年の読売新聞紙上  
の身上相談を資料に嫁姑問題を  
研究。耐えしのお嫁から姑を批  
判する嫁への模倣わりがハッキ  
リ。(12・14読売)

五四(七九)年は女流監督の年

仏の「歌う女歌わない女」に続いて二月にはアメリカ映画の「ガールフレンド」、伊映画「アイ・ピロング・トゥー・ミー」などが公開予定。二月から四月にかけてはソビエト映画の「女流監督特集」。(12・25朝日)

めざましい女性作家の活躍

有吉佐和子の「和宮様御留」、杉本苑子の「滝沢馬琴」。栗本薫や見延典子、中沢けいなど第二の才女時代が到来。

(尾崎秀樹)(12・28毎日)

## 〔世相〕

商戦にフェミニスト路線

「男には飲ませないお酒」「やさしいから好きなオートバイ」「だれでも写せる自動ピントカ

メラ」——女心をくすぐる商品が続々。不況下、女性市場開拓の戦略がヒットを続けている。

ヤマハのバイク「パッソル」は広告にヘルメット姿の女優を起用、組立て工場も全員女性。サントリーの「赤玉バンチ」も三月中には四五万ケースを突破しそう。(2・17朝日)

売春は将来するかも——女子大生

女子大一年生一三〇人、男子一—四年生二〇〇人の売春に対する意識調査で、男子の三五％は「本人の自由」と回答、一四％が「条件あり」。女子大生も「将来何らかの理由でする可能性があるか」に二三％が「ある」と答え、「絶対ない」は三二％だけ。名古屋の名門女子大、淑徳女子短大社会福祉学科一年生七人の研究結果発表に、衝撃が広がっている。(2・24朝日)

女ひとり南海の楽園

ニュージーランド南端にある小島スチュワート島の山中で半年以上もたった一人で生活していた吾妻恵子さん(四〇)が強制送還される。「こんなきれいな国で好きなように生活をしていただけ。なぜ警察に捕まったのかわからない」(4・29朝日)

サラ金被害者がかけ込み寺に

各地の母子寮や福祉施設にかけ込んでくるサラ金被害者が、最近ふえている。夫の暴力や離婚で行くあてのない女性の一時保護が目的で昨年四月オープンした東京・新宿の都婦人相談センターも、これまでに三人を収容。(5・2朝日)

母子家庭の周辺

若い世代が多く苦しい生活。

根強く残る「家」意識の中で、不安定な立場。中には寮でたくましく自立を模索する姿もみられるが。(6・14・17・4信毎)

電話相談四〇〇〇件

愛知県婦人相談所の「婦人悩みごと電話相談」の昨年度利用は四〇〇〇余件。家庭内の問題が五八％とトップで、夫とのトラブル、子供のこと、嫁・しゅうとめ問題など。サラ金にからむ悩みも初登場。(7・6朝日)

父子家庭に福祉の手を

国勢調査(五〇年)によると、全国の父子家庭は二七万世帯。実態すらわかっておらず、救済策は皆無に近い。税制の優遇措置などせめて母子家庭並みにと望んでいる人は多く、すでに放置できない状況。(7・11読売)

## 変わらぬ女の業

名古屋市中村区大門通、旧赤線の素顔は、今も昔も変わららず「女のなみだ町」。

酒場・トルコの建ち並ぶ小路にある中村観音にはアルコール漬けの小指の供養をと小さなびんをかえた女性、男の「浮気封じ」を祈る女、ひっそりと遊女の位はいを拝む老女の姿が。

(7・11朝日)

## いまも嫁を支える商家

大阪の商内(あきない)の中心、船場で、旦那(だん)さんの妻はご寮人(ごりょうん)さんと呼ばれ、家を支え、店を支えた。極道は男の甲斐性と陸で泣きつつ商内を守った時代は去ったが、夫が遊んでも妻ががんばって店を守るならわしは一緒。母親が店にいるという理由で保育所からははずされ、嫁の給料は

計上されていても実際は生活費にすぎない。(8・21毎日)

## 病院に目立つ高齢女性患者

以前はよほどのことがないかぎり主婦が診察を受けることはなかったし、それが不幸のもとになった。大きく前進した医療の無料化。が、病院に来るのがせめてもの楽しみという人も多い。(8・26朝日)

## 農家の主婦に新しい苦勞

嫁と姑の問題はほとんどなくなったが経営の負担がずしりと。機械化で流産や身体障害の危険もふえた。農業人口は七十二万、うち女は六二%の四四八万、疲れをいやす機会もない。(8・28毎日)

## 寝たきり老人介護の嫁表彰

名古屋市は一六人を表彰。ごほうびは表彰状と「名古屋おどりの観劇」。(9・14中日)

## 「戦争独身」の〇Lが定年に

戦中戦後の混乱で婚期を逸した女性は一〇〇万人。約五〇万人の独身〇Lが定年を迎え始める。貸金・昇格すべてに差、退職金も厳しい。(10・20読売)

## 悩み相談所 財政ピンチ

ソーシャル・ケースワークを戦後の京都に定着・発展させた葵橋ファミリークリニック(ドロシー・デッソー所長・七八)が経済的ピンチ。米国の預金が通貨影響で目減りしたため。(10・24京都)

## 家族計画研究所クリニック

一〇月末に主婦会館に誕生、受胎調節指導のほか、不妊相談・結婚カウンセリングも。(11・16読売)

## 「犬の美容師」さん不足気味

名古屋に犬の美容師専門学校ができたのは五〇年四月。約二〇〇人の卒業生を出し、ますます隆盛。(12・4朝日)

## 入試制度批判で解雇通知

「日本の大学入試は教育全体をゆがめている」と入試問題の作成や採点業務を拒否し続けたきた和歌山大学のジーン・S・ジェラードさん(六四)が解雇された。支援グループは大学当局に抗議、留任請願運動を展開中。(12・14朝日)

## 〔主婦〕

『脱專業主婦』 志向

雑誌「クロワッサン」の調査によると主婦の希望は「脱專業主婦」が群をぬいて多い。

「子供は小学校に入るともう別の人格。子供べったりで過保護にするのがイヤで社会参加を望んだ。でも一度家庭に入ると主婦イコール無能力者のレッテルをはられる」とある消費者コンサルタント。「結婚して共働きのときはいいが、子供ができて家庭に入ったら初めて男女の差を知り、孤立感などでノイローゼになる」。

小学校単位にバレーボールチームを組んでいるところもある。健康が理由だが、チーム活動を通して生まれた連帯感もかけがえないものに。

（主婦とおんな）（1・23 毎日）

主婦のアル中増加

Aさん、三六歳。結婚歴一四年。時々暴力をふるう夫に対する不満などからアル中になった。主婦のアル中が増えている。イライラ、不安の解消、夫への不満などが主な理由だが、患者の実態把握はむずかしい。しかし女性の社会進出や女性の飲酒に対する社会通念の緩和などにより潜在的なアル中が増えることは予想される。「生きがい感や成熟した自己イメージ」のない主婦の不安定さとも関係が。

（主婦とおんな）（2・6 毎日）  
精いっぱい生きたい主婦

息子たちは自立・独立し、自分分は社会の矛盾を学んでいく中でいつまでも性別分業意識を変えない夫を捨てたある妻。主婦とか妻とか母とかいう役割に人間としての自我まで吸収されて

しまう。それではイヤだ、人間として精いっぱい生きたい、と。

妻が「何かする」には夫の「理解」がいる。カッコつきの女の自由。女は生きているのではなく生かされているのではないかと、と神田道子氏。

（主婦とおんな）（2・16 毎日）  
主婦の売春

昔、売春は貧困と同義であったが、最近では貧困のかわりに情緒的なものが多くなった。夫とうまくいかない、好奇心、刺激がほしいなど。

子育てを終わってホッと一息ついて、さあ自分の人生を、と振り返ったとき、夫は仕事人間。その空虚さを埋めるものとしてやすやすと誘いにのる。愛のないセックスに慣れ、良心がマヒし、ゆきつく先は精神の荒廃、

というのが主婦売春のパターン。  
（主婦とおんな）（2・20 毎日）

ある母の「蒸発」

姑に何も言えないおとなしい夫と、自己中心で勝手な姑にひたすら忍耐して尽くした妻が、末娘が成人式をすませたのち若い年下の男と蒸発。それを憎みうらんでいた末娘もママになり、やっと母の気持ちかわかるようになった、と手記を。

「一方の目で辛い涙を流し、一方の目でOLとなって自活する娘の新しい生き方をまぶしく見つめた世代。娘を通してふれた女の解放への願望、女としての損失感、今の若い母親たちよりずっと強かろう」と母の気持ちを山崎朋子さんは分析。

（2・27 毎日）  
手こたえ求める主婦たち

「今、四五歳。女が突然女でなくなるとき、希薄になった部分を埋めたい。その準備に万策

の勉強を始めた」

「手をかけて煮込んだ野菜も数分でペロリ。家事にだけ生きがいを求めてもむなし。家庭文庫を始めたのは、生きる目標がほしかったから。いま会員六〇〇人、人々の輪がひろがった」「フランス語の翻訳でプロとして認められることに自分をかけている。一〇年後、妻であり母であり職業婦人であることを信じている」

「五年前、和文タイプを押し入れにしまい、きっぱりと主婦専業に。読書・ボランティア・ミニコミ発行、あれこれやっているときが生きがい」

「選んで主婦になったのではないが今までの浅薄な生き方が世の男女差別に加担し、わが身には返っている。主婦脱出が私の生きがい」

《主婦と生きがい》をめぐる数々の投書から。(3・2朝日)

変容した主婦意識を小説に

田辺聖子さんが三月二三日から朝日新聞の夕刊に連載小説を。題して『魚は水に女は家に』。

田辺さんによれば、世の中にはわかっていて人とわかっていない人がいて、この主人公はわかっていないほうの主婦。「家事専従だけに生きがいを見いだせるかが、今の主婦の大きな問題になっている。変容している主婦意識を書きたい」と。(3・9朝日)

ふえるニセ学生主婦

単位にもならず、卒業証書がもらえるわけでもないが、講義に通うニセ学生。はじめは他の大学の学生が多かったが、主婦中心に社会人がふえ、「ニセ学生同盟」もできた。ポイントの一つは教師の探店。授業の身。比較等、情報を交換しあう「ニセ学生通信」の定期購読者は六

〇〇。毎月千部発行で、読者の三割は主婦。(3・10朝日)

事故で知る主婦業の値段

交通事故の被害者となった主婦・鈴木寿子さん(二八)。休業保障が一日二五〇〇円(世話料も含む)。「主婦業の値段」のなんと不安さよ!

(3・15読売)

当世母親像

核家族時代の不安な母親。

「全体に未成熟で、実家の親、ことに父親にべったりの若い母親が目立つ」「夫とうまくいかない」と、子供の世話をやたらにやく。それで自分の気持ちを安定させようとする」と東京家裁の調査官は指摘。(5・13読売)

母の日が定着

八七%の母親が母の日を祝ってもらったことがあり、祭りとして家庭に定着した。祝われ方は——贈り物をもらった(三六%)カーネーションをもらった(二五%) お祝いをいわれた(二〇%)。(5・14朝日)

行進曲入選はほとんど主婦

朝日新聞社が募集した「行進曲」の歌詞の入選・佳作五編のうち四人までが家庭の主婦。入選の足立百合子さん(五五)は二人の孫のおばあちゃん。詩作歴は四〇年。(6・10朝日)

増えたべったリママ

「私に五、六年おひまをください」と夫の世話を長女にまかせ大学生の長男のアパートに転がりこんだ母がいる。



「息子」を恋人以上に思う母親が最近特に多い。子離れできず子夫婦の仲をさく例も。一日も早く親の自立を」と弁護士佐藤典子さんは助言。(6・28中日)

### ママさん生徒急増

繊維工場に働く女子従業員の定着策として十数年前愛知県各地に設けられた勤労学院は、繊維産業の衰退で生徒が激減、代わってママさん生徒が急増。青年学校振興法で設立されているため二六歳以上は対象外だが、別科生として黙認、県教委も見えぬふり。(6・30中日)

### 主婦の大学進学熱

五月から毎週水曜日の夜、三鷹で明星自由大学が開講。中・高校生から七〇歳をこえる老人が受講しているが、女性が過半数を占めその半数が主婦。動機

は「子供への手がおけるようになったので」「むなしく年をとってゆく自分の身が悲しくて」など。(7・11読売)

### ボランティア婦人、高齢化

二、三人で作っている小さなサークルまで入れるとボランティア組織は全国で約二万団体、一二〇万人余り。五〇歳前後の主婦の参加がふえた。「老後は子供に依存したくない。金銭より精神的な豊かさが欲しい。地域社会とのつながりのなかに新しい生きがい」という意識が中高齢主婦の社会参加を促している。(7・26日経)

### あしたの主婦

女性の九八%が結婚する現在、主婦は一体どう生きるのか。「日本の夫婦は九〇%精神的に分離。かせぐ人と家を守る人の

組みあわせにすぎない」「日本では生き方がまわりから決められてしまう。社会全体のあり方を含めて、主婦の生き方を問い直すとき」「国際女性学会に出席した米国の社会学者たちは言った。しかし親友家族で二軒長屋を建てた主婦、手作りケーキを喫茶店に卸すようになった人、そうざい屋を開いた人、特技交換の場を設けた人など新しい動きも目立つ。(8・11読売)

### 「家」を引きずる主婦の旅

しゅうとめや亭主への気がね、留守家族への食事の準備などで気疲れが多く、心底から解放感にひたりきれないのが現状。亭主も安心のグループ旅行が中心。(8・15日経)

### 美容と体力を婦人会館で

徳島県市場町大俣農協が農林

省の農山漁家生活改善施設設置事業指定下で県下初の婦人会館を建設。鉄骨平屋建六八六平方メートル。トレーニング室には二〇〇万円余で三種のトレーニング器具を設備、農協婦人部八五〇人を中心に、ぜい肉取りや筋肉を鍛える。(8・18徳島)

### 男は平凡女は非凡?

「平凡な主婦なんていや。勉強したい」という女性が増え、各地の市民大学や教養講座は女性でいっぱい。受講者の中心は四、五〇代の主婦と、二〇代の独身女性。生き方や心の糧を得ようとするテーマに人気が集中。しかし市民大学や婦人学級の講師を務める岩男寿美子慶応大学教授は「講座で得たものをどう自分の人生に生かしていくつもりか、そのためにどう理解したのか、首をひねりたくなるときがある」と批評。(8・21日経)

## 家事志向が強い余暇利用

昭和三四年の労働省調査では、主婦の余暇は①読書・新聞読み②教養・勉強③収入のある仕事④子供の相手⑤裁縫・編み物⑥趣味⑦家政技術研究⑧社会的活動だった。五三年六月の奈良女大深谷教授の調査では①趣味を深める②一泊旅行③手作り料理④小説を読む⑤技術を身につける⑥婦人学級や教室に通う⑦衣類を自分で縫う⑧仕事⑨子のしつけ⑩夫の世話。共に家事志向が顕著で社会的活動が不人気。パン焼きなどの講習会を開いているベターホーム協会は三八年三千人でスタート、今は三万三千人に。「何かしなければ」と思いつつ結局は家事志向になるようだ。(8・21日経)

女の午後はグンと伸びたが

昭和一〇年の日本女性の平均

寿命は四九・六歳、末子出産が三五・五歳で、子が就学してからの余命は七年しかなかった。いまは末子出産が二八・一歳、平均寿命七八歳で「女の午後」は三五年も伸びた。

東京で開催された国際老年学会で日本の長寿が大きな話題になり、公開講座「日本人のライフサイクル」でも、「女性も社会進出を」の声も出たが、「終身雇用制は遠からず崩壊し、男も六〇歳以上の就労はますますむずかしくなる」との発言もあり、経済的裏付けがなければバラ色の老後はむずかしそうだ。

(8・24中日)

難しい主婦の身分証明

運転免許証は男性の約三分の一、パスポートでも二分の一の所持率しかない女性。印鑑登録の本人証明は健康保険証でもダメ、お役所にも工夫が必要。

(10・21読売)

女の保守化はテレビの影響

テレビドラマの女主人公は「古い型」が多い。加えて女性視聴者はドラマから自分の生き方を学ぼうとする傾向にあり、女性の保守化と関係があるので、とNHK総合放送文化研究所の村松泰子さんが研究発表。

(11・11朝日)

増える読書ボランティア

福岡市の読書ボランティア養成講座定員五〇人に対して一二〇人が応募、ほとんどが家庭の主婦。(11・25西日本)

省電力に主婦のアイデア

中部電力が募集した「我が家の省電方法」に二一四人の主婦が応募、「TV休日」などの名

案も。

(12・23朝日)

【子ども】

英才教育塾出現

塾通い「日本一」の和歌山市に今春、三歳児からの幼児英才教室が店開きする。小学校二、三年程度の子の教科の実力を五歳までにつけてしまおうという内容。一〇年前、県教委指導主事から塾運営に転向した藤田塾頭は、人間、学業だけでなく、急ぎすぎては根が抜けるという見方をよそ目に「可能性のある子は早ければ早いほどいい」と自信たっぷり。(1・22毎日)

「私にとっての母性」とは？

東京のあるベビーホテルが論文を募集したところ全国から五五〇編集まった。二、三〇代が過半数を占め「母親であること」

と「個人としての自分」のジレンマにふれたものが多く、生きがいとの調和が問題になっていた。

その意識にはいくつかのバターンがあり、閉塞感の中で迷い派、家事、育児の毎日に満足する育児没頭派、勉強やけいこそで自分の生活をつくろうとする社会参加派など。

一位の東京都の木村栄さん(三七)は「母性を充足させるのは、経済性、個の充足、心身ゆとりの三つの条件が整ったときではないか」と指摘。現在フリーで仕事をする木村さんは「自我を抑圧された心の歪みが母性の発現に必要な成熟を妨げていた」と考え、現代の母親一般の問題だとしている。

(2・9朝日)

## 仕事を持たぬ母の保育園

家の中で暮れられなくなった

子供たち。オリから解き放たねば……と、専業ママの子も預てきた神戸の「ちびくろ保育園」。

無認可から認可への転換をはかりカンパを募ったら二か月で四〇〇万円が集まった。「保育園は、働く母のため」、つまり安上がりの労働力を社会に提供するためにあるのではない。子供自身のために必要」という園長夫妻の考え方が専業ママの共感を集めたのだらう。

(3・12朝日)

## 少女暴力

少女による「粗暴犯」は昭和四十七年から四年間に二・二倍と著しく増加、その後はやや減る傾向になったが暴力もエスカレート。簡単な動機でひったくりや強盗を。スケバングループによるリンチなども犯罪白書に報告されている。

(4・26読売)

## 当世乳児院風景

石油ショック以降、捨て子が年々減り、捨て子収容所とみられていた乳児院も、今では未婚の母や別居ママの子を預かっている。

(5・5読売)

## 子供の声は騒音？

東京・目黒区鷹番地区に建設予定の区立保育園は、騒音公害だと主張する地元と、保育園がなければ働けない住民同士が対立し、足かけ五年たつが、いまだに建設のメドが立っていない。

(5・25読売)

## 子供の行儀作法教室

おじぎの仕方・電話の応答・和洋食のマナーを教える「子供作法教室」が大阪に誕生、人気をよんでいる。家や学校でしつけを受けないので、子供たちに

は新鮮。「おまかせします」という若いママたちを六か月で追い越す。受講はほとんど女の子。

(8・13朝日)

## 育児のA-Z教えます

徳島県下唯一の乳児施設徳島乳児院(小松島市)が創立二五周年記念に一〇月から電話育児相談開設を計画。宮城婦長ら保育経験一〇年以上の保母・看護婦・栄養士らが担当。

(8・22徳島)

## 働く母にも「非行防げ」

徳島県小松島署は「防ごう少年非行県民総ぐるみ運動」期間中、婦人補導員が管内の職場を訪問。昼休みに、働く母たちに非行の実態、母親の役割を話した。この職場訪問は歓迎され、九月以降も続行の予定。

(8・26徳島)

既製ベビーフードに人気

離乳食に市販のベビーフードを使っている母親は半数以上。前年比の四倍もの伸び。

(11・1朝日)

「ハイハイ電話」に相談殺到

名古屋市婦人会館では体験豊かな主婦がボランティアで応対。

(12・5中目)

母乳運動定着

新幹線に授乳室が誕生、授乳コーナーを設けるデパートやスーパーも大阪などに。厚生省の調べでは、現在母乳育児が約四割に増加。

(12・15朝日)

少年非行戦後第三のピーク

非行少女は昨年に続き増加、二〇％を超えた。(12・26朝日)

## 〔結婚・離婚〕

日高パーティついに幕

新しい男女交際の場合をめざし緑結び三二年、会員五万、三十五〇〇〇のカップルを生んだ日高パーティが今年限りで終止符を打つ。

「離婚後の苦しい生活に耐えてまじめに伴りよを求めている方を思うと残念だが、利己主義者が多すぎるので」と日高夫妻。

(2・8読売)

花嫁銀行使命果たし閉鎖

この一〇年間に三〇六組の縁組の世話をした協町農業委員会「協町農家花嫁銀行」が九日閉鎖された。

同花嫁銀行は、農業後継者の育成に大成果をあげ「日本一の農家花嫁銀行」として全国からの視察者がたえなかった。

二次・三次産業が急速に発展し、農家の嫁取りが困難だった昭和四三年一月に農業会議の指導で設置。農業委員と仲人経験者計五〇人が相談員となり花嫁探し開始。四三年には三組、四五年一三三組と成績をあげ、

報道機関全国的に紹介され有名となり、今年一月末で三〇六組の農家花嫁が誕生。この間、視察者は九州から北海道まで計一七八組、一三五七人。

(2・12徳島)

姓姓流転

昭和五一年の民法改正で、離婚後、旧姓にもどらなくて結婚姓のままでもいいことになった。著名人にとって名前はそのまま人となりあらわす働きをするが、大多数の無名の妻たちにとっては、別れた夫の姓など金輪際使いたくないだろう。「和田だったXですけど今度今

井に変わりました」——和田であったことと今井であることでどういう異なった意味があるのか？

(2・26毎日)

早婚にはやる農村の女性

三五年度、二五歳以上で結婚した人は二八％、五一年度には一三％に減少(秋田県北部農村E町の調査)。娘たちは過保護の中で、自分の青春を生きることさえできなくなったからなのだろうか。(野添憲治・評論家)

(3・3読売)

離婚を考える

離婚後の問題点と離婚に至るまでの経過を離婚した人の告白をもとに報告、離婚の正体を追求。(4・17・15・4・6・12・16・22/8・11・18・26朝日)

## 企業グループの結婚相談所

三井グループ(三井物産・三井銀行)は「三井グループ結婚相談所」を新宿三井ビル四九階に開設。独身社員の結婚相談とお見合いが主な活動だが、女子社員の結婚退職を促す目的もあるのでは? (4・28朝日)

ねらいは花嫁募集か

信州の自然の中、農村での生活を体験してみませんかーと、長野県の八町村が「農村と都市を結ぶ若人のつどい」を催す。土に親しむことの少ない都会の女性に農作業の体験をしてもらいながら農村青年との交歓交流がねらい。(7・4朝日)

## 「離婚」シリーズに大反響

「離婚は必ずしも結婚の失敗ではなく、結婚の中身を問うか

らこそその離婚もある」という意見も。生きた関係を問う時代を反映。(9・12・9・14朝日)

復活した集団見合いブーム

東京日本橋ではパンを焼きたながら再婚者ばかりの、名古屋のホテルでは音楽会形式の、集団見合いが盛況。(9・22中日)

佐久に定着する改善結婚式

長野県佐久地方では生活改善運動の一つとして一五〇〇円か二千元の祝儀・会費で結婚式と披露宴をしている。定着するまでには二五年を要したが。(10・23朝日)

## 【雑誌】

お正月の婦人雑誌

正月号の婦人雑誌九誌を読む

比べたところ、表紙や付録のほか中身まで似通っていた。四誌が家計簿の付録つき。五誌で開運暦や運勢占いの付録や特集。モテモテの池田大作氏は四誌に新春特別寄稿。四誌で嫁姑論争。「愛と性」のテーマ三誌、五誌で「やせる健康法」。

主婦の友・主婦と生活・婦人生活・婦人倶楽部の四誌の第一の主流グループは、伝統的な和風志向が強く、雑誌の作り方も家事密着型。

ミセス・マダム・ウーマン・婦人之友の第二グループは、洋風好みでゆとり志向型。婦人公論はその中間的存在。(1・15読売)

少年同士の愛がブームに

ここ二、三年、少年同士のくりひろげる愛の葛藤が少女マンガブームに。「少年同士の愛は家族という単位をつくらない」と

いう点では、はじめから不毛。最も不毛な愛の中に突破口をみつけようとする作者の姿勢が共感を呼ぶのでしょう」と中島梓さん。(4・19朝日)

なつかしの少女雑誌復活

昭和一〇年代、女の子たちの夢や感傷をかきたてた「少女雑誌」のイメージを受け継ぎ再現しようとした女性向け叙情誌『薔薇の小部屋』が三〇日創刊される。(5・28朝日)

婦人誌評

試験管ベビーを「新鮮」が特集。女性に不妊の原因がある場合の心理問題にも言及してくれればと惜しまれる。「主婦の友」はこれを「不妊妻への朗報」としているが、「家のあとつぎ」重視をただすことにごそ婦人雑誌の意義があるはず。

『婦人公論』では四〇―五〇代の「母親」の手記をのせているが、成人した子には「元母親」と言うべきだ。

『婦人之友』「百歳の姑・仙のこと」は好読み物。

『婦人公論』「いま女の役割とは」で田中美代子は「ぐうたらママでさえ家の光。育児や内助の功は妻の条件でない」と言い、渡部昇一も「家事労働では女房は不要になった。セックスでも女房がいなくて困る男はいない」とホンネを見せた。家事と「性的魅力」から解放された妻たちの奮起を望みたい。目覚めた女がふえれば『主婦と生活』連載の竹村健一「世相講談」のようなマヤカシ評論は登場できなくなるはず。

(9・8―11・10社会新報)

タウン誌は女性が活躍

タウン誌の編集者は女性が非

常に多いが経済的にはあまり報われず、無報酬の人も多い。アメリカでも女性が多いがバリバリ活躍。

(9・27日経)

『ファミリーサークル』発売

アメリカで八三〇万部も売れている月刊女性誌の日本版。スーパーで販売。

(10・21毎日)

## 「スポーツ」

スキー教室に中年ママさん

上田市教委が婦人と少年向けに計画したスキー教室に、三十五歳の中年希望者が目立つ。四十五歳の中年希望者が目立つ。「家族ぐるみ」「見るだけから一緒に楽しむ」へと。

(1・4信毎)

アイスホッケーに二女性

冬季国体アイスホッケー競技

女性ばかりのマラソン

一五歳から五〇歳までの女性一〇七人が九日「皇居一周毎日レディーズマラソン」(四・八キロ)に挑戦。タイム競争ではなく、健康増進と親ぼくを図るのが目的。主婦と会社員が圧倒的多数で全員完走。

(4・10朝日)

初の女性マラソン

一六日、日本で初の女性マラソン(四二・一九五キロ)が東京・多摩湖畔コースで行なわれた。二〇代から七〇歳までの四人が出場、四六人が完走。

(4・17朝日)

平均五六歳、孫連れバレー

五周年を迎える杉並区の「撫菜(ナズナ)」サークル。全員ママさんバレー経験者。中高年

輪層になると公式戦でプレーが  
できないのでと始めた。孫を持  
たぬ人は一人か二人、生涯スポー  
ツの好例との声も。

(5・20読売)

#### 第九回全国家庭婦人

##### バレーボール大会

一日、四八代表チームで開幕。  
うち一七チームが六三人の子を  
連れて入場行進。

四日、優勝は熊本・砂取(平  
均三九・四歳) 滋賀・晴嵐(三  
四・二) 岐阜・神戸(三三・二)  
山形・余目(二九・五)の四チー  
ムに。

「お母さんの取った金メダル  
よ。努力したら何でもできるの  
よ」と誇らしげに見せる姿も見  
られた。

(8・21朝日)

#### 女子野球日本選手権大会

第一回大会が、一二日から川

崎球場を中心に四会場で開催。

日本女子野球協会主催で、少女  
の部(小・中学生)二四、一般  
の部(高校生以上)五チームが  
参加。

(8・12読売)

#### 女子走り幅七メートル台に

陸上の女子走り幅跳びで、ビ  
ルマ・バルダウスケネ選手(二  
五・ソ連)は七メートル〇七の  
世界新記録。

(8・19読売)

#### 日本初の女性オートレース

オートバイが好きで好きでた  
まらない女性たち。日本初の女  
性だけのレースが九、一〇両日  
鈴鹿サーキットで。

(9・10毎日)

#### ママさんのソフトボール熱

名古屋市内では女性のソフト  
ボール熱がママさんバレーそこ

のけの人氣。(9・11中日)

#### 第一回東海女子サッカー大会

十一月三日、大垣市南公園サッ  
カー場で開かれる。参加は、東  
海地方四県から一五チーム。

(11・1朝日)

#### 女性だけのマラソン

八歳から六三歳までの女性一  
一三人が明治神宮・代々木公園  
を回る五キロコースに挑戦、全  
員が完走した。

(11・6朝日/読売)

#### ママさん二人ヒマラヤへ

高山地帯を歩くトレッキング  
を夢見て長野の主婦二人(三四  
三〇)が一月の旅に。育児の  
合間をぬって準備。

(11・18信毎)

#### 女子柔道も世界選手権

五四年一二月パリで開かれる  
世界柔道選手権で第一回女子選  
手権。格闘技種目で女子世界  
選手権は柔道が初めて。

(12・11朝日)

#### 「ファッション・リブ」

##### ファッションも個性時代

石油ショック以後もファッショ  
ン業界だけは好調だったが、一  
昨春秋ごろからにわかに暗雲が。  
原因は女心の変化。ホンモノを  
求め、自分の個性をだいたいにする  
女性が急速に増えたため。

ご用始めの四日も、若い女性  
のファッションは十人十色、ジ  
ンズに毛皮のコートを着こなし  
たり、インディオ風のストール  
に身を包んだり……と、百花繚  
乱。

(1・5読売)

## 女子高生がお化粧

ヤングのおしゃれ意識が高まって、メーキャップの開始年齢が下がり、女子高生の三割は、アイシャドー、ネイル・カラーをもっている。(1・16朝日)

おしゃれに時間はかけるが

出勤する〇しのほとんどがブーツのこの冬。しかし毎朝三、四人が駅で倒れる。時間がなくて朝食ぬき。「アイシャドウや口紅をつける時間はあるのに」と駅員は嘆く。(2・13読売)

“のっぽさんコーナー”登場

ししコーナー、キングサイズコーナーは一般化した、新宿・京王百貨店に身長一六五センチ以上の女性用のツールサイズ・コーナーが発足。予想以上の好評。(3・16毎日)

## Tシャツは同様のシンボル

本来は肌着、人前では見せてはいけないとされたTシャツが、一五年前から上着・外着として定着。男女同権・女性の地位向上運動が起こった四〇年に、気軽に開放的なTシャツが見直され、男ものを女が着るようになったもの。(5・5読売)

メロウという言葉が流行

“女の美しさイコール若さ”という考え方は過去の物語。メロウ(円熟した・熟れきった)な女性の株が急上昇。

あらゆる年齢・階級の女性たちに自立心が育ち、女性の美しさの大きな要素となっている。(5・5読売)

帽子も今や男女同じ時代

昨年から男女そろいの帽子を

かぶる傾向が。背景には女性の男性化、男性の女性化があり、男女同権も頭の上まで届いた。(5・24朝日)

“ミズ” ついに公認

ウーマンリブ運動から生まれた女性第三敬称の“MS”が、アメリカ・カナダ・オーストラリアなどの在日大使館でも公用文に使われている。

わが日本では「公的機関での使用率は未知」とお堅い見解。

(6・2読売)

乱れる男ことは・女ことは

「ボク」「オレ」「キミ」が、二、三年前から女の子の間で流行。フォークの世界でも、男・女ことは入り乱れ、男は男らしく……は難しい時代に。

(6・14朝日)

## 女だけの手でショー

七八年秋冬東京ファッションウィークのショーは構成から演出まですべて女性。テーマは「出逢いの瞬間、女は光る」

(8・3日経)

タンクトップ大流行

ランニングみたいなシャツがこの夏、数十億円売れ大流行。学生・〇しから中年女性まで飛びついた。今や「よくぞ女に生まれける」の時代。

(8・22日経)

現代用語辞典

「塾」とは「怠ぬきできる子供の社交場」、「夫婦」とは「翔ぶことはあきらめた一組の男女」。学研募集の言葉の新解釈より。

(10・21京都)



## 女性団体初の社団法人誕生

「ザ・ファッション・グループ」(鯨岡阿美子代表)に通産省が「社団法人」を認可。市川房枝さんも「企業べったりの通産省が女の団体を本気で見直したのは結構」と祝辞。が、この風向きの変化は不況対策との声も。

(11・23朝日)

## 化粧も男女同席時代

東京銀座に男女共用の無料美

容サロンが誕生。(12・30読売)

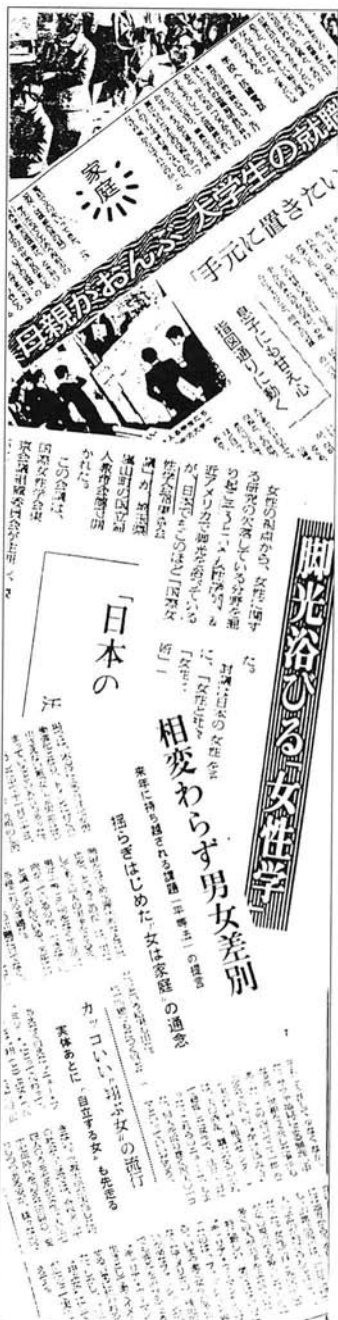
## 婦人の問題 この一年

長びく不況とインフレは働く婦人を確実にふやし、女子就業者数はこの一年間に五七万人増加、二〇三万人と、戦後最高となった。被用者総数に占める女子の割合は三三・二%、女子雇用労働者の六五・一%、八〇九万人が既婚者と、既婚者が完全に多数派になったが、婦人の職場進出は望ましい姿にはほど

遠い。雇用調整弁としてのパートタイマーの急増が目立ち、「パート新時代」。女子大生は就職難、賃金・昇進・定年制などの男女差別は変わらず、賃金も昇進の機会も男子の半分、オートメ化の進んだ職場では不況による合理化が労働強化となりトイレにいく自由さえない「新女工哀史」が始まったとの報告も。その中で、働く婦人に対する保護見直しを提言した労働基準法研究会の提言は大きな波紋と議論を生んでいる。

一方、家庭婦人のライフ・サイクルは大きく変わり、子育て後の時間はあまりに長くなった。有識者のアンケートでは「男は仕事、女は家庭」に「同感する」は二〇%だけに。市民パワーとして活躍する女性もふえた。ことは「翔ぶ女」の年だった。しかし子供の自殺が社会問題となり、子殺しも少なくな。夫の酒乱・暴力、サラ金地獄による一家心中等、暗いニュースが続く中で、「翔ぶ女」も流行語に。

(12・31毎日)



# 調査・統計

## 〔労働〕

低賃金で無理な残業

〈交通遺児母の会〉が都内の交通遺児の母親七八二人にアンケート。回収できたのは三四％。母親たちの現実の一端か。

「健康」について重点的に調査したが、仕事、収入の悪条件がそのまま健康に大きな影響を与えていた。

高年齢になるほど臨時、パートが多く、職種も体力を必要とする工員などが多い。工員をしている七〇％近くがなんらかの

病気になるのに対し、公務員では四〇％と、かなり低い。

(1・17朝日)

好きな文字、女は「愛」

男は「誠」女は「愛」が、好きなトップ。最下位は「暗」。

写植機メーカー、写研が東京と大阪の男女二五〇〇人を対象にした調査で。

(1・25読売)

一七年ぶり、失業者数最高に

一二月の完全失業者は男子七四万、女子三七万で、前年同月

比一七・五％、二七・六％の増加。一月以来連続一〇〇万人を記録、三四年の「ナベ底」以来の最高記録。

(1・31読売)

働く婦人の家事負担

世界の職業婦人は夫の協力が不十分なため仕事と家庭を両立させるのに苦労しているという調査報告が国連で発表された。

例えばフィンランドでは、夕食の準備

妻八五、夫九、洗たく妻八〇、夫一〇、買物妻七八、夫二などいずこも「亭主関白」。妻と夫の教育水準が高

いほど分担率はよくなるが。

(2・2毎日)

中高年の女ひとり

平均月収は死別一五万二千円、未婚一三万八千円、離婚一二万七千円。離別者の四一％は一〇万円に満たない。死別者には亡夫の勤務先や近所の人が世話するが離別者には冷たく相談相手もない。

現在働いているのは死別の七六％、未婚八五・五％、離別八六％。しかし「今の職場が二三か所目」「一日に三つのパート

を回るので何が主たる仕事かわからない」など、いずれも離別者に多い。東京都老人総合研究所がお茶の水女子大・袖井孝子助教授と協力、二三区に住む配偶者のいない女性六八一人を対象とした調査で。(2・14読売)

#### 家事労働費月額六万円

余暇センター発表「レジャー白書」によると、主婦の家事労働は一時間四二七円、年齢別家事賃金は一〇代で月三万三千円、二〇代七万円、三〇代七万五千円、四〇代七万二千円、五〇代七万円、六〇代以上五万六千円、平均六万三千円で三〇代が一番家事に追われている。

(4・29朝日)

#### 乳幼児を持つ母、職場に定着

職業研究所が川崎市の保育園児世帯九八二を調査した結果で

は乳幼児を持つ母の職場定着が労働史上かつてなかった規模で拡大、かつては教員程度だったのが、看護婦・保母など専門職のほか大企業の事務員にまで広がった。ただし定着率は二割で、八割はパートに代表される非定着型。(5・9読売)

#### 苦しい生活で発病者も多い

「ひとり暮らし退職婦人教職員的生活白書」。調査対象者の七割が六一七〇歳。生活費の中で年金・恩給が占める率が一〇〇%の人は全体の五六・八%。病気の時看護者が誰もいなかった人が五五・八%など、病気の時の不安が特に大きい。

(6・3朝日)

#### 普通家庭でも四割が働く母

厚生省の「五二年厚生行政基礎調査」(対象三〇万人)によ

ると、核家族は五九・四%で前年比四%増、老人世帯は一九二万(一・四%増)で昭和三五年度の四・五倍。働く母は母子世帯の八四%、夫婦だけの世帯で四四・七%、夫婦と子の世帯でも三九%、だが大半が零細・中小企業勤め。(7・9日経)

#### 独身〇しは仕事きらい?

手取り月収九万二千円、小遣いが四四・五%、預貯金三三・四%、月収の八割以上を自由に使っているが、民間アパート居住者は生活費に六割強をさく。関心は①流行②旅行③レジャー④趣味⑤同性とのつきあい⑥結婚。

「楽しい」のは①友人とのおしゃべり②ショッピングで共に六〇%以上。「むなしい」のは朝の出勤のときで三六・八%、男性より一四%も多い。

入社早々は「社会勉強」が生

活信条だが社歴が長くなるにつれ「マイペースで気楽に」となる。動向は「結婚まで」五六・二%で「定年まで」は一・二%。第一勤銀の一、二部上場企業入社五年以下の〇五〇〇人調査で。(11・10中日)

#### 雇用、三人に一人が不安

総理府が全国の成人五千人を対象に行なった「雇用問題に関する世論調査」の結果を発表。

自分自身や家族の仕事や職場に不安を感じる人は三三%。今後の雇用の見通しについても「良くなる」と思う人は一〇%。現在の仕事の内容について不満を持っている人は四二%。

無職者の七八%が「容易に仕事につけない」と悲観的に考えており、政府に対して強力な景気浮揚策、雇用安定策実施を望んでいる実態が明らかに。

(12・17毎日)

## 「ヤング・学生」

下宿生活七万円台に

全国大学生協連合会の「学生の消費生活に関する実態調査」の五二年度分がまとまった。東京の場合は、下宿生活費が平均七万六九〇〇円で前年比一一・一%の伸び。仕送りだけで暮らしている人は前年より三・九%減って四二・三%。そして全体をおおうのは「就職不安」。

(1・19朝日)

東京も大阪も理想は「ジュリー」

某チョコレートメーカーが二〇代の若い女性に街頭で「現代恋愛の条件、東京女性と大阪女性の比較調査」を行なったところ、意中の人が現われたら東京は「アタックする」、大阪は「気をひくだけ」。(1・28毎日)

現代女子短大生気質

女子短大生の生活は、生活費の全額両親負担九一%、入学動機は「生活をエンジョイするため」四六・六%、力を入れているのは、「友人とのふれあい」「サークル活動」各七四%がトップ。

フォークとテレビが大好きで本を読むのは月に一、二冊。生活をエンジョイしたあと二五歳までには結婚を。(2・8毎日)

勉学よりおしゃれ女子大生

家からの仕送りは五・七万円、大学生生活が「楽しい」は四%、大半(七七%)は積極的な意欲はないが辞めるほどでもなし。化粧とは女子学生にとって「女性を強調する手段」三三%、「他人に不快感を与えないため」一六%で、支出中、大きな割合を占めるのが被服費と化粧費。

(杉野女子大の調査)

(3・14日経)

男は進学、女はファッション

東京・大阪の中・高生男女二百人ずつを対象とした電電公社の中・高校生生活調査で高校生の進学希望は男八一%女五五%、関心事のトップは男「進学三四%、女「流行三六%、運動部は男「柔剣道・サッカー・バレー、女「テニス・バスケット・バレー。(4・5読売)

長生きして晴れ姿を見て

万年筆メーカーの「娘から父への願いごと」募集に四五九人が応募。「酒・タバコを節制して長生きして」(成人した娘と小学生に多い)、「私の晴れ姿を見て」(二〇歳以上の娘に多い)。中には「私たちの目の前で、母に『愛している』とか言って」

という東京の中三の注文も。

(7・1徳島)

大学生が見た現代の売春

愛知・淑徳短大福祉学科の「現代における婦人の社会的転落——売春に関する意識の調査」(女子大生二五〇人、男子大生一三〇人)では「身近な問題としてとらえるか」男五七%、女三一%がイエス。「悪いと思う」男四九%、女二二%。「本人の自由」男三五%、女二六%。

「買った経験がある」男一四%。「誘われたら応じる」男一〇%。

(9・24毎日)

長期就労を望む女子大生

勤続希望年数「五年未満」五一・四%(短大)、「一〇年以上」二六・七%、「定年まで」二九%(四年制女子大)。「日」評価では「社交性・協調性に富むが

専門・一般教養は自信ない」が大  
大半。リクルートセンター・女  
子大生の就職希望調査から。

(10・6 読売)

### 女子医学生世界的に急増

女子医学生は日本二二%、ア  
メリカ二五%、イギリス三五%  
西ドイツ二八%、フランス四〇  
%。一九七〇年代から各国とも  
急増。

(10・18 読売)

### 半世紀で身長一〇センチ増

明治時代の二〇歳女性の平均  
身長は一四七センチ。現在は一  
七歳で一五六・三センチ。

(10・28 読売)

### ああ受験世代

「今の受験制度は当然、仕方  
ない」と一〇人中男子四人、女  
子三人が肯定。「大学へ行って

もやることはない」は男女とも

一六%、「親の期待を負担と考  
える」は男子五二%、女子四九  
%。大学は、男子「学問する所」

三三%、「教養の場」三〇%に  
対し女子「教養」四五%、「学  
問」二九%。全国の高校生四千  
人を対象とした昭和女子大心理  
研究会の調査で。(11・15 朝日)

### ヤングの二か月の書籍代

男性一四九六円、女性二一六  
〇円で、月に三千円以上の女性  
は五% (男性一七%)。月平均  
の読書量は男性三・二冊、女性  
二・六冊。神田外語学院の男女  
生徒四百人の調査で。

(11・18 読売)

### 〔主婦〕

#### 再就職希望の主婦の障害

「専業主婦」のうち五人に二人

までがパートを含む再就職を希  
望しているが、育児(四四%)  
夫の反対(三三・五%) 家事  
(一四・五%) が障害に。

結婚前に勤務経験のある人八  
八%で、退職理由は、出産のため  
(三〇・三%)、家事に専念  
のため(二九・五%)。

再就職希望の理由は子供に手  
がからなくなった(二六・三  
%)、生活費の補てん(二一・  
九%) など。富国生命の調べ。

(2・28 毎日)

#### 中年女性のイメージは

「落ちついた」四〇%、「太っ  
た」三三%、「女ざかり」二七  
%、「分別ある」二六%、「生活  
力のある」二〇%、「おしゃべ  
りな」一九%。

中年の始まりは三八歳、終わ  
りは五二歳。自分自身の生き方  
に「自信がある」三五%に対し、  
「母親として自信がある」は五

二%。現在の生活に「非常に満  
足」一〇%、「まあまあ満足」  
七四%。

大正海上火災が都内の三五—  
五五歳のサラリーマンの妻三〇  
〇人を対象にした調査で。

(3・10 読売)

#### 子供の誕生日が最大の喜び

都内の二、三〇代の主婦五〇  
〇人を対象にした「家庭のよう  
こび」調査(第一勧銀)で、一  
番大事な喜びの日は「子供の誕  
生日」で、三四%。他は「結婚  
記念日」五・八%、「正月」五・  
二%と、ぐっと低かった。「夫  
の給料日」と答えた人も二人。

「生涯忘れ得ぬようこび」も、  
トップは「子供の誕生」四八・  
二%、ついで「結婚」二三・四  
%で、他は一〇%以下。子供のお  
祝いには「父親抜き」が約半  
数だった。

(3・30 毎日)

三人に一人の主婦が勉強中

文部省の「生涯教育の実施状況等に関する実態調査」によると、この一年に指導者について勉強した人は女二六・一％男一四・五％、中でも主婦が最高だった。内容は①芸術・芸能・趣味五五・一％②家庭・日常生活五一・八％に集中、教養やスポーツは二六・八％、一二・六％と人気が薄。また「勉強したい」は五二・〇％だが主婦は五九・四％、特に団地の女性は七三・〇％と高率。したい内容は男が①職業に關すること②趣味③教養に對し、女は①家庭の趣味③教養の順。(5・3朝日／読売)

奥さんが頼み、わが家計

総理府統計局の家計調査では全国世帯の一月消費支出は一萬九千三百三十一円で前年度に比べ、實質一・二％増。勤労者世帯の

支出は實質二・二％増。ただし妻の収入が實質一四・八％増えたため。世帯主の収入は定期収入で多少増えているもののボーナスなど實質減。(5・20朝日)

主婦の昼食アラカルト

テレビ料理教室の「昼食アンケート」の結果、回答者の主婦五〇一人中、お茶漬派は二・八％と少数。一、二位は焼き飯三八・五％、うどん三二・五％でサンドイッチ類・ラーメン・焼きそばが続く。六割近くが月に一回以上外食。(7・6徳島)

夫は手助けよりいたわりを

妊娠中、第一子は夫の八〇％が協力姿勢だが第二子は三六％に激減。一番うれしかった夫の態度は「妊娠を喜んでくれた」「いたわってくれた」で、家事の手伝い等はほとんどゼロ。

育児中の夫の協力は①おフロ入れ六六％②ミルク飲ませ四六％③おむつ替え④守り三四％妻が夫に望むのは①精神的はげまし四〇％②おフロ三八％③早く帰って二四％④いたわって一八％⑤やさしいことばをかけて一〇％で、ミルク飲ませやおむつ替えを望むのは五〇人に一人だけ。和光堂の五〇組の夫婦の調査で。(7・6読売)

掃除や炊事の手間省きたい

主婦が最も手間を省きたい家事は、掃除三〇・五％、炊事二八％、買物一八％、洗たく一三・五％。夕食の後片付け時間は三〇分前後。家電メーカーT社の首都圏主婦二〇〇人の調査結果。(7・8読売)

夫の物は二人の物

〈夫婦で働いた所得は多少にか

かわらず共有財産とすべき〉専業主婦七七％、有職婦人七四％未婚六三％が賛成。〈夫の借金は妻も債務を負うべき〉半数が賛成。否定が専業四一％、有職三五％、未婚三三％。〈夫名義の所得は妻の協力が含まれているから離婚の際には妻は財産分割請求ができる〉専業九一％有職八八％、未婚八八％がイエス。特に専業主婦が家事労働に価値を見出している。

関東人権擁護委員連合会婦人部会の夫婦の財産について二八四〇人の女性意識調査で。(7・13読売)

奥さんアルバイト急増

都が発表した「五二年の都民のくらしむき」によると世帯収入は前年比九・九％増、うち妻の収入は一八・一％増、一六、一二三元となり、生活防衛が顕著。(7・25読売)

化粧代は月一万三千円

毎朝化粧をし日に四回鏡を見る主婦は五六%、月平均一三、

六〇〇円(家計費の六・七%)

のおしゃれ代。ファッションや

化粧を夫にほめられたいと六三

%が願っているのに実際にほめ

られたのは三六%。「世の亭主

族はテレビ屋なのでしょう」とは

調査マンの主観含みの分析。第

一勧銀の調査で。(8・26朝日)

独身時代と主婦を比べると

「人間的な円熟味や落ち着き

が出た」五四%、「人生経験が

豊富になった」五二%、「身だ

しなみのセンスがみがかれた」

二八%。主婦の一〇人中三人ま

でが「独身時代より魅力的になっ

た」と自己評価。一か月平均の

おしゃれ代は九三〇〇円、教養

費三一〇〇円。家計費平均は二

二万二千円。だが夫の六六%は

「妻に無関心」(第一勧銀・都内の主婦六〇〇人対象)。

(9・17中日)

家出願望は主婦に強い

家庭に満足しているのは男五

三・〇%、女五二・〇%、家庭

への不満は女性に強い。家出を

意識したことがあるのは男五〇・

七%、女五四・二%で、住居・

子供・親などがその原因。家出

を実行したのは男一九・四%、

女一五・四%(九州朝日放送の

四〇代のサラリーマン家庭三〇

〇の調査で)。(10・5朝日)

自分の名前好き・きらい?

東京と大阪の主婦、九九三人

を対象に東芝が調査。三六・六

%が好き、一〇・五%がきらい。

「結婚後の改姓」に対しては九

三%が夫の姓を名乗り、改姓に

よって「結婚の実感をもった」

人が五一・一%。(10・9読売)

子育て終わった主婦の意識

専業主婦の七四・五%が仕事

を持ちたいと考えており、理由

は「社会とのつながり」二九・

一%、「自分の能力を生かす」

二二・九%、「ゆとりある生活」

一六・一%。現実的就労してい

るのは内職・パートを含めても

四五・九%、常勤は一六・三%

だけ。就労の障害は「家事や家

族の世話」五三・九%がトップ、

仕事探しの経験のある人は三人

に一人で、無力感にとらわれた

ことのある人は八一・六%。

女子教育問題研究会の「ライ

フサイクル第三期の意識構造と

社会教育に関する調査」で。

(10・20信毎/10・27中日)

主婦が好んで読む本

婦人雑誌(五三・三%)趣味

の本(四五・七%)生活実用書

(四一・四%)の順。「一か月の

平均読書数」二・九冊、「一日

の平均読書時間」五二分、「一

か月の平均購入費」一七〇〇円

(三和銀行の読書調査、四〇三

人の主婦が対象)。(10・28読売)

妻からみた夫の素顔

マージャンをする夫は四四%

「うるさい」と嫌われ五一%は

雀荘で。一方、ゴルフ・ウイドー

は二〇%だが、「仕事のうち」

と公認。家事を手伝う夫は洗た

く一〇%、料理二五%、掃除三

三%、若い夫ほど協力度が高く

料理は「妻より上手」が三二%

も。東芝商事の首都圏と関西圏

の主婦一一〇〇人調査で。

(11・2毎日)

ヤングミセスの妊娠・出産

東京都内に住む二〇代から三

○代前半の主婦三〇〇人を生命保険会社が調査。「出産は里帰りして」四三%、「里帰りしなくても母親の世話に」三五%。妊娠・出産に関する知識は七八〇%が医師や保健所から受け、寺社へ祈願に行くのは五〇%、お守り札を持っている人が七〇%。「意外に保守的な傾向が強い」と調査者。(11・19朝日)

### 主婦のボーナス額予測

予測とはぼ同じ五〇%、減る一%、ふえる三二%、平均五万七千円を期待。使い道は貯蓄五六%、消費三二%、返済二%。小遣いは、夫三万二千円、妻一万円。(11・30朝日)

## 「子ども」

親の願う子の未来像

男は体力第一、女はやさしく。

日本生命保険会社と阿部進創造教育センターが協力して行なった「わが子の期待像アンケート」の結果。(1・23朝日)

母の悩みは「じつけ」

母親の六割が子供の「じつけ」に自信がなく、家庭教育の一歩の悩みもしつけ。徳島市小学校PTA連合会婦人部が、同市三〇校、佐那河内村一校の小学生の母親一五、四八五人を対象に実施した「家庭教育に対する母親の意識と実態調査」で。

(5・4徳島)

子供が作る料理

料理を作ったことがあるのは、女子九四・三%、男子八六・八%。主な料理は男子ラーメン、女子ホットケーキ。好きなものはカレーライス・ハンバーグ・スパゲッティ・ラーメンの順。

「作る動機」は男女とも「自分の好きなものが作れるから」で母親は手放して喜べない。M電機がまとめた「チビっ子料理作り実態調査」都内小学五、六年生一〇〇人のアンケートで。

(5・8朝日)

初潮の知識をだれから

学校の先生五七・二%、母親一五・五%、先生と母親一四・三%、全く知らなかった人三・六%(花王石鹼研究所の調査)。(12・1読売)

## 「結婚・離婚」

空前の離婚ブーム

厚生省がまとめた「昭和五二年における人口動態統計の概況」によると、離婚件数二万九千件、人口千人当たり一・一四、四分四秒に一組の割合で離婚が

成立している。結婚五一〇年という夫婦にそのピークが移っているのが特徴。(1・1朝日)

離婚の生懸

五二年度の離婚は、夫の暴力、酒乱が主な原因。性格の不一致、浮気が次に続いている(妻の申し立て)。厚生省の調査によると、離婚した夫婦は一般夫妻に比べて、恋愛結婚し、学歴が低く、子供がいず、親と同居している割合が多い。財産分与・慰謝料は二〇〇万円以下が七割。「家事」への報いは厳しい状態にある。(3・28—30信毎)

くたばれ適齢期

日本の女性の初婚年齢が年々高くなっている。五二(77)年の平均初婚年齢は二四・九歳。高学歴化、職場進出、自主性の向上、分べん医学の発達などが



一般的理由。

「結婚適齢期」については「大事なこと」(三三%)、「大事でない」(四八%)と未婚女性に答えている(総理府調べ)。

(3・28朝日)

### 職場結婚がトップ

結婚問題研究所の今年結婚する二六〇組のアンケート調査では、知り合った場所は職場がトップで三七・六%、以下友人・知人の紹介・学校の順。女性はやさしさ・誠実さに、男性は明朗・やさしさにひかれてゴールイン。

(4・13朝日)

### 離婚急増、結婚激減

徳島県医務課がまとめた昨年一年間の県下人口動態調査概況では結婚五三三七件(一時間三九分毎に一件)、前年比二四五件減。離婚九五〇件、前年比一

〇一件増。出生児数一〇七五八人、戦後では「ひのえうま」の四一(66)年に次いで最低。

(6・27徳島)

### 結婚費用も「高やいな」

新郎二六・七歳新婦二四・一歳、結婚費用は三三四万円。うち両親負担一四四万円。二人の貯金は三七九万円、結納は見合五〇万、恋愛三〇万が相場。三和銀行の新婦一年家庭六〇〇組の調査で。

(8・27朝日)

### 結婚の理想と現実

プロポーズまでの期間は一年一〇か月。デートは三日に一度。魅力のトップはやさしさ。理想は身長一七三センチ、貯金三〇五万円、現実は一六九・七センチ、一〇七万円。「スポーツマンで一戸建ての家に住み、両親とは別居、キャンブル、お酒を

少々やる人」が理想。「意外に謙虚で高望みしていない」と調査担当者。今秋結婚する女性二三〇人を対象にした湯島会館の調査で。

(9・22朝日)

### 農家の嫁OKは六―七割

「せひ」と言われたらOKは六―七割だが、非農家の女性の六割は「非農家で親と別居」を希望。伊那市農委の調査で。

(10・30信毎)

## 【家族】

### 母ちゃんが支える農業

農家婦人の年間農業従事日数一五〇日以上が七五%、五三%が農業機械を操作。農業機械が原因の労働災害三%、農繁期睡眠時間平均六時間二分。四時間以下三・二%。年中無休の婦人二四%強。

全国農業会議所が昨年八月一日、全国の専業農家、作目部門別四六二八人の既婚婦人対象に行なった農家婦人動向調査で。

(5・20徳島)

### VTRは夫と息子用

ビデオ所有者の家族数平均は三・六人、年収三九〇万、カラーTVは二・三台。主な利用者は①夫五四%②息子二七%、妻と娘はほんのわずかで四六%は夫が独占。息子の八割は個室で利用し親も手を出せない。女たちは当然おもしろくないが、機械操作に弱いのが泣きどころ。日本ビクターの二二七世帯の調査で。

(7・14日経)

### 男は職場、妻は子を夫を

三―四時間後に大地震という警戒宣言が出勤三〇分前に出たら、管理職の三〇%がすぐ職場

うまくいってても複雑

に向かうと回答。一方夫や子を送り出した後の妻は①使用中の火を消す②夫と連絡③子と連絡④避難袋の点検⑤避難⑥近所の人と相談の順。警視庁の八〇〇人調査で。

(8・26朝日)

浮気できる亭主関白が願望

東京の大手電気メーカーが三五一四九歳の中年男性とその妻三〇〇人を対象にした調査では妻からみた理想の夫のトップは「妻の具合が悪いとき料理を作ってくれる夫(八八%)」。中年男性側は「たまには浮気のひとつもできる(五四%)」。(8・30日経)

妻からみた理想の中年男性

「病気のとき料理を作ってくれる人」「給料を全部妻に渡してから小遣いをもらう人」などが妻の理想。三菱電機の一五〇組の夫婦調査で。(9・5毎日)

嫁としゅうとめの同居について。

「うまくいっている」は嫁三割、しゅうとめ四割。秘けつは「何でも相談しあう、お互いに良いことは取り入れる」、反面「他人と考え干渉しない」が二割、「がまんする」が一・二割。都民銀行の同居する嫁(二〇一四〇歳代)、しゅうとめ(四〇一六〇歳代)各三五〇人のアンケート調査で。(9・17朝日)

亭主関白は二人に一人

「亭主関白」四八%、「家庭では絶対的な発言力がある」四一%が、「給料は銀行振り込み、封を切らずに全額渡す」六八%(第百生命・都内の会社に勤める五〇〇人の父親の調査)。

(9・20中日/10・6読売)

家計を助ける妻の収入増

不和のサラリーマン世帯の実収入は月平均二九万円、前年度比。世帯主収入八・五%、妻の収入二二・五%増。家計を守るため妻が職場に出ていかざるを得ない状況(生活白書)。

(11・3読売)

ヨメとシュウトメ

不和の原因の大半は「口のきき方」と「干渉」。日本老年社会科学会会員吉沢勲氏が調査。

(11・6毎日)

## 【その他】

女性の生涯教育受講熱

「女性のための生涯教育に関する意識調査」(生涯教育を考える会)によると、婦人・家庭学級参加者計三〇八人のうち、

八三%が既婚者。無職五六%・有職一三%で三分の一が大卒以上。「自分自身をみつめ直し、今後の生き方を考える糸口がほしい」が主な動機で四人に一人。(7・14日経)

タテマエは、地位向上に賛成

読売新聞社が全国三〇〇〇人対象の「婦人問題調査」によると「女性の社会進出」に賛成は大都市で六四%に対し町村部は五八%、二〇代六四%に対し六〇代四三%。高学歴と革新政党支持者に賛成が多かった。

しかし「女性の地位向上運動に賛成」の女性は六一%もいるのに「男は仕事女は家庭」を肯定する人は二七%。男性も「女性の地位向上」を五六%が歓迎しながら「妻は仕事を持つより夫を助けるほうが大切」は八〇%も。米国の同じ調査では婦人運動に賛成の女性は五〇%で日

本より少なく、反対は二九％で日本の一四％の倍以上だが、これは逆に婦人運動が社会に実効をもたらしている事情を反映しているのでは、と推測される。

(7・24読売)

### 「平等意識」増実に浸透

総理府が男女有識者四一〇〇人余りを対象に行なった婦人問題に関する世論調査では、「男は仕事、女は家庭」という伝統的な考え方を支持する人はわずか二〇％。公務員採用試験での男女差別にも厳しい批判の声が上っている。(9・18朝日)

### どんなタイプの女に?

「なりたい」のは①素直な女②かわいい女③やさしい女④かしこい女⑤まじめな女の順。しかし自分は①まじめな女②陽気な女③素直な女と思う(静岡

銀行の女子行員アンケート調査。  
(10・7読売)

### 学問の世界にも男女差別

〈愛知婦人研究者の会〉が、県下の大学・短大に勤める女の先生と、大学に勤めていない婦人研究者九〇〇人を対象に実態調査。五八％が「差別あり」で仕事への意欲が高まる三〇代、四〇代が多い。「男女差別をどう思うか」には、あって当然、やむをえないが六一％もあり、二〇代のあきらめ、五〇代の同性批判がみられた。  
(10・21・22中目)

### 男より少ない女の自殺

五三年上半期の自殺者は一〇、六七一人。男女比は六対四で、四〇歳―五九歳の中堅世代が三割。会社員・公務員など被雇用者(男性)が多く、仕事疲れ・

生活苦など経済生活問題が原因。少年の自殺は四五三人(七・六％増)で、女性が一七・四％増。(警察庁初の「自殺白書」で)  
(11・10朝日)

### すす払い実態調査

「二月のはじめごろから徐々にすませた」四一・七％、「暮れに日を決め集中的に」三七・八％、「しなかった」二〇・六％で五〇代・二〇代がきれい好き。  
実行は主婦九七・九％、亭主五一％、子供三九％、平均時間一時間四八分。

ライオン家庭科学研究所の二〇代から五〇代の首都圏の主婦二〇〇人対象調査で。  
(12・5朝日)

### 母子家庭の四〇％は離婚者

愛知県下の母子世帯は一万八

三九六、全世帯の一・七七％だが、離婚四〇％、病死三三・二％、交通事故死七・一％、その他六％、未婚の母五・六％。月収平均は一三万五千円、八五・三％が就業しているが常雇いは四七・三％、内職は三二・三％で平均内職額は月一万七千八百円。  
(12・27中目)

### 五二年度養護児童調査

里親に委託されている子は全国で三七二〇人(平均年齢九歳五か月)、養護施設児三万一千五百四〇人(九歳四か月)、乳児院三二六六人(一歳)。父母の死亡より行方不明・離別、未婚の母などによるものが急増、四人に一人が両親蒸発。「子供に対する養育意識が低下している」と厚生省。  
(12・29読売)

# 意見・投書

## 〔政治〕

まず差別存在の認識を

「婦人の十年・国内行動計画」ができたが、これだけで婦人の地位がにわかに向上するものではない。性差別役割の固定観念も強いし、女子はあくまで事務補助者だという企業者も多い。婦人の地位の建前と現実のずれはまだ大きい。これからも男女差別の実態を繰り返して社会に訴えていく必要がある。

(2・3読売「社説」)

行動計画に男性も参加を

「東京都行動計画」の基本構想(中間報告)がまとまった。女性たちの反響は熱っぽく建設的で真剣そのものだが男性陣の反応はひやか。もっと男性も議論に加わり「女性参加」だけの計画に終わらせないよう。女性問題はそのパートナーである男性にも関係あるはずだ。

(2・26毎日「都政ズームアップ」)

各個人が一步踏み出して

「国内行動計画」はどこまで

実績を上げたか。婦人問題が行政施策や限られた婦人団体のかけ声だけに終わってはならない。何としても各個人が身近なところから具体的な踏み出しをしなければならぬ。

(中村幸枝)(3・7信毎)

女のグチを政治に

あきらめとグチばかりの生活から脱却して、どんなことでも近隣の人と話し合い政治に結びつけていこう。

(進藤ふじ・主婦・四八)

(4・15読売)

もっと婦人の声聞いて

福岡市郊外のある町の婦人週間のつどいに参加した。会は女性のみの実行委によるプログラムで進み、各層からの婦人が意見を述べた。どの人も「初めてのことで」と言いつつも、生半可な選挙演説など足元にも及ばぬ内容と熱気であった。ある代表は「日本は黒字だと世界中からたたかれているのに、どうして私たち日本人の生活がこんなに苦しいのか」と顔をまっかにして叫んだ。為政者は、この婦人の声を受けてほしい。

(古賀幸吉・公務員・五六)  
(4・24西日本)

婦人議員さんもっと発言を

婦人議員の声が全くなりえない。軍縮特別総会に対しても、両院超党派で平和へのアピールをしてもよかったのでは。

(丹治和子・助産婦・三三)  
(6・9朝日)

小郡リコールその後

主婦が中心になった汚職議会のリコール成立は、出直し選挙におけるリコール派が落選したため、ムダなことだったと批判する人がいる。しかし全市民が政治にめざめ、その後も主婦たちは政治学級で勉強会を続けている。四年後には婦人議員も誕生してほしい。

(上滝照子・事務員・四八)  
(6・27西日本)

独り暮らしに住宅融資を

独身者は県・市営のアパートにも入居できず、住宅金融公庫も貸し付けをしてくれない。一つ年をとるごとにいつまで働けるのかと思い、民間アパートの値上げにビクビク。マイホームをと思うが、女の独り暮らしには銀行もよい顔をしない。同居者の有無に区別なく公庫融資が受けられるようにワクをひろげて欲しい。

(公務員・老家庭奉仕員)  
(11・12・26読売)

## 〔働く〕

経験者しめ出す保母職

苦節二年、保母試験に合格、資格を生かそうと幾つかあたるてみたら、C市は新卒のみ、N市は二五歳以下、I市は三〇歳までと年齢制限にぶつかった。

保母不足というのは、どの国の話だったか。保母職は、子育ての経験者のほうが新卒の若い人よりベターだと思うが。

(無職・三〇)(1・7読売)

主婦業から脱皮したら

もう六、七年前、子供が幼稚園に入園したら、と思い続けて、やっと保母の資格をとり、今年から新入りの保母として就職。実際に働いてみて、主婦でいることがどんなに安穩で甘えていられる世界だったかが、よくわかった。(投書)(1・28毎日)

長野県にも「保母の日」を

保母・寮母さんたちの仕事は重要で大変なわりには、その内容が社会的に十分理解されていない。神奈川県のように「保母の日」を制定し、県民あげて理解と感謝を。(2・5信毎)

働く主婦は「賃料」もって

アメリカでは、既婚婦人は経験を積み、物事の判断が的確と評価されている。女性の側にも努力が必要。出産するから働かないというより、出産に男たちを協力させる。長男を産んだときは取引先に家まで来てもらったし、次男のときは翌朝九時から電話で仕事をした。しかし重要な仕事のととき息子が発熱したら迷わず息子のそばにいる。仕事は取り返せるが息子は取り返せない。(ザ・ファッショングループ講師として来日したエリノア・マクミランさん)

(2・28読売)

働ける時には年齢制限

「子育てですんで、さて再就職と思ったが、元の教職への復帰は年齢制限にひっかかってで

きないことを知った。子育ての経験ある人生経験豊かな女性がその力を十分發揮できるように、価値観の転換を。」(投書)

(3・9朝日)

“三年で一人前”を目標に

やむなく女子学生を採用したが、採るとき初めから締め切りを作り、「三年しか働けないと思つたほうがいい、それまでにできるものを作れ」と言つた。編集という仕事はレイアウトならレイアウト、校正なら校正、と分離して技術を売ることができる。二、三年たつて去るとき、これができると言えるものがあることは少ないが……。

実をいうと締め切りは男にもあるのだが、ないと思つているから、定年になったときできるものが少ない。わずか三年の女に似ている。

(山本夏彦・評論家)

女子学生と就職

(3・20毎日)

長い間の夢を追つて、国立大も振り捨て、就職のためにはいった短大でしたが、もう仕事に生きたいを求めるような甘い考えは持てません。企業は、行動的な女子社員ではなく、事務処理のみを要求する。

(大堀夫美恵・学生)

就職して一〇年目、曲がりなりにも育児と仕事の両立六年目の私。就職の決まつた女子学生に伝えたいのは、ともかく仕事をやめないこと。育児の知恵を仕事に、仕事の知恵を育児に、意識的に応用できるようにする。

(野口和子・会社員・三三)

女性就職しても、結婚・育児が自分を待っているという気があるので長期的計画を立ててに

くいと思うが、だからこそ長い目で自分の人生を見ることが必要なのではないだろうか。一〇年後の自分を頭に描いて就職を決めることをお勧めする。

(佐藤陽子・主婦・二五)

(3・30朝日)

中高年者採用、大成功

ストロボメーカーの佐藤光機の発展は中高年者の積極活用にある。六〇歳以上の中途採用者もすべて正社員扱い。高度成長時代の人手不足が発端だったが、予想以上の働きに、いまは六〇歳の人ややめたら六〇歳の人を補充と積極的。高齢者雇用奨励金の年齢制限(上限六五歳)の撤廃や年金の拡充を政府に望む。

(佐藤英代・佐藤光機取締役)

(4・16朝日)

ストに泣く時給生活者

やっと復帰した職場にストで行けず。老父母をかかえてその日暮しの身、日給の二一〇〇円がもらえず途方に暮れる。この責任は誰がもってくれるのか。

(山地のぶ子・未亡人・六〇)

(4・28朝日)

羨ましい外国の看護婦

米国の看護婦には佐官やジュネラルの位の人もあるし、ロンドン市内にはりっぱなナースの銅像が建っている。我が国のように看護婦の地位を正しく評価できない社会は、文明国にはほど遠い。

(太田成美・団体職員・五七)

(5・9朝日)

農家の嫁にも変化

近所の若嫁さんが焼きまんじゅ

う屋を開店する。自分一人で計画し、親と亭主を説得し、借金・宅地変更手続き・大工の手配までした。決断と実行に拍手。

(塚越アサ子・主婦・五三)

(6・8朝日)

男女差別是正に組合努力を

露骨な男女差別を制度化している企業がまだ多い。差別はもちろん許せないが、法的に争う余地もなく「無効」とされる差別制度が現実にはまかり通ることが問題。

それにしても労使が結ぶ労働協約で女子の若年定年制の二割近くが定められているのは理解できない。労働組合はもっと積極的に是正に取り組むべき。

(6・27朝日「社説」)

再就職して初めて知る

夫の死で会社づとめをするよ

うになり、家事と仕事を両立させるのは容易なことではないと改めて理解できるようになった。

しかも再就職は、妻・母だけであった三五すぎの女には選択権も無に等しく、溶け込むのも大変。だから、若い共働きの人が仕事をもち続けられるよう応援している。(台田京子・会社員)

(9・28中日)

元女子大生のつぶやき

多忙な子育ての時期も峠を越え、「仕事を持っていて良かった、夫におぶさることなく、人間として自立していることは幸せ」と感じている。

共働きの苦しみも悲しみも、いやというほど味わい、わが子にも幼い時から耐えることのみ強いてきたが、母親の後ろ姿をみて育った二人の娘は、一生賃く職業を持つことは当たり前だと信じている。

(西野チトセ・公務員・四一)

(10・2西日本)

職探しにきびしい現実

若い女性より仕事の能率も良く礼儀もわきままえていると思うが、都会では仕事に恵まれなかった。今は田舎で洋裁に専念。

(大川池世・五三)

五〇歳の女性を採用したが仕事が遅く、責任感も劣っていた。子供の手が離れ再就職される方は人一倍努力を。そうしなければ中高年女性の社会進出は進まない。

(匿名希望・三三)  
(10・18読売)

職場の男女平等を阻むもの

女子学生側の勤労観にも甘さはあるが、企業が腰かけ就職を批判しながら若年定年制や結婚退職制を設けているのはおかしい。

い。

国も「母性保護」に十分配慮しながら、時間外・深夜労働制限の科学的見直しを行なうのとなわせ、国家公務員の女性を率先増員したら。

(10・22朝日「社説」)

働く姿で見せたい母の一日

「僕が学校へ行ったあと何しているの？」と小二の次男に聞かれた。かつて私は針を懸命に運ぶ母の姿をいつも見ていた。私も息子にわかる母の仕事を持たなくては。

(山口みよ・主婦・四〇)  
(10・22朝日)

男女同一賃金実現法

女性のトラック運転手も熟練工も欧米では珍しくない。賃金がいよいよに男に独占させる手はないと。

スウェーデン政府は男の仕事とされていた所に女を使い、女の職場に男を使う会社に奨励金を出すことにした。日本では勤めてはいても仕事のない女が多すぎないか。

(10・26毎日「余録」)

なぜ女はボーラー扱えぬ

母子家庭の母として寮母をしていたが、ボーラーは女が扱ってはいけなと転勤命令。女ゆえに資格を取れないのは割り切れない。

(山本須磨子・寮母・五一)

(10・30毎日)

“私の仕事”を持ってほしい

男は仕事・女は家庭というパターンは歴史はじまって以来の固定観念ではない。最近まで女はいつも男と共に生産を支え、何かの形で社会とのかかわりを

持ち続けて来ている。女性も「私の仕事」といえるようなものを選んでほしい。

(永井路子・作家)(10・30東京)

自宅通勤第一条件の企業

親もとを離れての就職は大変不利。入社試験の受験資格さえ与えられない。企業側に試験や面接を重視して採否を決めるようお願いしたい。(学生・二〇)

(11・8読売)

キャリアアウーマン考

一〇年、一五年と体を痛めるほど勤め続けてきた女たちは決してキャリアアウーマンとは呼ばれない。

数種の女性誌だけがキャリアアウーマンを含めて「仕事を持つ女」をうたいあげる。女たちはそんな記事にきわめて冷淡である。職場での過酷な仕打ちを

身をもって感じているから。(舟本恵美・「政治を変える女たちの会」会員)(12・27京都)

## 「老人問題」

難病の母を預かって

小さな子を三人かかえ、実母の病気の面倒をみるということがどんなにたいへんなことを身をもって知らされる。施設の話も人づてに聞く。だが自分の親ぐらゐてあげられなくて人間といえるか、自問自答しながら過ごす毎日です。

(小柄登美子・三三)

(1・10朝日)

寝たきり老人問題に関心

「主婦と老人問題」というテーマで投稿を呼びかけたところ、八〇通中の大半は寝たきり老人の介護問題について。「人の世

はまわり合わせ」と覚悟を決める嫁や娘は多い。けれど体験者からは「命がけでした」と、その声は重い。(3・16朝日)

主婦と老人問題

「だれにもじゃまされず残りたい人生を大切に」と市の図書館に通い、源氏物語をはじめあらゆる小説を読んでいる。他に、絵画・習字・短歌など情熱を燃やしている。一日一日を大切に最後の審判の日が来ても悔しいことはないとの準備を。

(松浦美代・七二)

両親の今の姿は、明日の私の姿だと思っている。間もなく同居するのだが、私がどのように親に接すれば子供が納得してくれるかと考えている。

(石岡文子・三三)

(3・16朝日)



介護年金制度がほしい

現行の一時的な介護手当のようなものでなく、夫の死後、妻に扶助料が支給されるように、女性同士でも、母娘でも、生活を共にし、最後まで介護してくれる人には介護年金を支給してほしい。

(森田竜子・六二)(3・23朝日)

老人の世話の女の仕事か

社会的習慣で一方的に女に押しつけられ、女が我慢して来たからこそ問題が表面化してこなかったに過ぎない。老人問題はこれまでのように、一方的に女に重荷をおいかぶせるという形であってよいはずはない。なぜなら、男にとっても親であるし、老人も国民の一人として働いてきた。

(上山隆恵・三五)(3・23朝日)

同情よぶ姑殺し

病人ではあるが少し歩けたり看護する家族がいたりすればホームヘルパーの派遣や手当金にあずかれないケースが予想外に多い。名古屋で起きた評判の孝行嫁による姑殺しもこうした行政の谷間で起きた。谷間を埋める努力を行政に望むが、悩める家庭側も一人で苦勞を背負わずに、もっと率直に周囲に援助を求めてもいいのではないか。

(5・1朝日「今日の問題」)

老人の世話、なぜ女だけ

一人暮らしの実母が寝たきりになったが、やっと社会復帰して得た仕事を捨てる気になれず、土・日に泊まりがけで看病に行っていたら、「実の娘が働いている場合じゃないだろう」と周囲の非難を浴びた。

週二日看護に通う兄嫁も、

「世話が足りない」と皆から批判される。責められるのはいつも女だけだ。

(設計技師・五二)(7・17毎日)

嫁に付き添い料払いたい

もし、ある期間、嫁に看病してもらおうようになれば、私は嫁に対して世間相場の半額でもいいから付き添い料を払いたい。嫁に話したら一笑に付されたが、決心は変えぬ。

(清瀬町子・七二)(7・31毎日)

嫁いらす寺、繁盛に思う

老後の長患いをしないようにとの願かけ寺、心ない名前をつけたものと思いつつテレビニュースを見ると、札を買う列は老女ばかり。みとる立場もみとられる立場も女が多数。神頼みをせずともよい国にしたいもの。

(石毛和美・主婦・三一)

(11・12朝日)

## 「家・夫婦」

嫁の親元の重荷、改善を

嫁いだ娘の出産祝いはずいぶん嫁を持った親だけに負担がかかる。祖父母・両親と同居ならよけいに気をつかう。「嫁の生家で持つて来るべきだ」はぜひ改めたい。

(山本昌子・三五)(2・9信毎)

\*

「嫁いだ嫁の親元の重荷改善を」に同感。家と家との結婚の古い形式を脱皮、「嫁にもらった」のだから当然嫁の親のほうでやるべき——の不合理な習慣をやめ、若夫婦も改善の努力を。(下田昭枝・三二)(2・15信毎)

妻の離婚記事にショック

を受けた。一〇年間の住民運動

や消費者運動で自立の必要を感じ

た妻が三年間の結婚生活を

解消した。「オレはまじめにやっ

てきたのにどうして家庭がバラ

バラに」という会社課長の夫の

言葉にドキリとした。会社でぬ

けがらになり、家では放心して

TVを見る夫は、ひとことでない

感じだ。(福田定良・評論家)

(3・23毎日)

夫婦は他人

夫婦となって四〇年もすれば、

もうきようだい同様、肉親と交

わらないといわれる。それなら

なんでも本心から話し合えそう

だけれど、無難に暮らしてきた

夫婦でさえ、肝心のことは言わ

ない。お互いに言いたいことは

山ほどあるけれど、都合の悪い

ことは一切だんまり戦術である。

何年一緒に暮らしていても、夫

婦は決して本音を吐かないもの

らしい。(野中きみ子・六〇)

(3・24朝日)

夫婦の幸せとは

夫婦百態。どこの夫婦も他人

のものさしでは計れぬものをもっ

ているのにちがいない。

私は小さな音楽教室を開いて

主人の相手をする暇も惜しんで

自分のことに没頭していた。今

のうちに心おきなく主人の相手

をしてやるべきか？ 私の心は

揺れ動く。

(中田芳子・四六)(3・28朝日)

家計簿で春闘を

夫は職場だけで家庭や地域の

問題は知ろうとせず、妻は夫

の会社の春闘に無関心。だから

本当に生活に根ざした要求がな

かなか出てこない。労組は妻の

家計簿を武器に春闘の団交をし

ては。

(清水鳩子・主婦連事務局長)

(4・20朝日)

婦人誌投稿時の嘆き節

『婦人公論』の詩の選を八年

続けているが、投稿の束からは

孤独の響きばかりが聴こえる。

新居に住んでも心の中に吹き

抜けるすきま風こそ結婚の正体

なのではあるまいか。高学歴社

会だというのに、自我の形成は

どうなっているのか。

(関根弘・詩人)

(6・22社会新報)

NHKの「夫婦」大反響

夫婦・親子の人間関係は、日

に日に新しいものにしてゆかな

いと、とんだところにはまりこ

むことを示した。

(5・28信毎「女の机」)

\*

老後の夫婦のあり方を考える

には絶好の材料。「趣味もある

し友達もいっぱいいるから、あ

あ子供べつたりにはならないわ

よ」と言いつつ、内心ギクリ。

(江川洋子・主婦)(6・5読売)

\*

会社大事に勤めた夫、子のため

に自分を殺して生きた私。共通

の話題があるはずがない。

(狩野雪江・主婦・六〇)

(6・15朝日)

「夫婦」は日本家庭の深層を

いろいろな角度から見事に掘り

起こした。

第一に子育てを終わった夫婦

の結びつきの弱さ。日本の夫婦

は子供と戸籍でしかつながって

いないという外人の悪口が証明

された。

第二は母親の男子執着。

第三は結婚した子供は夫方より

妻方に近づくということ、つまり

直系制親子同居論への痛弊

である。

六五歳以上の老人の七六%が子と同居し、この傾向は一〇年たっても変わらないと予測していた私は、にわか自信をなくした。(湯沢雅彦・家族関係学) (7・2朝日/7・4中日)

### 里帰りと長男の嫁の立場論争

「同じ主婦である兄嫁の犠牲で、主婦業の骨休めをはかるという里帰りについての伝統。両親が年をとるにつれ同居している兄嫁さんの世話も増える。兄嫁さんの代わりに働いては？」

「田舎の土地や財産は兄が全部相続するのよ。どのみち私は放棄させられるんだから宿泊料をたっぷりと前払いしているつもりになってせいぜい利用しとかなくちや！」 (7・16毎日)

### 子供のいない夫婦

「お前は女ではなくカンナだ」

と夫。実母も「お前だけカタワに産んだ覚えはない」と言う。

(川崎・主婦・三三)

無事妊娠したという人にはしつととせん望の思い。悲喜劇は言いつくせません。体外受精に心が乱れます。

(東久留米・編集者・三七) 生後まもなく養子にされた。子のない悲しみを私で埋めようとした養親のエゴイズムに怒る。

(横浜・主婦・二三)

産まない合意で結婚した。子にかかる費用と時間を互いの人生の充実に使いたい。

(東久留米・主婦・二六)

手術をしたがアウト。年とったら寂しくなるか？ そのときはケ・セラ・セラ。

(古河・主婦・三五) (8・17朝日)

### マイホーム主義のもろさ

親子心中があとを絶たない。

最近の特徴は親が三、四〇代の若さであること、子を無理に道連れにしていることだ。彼らにはマイホームの幸せが生きがい

で、それは一見美しいが、構成分子の一つが何かで傷つくと核全体が生きる力を失う。個としての強さを欠いてはマイホームの幸福と安全は獲得されまい。

(8・31朝日「今日の問題」) 夫から初めてのいたわり

二五年間の姑任えを終えた私へ、夫は「永い間ご苦労だったな。オレたちの人生はこれからだ」と。「女になんか頭が下げられるか」という亭主関白の初

の言葉だった。

### 兼業農家の悩み

嫁・妻・母の大役をになって七五アール余りの田畑の耕作に

従事、社会から隔離された寂しさを感じて焦燥感に駆り立てられる。その矢先、会社勤めの夫は突然入院。社会への未練を断ち切り、農家の嫁に徹しようかあるいは田畑を貸そうかと岐路に立っている。

(藤村君代・農業) (11・2西日本)

### 彼が希望した現代妻の条件

一に家事万端怠りなく。

二に毎朝「ぼくが起きる前に化粧していてほしい」

三に夫を助けるために内職を。ただし、外働きして夫より優位にたつことは禁ず。

四に出産にいつでも応じられるように体を鍛えておく。

五に人間関係のいざこざを起こさないよう特に気をつかう。

——彼が求める家事ロボットになりたくなかったので、結婚まですませた婚約を解消した。

(平坂郁子・学生・二五)

(4・19朝日)

勇氣ある決断に拍手

現代妻の条件を聞いて婚約解消したお嬢さん、年こそ違え、同性としてびっくりしました。

あなたのおっしゃることは当たり前のことだと思うのですが、なかなかノーと言えないもの。

近ごろ珍しいと申しては失礼ですが、このくらい筋の通ったことをはっきりおっしゃる勇氣もおもちのあなたに敬服しました。

(古賀君江・主婦・五三)

(4・28朝日)

\*

男性が望む現代妻の要求を当然とする女性の意見に恐怖。なぜ女性の心と人生を無視した意見をいなければならないのか。

(山本明子・学生・二二)

私たちは、男性と同様さまざまな人間的欲求を持った存在で

す。一個人の人間として認められて生きたほうがずっといい。

(斎藤敏子・学生・二二)

(5・5朝日)

\*

若い女から「現代夫」の条件を言えば、

一、身長一七〇センチ以上。

二、一流大学卒。

三、一流企業勤務。

四、家事を分担する人。

五、親とは別居。

自分に都合のいいことのみを主張している点では「現代妻の条件」と同じでナンセンス。

条件をあげるのは無意味だが、しいて言えば、「自分の意見を持ち、相手の意見も尊重する人」がよい。(橋美江・学生・二〇)

(5・16朝日)

正しい離婚率統計を

「六夫婦に一夫婦が離婚する」という統計は、全人口をそのま

ま母集団として算出する普通離婚率で、我が国のように人口構成の変動が著しい時代に適用するのは正しくない。夫婦総数あたりで算出した訂正離婚率をこそ採用すべき。昨年でも実際には、二三〇組の夫婦のうち離婚は一年に一組しかないのだから。

(湯沢雅彦・お茶大教授)

(6・8朝日)

結婚披露宴にくふうを

祝辞を従来の半分にとどめ、

新郎と新婦が、同僚・友人・親類たちの中に五分ずつでも入って親しく歓談することに当てるという改革はどうか。

(湯沢雅彦・お茶大教授)

(6・16読売)

未亡人ばんざい

寂しいのは事実だが再婚したいとは思わない。死別して得た

自由は予想以上に私の人生に潤いを与えた。妻たるものはいかに見えない束縛に阻まれていたか。

(飯盛早苗・四二)(9・22信毎)

長男の結婚難は社会問題

ひとり息子や長男と聞くと、両親とは別居の条件付きでも結婚に二の足を踏む女性が多い。

男性の結婚にも、老人問題・婦人問題・社会福祉問題のすべてがからまっている。

(11・28信毎「女の机」)

後家暮らしに冷たい目

未亡人がちょっと目立つ格好をすると、すぐ身もちが疑われる。それに対して聞き直ることもできない女の現実を見過しにはできない。

(12・1信毎「女の机」)

面接権を尊重しよう

離婚による被害者は夫妻いずれともいえないが、まちがいなく被害を受けるのは子供だ。欧米ではすべての人が持つ固有権の一つとして面接権が守られており、子は別れた親に会う権利を保障されているが、日本では面会を阻止されることが多い。双方の親が生きているのに死別と同じ状態に追い込むのはあまりに野蛮ではないか。

(石井竜生・井原まなみ・夫婦作家) (3・26毎日)

再婚した戦争未亡人の願い

四歳、五歳の二児をかかえ二四歳の年の差を忍んで再婚した私は、亡夫の補償を失権。病夫の看護と子育てに就職の機も失した。

再婚したゆえにより多くの涙を流した永久失権者たちに複権

のとびらが開かれることを願ってやまない。

(錦織節子・六一) (3・28毎日)

## 〔女・主婦・母〕

主婦の「社会参加」とは

社会参加とは、共に生きる「我々意識」を育て、自他の生活を守るために他者に本気にかかわっていくところにある。

「子供が足手まとい」「夫に妨げられる」というとき、その子にそして夫に、どうかかわっていかかといったことも問われるのではないか。

(山本和代・日本女子大講師) (1・13読売)

女の力を死蔵するな

「日本の高度成長は、日本が女性にも高い教養をほどこしたことも大きな理由。今後は女性

を仲間として認め、政策決定、管理部門に参加させないと日本の将来はかげろでしよう」——社会学者のエリゼ・ポールディング博士の意見。

夫の未来学者ケネス・ボールディング博士は「世界の人的資源の半分である女性の能力が死蔵されているのに耐えられない。女性運動を支持する」。

(1・13読売)

結婚すればただの女?

結婚して一年半。四か月になる長男のおしめの洗たくと泣き声に追いまわされている毎日。女性の自立について話し合い、夢を語り合ったのはつい数年前のことなのに。

(主婦・二五) (1・27朝日)

\*

「男は仕事、女は産むこと」という言葉を本で知って一時はうなったこともある。が、これ

で万事終われりとするのでなく、そこからあえて出発するところに、遅ればせの人間がこれからの時代を生きていく姿勢があるように思う。その時こそが、文字通り「ただの女」からの脱却の時ではないか。

(主婦・三五) (2・3朝日)

娘と一緒に考え成長を

結婚二年で夫と死別。当時七か月だった娘も二歳六か月。いろいろとうわさする心ない人たちに何度も泣いたことがあるけれども、おじいさん・おばあさんの励ましでがんばっている。

父を知らない娘は隣りのご主人をパパと言うが、こんな娘を決して不幸な子、かわいそうな子とは思わない。これからの長い人生、娘と一緒に考え、娘と一緒に成長してゆきたい。(投書)

(2・20毎日)

日本女性は奴隷なみ?

フランス共産党マルシェ書記  
長が国営テレビに出演、「日本  
は社会条件の点では世界に最も  
遅れた国だ。バカンスはなく女  
性は奴隷のように扱われている」  
と発言。北原フランス大使は訂  
正を求める抗議の書簡を送った。

(2・22毎日)

思いきってやってみたら

時間がない、と思っても  
やってみたら、自分のやりたい  
ことは意外とできるものだ。子  
供の世話と家の中の雑用に明け  
暮れ、むなしと嘆いている主  
婦の方、一番の敵はあなたの心  
の中に巣くっているのではない  
ですか。(投書)(2・24毎日)

旅と女性

旅行の楽しみ方が上手な女性

の旅行者がふえていることによ  
て、われわれ日本人の旅行文化  
は大きく変わりつつある。変化  
のひとつは、旅行が生活に密着  
してきたこと。運輸機関や宿泊  
施設の発達、所得や余暇等の増  
大によって旅行が容易にできる  
ようになったためもあるが、男  
性よりも、現実的である女性の  
影響が強くなったからであろう。

(内藤錦樹・日本交通公社調査  
研修部主査) (2・27読売)

人間として生きる模索を

女性は幼い頃から自分の人生  
に対して絶望していると言って  
も過言ではない。男にとって人  
生の選択の道は広いが女にとっ  
ては決められた道を踏みはずす  
ことは許されない。つまり妻で  
あり、母であるという狭い道。

女の人生は結婚にすぎないと思  
い込まれている若い女性は追  
い込まれた環境の中で少しでも

美しく華やかに散りたいという  
諦念がある。しかしどうやっ  
たら「人間」として一人前になれ  
るか、一個の人間として生きら  
れるかそれを考えたい。(投書)

(2・28毎日)

夫の収入をあてにするな

夫の収入は、家族の最低生活  
費と、借金返済分とみなし、暮  
らしにゆとりを取り戻し、人間  
らしい生き方をする自由な支出  
に見合う収入は、女の手で獲得  
する考え方をしよう。女性の社  
会的地位を高め、夫と妻の対等  
な開かれた家庭経営に向かつて  
女性が努力すること。

(青山三千子・生活経済評論家)

(3・3読売)

私を愛えた母

道楽者の父はよそにたくさん  
の子をつくり、わが家の米ビツ

はカラのことが多く、教科書も  
買ってもらえない。だから学校  
では落ちこぼれ、万引きもした。  
そこから脱出できたのは母のお  
かげだ。

真夜中でも針仕事、日中は派  
出婦、集金人など、昼食をとる  
間もない。「おシッコはどこで  
するの」「野っ原でさ」——私は  
無性にみじめだった。

ところが母をある日外で見た。  
太陽に顔を向け、胸を張って歌  
なんか歌っている。貧乏や不幸  
に少しもくじけてない。人間に  
は、マイナスをプラスに変える  
力があるとわかった。

(早乙女勝元・作家)

(3・4読売)

「三銃士」と女性尊重

日本映画や日本の大衆小説に  
大きな影響を与えた「三銃士」  
中でも大きな影響は、日本の武  
士道になかった「女性尊重」の

気風だろう。宮本武蔵の「お通さん」もその一つ。

(佐藤忠男・評論家)

(3・7朝日)

妻の成長、喜ばぬ夫も

主婦も社会参加とともに別な責任も生じ、問題を考える機会も生まれ、徐々に成長する。ところが共に成長しようとする男性はごく希れで、夫は妻の成長を喜ばない。私は一四年間の結婚生活に終止符を打って障害者施設で問題に取り組んでいる。

(投書)(3・9朝日)

女の友情

女は男のようなのめりこみ方はしない。何もかも忘れて一つことに打ち込む女は、女性としてはブレイキがこわれている感じで「困りもののお嬢さん」になりやすい。男以上の業績をあ

げる女史やズベ公はこのタイプである。

しかし一部のタイプにしか見られなかった女性間の友情が、近ごろでは一般化し、体験を伝え、はげましあう女性グループが多くなったように思う。

(三浦朱門・作家)(3・14毎日)

日本女性に奴隷か

仏共産党マルシェ書記長の「日本の女性はまだで奴隷」発言をめぐって――

「日本の女性たち自身が、今のうちに低い地位でいいというのなら、日本女性に奴隷ではないのでは」

(熊本商科大学助教授・林弘子)

「家では妻を虐待していても決して口に出しては言えない文化と、一国の首相夫人でも夫になぐられたとスラッと言える文化との違いではないかな」

(「わたしは女」編集長・石井)

慎二 (3・15読売)

母、古在紫琴

二歳前、乳を飲もうと胸を開いたら、スミクろぐろと鬼の顔。乳はなれの配慮だった。

九歳、ハリイ星を見る私に「八六歳にもう一度見られますよ」。ホオずりされるよりも愛が溢れた。

家事を終えた後二時から二時間、日課の読書。冷静で理知的だった。

せめて一月でいい、戦後の日本を母に見せたかった。自分の一生が弁当づくりに終わったともらった母への慰めに。

(古在由重・哲学者)

(3・18毎日)

女らしさとは

「女らしさ」のデザインで知られるソニア・リキエルさん(仏)。

「女らしさとは、なよなよした愛きょうなどとは別なもの。仕事に対して男と同じ激しさと積極性を発揮できること。それでいてある種の神秘性を持っている女のことです」(3・29朝日)

一体何を生きがい

女の一生は家事・育児と教えられ、それを信じて結婚したものの、まったく予定が狂ってしまった戦前生まれの女性たち。四〇歳で子育ても終了する。

これから先の長い人生を、一体何を生きがいにして行けばいいのやら。

(鈴木靖子・主婦・三九)

(3・30読売)

家事労働の経済的評価は

主婦の復権になるか

一九六〇年代に論争の的であった家事労働の経済的評価が、最

近主婦の側から求められている。

家事や育児を社会的に評価する

ことは必要だが、それを金銭に置き換えることにどれほどの意味や効果があるだろうか。

「夫が毎日元気で働けるのは私が家庭を守っているからだ。だから月給の半分は私のものだ」という主婦の誇りと満足感はいくつかの仮定の上に組み立てられた虚構にすぎない。

主婦の存在価値を家事労働でしか評価できないとしたら、病気などのため家事のできない妻は全く無価値ということになる。

家事労働の経済的評価は、一見主婦の復讐のようにみえるが、「こんなに価値ある仕事をしているなら、わざわざ外に働きに出なくても」という気分を生み出す恐れがある。人間にとって働くことは権利であるとともに義務でもある。

(袖井孝子・お茶大助教授)

(5・10西日本)

型としての「女人禁制」

国技館の土俵に女が登場できないしきたりは、女性差別ということでなく、一つの型として守りつづけられてゆくことだろう。能楽の世界でも女を忌むしきたりが敵にあるが、このての「女人禁制」はまだほかの世界にもあるだろう。

(6・18信毎「女の机」)

なんじの価値に目さむべし

趣味の手仕事作品を他人にゆずる場合、創った本人も、ゆずってもらう人も安くて当たり前という気持ちだ。内職といい、趣味の手仕事といい、パートといい、みな低賃金の、主婦的感覚だ。(6・20信毎「女の机」)

名前を呼んで

「おくさん」「お母さん」「お

い」としか呼ばれぬ寂しさ。たまには私の名を呼んで。

(森岡美紀・主婦・三一)

(6・22朝日)

中年は化粧より姿勢が大事

化粧品のセールの攻勢に私は動じない。中年女性でも背すじをピンと伸ばして颯爽と歩く人を見ると、本当に美しいと思う。(鈴木妙子・主婦・四一)

(7・3朝日)

燃えるー 中年女性たち

女の一生で子育て後の人生のほうが長くなったのは歴史始まって以来のこと。いかに過ごすか、いまの中年女性にはお手本がないわけだ。もっと中年論が盛んになり中年を鼓舞すると思う。(赤塚行雄・評論家)

(8・17朝日)

主婦代行役の制度化を

一家の主婦が病気などで倒れた場合、家政婦を頼むのは家庭では無理である。世に役に立ちたいと思いつながら機会のない主婦や家事体験者がだれでも登録できるボランティアのヘルパー制度を、ぜひ全国的に誕生させてほしい。(豊原恰子・主婦)

(8・24西日本)

家庭不在をついた経済学者

六〇年代初頭、家事労働は価値を生むかという論争があった。マルクス経済学・近代経済学とも家事労働を経済学の外におき、今日もGNPには家事労働は計算されない。しかし夫婦が家庭で家事労働にはげればGNPは下がる。

高原須美子「主婦からみた日本経済論・殿方の日本経済論に挑戦する」(週刊東洋経済)臨



時増刊八月(二五号)はこれに

切り込む。家事労働の総計は三五兆、男性のそれも含めると四四兆でGNPの四分の一に当たる。景気見通しが失敗を続けるのはここが原因と盲点を指摘している。

(8・29朝日「論壇時評」)

人格と性は一体のはず

売春防止法の完全施行二〇年目。人間の性と人格とは一つに結びついている。性を売ること

は自分の人格を売るにひとしい。

(10・29信毎「女の机」)

モシ、モシ、ご主人は?

用向きはきまって利殖の話。女は経済行為の主体になれないと思ひこんでいるセールスマン。主婦はどわが家の財政状態に明るいものはないのに。

(11・1信毎「女の机」)

素晴らしい仲間を持とう

「不確実性の時代に生きる」

懸賞論文に入賞の岡ふみえさん(六六)をテレビで見て感激した。未亡人の彼女を支えたのは仲間だ。主婦はそれぞれに仲間をもち、お金を得られる技能をもっていたい。

(伊原千津子・主婦・四〇)

(11・3毎日)

趣味は生きがいになるか

主婦のけいこことが盛んである。趣味と実益を兼ねられればいっそう理想的というわけでライセンス取りに走るが実際にそれを生かしたという話は聞かない。積極的に自分のものにしていこうとする意気込みや勉強が伴わなければ、趣味の形がいが残るだけ。

(生活研究家・高見沢たか子)

(11・8京都)

主婦職業パンザイ!

専業主婦業二〇年目の自称ベ

テランの私。これほど自由で気楽な職場はない。出世の望みもないただの主婦だが、二〇年無事故でやってきた。これからも役得を満喫して無事故五〇年を目標にしたい。

(川島麻砂枝・主婦・四二)

(11・16西日本)

感度のよい生活アンテナを

瀬戸内寂聴さんがある新聞と週刊誌に中性洗剤の害について書いたとたん、無公害石けんを扱っている団体に主婦からの石けん注文の電話が殺到したという。この記事によって中性洗剤の恐ろしさを初めて知った人がそんなに多いとは驚きだ。"いのちとくらし"を守る第一歩はやはり"無知"からの脱出では。

(11・19信毎「女の机」)

手づくりが信仰になると

手づくりブームである。

手づくりの魅力も感じるが、それが必須とされると、女性は外で働けなくなる恐れもある。

(天野正子・金城学院大助教授)

(11・27朝日)

進路を広げて女性も理系へ

文系短大卒は就職に有利、理工系は不利としばしば報道され女子だけしつこく文系をすすめられるという話をよく聞か、理系にも進出を!

(阪野甲子・自由業・三〇)

(12・1朝日)

母の苦悩を闇に葬るな

「母親としての苦悩を女たちは何世代にもわたって孤独に闇に葬ってきた。母として感じた矛盾を自分の娘には隠し、男社

会でうまく生きのびる手だてだけを伝えて来た。今こそ手を取り合い、共に女の文化を創る時代」

「女たちの見えない世界を見えるようにする、そこではじめて女が共通の世界を持ちうる。」  
アンドレア・リッチさんの講演  
(12・5朝日/12・13京都)

母親の社会的冬眠やめよう

同じアパートや団地の子供を預けあい共同で育てるなど、女性の持つ仕事を合理化し、各自の持つエネルギーを社会で最大限に發揮すべき。

(斉藤正美・主婦・二七)  
(12・13朝日)

男女平等論に主婦を考えよ

男女平等を考える時代の転換期にありながら、内容は低迷か「翔んで」しまっているかどち

らか。女の自立を誤解して離婚の例もある。結婚とか家庭の概念の大変革をもたらす考え方が示されていない。

(12・30中日「社説」)

## 〔男〕

魅力失った妻は男の責任

結婚した妻が子供を生んだとたんみるみる色あせ、カサカサになるのは男の責任だ。男は外で働いていることを口実に、育児は妻の天職と決めがちである。しかし育児労働は何千時間、何万時間と切れ目のない孤独な作業だ。男たちが子育て中の母親を責めたいなら、まず数千数万時間も会社にぶっつけに居座って仕事をやってみるとよい。夫がワンマン顔でせしめぬふりをきめこむなら、妻は予想したより多くの苦役をしいられることになる。

(石井竜生・井原まなみ・夫婦作家)  
(1・15毎日)

ホビ族に見る男の美学

ホビ族の成人で暴力をふるった体験の持ち主は皆無。妻を助け、料理・裁縫。戦いや荒廃を拒否する。そして合衆国政府を相手どり地下資源の探掘を断固拒んでいる。

やさしさが勇氣になるとき、はじめて「男らしさ」が美学になるのを私はそこに見るような気がしている。

(青木やよひ・評論家)  
(2・10読売)

浮気幫助する男の連帯

妻もつ男性の浮気・姦通・恋愛沙汰について、男たちは連帯しているように思える。企業のトップの人間の情事に秘書課が一枚かんでいたという話もある

が、どうしてもしたいなら、個人的にやってもらいたい。

(4・28信毎「女の机」)

男性族の不浄消毒こそ必要

“女は不浄”とは、女性が男性をマヒさす魔力を秘めているから男たちはそれを避け、不浄だなどとごまかしたことに由来するに違いない。

そんなバカげたことを言っているより、政界や財界、あらゆる男性族の不浄を大消毒したほうがよい。

(三谷宏道・元教員・七二)  
(5・28朝日)

時代錯誤の父権待望論

離婚・嫁姑問題は婦人誌の格好の話題だが、面白おかしくの編集態度が目立つ。評論すべきは、記事内容よりも編集態度。父権待望論も盛んだが、固定的

な役割分担の発想から抜け切らない。父権復活をはやしたてるマスコミ群に、せっかく育ちかけた男女平等を封殺しようとする意図が感じられてならない。

(鈴木三郎・評論家)  
(6・6、7・6 社会新報)

## 女の夢

結婚する男に結婚したら仕事をやめるかと問うと、たいていけげんな顔をする。

女というだけで才能を生かすことをはばまれるという抗議や闘いを知らされるたびに男というだけで家庭に入ることを許されないひともあるだろうと思ひめぐらす。

金持ちが樹下で昼寝している乞食に寝ていないで働け、そうすれば別荘で一日中昼寝ができるといふと、乞食は、別に働かなくてももう昼寝していますといったという話があるが、これ

からのフェミニズムについて考えさせる問題を提供していないだろうか。

フェミニズム運動が先進国の歴史に対する見方に影響を与えようか、女でなくても興味をわくはずである。

(富岡多恵子・作家)  
(7・8 中日)

## 「男の暴力」に思う

家庭内暴力は密室の中、弱い女性だけが痛めつけられ、一方的に耐えるだけだ。妻の人権を守るには、人間尊重の教育を幼児のときからしなければ。

(瀬木知子・四五)(10・29 信毎)

## 「子ども・教育・学生」

### 女の子のための子守歌

「坊やが良い子だ、ねんねし

な」はあっても、「女の子は良い子だ」の子守歌はない。そこで女の子のための子守歌を自作した。どういふわけか他の子守歌より寝つきもいい。(投書)

(1・3 読売)

### 有名大卒なれの果ての調査を

有名大学を出れば出世するという誤った考えを直すため東大などいくつかの大学を選び、五年おきに年次別に卒業生の追跡調査をしたらどうでしょう。有名大学を卒業してもあまり現状はふるわない人々が身の回りにはたくさんいます。それを知れば、親の子に対する圧力は軽減すると思うが。

(影山裕子・評論家)  
(1・4 朝日)

### 子殺しをしないで

子を殺す親の心境がわからな

い。女性には持って生まれた母性本能があるべき。同じ女性としてやりきれない。赤ん坊も将来性を持った一人の人間ではないか。(投書) (2・24 毎日)

### 受験戦争未亡人

子供の受験に母親のエネルギーが投入されている。子供の合格のためには茶断ち、テレビ断ち、友断ち。あぐくのはてに受験戦争に何かを吸いとられて一種の戦争未亡人。この受験戦争未亡人には誰かが払ってくれる年金があるわけではない。なんというムダか。(樋口恵子・評論家) (2・24 毎日)

### 母という新聞

私には母という新聞がある。その新聞は、今までの経験・知識から、確実に人生欄を読ませてくれる。

(宇賀神佐知子・一五)

(3・17朝日)

女性教頭もっと増えて

長野県五人目の女性教頭誕生に拍手。ただ五人のうち既婚者は一人だけと聞いて驚く。家庭を持つ女性をまだまだ差別しているのではないか。

(松本みどり・主婦・五〇)

(4・5信毎)

女子中・高生の外泊

(賛成派) 好奇心がさかんこの年ごろにダメだと言われればますますしたくなる。

(女高生・一七)

(反対派) 子が口実を設けて外泊しようとするのは、すでに親子間の信頼が崩れかかっている。

(主婦・六五)

(4・6朝日)

逆方向で安定

「今日の女子学生の多くは停滞あるいは後退しているというか、甘えと化粧に精を出し女の特権を利用することで安住の地を得ようとしている。二〇年前に比べて、逆方向に向かって安定しているのではないだろうか」  
「私の声」のつどいで助言者の信大助教授・北原龍二氏。

(4・10信毎)

女高生のお化粧

(賛成派) 規則規則でしばられた学校への反発が、早くお化粧をはじめた原因でした。

(学生・一九)

お化粧は非行につながるとか、大人たちがさも大問題とささやきあうことこ困ったことです。

(女高生・一八)

(反対派) ティーンエージャー

のお化粧に反対。化粧しない方が美しいから。(教員・五九)

高校って勉強する所ではないかしら。(女高生・一五)

(4・13朝日)

共学に「女の青春」なし

「女のくせに」と束縛ばかりされる男女共学の中の女生徒。女子がソフトボール部をつくりたいと言えば、男子の野球部の使用のため場所がないと断わられ、はやばやと花嫁修業を強いられる。私は男女別学で「女の青春」を模索してみたい。

(山中美和子・高校生・一六)

(4・15朝日)

共学にも青春あり

抑圧をはね返す努力をしているのも「女の青春」。男女別学に逃避したところで「女の青春」は見い出せぬ。

(原純子・高校生・一六)  
(4・23朝日)

子のためにも主婦は家庭に

チャネル争いで妹を刺殺した事件の家は共稼ぎだったという。近頃、子供に手がからなくなると勤めに出る主婦が増えているが、失うものがいかに大であるかをこの際考える必要がある。(関川栄子・主婦・四二)

(4・28朝日)

P T A役員、男ばかり

P T Aの九九%は女性なのに、長と名の付くのはほとんど男性。会則に会長は男性と定めているものもある。P T Aの会合ぐらゐは自分たちの手でやってみよう。(玉本尚子・農薬・三〇)

(4・28信毎)

## 息子の家庭科

(5・11朝日)

風呂たき、給食のフキンの洗

たく、朝刊とり、掃除、とはり

きる息子に、我が子の運針の様

ばかり想像していた私は、裁縫

ばかりが家庭科でないことを知

らされた。長続きするようにと

祖母と楽しく話した。

(山田伊都子・主婦・三八)

(5・9朝日)

働く母を悪者にするな

「チャンネル争い事件」を例

に、主婦が勤めに出るのを非難

する声は問題のすりかえ。子供

同士の残酷な事件は大人たちの

文化の貧困さの縮図であり、そ

の母親だけの影響ではない。

共働きや母子家庭の保育園育

ちに、たくましい思いやりのあ

る子供が多いことは、統計でも

明らか。

(飯田啓子・塾講師・四二)

たたえられる母性とは

かつて女には「三従」の教え

があり、母親はわが息子にさえ

かしくものとされてきた。こ

うした風土を改め、行動や言葉

で母に「ありがとう」と言える

今は良き時代だ。「母の日」が

今年で三〇回を数えるまでに根

をはったのも、決して意味がな

いわけではない。

(5・14読売「社説」)

女が理数系でなぜ悪い

「君は女の子なのになぜ理数

系を専攻するの? おかしいな」

と男子同級生。女性蔑視の発言

は教室に満ち満ちているが、今

度は同じコースを目指す

仲間からの発言であるだけ

に、がく然。

(高校生・一七)(5・23朝日)

## 女子大新設提言に疑問

長野県下には四年制女子大が

ない。他県に娘をやる親は経済

的負担が多いため女子大新設の

提言が出されたが、なぜあえて

女子大をつくらねばならないの

か。女子大の今日的使命は終わっ

ている。

(高松一夫・教員・五〇)

(5・27信毎)

## “お転婆”の変遷

かつて日本では女の子はしと

やかに育てられ、映画や芝居で

言いたいことをボンボン言うの

は水商売の女にきまっていたが、

共に悲しい運命に泣きくれるの

だった。

大正初期はイタリア映画の全

盛期だったがヒロインたちは男

たちの前にすくと立って威厳

とやさしさを示した。

第一次大戦後は米映画の時代

になるが、ハッラツとしたお転

婆ぶりで人気をよんだのがメリー・

ピックフォードである。お転婆

という言葉が嫁のもらい手がな

くなるという意味からチャーミ

ングで好ましいイメージに変わ

るために彼女が与えた影響は大

きい。(佐藤忠男・評論家)

(6・6朝日)

## 女子高“甘ちゃん集団”論

私の高校は県下一、二の名門

女子高だが“甘ちゃん集団”に

すぎず、男子校と同レベルで入

学した生徒も卒業時には格段の

差がつく。就職でも進学でも女

の人生は手抜きしても通用する

からだ。

ストの日、本校の欠席者は八

八人、男子校では七人、「長男

を学校に送るので娘は休ませる」

という電話もあったという。社

会の仕組みそのものも女の子の

手抜き人生に力を貸している。(山

懸昌世・高校生・一六

(6・6朝日)

つらい父親参観日

父親とともに物を作るような授業も組まれた父親参観日に身を切られる思いをしているのは自分だけだろうか。父親のいない子供、別居している子供は、どんな気持ちで過ごすのか、母親参観日はなくて、なぜ、父親参観日があるのか。

(松本紀子・銀行員・三七)

(6・28中日)

社会変革を恐れない保育所教育

東京都足立区の「うめだ子供の家」という保育所を見学して驚嘆した。徹底したひとり立ちをしつけ、一斉教育をしないのがこの特徴だ。二歳児が自分でミルクをボットから注ぐ。四歳児が自発的に包丁でウサギに

葉をきざんでやる。こういう個性的な教育環境からは、号令一下しり馬に乗る、という大勢順応型は育ちにくいのではないかと思う。

(7・7朝日「天声人語」)

低い母子家庭の女子進学率

国立教育研究所では中学三年の対象者六千人を、同一人について三年おきに継続調査しているが、母子家庭の進学率はかなり低く、特に女子生徒に顕著である。奨学資金などの対策を期待したい。

(田村鍾次郎・教育心理学者)

(7・18読売)

試験管ベビー以前の重大事

英国の高校で起きた未婚の女性校長の妊娠事件は、生徒の熱烈な支持により寛大な措置がとられたという。英国では、性差

別を追放しようという気運が裁判官からハイティーンにまで強まっている。これは、試験管ベビー問題以前の大事なことも知れない。(7・31日経「春秋」)

若い親の育児に電話相談を

特に深夜、赤ちゃんに異常がおきたとき相談に応じてくれる「育児テレホン相談係」が設けられ、育児のベテランがアドバイスしてくれる。

(福岡幸三郎・会社員・五三)

(9・24朝日)

男女差別を早く教えよ

憲法では男女同権をいながら、風習としては女を一段ひくものに扱う。そのことを学校ではっきり教えたほうがいい。

そうすれば、男女同権だと思っ

て自由恋愛し、ほうりだされる

女生徒をすこしはへらせるだろ

う。

(松田道雄・医者)(10・10毎日)

中三担任教諭の懐妊に思う

大切な岐路にいる生徒を受け

持ちながらどういうつもりかし

らと、女教師のおめでたを非難

がましく思ったが、娘は「先生

すてき」と夢中で喜んでい

る。女が女の足を引っ張るとはこ

のことかと反省。

(芹沢玉枝・三八)(10・16読売)

女生徒だけの工業高校

全国で唯一。福島県郡山市日

本女子工業高校。

一般に女の子は科学・技術に

向かないという観念が支配して

いるが、ち密で手先は器用、男

性をはるかに上回る適性が発見

される。(佐藤信・校長・五七)

(10・19読売)

あきれた保育所ムダ遣い論

共働きは小学校入学まで

(12・10朝日)

日本語にみられる社会変化

週刊S誌の「代表質問」欄で「十分収入がありながらもっと収入をのぞむ共働き夫婦や、子供をほうり出して遊びたい母親のための施設化している保育所のために国は国家予算をムダ遣いしている」と大見得を切っている。現状認識のなさもはなはだしい。

(11・10信毎「女の机」)

何のための保育所

保育所に預かってもらおうとすると、何人も順着待ちがあり、働く所を探すのとても無理。結局、子育てが終わるまで働けないのだろうか。

(中島るり・主婦・二八)

(11・25朝日)

私は子供が幼いうちに外に出たい。保育所で夕方まで預かってくれるし、寂しいのも親の顔を見たら何も残らない程度のもものと思うが、小学校に入れば行動や知能の範囲が広がる。

(西野ちづ子・主婦・四三)

(12・3朝日)

幼いうちこそ手をはなしてはいけなと思う。一日中いっしょにいるからこそ、親も子の状況に対応でき、子も安心感と満足感を得、それが信頼感につながる。(丸山直美・主婦・二七)

(12・8朝日)

児童手当より弱者救済を

第三子からの児童手当はやめるべき。代わりに母子家庭や父子家庭など、本当に恵まれない家庭を援助して。

(須永桃子・家事手伝い・二七)

子供を「委託加工」する

教育ママとは、自分では子供の教育をせず子供を「委託加工」してもらうために「外部に発注」する母親のことをいう。

(佐々正美・小児療育相談センター所長)

(12・26京都)

「ことば・書く・学ぶ」

中年婦人に再進学の道を

結婚することによって頭がさびつのがこわい、と思ってきた。通信教育などでがんばっているが、中年婦人にも再進学の道を聞いてほしい。

(矢口恵美子・会社員・二八)

(1・11読売)

「人間の尊厳」こそ女性解放

「男の立身出世主義のような私たちの平等とか向上は目指してほしくない」「女のくさったのとか、女のでる幕じゃないとかいう天の半分を汚す言葉も追放したい」と山川菊栄さんは語る。

(4・10信毎)

四通の手紙で社会が変わる

米大統領消費者問題特別補佐

官エスター・ピーターソンさん

(七)は労働運動・市民権運動・女性運動と幅広い活動を続けている人。

「消費者の最も有力な武器の一つは手紙。四通まともれば変わりますよ」と講演。

(6・22読売)

わが身を守る防波堤を

人生相談に多いのは「だまされた」という相談。「結婚を前提としたのにしてくれない」「妻子と別れない」等。「つきあいのきつかけは」と相談員が聞くと、きまって「やさしくしてくれただけ」とくる。「これと目をつけた女には男はやさしくするもんです。あなたはだまされたんです」——こんな話を聞くと、学歴よりも教養をこそ身につけてほしいと思う。

(会社役員・男性・五九)

(6・25中日)

女がボクではおかしいか

ワチキ、アタイなど特殊なものを除けば、女の一人称はワタシ一色だ。女だけ一つの一人称にとじこめられては息苦しくてかなわぬから、気分によってはボクと言うことにしたら、四歳の男の子が必死で抗議した。今から「ねばならぬ」を詰め込まれているんだからつまらぬ男になるのは必定。

(中山千夏・タレント)

(7・1毎日)

主婦が書くということ

短篇小説をひたすら書き続けた友の初作品集がやっと出来上がった。四人の子を持ちこま切れた主婦の時間をつづり合わせて書き続けた彼女の作品を通して、小説という虚構の世界だからこそ女の本音に向きあえることを知った。同時に主婦

が書くことは決して生やさしいものでないことも。

彼女の四人の子は、母である前に一人の人間として生きようとする彼女を通して、確かな個性を確立している。

(高橋ますみ・主婦)

(7・6中日)

主婦の推せん入学に一考

立教・大阪外大に次ぎ福島大も三〇人の推せん入学を認めるというが、私のように二〇年前高卒の入学はむずかしい。在米五年間に二つの大学に籍を置いたが、これは大学で特に便宜をはかってくれたからだ。大学で準備クラスを設け、卒業した人は無条件に入れてくれるとよい。

(ワット隆子・主婦・三八)

(8・6朝日)

文化革命目指す「女性学」

女性学は単に女性の実態調査にとどまるものではない。女性が自らの手で差別をなくし自己を解放していく手段としての学問・教育であり、女性による社会改良・文化革命を目指すもので、特定の社会・文化のわくを越え比較的視点と各分野間をつなぐ視点を必要とする新しい方法を用いる場合が多い。

カリキュラムのたて方も各大学により多様、試験の廃止や自己表現を中心としたリポートなど、教える側と学ぶ側の差を極力なくしている。

私の大学の聴講生は二〇〇名を超え、三、四〇％が男性。職員は一週三時間、受講のための休暇がとれ、受講は勤務評定のプラスになる。

(水田宗子・南カリフォルニア大・助教授)

(8・11朝日)



ズバリ口にする今の女性

知人が若い女性の出産祝にか  
けつけタバコを吸おうとしたら  
「赤ちゃんに代わって嫌煙権を  
行使します」と言われた。目下  
からこんな言い方をされたこと  
がなかったのでギョツとしたが、  
心ないまましく思われながら  
黙っていられるよりもどれほど  
あと味がよいかわからないと思  
い返してペランダに出て喫煙し

たと語った。こんなふうにも  
を言い、それを素直に受け入れ  
る女たちが生まれていることは、  
やはり女の成長を物語っている  
と思う。(8・24信毎「女の机」  
女性学は問題意識を明確に  
男性に対して女性が不当に差  
別されてきたので生まれてきた  
女性学。先般の国際女性学会で  
は主婦論が目立ち、哲学が欠け

ていた。問題意識をもっと明確  
に持つ必要がある。  
(古郡納子・クリープランド州  
立大助教授) (9・6読売)  
“ミス”  
アメリカから来る手紙はミズ  
の敬称に変わった。闊秀作家は  
女流作家になったが、今後何と  
変わるか楽しみだ。  
(富岡多恵子・作家)

(9・16中日)  
再就職のための女子大を  
出産や育児で一時休職はする  
が、再就職する女性に、専門職  
の再教育を継続的に行う大学を  
切望。  
(小林朋子・四六)(10・8信毎)

## 息子が記録して中

安楽死協会  
第一号会員 病床中、筆談



「なぜ足を  
ひっぱって  
止めなさん」

なくった残る久世  
さん(上)の無いも  
する千秋さん(下)



女権拡張論だけの時代は去った



いフェミニズムを知る藤沢有子さん

女性による人間解放主義  
全日本フェミニストの

女性学と私

古郡納子

女談義に  
問題意識

# 相談

## 〔相談〕

自立する女に都が福祉資金

夫に死なれ、一人暮らし。仕事を始めたい。自立資金がほしい。

〔答〕東京都では月収一七万三千円以下で都に六か月以上居住する二五歳以上の婦人には「都婦人福祉資金」が年利三％で貸し付けられます。

——種類あり、五——一〇万円まで、条件もいろいろ。民生局母子福祉課に問い合わせを。

(2・6読売)

再婚の夫も酒びたり

しゅうとめと夫の浮気に苦勞しつつ二〇年耐え、「必ず幸福にする」という男に会い再婚した。が、今度の夫も酒びたり。入籍もしてくれない。置いてきた子供たちは「お母さん一人ならしあわせにしてあげる」というが……

〔五二歳の女〕  
〔答〕女といえども家庭や子を捨てて新しい生活を選ぶ自由のあるかわり、たとえ地獄に落ちるほど苦勞しても後悔しないと

いう責任の裏づけを要求される。五二歳の若さで、働くにも限界

の年などと言わず、もっと前向きに。娘さんのもとへ逃げ帰るなど考えないこと。

(澤地久枝) (2・10読売)

退職金をくれない会社

二六年勤めたが昨秋解雇され、退職金もない。

(六二歳の女)

〔答〕以前退職した人の退職金を調べ、支払われていればその基準によって、退職金を算出して会社に請求すること。会社が応じなければ、裁判所に退職金請求の訴えを。

(佐々木秀典) (2・27朝日)

再婚の妻に前から男

四五歳の妻と再婚したが、六年間も続いていた愛人がいた……

(四四歳の男)

〔答〕妻の不貞によるものですから、離婚は申し出れば問題なくできるので、最寄りの家裁で相談を。

(小山いと子) (2・27読売)

離婚したいが子供が不びん

職を転々、金も使い込む夫。離婚したいが片親にしてはかわいそう。

(二九歳の母)

〔答〕しばらくご主人をたてる家庭生活であるように努力をしなから、事態を見定めて下さい。自然に心はきまると思っています。

〔澤地久枝〕（3・4 読売）

同性の女の子にあこがれ

明るくて運動神経抜群のクラスメートが好き。でも「好きです」と言えません。（中二・女）

〔答〕少年少女が同性にはのかなあこがれを持つことがよくあります。それは子供たちが豊かに持っている未来への可能性であり、あこがれこそ自分の反省、進歩の形です。「女同士で好きだ」というのはおかしい」という固定観念をまず吹き飛ばし素直に申し入れてもらえん。

（鴨居羊子）（3・10 毎日）

女ができた娘の夫が家出

農家の跡とりで嫁ぎ五年働い

たのに義父母は慰謝料を払えないと言うが……。

〔答〕自分の選んだ相手に裏切られた娘さん。そんな相手に早く見切りをつけて、自立される方途を探して。

（鍛冶千鶴子）（3・15 読売）

妻ある男に言い寄られた

私は二五歳の独身女性。最近既婚の中年男性に言い寄られ断りました。中年の奥さん方よ、あなた方の夫は性生活に不満なのです。今こそ目覚めるときです。セクシーにふるまうのに年齢制限はないのですから。

〔答〕彼が言い寄ってきたからと、なぜ彼の奥さんを責めるのでしょうか。奥さんのほうももう夫に魅力を感じないので、気をひくつもりがないのかも知れませんよ。

（ヘレン・ポッテル）

（4・2 読売）

兄が妻子を置いて蒸発

三三歳、二子を持つ兄が浮気が発覚して蒸発、サラ金の領収書など出て心痛しています。きつい兄嫁との生活、さぞつらかったらうと同情はしますが。

〔答〕兄嫁のために兄が不幸とあなたが思っていることが事態を複雑にしていますか。兄嫁さんとじっくり話し合ってください。（澤地久枝）（4・3 読売）

ギャンブル狂の夫に苦しむ

結婚以来一年、夫のギャンブル狂いに苦しめられております。二児を道連れに毎日死ぬことばかり考えております。

〔答〕あなたの苦勞は察するに余りありますが、そんな男のために一生を葬るなんてバカらしい、子供を道連れになどは、親のエゴに過ぎない。警察の家事相談係か家裁の家事相談係に

相談なさってみたら。

（小糸のぶ）（4・5 読売）

いびり出されて離婚したが

姑にいびりだされ強制離婚。せめて二児のうち一人でも取り戻せぬものか。

〔答〕離婚後二年以内であれば財産分与の請求が認められますので、あわせて慰謝料請求の調停を家裁に申し立ててみては。親権者については印を押して半年では無理かも知れないが、監護者を母親にとの申し立てをしてみることに。

（鍛冶千鶴子）（4・7 読売）

公務員採用試験に差別？

大学の就職指導で人事院の人に公務員試験の話聞いたところ「実際は女子にはあまり来て頂きたくない」と言われショックを受けました。国家公務員試

験まで差別があるのですか。

(女子大生)

〔答〕その話のテーマを聞いたところ「大卒女子は合格しても採用に結びつかない」「論文は女子が合格しないように課している。論文は思想が必要で女子は弱い」とあり、あなたが怒るのも無理はない。

当の講師にただしたところ「女性に発奮してもらいたくて言った」とのことだが「女性を採用したくないのはどこでも本音」と某官庁本部は語る。しかも以前に比べ試験はむずかしくなり、五二年度の競争率は上級職四〇倍、中級四四倍に對し女子は双方六二倍。合格しても高卒・大卒男子・大卒女子の順に採用される。が、文部省初の女性課長遠山敦子さんは「受験をあきらめるなら結局は人事院氏の見方を認めることになる」と警告している。

(神田俊甫記者)(6・14読売)

看護夫・保健夫は無理か

看護職や保健婦に男性は進出できませんか。

〔答〕医療チームは専門分化の傾向にあり、男性が特性を発揮する場も拡大されつつあります。男も看護士・準看護士への道が開かれています。五一年末の就業者四二万人中男は七六〇〇人、一・八％です。従来は精神科領域が主でしたが、近年では手術室・人工透析室・救出部門等で活躍、今後も進出が期待されています。保健婦・助産婦は現在女性のみですが、今後検討したいと考えています。

(都築公・厚生省医務局看護課長)(6・18朝日)

CMの女性像に怒り心頭

女はすべて「主婦」ときめつけて、食事を作ったりシャツの漂白をするイメージでしか女を

描いていないテレビCMを見ると、怒りで頭の中が燃えてしまいう。

〔答〕世の中は変わりつつあります。黙ってない事あることにあなたの言い分を主張することが世の中を変える第一歩。もっと良い方法は、女性を見下すような広告を出している製品は買わないこと。そしてポイコット運動の輪を広げることです。

(ヘレン・ポッテル)

(8・6読売)

夜の生活ができない

八か月の子を持つ二九歳。やさしい夫ですが、産後、そばに来るだけで鳥ハダが立ちます。八年も愛しあった男の記憶のせいでしょうか。

〔答〕妊娠中夫婦生活をきょうのはまず一般的で、出産後もそれが残ることもありますし、それに該当すると考えられます。

が同時に前の男の子供を始末した罪悪感が男への憎しみと嫌悪になっているのでしょうか。心のしこりをほぐしてください。

(平井富雄)(8・10読売)

父子家庭で娘を育てたのに

五四歳、一一年前妻が家を出二人の娘を育ててきましたが最近娘たちが母の家に入りびたり、つらい思いです。

〔答〕離婚した妻はあなたには他人でもお子さんたちには母です。希望どおりにさせ、「再婚したら」という娘さんの意見を悪意にとらず考えては。

(小糸のぶ)(8・12読売)

二七の娘が勝手に婚約

相手はスタイルの良い話上手、が定職がなく心配です。

〔答〕二七にもなった娘さんが「どうしても」と思いこんでい

るのでから責任をとらせなさい。失敗は成功の母。

〔小山いと子〕（8・15読売）

子を思い浮気妻に耐えるか

四一歳、結婚二年の男、妻の浮気を知り問いつめると「子供を殺す」と口走る始末です。

〔答〕子のために耐えるという考え方はいつか不満をつのらせます。また浮気をするのではと不安なら別れるほかないでしょう。別れないのなら二度と口に出したり責めたりしないこと。

〔鍛冶千鶴子〕（8・16読売）

無精子症だった夫

見合い結婚三年目の妻。不妊の原因が夫の側にあると判明してから離婚を考えています。何年かで子供が産めなくなると思うと、いてもたってもいられません。

火遊びが夫にばれる

〔答〕かりに再婚したとして、子供に恵まれるかどうか、子供のいる家庭があなたに充足を与えてくれるかどうか。夫への愛情が消え、別れてやり直す勇気があるのなら、子供の有無とは切り離して考えるべきです。

〔澤地久枝〕（8・18読売）

妻子の虐待に悩む七〇歳

四年前身障者になって以来妻に「働け、寝るのは許せない」と虐待されています。市の福祉課では「離婚せず老人ホームに入れ」と言いますが、それでは保険金は妻のもの、と思うと死にできません。

〔答〕人間は自分のことはたなにあげ相手の欠点をあげつらうもの。まず、あなたの代わりに働いている奥さんに感謝して接してみたら。それでもだめなら福祉事務所でもう一度相談を。

〔戸川エマ〕（8・21読売）

夫三六、小学生の二児がいる。

夫は商売一筋、小さな旅館を資産何億の多角経営にしたが、まじめ一方の彼にものたりなさを感じ、入院中に火遊び、発覚。

子と共に家を出ようとしても財産分けどころか慰謝料をと言われた。

（三五歳・主婦）

〔答〕快楽のツケが来たと思えばらく耐えてみて、それでもだめなら自活できるよう計画を。

〔戸川エマ〕（9・4読売）

家を出て独立したいが

母と末弟の三人暮らし。結婚半年で失敗。数年後の再婚話も式数目前に一方的に解消され、父が不治の病で勤めを辞めて家事を引き受ける。父なき後、母にたよりにされ弟妹の結婚の世話をやき精いっぱい生きてきた。

独り立ちすべきと思いが、

私は不幸な星の下に……と不安になる（四〇歳の女）。

〔答〕自分の運命は自分で切り開くもの。独り立ちに賛成。必ずあなたを必要とする人が現れるでしょう。

（小糸のぶ）（11・7読売）

実家に帰り保母やめぬ嫁

昨春長男と結婚した嫁、出産後も勤め、姑の病氣も「病院は完全看護、勤めが大切」とかえりみず、孫を連れて実家に帰った。長男は別れる気がないが。

（悩む初老の男）

〔答〕何十人もの園児を放っておくわけにいかず、やむを得なかったかも知れない。実子でさえ思うようにならぬ時代、どちらの親もウロウロせず、二人にまかせたら。

（薛田初恵）（12・27中日）

# 人

## 〔行動〕

ファッションモデルの社長

宮嶋美智子さん（四三）。札幌や東京でモデルの後、一九六一年社長に。最近は一さつぼろモード推進委員会のメンバーとして海外でも活躍。（一・一道新）

女工哀史を研究

英国シェフィールド大学で経済史を教えるジャネット・E・ハンターさん（二八）。研究テーマは近代日本の女性史。来日し

て多くの人に会ったが、この分野の研究者が少なくて困ったという。「日本で成功した女の人は非常にがんばる人。そういう人でないと成功できない」「日本の夫は会社第一、夜遅く帰り週末にも出ていく。英国では考えられない」「小さい時から習慣はなかなか改まらない。強制的にやってもダメ。自然に女性の意識を変えなくては」。

（一・一読売）

助産婦一人アルゼンチンへ

帝京大学付属病院の産科に勤

務する藤原美幸さん（三〇）は、今月末アルゼンチンへ向かう。日系の人々、とりわけ婦人たちの母性保健のために広く活動するのが目的。

「もし私が必要とされているなら、新しい天地に思いきりぶつかって自身を試してみたい」と。（一・六読売）

世界を舞台に歌う蝶

イタリアのミラノに住み、欧米で歌いまくる世界的プリマドンナ、東敦子さん。当たり役は「マダム・バタフライ」。

悩みは日本に歌劇場がないこと。（一・六読売）

“小さな喜び”を売る

アトリエ閑花羅。実は、主婦一人だけの工房である。東山千恵さん（三〇）。ここのブランドのついたリュックサックが一月五、六〇個も売れる。「これも一つの社会的評価かしら」と思うと、喜びがこみあがる。新しい生き方を求める女性が着実に増えているようである。

（一・七読売）

仮定の人生なんてない

歌手、雪村いづみさん。「毎日曲がり角だったともいえるし、そんなものなかったような気もする。私としては一本道を生きてきたつもり。そして、すべてはすばらしい体験だったと思っています。私、いま輝いていると思う。くる仕事、くる仕事を一生懸命トントンやる。いい歌をみつけないとは思うけど、野心なんてないし、毎日を大切にしたいだけ。あしたが最後だとしても悔いはいわ。いまの恋も、まださめそうもないわね……」

(1・7 読売)

源氏物語の女を講義する

女性の地位向上のため男以上に多忙な肩書を持っていたが全部やめて今は「源氏物語」の講義だけの村山リウさん(七四)。「紫式部のようにすばらしい

頭脳組織が女にあつたら日本はすごく良くなっていたらうに。

途中で合理性捨てたでしよう、封建制で。女を低く見る社会のために」

(1・10 読売)

放浪の女流画家

有島生馬に師事、二科に連続七回入選の才能をみせながら、二度の離婚のあと全国を放浪、日雇いや似顔絵かきをしながら創作、五年、老人ホームでひっそり七十七歳の生涯を終えた中尾一枝さん。遺作を知人が出版、即売会も開く。

(1・12 朝日)

馬に魅せられカメラ人生

パリ・サンジェルマンの個展で好評を博した今井寿恵さん(四三)。ファッションカメラマンとして順風満帆の生活、タイムライフの「世界の写真家二〇人」にも選ばれたが「不完全燃

焼感」に悩む。もっと美しく、もっと力強いものがほしいと「馬」に転身。父が残した家を売り、北海道や岩手、牧場を転々。都会の女は、筋肉労働者、にたくましく変身した。

(1・13 読売)

安楽死でなく「平眠」を

不治とされる難病におかされ、不自然な延命を拒み続けた母親の闘病から死に至る記録をフリー・アナウンサーの息子が克明に書き上げ、近く出版する。

昨年三月筋萎縮性側索硬化症

のため七九歳でなくなった鈴木喜久世さんは日本安楽死協会の第一号会員。両手が完全にきかなくなるまで筆談で「平眠」をめんめんと訴えた。「死ぬ時は安らかに。なぜ足をひっぱってお止めなさるのですか」「安楽死という言葉でなく平眠とした。殺すと思はないで楽に眠ら

せるとお思ひ下さい」

が、担当医は「重症患者は苦しい時、だれでもそういうことを言う」と相手にしない。「クルシイコンヤラクニサセテクダサイ」と五十音表で示した翌日、点滴中に静かに逝った。

「命を縮めるようなことは一切しなかった」と担当医は言う。息子の千秋さんは母親の死は本人の希望どおり「平らな眠り」のままの往生だったと感謝している。

(1・13 朝日)

劣等感捨て居直り人生

「負け犬のままで終わりたいくない、生きているあかしがほしいーそれが文学の道に入った動機です」という萩原葉子さん(五七)。祖母の支配する暗い家庭で育てられ、母の浮気に苦しみ、長じては暴力亭主に悩む。離婚して初めて手足を伸ばし大きく呼吸する自由を味わった。

その頃、書くことをすめられ、賞を得た。文学の道も地獄だったが文学を始めてから劣等感から抜け出せた。

劣等感とは自分をダメにするだけ。「魚にも人格がある」が今のモットー。「勇気を出して自分の人生に立ち向かわなくては」

(1・14読売)

## 古裂絵

国立市の主婦、郡司つなさん(六六)は、一五年間作りためた「古裂絵(こぎれえ)」展を開いた。すり切れた座ぶとんがわを切り抜いて、イカを描いたり、白っぽい羽織の裏地で、ヒナゲシを咲かせたり。

(1・14朝日)

## 婦人白書を作った三二歳

第一回婦人白書を作成した総理府の坂東真理子さん。「特に

娘さんを持つお父さん方に婦人の現状を認識してほしい」と。

六か月の労作だが、もう次の白書への意欲を。戦後つ子登用とは総理府もなかなかオツ。

(1・18朝日)

実力社会のやまとなでしこ

ブロードウェーで四八年の歴史を持ちながらつぶれかかっていたピーコン劇場の経営に乗り出したヒリヤー和子さん(三八)。昨夏の歌舞伎公演は睡眠二時間死に物狂いでマスコミに売り込み、大入りにした。西陣のしにせに生まれたが「何かやりたくて」アメリカへ。ジュリアードの創設メンパー、ヒリヤー教授と結婚。

「英語のビジネスは男女対等で話せるからいいわ。日本語は女として一歩退いた言葉を使わないといけないのでやりにくい」

(1・19読売)

夫婦でバレエの審判員

新冠の寺田孝男さん、トミエさん(ともに四〇)は二人ともバレエの審判員。一緒に審判台に立つことも多く、びったり息の合った審判ぶりが好評。

(1・19道新)

ざくばらんの生活を

「演奏は自分がむき出しになるので常にうそのない生活でないとダメ」と、バイオリン一筋の辻久子さん(五一)。「何か一つのことに打ち込むのは大切。

バイオリンか恋か、悩んでバイオリンを捨てる人もいるがそれでいい。真剣に恋をした人は必ずまたバイオリンに戻る、中途半端な恋はダメ」(1・21読売)

総評書記労初の女性委員長

奥島加奈子さんは男の子三人

の母親。「組合書記は幹部の裏方役で弱い立場ですが、なった以上は遊びなどを通じ仲間の連帯を強めたい」。(1・22朝日)

危険地帯を〇し一人旅

「アジアの現実をこの目で見たい」とミンダナオ二週間の貧乏旅行をした池田幸恵さん(二七)。解放戦線の指導者、悲惨な日系人、厳しさに耐える民衆を目前に感慨無量。(1・24読売)

国連総会で活躍

国連総会に政府代表代理として、昨年、一昨年と出席した佐藤欣子さん(四三)。

「国際社会ではしゃべらない人はバカ、動いて自己主張しないと決してわかってくれない、日本の謙譲の美德は邪魔」。

検事、法務総合研究所研究員

(1・24読売)



千夏ちゃん離婚

才女の離婚ブームだが、タレントで革新自由連合の中山千夏さん(二九)がジャズピアニストの佐藤充彦さん(三六)と離婚。  
(一・24毎日)

日米のかけはし

英会話、経営学セミナーのPRで来日したニューヨーク州立大日本語講座主任教授の道井孝子さん(四〇)。「英語を流ちょうに話す人はたくさんいます。でもアメリカ人の気持ちを理解しているかどうか……」。  
(一・24読売)

幼児二人を連れ北極移住

「エスキモーの村に行くぞ」と夫。「アラ留守番はいやよ」と妻の街道雅美さん。夫妻共に二九歳。三歳、二歳を連れて近

く出発する。「昔ながらのエスキモーの育児や手仕事をよく見たい」。  
(一・26読売)

豆腐王国の快腕おはん

大阪の木村悦子さん(五一)は、無菌豆腐の製造に成功。「こわいほどもうけさせてもらうて」インドネシアに大農場を。原料の大豆をアメリカに頼らず、年間一六〇〇トンを目前でまかなっている。

「おしゃれだ、海外旅行だと浮かれる〇したちが母になったときは国が亡びる」が持論。  
(一・27読売)

富山の女売薬さん

行李開いて人情も売る早崎セツさん(五九)。売薬さんだった夫戦死のあとを継いで三〇年、三人の子を実家に預けての長旅はつらかった。が「信用第一、

売薬するより人を売れ」と黙々と歩き続けた。「強い富山女」。  
(一・29読売)

時代詠みつつ半世紀

象徴派歌人の斎藤史さん(六九)は、『斎藤史全歌集(昭和三年〜五一年)』をまとめた。「世渡り上手に生きるならば削ったであろう戦争時の歌も、あえてそのまま入れた」。  
(一・30朝日)

被爆者代表としてNGOへ

渡辺千恵子さん(四九)。一六歳のとき、長崎市で被爆、半身付随に。二月二七日から四日間、ジュネーブの欧州国連本部で開く国際非政府組織(NGO)軍縮国際会議に、日本代表団の一員として車いすで参加。その後、二週間の原水爆禁止遊説運動に加わってルーマニアへ。

「大任でしょ。お話をうかがってからだが震えて……。でも日がたつにつれて自信がわいてきた。年々行動範囲を広げてるんです」

「軍縮の障害になってるのは、無関心、無理解。原爆ってキノコ雲の写真じゃない。三二年間も、私たちの心とからだに死の影を落とし続けてきたんです」。  
(二・5朝日)

「歌の市民広場」を開く

毎月第一日曜「音楽で人と人との出会いを」求めて東京・国立市で歌好き四、五十人と広場を開いている横井久美子さん(三三)。

十年前のコーラスグループが歌手のスタート。「反戦歌手・主婦歌手と言われるが、それでもいい。五十代になったころ、「いい歌手だ」と言われるようになった。人気より歌と家庭が大事」。  
(二・8読売)

タウン誌廃刊、売掛金残し

タウン誌の草分け「シブヤマップ」を四四年五月以来たった一人で編集・発行を続けて来た鈴木瀬津子さん(四一)。三月一日の四五号で廃刊する。

「九年間やってネタ切れになったこと、料金の回収率が低く採算が合わないことが原因」。一部五〇円、発行部数は一万部だが、料金回収の無人スタンドごと盗まれたことも三回。

(2・8読売)

女性バントマイマー

「イカロスの飛翔と墜落」でデビューしたイトウ・タリーさん(二六)。女性で一時間半の長丁場はヨネヤマママコ以来。平面的なグラフィックデザインにあきたらず、肉体による造形に転身。「現代文明批判をしたい」。気球座所属。(2・9読売)

「おかみ」と「わが町」

「大正・渋谷道玄坂」を本にした藤田佳世さん(六六)はお好み焼き屋一六年の「おかみ」。抜群の記憶力で大正時代の道玄坂をえがきだした。

(2・9読売)

生きた戦後交際史

新宿の飲み屋「あづま」のおかみ、平米子さん(五八)が二五周年記念文集「新宿・あづま」を出した。カストリの一杯飲み屋から今日までが淡々とした名文で。金達寿氏ら、作家・学者たち五〇人以上の常連が心から祝福。

(2・9読売)

「秩父事件」をシリーズで映画に

浅見英智子さん(三三)は秩父市農協の職員。ハミリカメラで秩父の祭りなど撮っていたと

ころ「秩父困民党群像」を書いた井出孫六氏に秩父事件の映画化を勧められ、農民の闘志に共鳴して制作を開始。シナリオ、撮影、録音、ナレーションすべて一人でやり通し、二年かけて第一部「事件の足跡」、第二部「風土と遺産」合計一時間一〇分の作品にまとめた。

(2・10朝日)

わがままでトクした女優作家

劇作家、田中澄江さん(六九)。結婚の条件は「お金に困らないこと」「自分の思うとおりになる男性」で、男に自分を合わせることを考えたこともなかった。初めて夫から「おい」と呼ばれて憤然、「おい」って言ったらひっぱたかれた。こんな屈辱には耐えられないと自殺を考えたほど。

しかし夫は仕事では頭が上がりない先輩だし、家事が大好き

で、おサラも洗うし、整理整頓もうまい。今は言うことなし。

(2・11読売)

出雲の奥でソバ粉をひく

「機械でひいたソバ粉はバリッとしてアド(しまり)がない。ソバ粉は風味ですけん、粉に熱出たら香り焼けてしまますけん」と、今も水車で「出雲そば」の伝統を守る浜田しげ子さん(六六)。

(2・12読売)

目黒子供劇場の委員長

岩泉和子さん(四四)。年に四回子供に本物の芸術を見せるほか、六八か所のサークルで親子スポーツやコーラスも。会員は今九〇〇人。

「舞台の上で汗を流して演技してる人を見るとテレビにない感動がある」。

(2・14読売)

「あだ花隨筆」を続ける

大宅昌さん(七二)。

「明治女の心意氣を残そうと始めた同人誌だが、あだ花にいつしか実が結び二二〇人の会員になった」

「二人住まいの方にはよく電話して励ましてあげるの」。

(2・17読売)

植物人間から脱皮

交通事故による植物状態から再起、陸上競技を再開した一六歳の少女(米國・カシー・ミラーさん)に「勇氣あるスポーツ賞」が贈られた。

(2・18毎日)

ヨコハマの女船長さん

八・二六トン、定員二二人ながら「さくら丸」のれっきとした船長、白橋やエ子さん(四五)。九年前から夫の助手、七年前、

夫が死んでからは自らかじを。

「くったくがなくて明るい人」と人気者。

(2・26読売)

国連婦人部長に日本女性

「婦人の地位向上部長」に總理府婦人問題担当室長の久保田真苗さん(五三)が就任。「アジアの一国であるという日本の立場を生かして、国連が力を入れてる開發途上國の婦人問題も重視したい」と意欲も十分。

(3・1朝日/3・3読売)

赤松さんが婦人問題室長に

久保田さんの後任として總理府婦人問題担当室長に就任した赤松良子さんは「各省庁の責任者に、女性の登用をどんどんお願いしたい」。

(3・3読売)

昭和二八年、女で二人だけ國家公務員上級職試験に合格、労

働省入りした赤松良子さん。

「日本の女はおとなしい。ワイワイさわがなければ」——二年後の世界婦人會議に日本の婦人問題への取り組みを報告する。

(4・14朝日)

野球おばさん

野球を通じて礼儀、規律の指導にハッスルする松村アイ子さん(四七)。東京・東村山市で少年野球「東萩山タイガース」を一年から結成。チーム機関誌「ファイト」も発行。

(3・2朝日)

日本を憂うバイオリニスト

國際的活動を続ける前橋汀子さん(三四)。ヨーロッパが活動の主舞台なので、スイスのアパートで一人暮らし。年に一度里帰りするが、「電車の中で子供が暴れてもお母さんは知らん

顔。經濟大國日本の將來が心配。

(3・3読売)

「安來節」歌って五〇余年

稲葉雪子さん(六七)。五歳で上京。淺草・木馬館で「安來節」を歌い続ける座長格。「ほかに趣味もないし、主人も一〇年前からいないし氣楽なものね。死ぬまでやるんじゃないかしら」と本人。三九年、芸術祭奨励賞を受賞。

(3・5朝日)

周恩來夫人

鄧穎超さん(七六)。七六年に全人代常務委副委員長に昇格。江青夫人らに比べて華やかではないが、民衆の信頼は高く、長年、夫を陰で支えて来た。

四九年以來、全國婦女連合會副主席。第八期黨大會でただ二人の女性中央委員に選ばれて以來連統四期當選。對外活動に力

を入れている。(3・6朝日)

ニューギニアは私の故郷

七一年から三回、通算七か月  
バプア・ニューギニアを撮り続  
ける大石芳野さん。五月にはま  
た出かける。(3・6毎日)

新しい女の生き方を求めて

学習院女学部を出て貿易公社  
の支店長夫人、何不自由ない暮  
らしにあきたらず三五歳で新劇  
入り。以来「女の一生」を舞台  
に、「新劇の母」となった東山  
千栄子さん(八九)。

(3・7読売)

中国で、最も忙しくなる人

中国の対外経済の窓、副首相  
兼対外経済連絡相の陳慕華さん。  
一三人の副首相のなかの紅一点。  
経験と実力は誰しも評価すると

ところで今回の昇進は大方の予想  
どおり。先進国からのプラント  
のノウハウの導入などで、当面  
最も忙しくなる人だ。

(3・8朝日)

ママさん大学生卒業

二〇代の学生にまじって平間  
美江さん(四三)と和田沙代子  
さん(四〇)が長野経済短大経  
済学部二部(夜間)の二年間を  
終え、卒業。(3・9信毎)

マッターホルン北壁に成功

条件の一番厳しい冬季に登は  
んに成功した東松山市の鴨秋子  
さん(二八)。夫(三三)と共に。  
女性の冬季登頂は初めて。

(3・10毎日/12・16読売)

豪の日本人学校長に

海外に在留する日本人の子供

を教育する日本人学校初の女性  
校長として赴任する阿比留初代  
さん(五二)は現在東京足立区  
立中島根小学校の校長。現職の  
女性校長が派遣されるのも全国  
で初めて。

赴任先はオーストラリア西部  
の都市、パース。

「三年間、自分を試します」

「若い女の先生たちもどんど  
んこうした経験をしてほしい」。

(3・10朝日)

子に母の歴史を語り継ごう

新聞スタンドに新聞を配るア  
ルバイトで月一万円をかきぎつ  
つ東京大空襲慰霊母子像を作る  
運動を七年も続けている橋本代  
志子さん(五七)。東京大空襲  
を調べ、語り継ぎつつ、主婦業・  
史学研究会・俳句会も欠かさな  
い。(3・10毎日)

病床の画家が個展を

桜井悦子さん(六七)は、リウ  
マチが悪化し寝たきりの闘病生  
活を続けている。が、動かぬ指  
をペンがはさめるように手術を  
受け、描き続け、個展を開くに  
至った。(3・12朝日)

「男中心社会」変えなくては

中島通子さん(四二)。東京  
新宿で弁護士を開業。離婚事件  
のほか、職場における女性差別  
の撤廃に関する訴訟にたずさわ  
ってきた。が、「裁判所で解決で  
きることは少ないので」と本業  
以外の婦人解放運動にも幅広く  
かかわる。ジャーナリストの夫  
君との間に男の子二人。

(3・13朝日)

インドの都市形態形成調査

町を歩くと男が言い寄る。一

等車に乗ると馬賊が襲う。ジーバン、男ものの帽子をかぶり、ろうあ者を装い、苦心の研究三年の飯塚キヨさん(四五)。

「離宮に、寝袋にもぐって二週間ひとり暮らし。こわかった。縁談を断わり勘当の身、ままよと思うけど……」

「研究仲間も少ないし、資金もないし」と言いながらも、アジア都市研究会の組織づくりに意欲を燃やす。(3・13朝日)

「まぶたの娘捜し」実らず

「ひとめ娘たちを見てから死にたい」と、終戦の混乱のさ中に行方不明になった二人の娘を捜しに五〇年ぶりに中国から一時帰国していた山口県出身の老婦人(六九)、半年の捜査の末なんの手がかりもつかめないまま傷心の帰国をする。

(3・14朝日)

写真で物言えぬ子らを代弁

新生児、病気の子、心身障害児の写真を撮り続けているスウェーデンのトーマス・ベリイマン氏(三〇)が講演と写真展のため来日。

障害児も新生児も一人の人間であり、それにふさわしく扱われるべき存在である、と一貫して主張。日本に紹介されている盲学校の生徒たちの生活と意見を追った「指で見る」や、生まれて三時間以内の新生児を撮った「誕生の詩——あかちゃんのはじめての時間」を製作。父母と暮らす心身障害児の姉妹を写した「だれがわたしたちをわかってくれるの」も近く紹介される予定。(3・15朝日)

実力で認められよう

日本交通公社の前身「ジャパン・ツーリスト・ビューロー」

に入社、雑誌「旅」の編集長を経て、旅行作家・評論家として世界を駆けめぐっている戸塚文子さん(六四)。

「日本の女性性は歴史的に名を捨てて実を取っていると思います。ウーマン・リブにしても、叫んだり要求したりするよりも、一人一人が努力して実力で認められなければダメ」。

(3・18読売)

野仏巡礼で再生

時には一か月に五万枚も。撮り続けた野仏の中から、年の数と同じ三九枚を選んで写真展を開く京都市の藤井弘子さん。

離婚、母と身障の姉を支え、自身も重病に。暗い人生から救われた出会いが「野仏」だった。「本当に優しくて明るい表情をしていらっしやるんです。だからもかえりみられず野ざらしなのに……」写真を見ていただ

く人も野仏の温かさで包んであげたい。(3・24朝日)

旧帝大初の女性教官退職

城野節子さん(六三)。二八余年の九大教養部の教官生活を定年でピリオド。最近の女子学生について「卒業して結婚するのが当然と思っているようなね。つくづく女性が変わっているいなあ」。(3・24朝日)

「ヒマラヤ診療所日記」を書く

カラコルムの奥地、海拔三千二百メートルのゴマ村へ初めて入った歯医者岩坪吟子さん(四二)が体験記を発表。登山とは無関係だった吟子さんが夫の属する登山隊と同行登山したのをきっかけに、四九年、ゴマ村無料診療所を開いた。

(3・27朝日)

警察大に女性が初入校

四三歳で警部に昇格した桜井るゑ子さん。

「一歳の娘に今年も落ちたら怪べつすると言われてがんばりました。女習長？ とんでもない。女で市民の信頼が得られるかしら。殿方と競う気はない。女性より殿方のほうがえらくなるよう生まれついてる気がします」。(3・27毎日)

カエルを変える研究

広島大学教授・西岡みどりさん。カエルを使つての「発生学と遺伝学の境界を埋める」研究でアメリカ・ミシガン大が「追いつけ追い越せ」の目標にしているほどの学者。(4・5読売)

哲学で博士号を受けた

「スピノザ研究」二〇年の清

水礼子さん(四二)。青山学院大学助教授。

「哲学は古くて実用的な学問です。本来、むつかしくあつてはならない」。(4・8朝日)

「水戸天狗党」を書いた

田中真理子・松本直子さん。

慶大文学部史学科とともに日本史を専攻。半年間、天狗党の長い彷徨の跡を取材旅行、「処刑された三三三人の無名の群像を歴史の舞台に登場させてみせたかった」。(4・10読売)

「LOジュネーブ本部で活躍

婦人労働対策局長補を担当した高橋展子さんが、二年間の任期を終えて帰国。「在任中に婦人労働対策を進める組織づくりの念願が果たせて満足」と記者会見。

「散発的だった婦人労働対策

を一つにまとめる組織をつくり、各国の婦人労働関係法制、対策、統計などを定期刊行物の「ウイメン・アットワーク」で世界に知らせることにしました」。(4・10毎日)

婦人問題に取り組む

河野貴代美さん(三九)。カ

ウンセラとしてのアメリカでの体験から「アメリカには女性のためのカウンセリングセンターがかなりある。彼らが個としての生き方に迷い、根本的問い直しをしようとしているのを感じる。日本の女性は性別役割を演じ分けるより、殻から出て自立し、もっと不変でトータルなつきあいを持つべき」と語る。

(4・29徳島)

女ひとり黨の火守る

小石原高取焼二二代陶工、福

島コマキさん(七〇)は戦前戦後を通じて消えかけた小石原皿山の窯の火を守り続けた、たった一人の女陶工。「陶工の鬼」といわれた父、佐七さんの遺志をついで一人息子の三三代高取陶工の作陶にきびしい目を光らせている。(5・4西日本)

動物に学ぶ子育て

獣医学博士で東京都多摩動物園勤務の増井光子さんは、動物界の子育て論「動物の親は子をどう育てるか」を著わした。

「動物の例をただちにヒトにあてはめるのは危険ですが、動物たちから教えられることはたくさんあります」。(5・8朝日)

山岳パトロール隊の紅一点

自然公園保護管理員の白沢千鶴子さん(二四)。山が大好きで、精薄児施設の保母さんから

転身。国立公園・八幡平で、小屋の掃除や重労働に励む。

(5・22読売)

出羽三山の紅一点

羽黒三山神社で神主修行に励む伊藤允子さん(一八)。午前五時半起床、白衣をきちっと着て社殿の掃除の後、七時間の授業を受ける。

(5・28読売)

世界一の力持ちママさん

六井春子さん(二九)と吉田寿子さん(二六)。全日本パワーリフティング選手権大会で世界最高記録をマーク。

(5・29、6・25読売)

「ほつまつたへ」を研究

桑原ゆき子さん(四一)は国鉄・伊万里駅売店に勤務のかたわら、中国から漢字が入ってく

る以前の神代文字の一つ「ほつま文字」で書かれた神代から日本武尊の崩御までの五七調の長歌形式、約一万行に及ぶ叙事詩「ほつまつたへ」を研究、伊万里市内の神社で「ほつま文字」も発見。

(5・31西日本)

主婦の仕事とドラマ作り

「夫婦」を書いたシナリオ・ライターの橋田寿賀子さん(四九)。台所のテーブルを書斎代わりに人気番組を書き続けている。

(6・15読売)

栄養学研究ひとすじ

医学博士の香川綾さん。病気の予防は栄養にあることを発見、昭和八年、夫君とともに「家庭食栄養研究会」を設立、料理カードやカップ・スプーンを使う料理計量化の路線を確立した。女子栄養大などの女子教育にも貢

献。「やる気さえあれば道は開けます」。

(6・17読売)

さわやかスポーツツイメン

パワーリフティングで世界最高記録を出した六井春子さん、「なぐる力が魅力」という日本初の女性プロボクサー高築正子さん、サーキット全日本選手権で四八人の男を尻目に優勝の小沼賀代子さん、女子柔道日本一を争う永井多恵子さん、平均年齢二〇歳のサッカーチーム、平均三五歳のママさんラグビーチーム等、スポーツウーマン花ざかり。(6・21・7・8朝日)

昭和のアナキリスト

昭和初期に農村コミュニティの理想ををかけて活動した八木秋子さん(八三)が著作集「近代の「負」を背負う女」を出版。「周囲のすべてより反逆者と罵

られたつもなおかつ人類としての正しき意志に生きた鮮烈な魂」の軌跡を書いた。(6・26朝日)

日本女医会会長

三神美和さん(七四)。東京女子医大卒業後、大学に残って研究生活。今も週一回一〇〇人の外来を治療する。医学と結婚した一生涯が、おだやかそのものの人。(6・26読売)

会通通訳歴一〇年

佐野壬知子さん(三五)。ニューヨークで開かれた国連軍縮総会で田中里子さんの演説を同時通訳。「米ソが第三世界から追いつめられ、世界は変わりつつある」。

(6・27朝日)

野球にとりつかれた青春

飯村もと子さん(三〇)。女

子マネのハシリとして昭和三九—四〇年、学芸大付属で活躍、東大医学部在学中は六大学野球の場内アナウンスのアルバイト。ついに大学を中退、今やこの道でひっぱりだこ。(6・29読売)

### この道一筋 八三歳の女医

名古屋市内で小児科耳鼻科を開業しているおばあちゃん先生、田辺かすみさんは、患者さんのいるかぎり体が動かなくなるまで診療は続けると張り切っている。(6・30中日)

### 「奄美女性誌」を書く

昭和三〇年から約二〇年にわたる「遙かなる奄美」の記録を出版した長田須磨さん(七六)。柳田国男氏の「女性民俗学研究会」に参加、学問の世界とは縁のなかった一主婦が、自分自身のうちに息づく奄美の民俗と方

言の探究にうちこんで、ついに大作を完成した。(7・3朝日)

### 英文で小説を

神戸生まれ、ロンドン在住の信子・アルベレイさんが自伝風小説「バルーン・トップ」を発表。六月下旬、ロンドンとニューヨークで同時発売された。

「敗戦とマッカーサー占領体制が日本をどう変えたかを、英文で初めて具体的に教えてくれる」と米国の出版界で好評。(7・9朝日)

### アルゼンチンの助産婦

半年前、東京から一人で行ってきた藤原美幸さん(三〇)。午前八時、アパートを出て健診センターへ出勤、日系社会になくってはならない存在に。(7・23読売)

### 「岩波ホール」の総支配人

日本女子大を卒業後、フランスに一人旅立って映画製作を学んだ高野悦子さん(四九)。「岩波ホール」を一〇年間でサロンのめり込んだ文化の拠点に作り上げた。「のめり込んだじゃうタチだから二つのことはできない」と恋を捨てて仕事一筋。(8・2読売)

### 市民パワーで統一原水禁を

原水禁運動各団体対立のミゾを抜群の行動力と説得力で埋めて、東京で広島で、事実上の「統一原水禁世界大会」を開催するところまでこぎつけた全国地域婦人団体連絡協議会事務局長の田中里子さん(五二)。

東京・京橋生まれ。戦後初の総選挙で、ある婦人候補のアルバイトになり、山高しげりさんと出会った。山高さんが三年後東京地婦連を組織するとすぐ事

務局員に。女の意地を貫くシンの強い人、と衆評は一致。(8・1毎日)

### 「核反対で有罪」に控訴

バンクーバーに住んで四年、米国務省のトライデント計画に反対、昨夏基地に立ち入り、不法侵入で禁固十日間の刑を宣告された三輪妙子さん。判決直後長女を出産、控訴審をたたかいながら日本の原水禁大会でもアピール。

「二隻の潜水艦に二四基のミサイルを備えるトライデント計画、日本の人にも知ってもらいたい。子供の未来のためにもたたかう」と。(8・2毎日)

### 女性向けコンピュータ読本

まとめたのは伊勢谷かよ子さん(二七)。「コンピュータは人間が動かすもの」という基本を



知り、主婦も抵抗をなくしても  
らおうと、富士通勤務の女性社  
員三〇人のチームで編集、九月  
に刊行する。(8・4朝日)

#### 異国暮らしの手引書作り

ノイローゼになりがちな在外  
主婦のために『マニラ生活案内』  
を作った吉田よし子さん(四五)。  
「流産!」のつもりが、「中絶し  
てくれ」と受け取られたりする  
言葉の不自由に加え、現地食品  
の選び方も知らない。これでは  
ストレスもたまると手引書を作っ  
たところ大好評、たちまち三刷  
を重ねた。

「いろんな国に行ってる主婦  
たちが、それぞれの生活の知恵  
を少しずつでもためていけば、  
後から来る人に役立つ」と吉田  
さん。(8・6朝日)

#### 金芝河の上映活動を進める

画家、富山妙子さん(五六)。  
鉱山を画き続けていたが、不況  
で移民する人々を追って南米へ、  
以後第三世界に関心を持ち、人  
種差別・貧困・軍事政権からの  
解放、女性解放に熱中。

(8・8朝日)

#### 女子柔道界の実力者

全日本女子柔道六五キロ以下  
級に優勝の笹原美智子さん。  
「少々男っぽくなっても強くな  
りたい」。(8・9毎日)

#### 失われる村を撮影

ダムのために「全村水没」の  
岐阜県・徳山村で村民の写真を  
撮り続ける増山たづ子さん(六  
一)。

「御国のために」と出征した  
夫は終戦直前ビルマで行方不明。

一男一女を育て上げ、いま公共  
のためという「大義」に消滅さ  
せられつつある村で記録をとり  
続けている。

「ダムは自然を壊してしまっ  
ばかりか人の心もだめにしてい  
まう」と。(8・10朝日)

#### 森村桂さんが雑誌発刊

「もうひとつの学校」の雑誌  
版『ヌンク・チュビ』を創刊。  
大野晋氏の巻頭激励文、倉橋由  
美子さんとの編集長対談、ケー  
キ作り教室など内容は盛りだく  
さん。

「ヌンク・チュビ」とはラテ  
ン語で「今はじまる」という意  
味。

「この雑誌は私自身にとって  
も、今後の生き方を探すうえで  
の最初のとっかかりだと考えて  
います」。(8・19毎日)

#### 女性神職、修業中

全寮制で入学金・授業料なし。  
ただし「神職になるのが前提」  
の「熱田神宮学院」。この四月  
入学した二八期生二二人中紅一  
点の青木由記子さん(二一〇)。  
巫子ならともかく女の神主とは、  
といぶかる向きもあるが、神  
主の息子も後を継がなくなった  
昨今、「男子に限る」は過去の  
こと。由記子さんは十数社の宮  
司を兼任する青木昭三さんの一  
人娘。「わりあい素直に受け止  
めて」この道へ。(8・26朝日)

#### 九州女流画家展の推進力

福岡市で第五回女流画家展が  
開かれる。この推進力となった  
のは田部光子さん(四五)。芸  
術に性差はないとしても女性で  
なければ理解しにくい感覚もあ  
るはず。女性同士が自由に創造  
し、作品を競い、女の美術を盛

り上げたい。結婚や育児のため制作から遠ざかっても、再び開始するときお互い励ましあいたい、と二人の女流画家を結集。(8・28西日本)

### 一五年ぶりの復讐

アナウンサーに復讐の黒川千鶴さん。出産を理由に仕事をやめた申し開きを自分にしていたうしろめたさをふっ切った。

「日だまりで寝そべっているネコはイヤ。どんなに愛し合っているでも、女だからという理由だけで女の側が仕事を捨てることはない」という彼女は「同居人」黒井千次氏が作家を目指し会社を辞めると申し出たとき積極的にOKした人。(8・29毎日)

### “生活に生きる”歌作りを

労組の集会でよく歌われる「がんばろう」を作詞した森田

ヤエ子さん(五一)。

「あの歌は三池闘争のただ中で作詞した。日本の歌謡曲じゃ、女はたいがい泣くか甘えるか男にこびるかで、私は好かん。あの歌の本意は“女のこぶし”にあるとです」

「女が生活の中から切実な声をあげてほしい。女が変われば世の中が変わる、という意味を考え直してみにゃ」。(8・30西日本)

### 快走ハンドル人生

安城市の清水和子さん(四三)はダンブ生活一三年。夫が原料粘土を採掘したあとの穴へ土砂を入れて埋め戻す。「車が好きなのと夫と一緒に働けるのが楽しい」。(9・1中日)

### 動物とつき合うプロ女性

宇都宮動物ランドの猛獣飼育

係、十文字祐子さん(二一)は、ライオン・トラなど二三頭の猛獣を担当。

浦和競馬場所属、土屋薫さん(二〇)は史上三人目の女性騎手。(9・3毎日)

### 女は知的でステキ

男性中心の社会に反発、へ全日本フェミニストの会》を結成した渥美育子さん(三八)。

「男が作ってきた歴史はヒストリー(HEISTORY)、今後は女性が主役のハストリー(HERISTORY)に変わる」。

「女性の価値体系をつくらねば」。

(9・8毎日/11・20朝日/11・30読売)

### 意欲満々のおんな編集人

五月創刊の月刊誌「環境と公

害」の編集は、読みやすく偏らずをモットーに、若い女性三人で切り盛り。(9・9中日)

### 女子教育に取り組む

「労働と愛の意味と権利を正しく語り継ぐために」をテーマに一四日から三日間、福岡市で第三回全国高校女子教育問題研究会。

「結婚だけが目標の女高生たちに自立の意味を教えたい」と原田八重さん(六六)らが福岡市内のビルの一室に「婦人問題研究所」を開き連絡と事務を引き受けてきた。参加者五〇〇人は手弁当。(9・13西日本)

### 七一歳の現役ライター

婦人民主新聞の本多房子編集長。定評のインタビュー記事「こめんください」は二二年も継続。昭和四六年、田村俊子賞

受賞。(10・3 毎日)

行動する職業婦人

昭和五三年度国際婦人教育振興派遣団員として、ソ連・チェコ・ユーゴ・イギリスを回る川分クリさん(五四)。「職業婦人と家庭」が研修テーマ。

(10・4 信毎)

美術ボランティア

北九州市立美術館の美術ボランティア、芳賀喜子さん(二二〇)。足が不自由で両松葉づえが必要だが生き生きと活躍。

「歯科医」という希望をはねられ、うつうつとした日々から抜け出したかった。

(10・4 西日本)

中部の中堅作家

四人の娘の母として、工場主

の妻として多忙な毎日。家人が寝静まってから起き出して小説を書く山下智恵子さん。

七六年に女流新人賞を受賞。

繊細な感覚に富む文章は一級品

(10・7 中目)

男は傍観 女はヒラリ

駒込駅で線路に転落したマッサージ師を飛び降りて助けた幼稚園教諭、桜井洋子さん(二四)。

(10・13 毎日)

イラン大地震の激震地調査

守屋田鶴子さん(三四)は農学士の肩書をもつ二児の母。「夫のそばでメモをとり、映写機を回した。」

(10・13 毎日)

一本立ちの主婦大工

安城市に住む花井絹枝さん(四四)。夫の手伝いで始めた大

工仕事が七年に。

女という体力的なハンディを

克服し、今では一人前、注文主からも好評。

(10・13 中目)

オッパイ助産婦さん

桶谷そとみさん(六五)。従来のマッサージ法を根本から覆し、無痛でたっぷり出る新方式「桶谷式乳房治療手技」を開発。助産婦や医師有志が全国普及運動として展開。

(10・18 読売)

『女人和歌大系』を完結

全六巻、登場する女性歌人一〇〇人、八万首の和歌大系を完結した長沢美津さん(七二)。

「もののあわれとは割り切れない。女は天性割り切れない。

でないと子供は育てられない。」

(10・25 朝日)

身辺のものを正直に描く

日本画家、小倉遊亀さんが、女で八番目の文化功労者に。

「まだダメ、まだダメ」といつているので年をとらない。つやかな八三歳。

(10・27 各紙/1・6 読売)

戦後初めての女子駅員

国鉄名古屋駅ただ一人の女子職員、丹羽規久江さん(二〇)。幼いころから国鉄マンの父親の仕事にあこがれて。

「直接お客さんと接触できる仕事があった。ほんとうは出られもやりたいの。」(10・27 朝日)

おばあちゃん選手健闘

第一回全国身体障害者スポーツ大会砲丸投げに六二歳で耳が不自由な佐々木ミサオさんが出場、五・三メートルの記録で五

位に。歴代最年長。

(10・29朝日)

建設省初の女性幹部候補生

「事務系上級職甲種」に廣大法学部、国広紀子さん(二二)の採用が内定。(11・8朝日)

米国の女性騎手

十年選手のメアリー・ペーコンさん(二九)が来日。

「騎手は力じゃなく頭、だから女と男は五角。娘を産んだ日に三レース走った」。

(11・8毎日)

精薄施設「のぎく園」を閉園

近藤えい子さん(六九)は長崎県下で昭和二五年から自宅に重度の精神薄弱者の施設「のぎく園」を開設、夫の死後も続けてきたが白内障が進んだため三

月に閉園する。(11・8西日本)

「身障者もおしゃれを」

服飾デザイナー、森南海子さん(四四)が「からだの不自由な人のおしゃれ」を出版。

一二年前「身障者ファッショ」の講演を頼まれたが会場には少女一人だけ。「身障者がおしゃれとは何事」と反対されたと聞いて以来研究、七三種の試作を発表。(11・10朝日)

「ミス」とフェミニスト革命

スタッフはすべて女性のフェミニスト月刊誌、「ミス」の代表兼編集者、グロリア・スタイナムさんが来日。「性的人種的階級こそ基本的な差別である」ということにまず目を向けてほしい。女性が友人をつくり団結することが大切」。(11・10毎日)

ドイツ生まれの日本の母

佐野エンネさん(七七)。昭和八年来日、今は美濃の奥に小さな田を開いて、夫と住む。

「日本の部屋は広いぞ。家具もない。子供と一緒に暮らすために作られ、一人一人の母の心に知恵があった。それがいまは消えた」。(11・11朝日)

四十の手習いエブロン画家

主婦にしては珍しく一陽会友に推挙された蒲郡市の中村昭子さん(五一)。初の個展を目指す。(11・11中目)

四二倍の外交官試験パス

昨年同様女性二人がパス、女子の合格率は七・四%。その一人、西村篤子さん(二五)は東大卒業後、米スタンフォード大学の修士課程修了。

「女性は就職といっても門戸が広くないので自分をワン・グレード・アップしないと社会に通用しないんじゃないかと思っ

た」。(11・16朝日)

八〇歳の元女性宰相

ゴルダ・メイヤさん。自伝「マイ・ライフ」はベストセラー、ブロードウェイで芝居に。「イスラエルでは男女平等は法的には実現、が現実には仕事と家庭生活のバランスを保つのはむずかしい」——熊本商大・林弘子助教授のインタビューにこたえて。(11・18読売)

結婚二回、二度死別

これも経験と、ひたすら生きた西清子さん(七一)。読売新聞退社後、評論家として活躍、東京婦人少年室初の婦人雇用コンサルタントに。(11・19読売)

尼門跡がナイフ強盗に説教

滋賀県近江市の「村雲御所・瑞竜寺」に前科六犯の男が押し入ってナイフを突きつけたが、門跡に説法され、急報で駆けつけた署員に逮捕された。門跡は元宝塚のブリマドン・桜井紗子さん（六四）。（11・20読売）

五五歳から本当の仕事

羽島さち子さん（六一）は鹿児島で総合文芸誌『みなみの手帖』（年三回発行）を発刊、まる七年。編集・原稿依頼・広告取り・発送——すべて一人でやる。（11・22西日本）

二人の詩人の妻として

詩人八木重吉、のち歌人吉野秀雄の妻、吉野登美子さん（七三）が『わが胸の底ひに——吉野秀雄の妻として』を出版。二

年前の「琴はずかに——八木重吉の妻として」の続編。（11・26朝日）

大学入学検定の最高齢合格者

染矢サチさん（五八）。二八年つとめた大阪市役所を定年退職したとたんに「学習欲」がよみがえった。「勉強に年齢なんて関係ないでしょう」。（11・28朝日）

主婦・学生・スポーツ

女子バレー、元ユニチカ主将古橋美知子さんは、一念発起して日体大に進学、選手兼コーチ兼主婦として活躍中。（11・30朝日）

二人目の女性厚生省課長

統計情報部情報企画課長に横尾和子さん（三七）が。国際基

督教大卒、三九年入省。

（12・1毎日）

“童話さんまい”の八〇歳

岡崎市に住む深津早苗さん（八〇）。小さい頃から書くことが好きだったが、老境に入ってからやっと書けるようになり、幼い頃の思い出を中心に一〇〇編以上の創作童話を。（12・2中目）

韓国人として身障児教育

一六歳のある朝、新聞を見て愕然。李王朝皇太子の婚約者として自分の写真がのっている。「陛下のおぼしめし」に泣いたが、殿下も人質として寂しい思いをしてきた人とやがてわかった。日鮮の暗い影の中で長男は七か月で死亡、敗戦後は無国籍のタケノコ生活、三八年ようやく帰韓、心身障害児と主婦の職

業教育に打ち込む李方子さん。（12・3読売）

ツルと気象の関係を研究

砂場久江さん（五四）。九州経済調査会総合企画副部長。戦時中、気象技術官養成所に入所、その後航空気象観測所で身についた雲の観察が、習性となった。

四年前参加したヒマラヤ旅行で上昇気流と渡り鳥の関係に気づき、ツルと気象の関係を観察中。（12・6西日本）

女六〇〇万人寄れば……

会員が六〇〇万人を超えた地婦連の会長、大友よふさんは行動派の七四歳。

八年前テレビの二重価格を徹底的に調べ上げ、メーカーを震え上がらせた。「以来主婦連はテスト、こっちは調査で……と」。

(12・7 読売)

乗りに乗ってる版画家

山本容子さん(二六)。制作

と主婦業と大学の美術講師の三足ワラジをはいて、去年と今年でたて続けに四つの賞を。京都在住。(12・10 京都)

婦人研究者の先頭に

女性科学者の組織へ日本婦人科学者の会。幹事の猿橋勝子さん(氣象研究所地球化学部研究室長)。

「同じ実績をあげても差別される。婦人研究者の地位向上が大きな関心です」。(12・11 毎日)

二十年ぶりの女性外交官

外務省に入り八か月の清井美紀恵さん(二五)。「結婚しよう」としまいと続けます。来年六

月から在仏勤務。(12・12 毎日)

浄土も地獄も共にわがうち

信心深い母のおしえを支えに、

旧家の嫁の辛い生活に耐えた生方たつみさん(七三)。三〇過ぎて始めた歌を心のよりどころに精いっぱい生きる。昭和三三年読売文学賞受賞。(12・17 朝日)

女ばかりで東南ア訪問飛行

これからも命ある限り「翔ぶ」という女性飛行士第一号の及田野衣さん。

「マニラやマレーシアでは女性管制官。はつきりした英語で聞きやすいし、親しかったです」。(12・21 朝日)

全国一周サイクリング

元銀行員、吉富敏子さん(二一)がチャレンジ。全国一周を

一年七か月ぶりに終え佐賀市に帰着。走行距離はざっと二万キロ。(12・22 西日本)

プロデューサー二年

石井ふく子さん(五二)。製作担当のTBS「日曜劇場」は一一五〇回を迎える。

「仕事は結果を見せる以外、弁解はききません。プロセスを言っても仕方がないし、甘えは無用」。(12・24 読売)

デンマーク研究一四年

大阪外国語大学助教授の岡田令子さん。

「デンマークでは女性も自分が働くことによって自由になっている。結婚も同棲も離婚も気にしない。働くことは当然という考えは徹底している」。(12・25 朝日)

重度身障児の収容施設を

重度身障児の母親たちの「野ばらの会」は毎月一回福岡市の公民館で子供たちの教育とリハビリテーションに取り組んでいるが「愛や奉仕だけでは救われぬ」と矢野筆子会長(六五)は施設づくりを訴える。(12・26 西日本)

## 〔賞〕

第二回歴史文学賞

家事を終えてから真夜中に執筆する松本幸子さん(四六)、初めて書いた小説で受賞。作品は岡山藩岡谷学校を舞台にした『岡谷の日々』七年前からのパートで得た収入は資料や取材費用に消えてきた。(1・5 朝日)

## 女性初の鳥井音楽賞受賞

### 日本童話会賞を受ける

と好評。 (3・28各紙)

常森寿子さん (三二〇)。ルチ

アの主役で「完ぺきな歌唱技術」を示して。「主婦業との両立は、

竹下文子さん (二〇〇)。小学生の頃から童話絵本を作ってきた清新な幻想作家。「月売りの話」で受賞。 (2・8読売)

第七回バイオニア賞受賞

世界の「ハナエ・モリ」として年商三〇〇億のファッション王国を築いた森英恵さん。女子大を出て一度は平凡な主婦の座

にいたが、長男がおなかにいるときに洋裁学校へ。新宿駅前のラーメン家の三階に洋裁店を持ってから子連れで店を守り、この道二〇年。 (3・3朝日)

## 第四回解放文学賞記録部門

野村コマキさん (六二) が入選。受賞作は「私の生いたち」。

きびしい差別と貧困の中を生きぬいてきた記録。 (2・21各紙)

## 森英恵さんの店に賞状

森英恵さんのバリの店に今年

の欧州優秀品委員会の賞状にあたる「資格免状」が与えられた。

(1・26毎日)

## 日本初のシュバイツァー賞を

### 安井賞に初の女性

武藤洋子さん (三五)。東大

医学部で、実験用動物の世話をして

捕鯨に抗議するために来日したAWI会長が、視察

に来たとき、手術後の動物たちに毛布をかけてやる武藤さんを見て感激。こんどの受賞となった。 (3・3朝日)

\*

日本動物福祉協会職員の武藤

洋子さん。アメリカ動物福祉協会から日本初の「シュバイツァー・メダル」を贈られた。東大病院

で犬を相手に実験研究を続けて八年、その慈悲心を評価されて。 (4・15読売)

### 一七歳少女が童話新人賞

広島の高校二年生、佐竹啓子さんが毎日童話新人賞を受賞。受賞作は「ゆみちゃんのでんわ」。

(3・11毎日)

## 第五二回オール読物新人賞

五二歳のコピーライター黒沢いづ子氏が「かべちよう」で受賞。 (4・1読売)

## 第二二回群像新人賞

一八歳の中沢けいさんが、小説部門で、「海を感じる時」——高校生男女の恋愛を描いた作品で受賞。

(4・4、5・16読売)

## 第四回東京市政調査会藤田賞

「公害・労災・職業病年表」で東大助手飯島伸子さんが受賞。

(5・16朝日)

## 蛇笏賞受賞の九一歳

句集「月下美人」で受賞した阿部みどり女さん。父母・夫・子に先立たれ自身は大病、深い悲しみを秘めた人生だ。が、「病氣さえも喜びに変える、これが俳句です」と静か。

(6・7、30読売)

## 第八回赤い鳥文学賞

「夜のかけぼうし」で宮川ひろさんが受賞。(6・13朝日)

江戸川乱歩賞

中島梓の名で「群像・評論部門新人文学賞」を去年受賞した栗本薫さん(二五)の「ぼくらの時代」に。(6・30各紙)

ブルガリア平和と相互理解賞

日本で学ぶブルガリア青年の親がわりをつとめてブルガリア政府から受賞した宮古みどりさん(五五)。

一五歳で女学校を中退、日本婦人新聞や婦人民主新聞の記者、ラジオの主婦レポーター、テレビ料理番組の司会者をつとめた。

(7・4朝日)

## 長谷川伸賞を受賞

松竹大谷図書館(演劇・映画専門)主事の小河明子さん(四四)。開館して二〇年、「珍しい資料や本が増えるたびに、かわいこともを預ったような気がするんです」(7・13読売)

バレエ大会で総理杯

熊本砂取クラブ主将竹原敦子さん(四一)。長女を生んでからバレエを始め、全参加チームで最髙年齢のチームをまとめ優勝。「特別な練習はしませんが、できません。週二回それも夜一時間半ぐらい」という共働きママ。(8・5朝日)

## 第八回モービル音楽賞

長唄の歌方、杵屋佐登代さん(六七)が受賞。本賞と副賞八五万円を受けた。

「長唄界で女性の地位を拡大向上させた」が授賞理由。

「長唄は、男の三味線に男の唄、だったが女も唄うようになり、私とそのさきがけ」。

独身、十は若く見える人。

(8・12朝日)

大臣賞よりも法律がほしい

心身障害児福祉への貢献で厚生大臣賞を受けた宮城まり子さん。「以前受賞したときは貰いお金がほしいと思っただけ、いまは障害児を守る法律がほしい」。(8・12朝日)

漢字読み書き大会に優勝

高校国語教師の飯田多美さん(五九)。写植機メーカー主催のこの大会で、女性の優勝者は初めて。出場目的は「趣味と老化防止」。(8・25朝日)



## 第十七回女流文学賞

竹西寛子氏の「管絃祭」と津島佑子氏の「龍児」に。

(9・6毎日)

\*

「龍児」で受賞の津島佑子さん。「女性特有のテーマに限定して夢と現実を結びつけたが、これからは精神と現実が一緒になったものを書いていきたい。いい子育てもしたい。」

(10・2朝日/10・6毎日)

## 毎日芸術賞

「和宮様御留」の有吉佐和子さんに。「文壇はずいぶん前から女性が進出していたのに、なぜか女だけを対象とした女流文学賞が近頃になってでき、それを受賞した。今度は男女共通で初の受賞、うれしい。」

(10・9毎日)

## 国際交流奨励賞受賞

浅野鶴子さん(七一)。東京日本語学校で教鞭をとって三〇年、日本語教育史の生き字引きとして知られる。賞金三〇〇万円は教材整備などに使う。

(10・22朝日)

## 「現代の名工」に女性研磨工

光学レンズみがきのベテラン、小森美代さん(四四)。一八歳で富士写真光機にレンズ工として入社。先輩は何も教えず全くの徒弟制度、「人のいなくなったら昼休みにこっそり勉強」、一万分の五ミリの精度が要求される男の職場で二六年、今は一万分の一の狂いもないとの折紙つき。第二二回「現代の名工」九九人の最年少者として労働大臣から卓越技能賞を。

(11・8朝日)

## 女流陶芸展で文部大臣賞

松井明子さん。「造成地の風に吹かれる白い草」で受賞。「主婦の仕事の合間に陶芸を続けたい。」

(11・11毎日)

## 「すばる文学賞」森瑤子さん

サガン風の「情事」で受賞。

「四作目からブラックユーモアの短編を書いてみたい。」

(11・18読売)

## 五三年毎日農業記録賞

「土と家族と友情と」で最優秀賞の千野喜和子さんは七人家族の主婦。

作品は「協同組合活動の中へ女性の声を反映させて、農業を本気で考えるような政治を作り上げねばなるまい」と訴えたもの。

(11・18毎日)

## 第五回ノンフィクション賞

「火はわが胸中にあり」で澤地久枝さんが受賞。「資料探しは女のつづり仕事。女だからできることも。昭和の女を書き続けます。」

(11・27朝日/12・6毎日)

## 手づくり絵本で入賞

今年から始まった「手づくり絵本コンクール」には、一般から一五五八点、児童から九七一点もの応募。読売新聞社賞を受賞した三原佐知子さん(三五)は、八、六、四歳のお母さん。

(12・10読売)

## 芸術祭大賞のママバレリーナ

小林紀子さん(三六)。出産後初の公演「眠れる森の美女」で受賞。まる二年間の空白を「朝六時起き、食事洗たくをし

て一〇時から三時まで練習して」埋めた。  
(12・17朝日)

## 第二十八回児童小説に入選

小野紀美子さん (四一)。受賞作はヨーロッパでの敗戦の思い出をまとめた『十三歳の出発』。胸にたまっていたものを一気に引き出したかった。  
(12・21毎日)

## 〔逝去〕

花森安治さん

一四日、急逝。

去年の十二月、短期入院したとき、病院で生まれたばかりの力強い泣き声をきき、花森さんはその明るい生命力に感動したと涙をためて語った。そして、「あの声には、男も女もないな」と言った。女性に偏見のない人だった。  
(1・15朝日)

ダミア (マリ・ルイズ・ダミアン)

シャンソン「暗い日曜日」や「人の気も知らないで」で有名な歌手。八八歳。(1・31読売)

石井小浪さん

創作舞踊の草分け。九日、急性肺炎で。七二歳。  
(2・10各紙)

水梨サワ子さん

一六日脳内出血で。奈良女子大教授、六二歳。(3・16各紙)

生田花朝女さん

大和絵画家。大正一四年帝展初入選、翌年、女性で初の特選受賞。八八歳。(3・31毎日)

野宮初枝さん

元日本キリスト教婦人矯風会理事。売春反対等で活躍。二日、脳出血のため。八〇歳。  
(4・3読売)

五島美代子さん

一五日、胃カイヨウと肝硬変で。七九歳。母心を歌った歌人。  
(4・15各紙)

網野菊さん

一五日、東京の病院で、じん不全のため。一貫して私小説を書き、一人暮らし三五年、自分で生きようという気迫を保ち続けた作家。七八歳。  
(5・16、5・20、5・30朝日)

杉野芳子さん

日本洋裁界の草分け。二四日、

老衰のため。八六歳。  
(7・24各紙)

塩谷アイさん

北区選出の共産党前都議。新日本婦人の会東京都本部会長。一日、脳出血のため。六六歳。  
(8・2読売)

波多野動子さん

ガン性胸腹膜炎で。七二歳。「少年期」の作者、児童心理学や社会教育の分野で大きな足跡を残した。女性第一号の文学博士。  
(9・18毎日)

マーガレット・ミードさん

世界最高峰の人類学者。世界の女性運動に大きな影響を与えた人。ガンのため七六歳で死。一年前からガンと知っていたが二二年間、館長を務めた米自然

科学博物館に通い続け、後進を指導、一〇月三日まで講演活動も続けた。「花束は無用、香典は人類学の発展のために」が遺書。著書『男性と女性』ほか。

タブーだった性についてオープンに語り、三回結婚して三回離婚。常に風変わりな行動をとった。非難する人も多かったが、その指導を受けた研究者たちは「決定的かつ建設的な示唆を与え、励まし続けてくれた」と賞

(12・9朝日)

毎月一回、歌の市民  
広場を開いているママ  
さんフォーク歌手の

時、もちろん三十三年前  
にない。日本にいた時  
にも彼にもあまり傾心  
がなかった。だが、カナダの  
バーに移り住んで四年  
、梅野子さんに、ペンタゴ  
ン（国防省）が準備している秘  
密の「トライデント計画」  
と「平和の騎士」に驚き  
、作風、炭素内への立ち入

## 核反対で米の法を

戦後っ子  
三輪さん

り運動に加わって参加された。アメリカの法廷に提出して立証された。今、反共運動を断っている。三月三、四日に大衆で開かれる原水禁(社会党、緑十字)の「生存の統一の国際青年会議」で、彼女は「議にならない例を持つ一人の用」として「子どもが母を安全に導く」してあげるように「母の職務を」果たす。

女性校長  
海を渡る

「マーガレット・ミードをおもむく」  
 夢の日本人  
 学校長に  
 三年間「自分」  
 について研究を進め  
 十一年に渡り

人類学の方法に開拓

風変わりな行



# 本

## 〔本〕

家業の暇に詩集自費出版

家業の雑貨店を継ぐかたわら詩作にとりくんでいる楠美純子さん（三〇）が、念願の詩集『櫛（そり）をひく』を自費出版した。（一・6道新）

## 「ふるさととは林檎の匂い」

『読者の歳時記』として、朝日新聞の東京版に四年余掲載されたコラム「日時計」の投稿者の一人、主婦吉野弘子さんが、同

櫛に載った自分の作品を中心に約九〇編の短文を本にし、自費出版する。（一・8朝日）

## 「ふるさと幻想」

女であり、出産することを思想化し、「あたし子供を生んだのよ」ではなくて「あたし子供が生まれたのよ」という表現を貫き通す森崎和江さんの朝鮮考。『朝鮮の実感にことばを与えて朝鮮を生みたい』という切実な心情が逆に「日本」をあらわにさせている。大和書房、一三〇〇円。（一・9読売）

カメラで捕えた銘仙の機女

秩父銘仙で織りつづけた織女（はため）たちを追った写真集『秩父機織唄』。年季・前借証文の資料も収録。主婦と生活社、四八〇〇円。（一・16読売）

## 「アメリカ史のなかの女性」

歴史学者が豊富な資料と女の生き方に対する温かな目くばりで綴ったアメリカ女性史。ベイズ・スミス著、東浦めい訳。研究社出版、二五〇〇円。（一・16読売）

「この風の音を聞かないか」

農民詩人渋谷定輔氏の若き日の妻で、共に農民運動に飛び込み、二五歳で亡くなった渋谷黎子の日記や手紙が、半世紀ぶりに遺稿集『この風の音を聞かないか——愛と闘いの記録』（家の光協会刊）として日の目を見る。一二〇〇円。（一・17朝日）

## 「ほづゝのあとに」

従軍看護婦の手記が出版された。日中戦争から太平洋戦争にかけてに従軍した看護婦の数は三

万三千余人。そのうち戦死・戦

かりばね書房。(2・5読売)

病死したものは千四百余人。戦争を知らない若い世代に戦争の意味をわかってもらいたい、という願いが実って反響が続々。

【わかれ道おもいで道】

五月には「続・ほづゝのあとに」も刊行予定。アンリー・デュナン研究所刊。(1・23読売)

【家庭科・なぜ女だけー】

戦争中、労働運動家の子として暮らした少女の体験をもとに描いた物語。戦時中の社会主義者とその家族の生活がうかがわれ、貴重。山花郁子著、岩崎書店、九八〇円。(2・6読売)

【家庭科の男女共修をすすめる会編。共修をすすめる会の発足前後から三年にわたる活動と運動の記録をまとめたもの。】

【炎は海を越えて】

民衆が生きて来てこれからも生き継いで行く、その原点となるべき母たちの重い足どりと声を、ひとつでも多く世に残してもらいたい——との願いから生まれた書。畑山博著、潮出版社、九八〇円。(2・27読売)

この会は「家庭科を女子だけが学ぶ」ということを現在の女性問題の象徴ととらえ、問題の根深さを示している。ドメス出版、一七〇〇円。(2・1朝日)

九州の古い陶窯、高取焼十代目の波乱に富んだ女性陶工一代記。女という制約をこえたがんばりを生き生きと伝えている。高取静山著、平凡社、九〇〇円。(2・6読売)

【夜明け前の福祉——雨の中の土下座の記録】

昨年亡くなった農民作家、吉野せいさん(第六回大宅壮一ノンフィクション賞、第一五回田村俊子賞受賞)の遺品の中から、次女・梨花の二か月後の命日、昭和六年一月三〇日から、四か月間続いている日記が発見された。【梨花鎮魂】と題して発表される。(3・10朝日)

【女子教育】創刊

【母乳をだす本】

ベーチェット病の患者、斎藤とみさん(四八)の自費出版。「べ病」という難病があったんだけど、親は強く生きて行こうとしたんだ、ということを子供に残しておきたかった」

【梨花鎮魂】

【母子教育】創刊

【ガラスのうさぎ】

【女子教育】創刊

【女子教育】創刊

男女平等と女性の自立の実現のために。一部八〇〇円。季刊。

林せつ子・布村東三共著、ピジョン出版、八五〇円。(2・14毎日)

【ガラスのうさぎ】

【女子教育】創刊

【女子教育】創刊

【女子教育】創刊

【女子教育】創刊

【女子教育】創刊

吾妻徳穂さん。「踊りを天職と

考えた一人の女の強さと弱さ、

とどのつまり運命にさからいき

れなかった姿を問いかけたかっ

た」と自叙伝を。読売新聞社、

一三〇〇円。(3・20読売)

中年の危機を考える本

米国のベストセラー「パッセー

ジ」の訳本が出た。人生の節

(ふし)をいかに乗り切るか、

特に女性には三五歳を締め切りと

して自分のほんとうにしたいこ

とを正直に自問すべきだと、事

例を紹介している。プレジデン

ト社刊I・II巻。(4・4読売)

『交通遺母』の細胞質聞記

交通遺母の会(坂本みゆき会

長、会員三五〇〇)が事故防止

の願いをこめ、生活の苦しみを

つづった文集『赤いシグナル』

を初めて発行した。六〇〇円。

(4・5読売)

主婦の投稿誌『わいふ』

随筆・手紙・テーマ原稿など

月に四〇通ぐらいが寄せられ原

則的に没原稿なし。疑問の中で

閉ざされ孤立している主婦が、

書き、討論することで出口が見

い出せればという願いで刊行。

隔月刊。(4・6朝日)

女性の戦争記録

女性ばかりの戦争体験手記

『怒濤の母』が刊行された。京

都の旅館主、笠原政江さん(六

五)が全国に呼びかけて募った

手記の第一巻。記述は実に克明

でしかも鮮烈、現代史の貴重な

資料。(4・10朝日)

繰り返すな、この苦しみ

スモン被害者の苦しみと薬害

の怖さをつづった本『ひとり

歩きたい』(福岡県スモンの会

編、西日本新聞社刊)が出版さ

れた。淡々と語られる憤りや悲

しみから被害者の悔しさ悲しさ

が強く伝わる。(4・16西日本)

『日本語の裏方』

寿屋草子著。女性の視点に立っ

た研究を続けている著者は、男

たちが特権的な団結の核として

かずかずのことわざを用いてき

たことを発見し、ことわざが時

に生む差別の残酷さに対して警

告し、抗議する。講談社、一一

〇〇円。(4・17読売)

危うい生活に耐える女たち

津島佑子著『飲びの島』。夫

と別れたかあるいは別れようと

している女たちの、独立して生

きようと、だがどこかうつろ

で寒々とした日常を描く短編集。

中央公論社、九五〇円。

(4・24読売/5・8朝日)

心のふるさとを見事に描く

美森成生著『不思議な釣鐘』

には著者が幼いころ母から聞い

た語り口そのままを再録した民

話一五話が収められている。い

ずれも土着性の強い民話で墨一

色のさし絵がイメージを誘う不

思議な魅力を持つ。構成は演劇

的要素に富み、ゆたかな語り口

調が見事。茶の間に備えて親と

子が表現読みして楽しむのひと

ときを持ってみたいだろうか。B

OC出版、一八〇〇円。

(4・29毎日/5・7読売)

『なはをんな一代記』

沖繩に生まれ、強い意志で自

己形成してきた著者の、波乱の

過去をいきいきと語った自伝。

金城芳子著、沖繩タイムス社、

一八五〇円。(5・8朝日)

話の特集、一七〇〇円。

(5・29朝日/6・20読売)

### 『あめゆきさんの歌』

『青鞥』の異色評論家、山田

わかの前半生の謎を解き明かし、  
底辺女性史のなかに位置づけた  
もの。山崎朋子著、文芸春秋、  
八五〇円。(5・15読売)

### 『杉田久女ノート』

大正から昭和にかけて活躍し  
た九州・小倉の女流俳人杉田久  
女の『伝説』にゆがめられた生  
涯を実証的に追求しようとした  
試み。増田連著、裏山書房、三  
〇〇〇円。(5・22朝日)

### 女が撮った七〇年代の女

ほんとうに美しい女とは強く  
のびやかな女。写真家の松本路  
子が七〇年代に出会った女たち  
の写真集『のびやかな女たち』。

### 『アメリカの女たち』

―その愛と家庭と自立―

中野英子著。著者は六年ほど  
アメリカで暮らし、帰国後は日  
本語教師をしている主婦。アメ  
リカで職業を通して、近所のつき  
あいを通して知った女たちの生  
き方をありのままに示したと  
いう。女たちそれぞれの思想と  
責任にもとづく個性味は興味深  
く、教えられ、考えさせられる。  
PHP研究所、八八〇円。

(6・3朝日)

### 『マザー・グースと』

三匹の子豚たち』

三人の子を伴って米国東部の  
いなか町に一年間滞在した桐島  
洋子の風変わりな教育通信。文  
芸春秋、八八〇円。(6・5朝日)

### 敗戦体験の記録出版

八八〇円。(6・10読売)

敗戦期、学生だった旧東京女

子高等師範学校(現お茶の水女  
子大学)の卒業生が七月に『女  
学生たちの敗戦』を京都の出版  
社から刊行する。戦時中に故郷  
へ送った手紙・日記など記録を  
持ち寄り、やっと出版にこぎつ  
けた。(6・7朝日)

### 『すぐ役立つ女性の年金』

国井国長著。著者は年金の相  
談を業としている人。青年書館  
八八〇円。(6・9朝日)

### 『オトコの家庭経営』

ヨメとシュウトメの対立は現  
実にもドラマにも必ず登場する。  
それはみんな男のせいさ、と割  
り切る本。悩める亭主は傾聴し  
て男性の權威を確立されよ。秋  
田誠一郎著、文化放送出版部、

### 『律令制女性史研究』

律令制下における女性を研究  
したもの。女性には男性に對する  
ものとしてでなく女性自身の活  
動と歴史への貢献があることを  
立証した前人未到の書。須田春  
子著、千代田書房、六〇〇〇円。  
(6・12朝日)

### 『花蔭の人』

太平洋戦争前のある時期、文  
壇随一の美貌をうたわれ、はな  
やかな人気作家の一人だった矢  
田津世子の評伝。著者の近藤富  
枝さんは『本郷菊富士ホテル』  
に始まる『文壇資料もの』の筆  
者。九八〇円。(6・12朝日)

### 『生ま身の論理』

丸岡秀子著。同じ筆者による

戦前の名著『日本農村婦人問題』の現代版ともいふべき綿密な警鐘のレポート。

「一つ一つ身体の骨のふしぶしにたまっていく疑い」を、ひたむきに長い年月かけて確実に解こうとした所産が静かな説得となつてひびいている。未来社 一八〇〇円。

(6・12読売/11・14毎日)

### 『ドキュメント』

女の百年 女の一生

女にとって、この近代百年はどのような年月だったのか——編者もろさわようこは、この歴史を「閉ざされた女たち」の目でふりかえる。平凡社、一〇〇〇円。(6・12読売ほか各紙)

### 『ある愛の旅路』

神戸在住の白系ロシア人、ポーラ・ネニススキさんの、一行一

行、血を吐く思いの自伝。筑摩書房、七五〇円。(6・26読売)

残された者の手記——

### 『戦禍の語部』

戦争で無念の死をとげた死者たちを生き残った私たちの日常生活によりがえらす。時事通信社、二二〇〇円。(6・27読売)

### 『婦人のあゆみ百年』

革新系婦人団体の連合体、日本婦人団体連合会が、創立二十周年を迎えた記念事業の一つとして、編集・出版。

(6・27読売)

主婦の心境など本音つづる

女たちに「互いに気になることを書く」と呼びかけた小冊子『このさい』二号が出た。長野市の二、三〇代の女性たちが

中心になって作製。(7・5信毎)

### 『子供の自殺』『子殺し』

精神病理学者の稲村博氏が「子供の自殺」「子殺し」を同時に刊行した。子を殺す親の特徴として「一般に考えられるような非情で残酷なタイプではない。むしろ弱々しくよるべないような場合が多い」など、読み過ぎない事実や指摘を多く含んでいる。東京大学出版会、九〇〇円、と誠信書房、二〇〇〇円。

(7・31毎日)

自由な女の生体の悲鳴

津島佑子の新作『龍児』は、

「拘束をきらって孤独に生きる女」をテーマにしているが、女主人公の生体のあける悲鳴のような響きが全編にこだましている。河出書房新社、九八〇円。

(8・14読売ほか各紙)

「結びとすじの青春——富岡日記にみる日本の近代」

「富岡日記」をもとに、富岡に集まってきた若い模範工女たちの生態をあたらかり追った、女性史上、近代日本史上、見逃せない書。上條宏之著、日本放送出版協会、六五〇円。

(8・21毎日)

### 『天使じゃないけれど』

千葉市の弁護士渥美雅子がかかり合った事件に女性の立場から光をあてた。毎日新聞社、九二〇円。

(9・2毎日)

女子軍属の悲惨な青春を書く

太平洋戦争中ボルネオに渡り悲惨な脱出行を体験した小諸市の主婦、菊原利子さん(五六)は、その記録を五〇〇枚にまとめ「ボルネオは燃えて」として



出版。 (9・6信毎)

『火はわが胸中にあり』

百年前の竹橋事件を明らかにした見事な研究書。澤地久枝著。角川書店、一二〇〇円。

(9・11毎日)

『男と女』特集

『青年心理』十号で外山滋比古は「女性の特性を生かした教育制度をつくるべし」と提案。金子書房、隔月刊。(9・11毎日)

母子寮の親子の叫び

桜貝のように薄い小さな貝殻の家、そこには幼な子と母が住んでいる——母と子の詩文集、『小さな貝の家』が民間の母子寮大洋社大森寮の手で出版された。

ハガキ一枚さえ書けなかった

母と子を童話作家島田はくさんが指導、痛々しくけなげな姿をありのままに表現できた。

(9・17朝日)

『続ぼづのあとに』

昨年八月『ぼづのあとに——殉職従軍赤十字看護婦追悼記』がまとめられ大きな話題を呼んだがその反響。アンリー・デュナン研究所刊、一二〇〇円。

(9・20朝日)

『主婦の体験した昭和史』

昭和という激動の時代に、女たちはどんなかわり合いをもって生きてきたか。

主婦の生活記録や体験七〇編を、都内の主婦グループ〈私たちの歴史を綴る会〉が一冊の本にまとめたもの。あけぼの出版、一二〇〇円。

(9・28読売)

『富山啓子追悼集』

合成洗剤追放・せっけん普及運動に取り組みながら四七歳の若さでがんのため亡くなった主婦の遺稿追悼文集。婦人民主クラブ京都協議会発行。

(10・12朝日)

『私の教育ノート』

繋ぐ こころをつなぐ

書きためた記録と、この一〇年間続けてきた家庭回覧ノートをまとめて体験的教育論集として出版したもの。

福知山市の小学校教諭、土井三千代さん(五〇)の労作。ミネルヴァ書房刊。(10・22京都)

『アメリカ女性も変わった』

宮本一子さんは主婦でニューヨーク滞在中『家の光』通信員をつとめた人。中産階級の主婦

への質問をまとめたもの。サイマル出版会、九八〇円。

(10・23朝日)

国際女性学会の報告書

特別講演「この百年の日本女性——主婦の呼称を通して」ほか78東京会議の問題提起と討論内容を報告。一四〇〇円。

(10・31毎日)

『女の自立』

婦人問題に常に先駆的な光をあて続けている女性史研究家、河野信子さんの「自立論」。新評論社、一二〇〇円。

(11・1西日本)

『たくさんの足音』

女性運動の先駆者、樺田ふきさんの半生記。草土文化、一三〇〇円。

(11・2読売)

『共働き家庭の育児』

仕事を待つ母親なら誰でも抱えている悩みを、体験者ならではのこまやかな心配りで書いたもの。駒野陽子著。第三文明社、五八〇円。(11・2朝日ほか)

『書くこと生きること』

月刊誌『家庭科教育』を編集して十年余、さまざまな社会的風潮に対し積極的に発言してきた半田たつ子の、生きるあかしとして書き続けてきた文章を一冊にしたもの。家政教育社、一八〇〇円。(11・6朝日)

『ふくい女性史』

因習に押しつぶされそうになりながら自分の道を切り開いた福井出身の女性の生涯を追ったもの。著者は詩人で県立高校教師、田中光子。フェニックス出

版、一五〇〇円。(11・7朝日)

『家庭の魅りのために』

家・家庭が、テレビや映画の中でどう表現されてきたかを論じ、現実の「家庭」を考察するホーム・ドラマ論。佐藤忠男著。筑摩書房、一四〇〇円。(11・14社会新報)

『埋葬を許さず』

農村婦人問題の運動家・評論家の丸岡秀子の評論集。「労働こそ生きがい」を原点に生き続けた、手織り木綿の感触が心に残る。未来社、一八〇〇円。(11・14毎日)

『日本の婦人問題』

女性差別の実体を明治以来のさまざまな事象にてらして、平易に、しかし鋭く追求。村上信

彦著。岩波書店、三二〇円。(11・19各紙)

『女の子の育て方』

女の子はやさしく従順にという通念を見直し「待つ女」から「創る女」への道を説く。樋口恵子著。文化出版局、八〇〇円。(11・19読売)

『アオサイ女房』

娘をつれ日本人の新聞記者と結婚したベトナム女性の目でみた日本人論。近藤ナウ著、文化出版局、八三〇円。(11・20毎日)

『二十世紀をあゆむ』

今世紀の初めから婦人解放に関与してきた山川菊栄の、時代の変遷を背景とした思い出話、エッセー、読書論等。大和書房、一五〇〇円。(11・26朝日)

『一絃の琴』

幕末から明治・戦後と変転する世相風俗を活写し、一絃琴伝受にまつわる女の闘いを描いた物語。宮尾登美子著、講談社、一一〇〇円。(11・27毎日)

『きのうの虹』

きのうの虹即ち昔日の夢の回想にとどまらぬ、みずみずしくかつしたたかな老境が語られたひさびさの佐多稲子隨筆集。毎日新聞社、一五〇〇円。(11・28社会新報)

『歩き出した女たち』

ヒューストン市で開かれた全米女性会議の様子を骨子にアメリカ女性たちの最近の動きを伝える克明なレポート。深尾凱子著。ELC出版部、一二〇〇円。(12・17読売)

## 「ママ・アイラブユー」

離婚した母子家庭の陽気で頭のいい九歳の娘の目から、三三歳になってもまだ大人になりきらない「ママ・ガール」の行動をながめた軽妙な味わいの小説。W・サローヤン著、れんが書房新社、九八〇円。(12・18読売)

## 「草葉」

女性の中にひそむ性的な部分は年齢とともにどのように変わっていくのか、女の性愛を鮮やかに描く長編。瀬戸内晴美著。講談社、九八〇円。(12・18読売)

## 〔映画・演劇〕

映画「薄墨の桜」を製作

樹齡一三〇〇年の大樹を追うこと四年、自主製作で完成した羽田澄子さん。岩波映画で二七

年のベテラン演出家。

「今の映画は男性志向でしよう、切ったはったかボルノなど……」

。当てようとか興行でなく自分の心の自由を失いたくない。自分を出しきりたい。」

(3・19毎日)

「浅茅が宿」上演

石沢富子作。廃屋に男を待ち続ける盲目の女と四人の老嫗を登場させる「女だけの芝居」。

女たちの過去、現在、未来の時間が溶けあっていく。文学座アトリエで。(7・21朝日)

「結婚しない女」

ニューヨークのアパートに住み、ウォール街で働く夫と高校生娘を持つ共働きの女を描いて大ヒットした女性映画が近く上映予定、話題を集めている。

(7・31朝日)

「ガラスのうさぎ」映画化

高木敏子さんの「ガラスのうさぎ」が十万里近いベストセラーに。戦争を知らない世代に戦争の悲惨さを伝えようと、映画化が決定。立原りゅうさんの脚本で十月末にもクラシックインの予定。(8・14朝日)

「あゝ野麦峠」初めて映画化

十年ほど前、原作が発表された直後にも映画化の話があった女工哀史が、初めて山本薩夫監督の手で撮影に入った。

(10・17朝日)

「涙をたらした神」自主製作

農村女性の生活をえがいた吉野せいさんの同名の原作を新藤兼人脚本で映画化、全国で上映活動を行なう。(10・30朝日)

「女たちの映画祭」を実現

世界には女性監督が作ったとても愉快な映画があると聞いて「何とか上映しよう」と、ごく普通の女性たちが集まって海外への交渉やら資金づくりやら大奮闘、ついに十一月十日から三日間、四谷公会堂で映画祭を開く。

デンマークの「女ならやってみな」、フランスの「主婦の動く日何かが起こる」、アメリカの「絶対あきらめなざるな」など全部女性監督の話題作。比較として田中絹代監督「お吟さま」も上映する。(10・31毎日)

# 事件

## 〔女の敵〕

### 〔女を殺す〕

警官が女子大生殺し

一〇日、東京・世田谷のアパートで、一人暮らしの清泉女子大生が現職の警官に白昼巡回中に乱暴されたうえ絞殺された。制服警官の勤務中殺人事件は戦後初めて。

(1・11各紙)

警視總監号泣

「責任はすべて私にあります」

一日午前の記者会見で土田警視總監は目を赤くはらして陳謝した。表情には都民の警官への信頼失墜への悔しさがにじみ出て、声は震えていた。

「警察官・社会人という以前の人間の倫理の原点の問題だ。

採用・教育・配置・勤務などの問題があるが、監督・上司の指導の強化だけで解決するとはいちがいに言いきれない。事件がどうして起こったかを解明し、責任の所在を明らかにして遺族と一千万都民におわびするほかない。警視庁四万四千人が長い間つちかってきた信用と信頼が

踏みにじられた。全職員が気分を一新して信頼を回復したい」その足で遺族のおわびに回った總監は畳に両手をついて「おわびのしようもありません」と深々と頭を下げた。

「總監は爆弾で奥さんを亡くしているので苦しみがわかってもらえるはずです」と父親が言葉を返すと、總監は突然号泣し、遺族四人全員が声をだして泣きくずれた。

(11・11毎日)

暴力団に土地家屋を売られる

独り暮らしの婦人(六一)が

暴力団に殺され、土地家屋を売り飛ばされた。良家に生まれたが母亡き後、父の世話で婚期を逸し、父の死後その友人の世話になる日かげの生活を送っていた人、近所の人にも犯行に気づかなかった。

(5・24朝日)

### 〔女を犯す〕

自衛官が

相模原南署は二日、一人住みの女性を暴行した自衛官を逮捕。

(4・14朝日)

\*

鶴見署は女高生らにシンナーを吸わせ暴行していた自衛官らを逮捕。神奈川県だけでも三月一二日の〇L暴行殺し、四月二日のウェイトレス暴行と、自衛官の犯行が目立つ。(4・19 読心) またも警官

泥酔した東調布署員(二三)が主婦(四四)に抱きつき乱暴して逮捕された。

警官の婦女暴行はことしで三件目。女子大生殺し以来、警視庁は若い警官の管理に特に注意を払ってきたが「性」に妙案はなく、ガックリ。(7・25 各紙)

女心誘った黄色の車

三年前から約六〇件の暴行を繰り返していた工具(二四)、大工見習(二三)、会社員(二三)が、スポーツカーが、若い

女性を誘惑する道具として、面白いほど威力を発揮した、と自供した。

被害者は川越市周辺から都内などに通勤通学する女子会社員、大学生、店員、高校生、看護婦らで、いずれも一七歳から二二歳。「自宅まで送りましょう」「夜のドライブに」などと、誘いをかける役は一人。「男は一人、自分たちは複数だから大丈夫」につけこみ、車に乗せると途中で他の二人に連絡、犯行現場で合流していた。

犯行のあとは「黙っていれば何もしない」と自宅近くまで送り届けたが、つとめてやさしくふるまい、名前、住所、電話番号などを聞き出し「暴行リスト」を作成。後日、再び待ち伏せ、逃げようとする「世間にバラしてやる」と数回にわたって乱暴された被害者もいる。

他に複数の共犯者がおり、最終的な被害は一〇〇件前後にな

るとみられる。

川越署は、被害者をまわって被害届を取っているが、「もうすんだこと。いまさら……」

「結婚したので夫に知れたら大変」などと拒否反応を示す女性が多い。(10・13 朝日)

### 〔女を売る〕

中高生ら少女二人を巧妙にドライブに誘い、覚せい剤を打って売春させていた男(二九)と男に覚せい剤を売った女(四九)が帯広で逮捕された。

(1・26 道新)

平塚市内の暴力団員が高校生らに売春させていたことがわかり検挙。埼玉県議も客に。

(1・27 毎日)

岩手県宮古市で高三の女子生徒を中心としたグループが暴力団員などにそそのかされて売春

女高生の中には男たちから覚せい剤を打たれたり中津守前になっている者もいた。大半は中流家庭の者。「好奇心で」と。

(2・23 各紙)

伊丹市でベラムダ伝いに助けを求めて来たタイ女性九人が警察に保護された。監禁され、そのうち数人は売春させられていた疑い。「いい働き口がある」と誘われたらしく、背後に送り出しや受け入れの組織があるものと見られる。(3・7 朝日)

徳島市内のスナックを根城にした女高生売春が発覚、スナックの女経営者を逮捕、高校生をあっせんした組員二人を検挙。補導された女高生グループは、中流家庭の娘。遊興費・中絶費用・やせ薬を買う金欲しさのため深みにはまりこみ、中には客のあっせんを、自分から暴力団組員に頼む子もいたという。

### (3・18 徳島)

東京・大崎署は「フフロのないトルコ」をキャッチフレーズに一億余円をかせいでいた業者を摘発。

(4・17 読売)

暴力団に覚せい剤中毒にされ働かせていた女子中学生ら(二四、一七、一九)が東京中野署に保護された。

(7・19 毎日)

二五日までに警視庁少年二課は、女子高生を覚せい剤漬けにし、取引相手と売春させていた東京高島平の住吉連合組員ら七人を逮捕。

(7・25 毎日)

三日までに警視庁保安二課は浅草の高級秘密クラブを手入れ、女性一人を含む七人を売春あっせんの疑いで逮捕。(8・4 毎日)

ピストル密輸の疑いで暴力団

員(三一)を調べていた愛知県警は約三〇〇人のタイ女性を密輸入した疑いを深めた。

(8・27 読売)

一月三日佐賀市内で高校生売春あっせんの喫茶店主を逮捕。客に教師も。二五日台湾女性を売春させた東京のスナック経営者を逮捕。

(11・24 各紙)

二月二日フィリピンの少女らをヌード劇場に売った事件が発覚。

(12・13 各紙)

### 〔女をだます〕

甘い誘いで三千万円

「チラシ配布、あて名書きなどで月五万円の副収入を」と主婦によびかけ三千万円をだましとった男(三五)が逮捕された。

(1・23 各紙)

甘い言葉で近づき、純情な女(二六)から八〇〇万円をおどしとっていた男を神奈川署が逮捕。

(6・7 朝日)

一部上場会社重役と称し主婦ら二人から七五〇〇万円詐欺していた男を西新井署が逮捕。

(8・14 毎日/読売)

### 〔女が捕える〕

釣り糸仕掛けにひっかかる

一七日、西宮市の短大寮に忍び込んだ男(二人)がひんばつする下着泥棒に備えて設けていた釣り糸利用の「仕掛け」にかかり逮捕された。(11・17 朝日)

電車内のスラックス切りを追跡

八日、東京世田谷区で、会社員の女性(二五)がスラックスを切られ、切った男を尾行、警

察署につき出した。(11・18 毎日)

### 〔女の犯罪〕

#### 〔殺す〕

一〇日、小山市で妻(四五)が酒乱の夫(四五)を絞殺。「四人の子のために耐えてきたが、もうこれまで」と。

(2・10 各紙)

七日、大和市で暴力団員の妻(三三)が同棲中の男(三五)を絞殺。

(3・7 読売)

二三日、半年前から愛人(三〇)ができた妻(四七)が夫(五一)を愛人と共に絞殺。近所では夫婦仲がよいと評判の家庭だった。

(3・24 毎日)

二三日、都城市で主婦(三〇)が勤め先の社長(二五)を絞殺。深い仲になった後、別れようと

したが離さないのです。

(4・24西日本)

二四日、名古屋市中区の主婦

(四〇)が義母(七九)を絞殺したと自首。義母は昨春から脳軟化症で一切の世話をしていたが、気の強い義母は口は達者で看病に疲れはてていた模様。

(4・24中日)

義母殺しは評判の孝行嫁、同情すべき点が多いと、情状を認めてもらうよう付近の住民は署名を集める。加害者は極度のノイローゼ状態のため入院させられた。

(4・25中日)

一五日、東京練馬で新婚一か月の妻(二〇)が酒を飲んで乱暴する夫に耐えかね包丁で刺す。夫は重傷。

(5・15毎日)

二五日、江東区の埋め立て地で発見された中年男の殺害者は

内妻(三〇)、バーのママ(四

六)らと判明、逮捕。

逮捕されたバーのママは四年前にも夫殺ししていたことが発覚。息子の医科大入学金のため夫の退職金をねらったと自首。

(4・27各紙/5・26読売)

八月一日の主婦殺しは知り合いの女性(三五)の犯行と判明。離婚した先夫との復讐をあきらめるように言われて。

(9・15西日本)

三一日、大阪岸和田市で主婦(三六)が寝たきりの実母(六五)を絞殺。夫から「どちらをとるか」と詰めよられ離婚、「もう疲れた」と。(11・1毎日)

二二日、米子市で会社員(三七)が三年前に別れた夫を刺殺。子供の養育費で。(11・24京都)

## 〔傷つける〕

東京池袋で、女医(三九)が嫉妬に狂って暴力団を雇い相手の妻を切る。(10・12各紙)

## 〔強奪〕

二〇日、八戸市で小六の少女が級友の祖母を襲い、一万円を強奪。(4・23朝日)

二八日、室蘭市の公務員宅に若い女が訪れ、妻(三八)が応待に出たところ顔を殴りつけ八万四角をわしづかみに逃走。盗まれた金はこの妻の実家の従業員の給料で銀行からおろしてき

たもの。(12・29毎日)

二八日、大阪市で四〇歳くらいの女が銀行におもちゃのピストルを持って侵入。強盗未遂現行犯で逮捕された。地下鉄の駅などで寝泊まり、「ただでご飯

が食べられる留置場で正月を迎えようと思った」と。(12・29朝日)

## 〔暴力〕

町田市のM女子高で自習時間に集団リンチしていたことが判明。私立女子高の荒廃は最近目立っている。(6・16読売)

一〇月一六日、佐賀県下の私立女子高で高二に注意した女教諭(二七)が殴られ大けが。(11・16読売)

## 〔脅かつ〕

親しくなった社長から交際料五億円を恐かつて取った女子大生(二〇)が逮捕された。暴力団と組んだ犯行。(5・7読売) 情報紙に中傷記事を書き五千万円で買えと脅していた女出版

社長(四四)が逮捕された。女性初のブラック・ジャーナリスト。(6・23朝日/7・17読売)

### 〔だます〕

大牟田市の主婦の間に大がかりな頼母子講を無許可で開いていた主婦ら女性四人(五〇、四三、四二、三九)が逮捕された。被害者一三四人、被害総額二億七千万円。動かした金は約一〇億円。(5・5西日本)

五日、東京北沢署は知人などから一三〇万円欺し取り遊興に使っていた五六歳の女性を詐欺の疑いで身柄送検。(6・5毎日)

夫(五二)の娘に化けて愛人に三千万円を貢がせていた名古屋市の女(二九)が逮捕された。(7・8中目)

東京で三〇歳ぐらいの女が、Aさん(三九)宅を訪れ、妻Bさん(三七)に、「お宅のダンナの子よ」と、女の子を玄関において立ち去った。心当たりはない。(12・15読売)

### 〔横領〕

京都府の御牧農協貯金係S(二八)が一億円の使用込みで逮捕された。夫の事業資金に頼まれ、六年がかりで。(6・3各紙)

住友銀行十三支店長代理(四八)が一億円(毎日)一億円(読売)の横領をしていたことが発覚。夫がいるが、男との遊興費か?(7・1毎日/読売)

和歌山県で農協女子職員(三二)が一千万円着服。(10・12読売)

岩手県で農協職員(三〇)が、四千万円を横領。(12・4朝日)

大阪高石市で女工員(一九)が客の預金約一〇〇万円を着服。「成人式に着る和服が欲しくて」と。お金は全額、家族が返済。(12・24京都)

### 〔せつ盗〕

子連れで三七件、六〇万円のスリを続けていた熊本市の主婦(三五)が福岡署に逮捕された。「子供を連れておればあやしまれないし、犯行がバレても謝まれば許してもらえる」と犯行のときはいつも長女(五)を連れ歩いていた。(5・31西日本)

八日、名古屋のショッピングセンターで現行犯でつかまった女スリ(四八)。警視庁の「スリ紳士録」掲載の前科一三犯の大物だった。(9・8中目)

### 〔強制売春・強制労働〕

もぐりでサラ金営業、借金返済に困る主婦らに「体で払え」と売春を勧めていた女(四九)が、二二日逮捕された。五一年春頃から六人に延べ三〇回の売春を強要、貸金を取り立てていた。(5・22徳島)

浅草ロック座の女社長(五一・前科三犯)が家出少女(二五)をストリッパーとして働かせていたことが発覚、逮捕された。(7・15毎日)

### 〔誘かい〕

七日から行方不明の幼児が同じ団地の老女(七二)宅で発見された。悪意はなく、さびしさから。(12・11読売)



## 〔放火〕

二八日、浜松市で隣家に放火した主婦（二八）を逮捕。隣人の暮らしをうらやんで。

（11・29朝日）

## 〔非行〕

愛知県高教組が出した教育白書によると、この四年間、男子の非行が横ばいなのに比べ、女子は二・八倍も増加。内容は万引が多く、異性交遊・エスケーブと続く。

（7・25中目）

## 〔覚せい剤〕

二九日、江戸川区で暴走族少女会長ら三人逮捕。

（11・29朝日）

警察庁発表によると上半期の覚せい剤の検挙者八六六三人中主婦は三〇九人で昨年の四五%

増。動機はセックスが六〇%。

（7・30毎日／読売／日経）

## 〔狂言〕

六日、横浜で七五万円を強盗に奪われたという事件は、マイホームのローン返済に困りサラ金に手を出した主婦（四九）の狂言と判明。

（11・7読売）

静岡県で、手芸ひもを買ってもらえなかった小学五年生が、自分が誘かいされたように見せかけ、親に電話で金を請求。

（12・18朝日）

## 〔子捨て・子殺し〕

### 〔子捨て〕

二三日、東京葛飾区の民家の前に「育てて下さい」というメモと、きちんと衣服を着た生後間もない男の赤ちゃんが。

（2・24毎日）

### 〔子殺し〕

八日、川崎市の夫婦（五八、五五）が働かず遊んで乱暴する息子（二四）の首に電気コードをまきつけて。

（1・9毎日）

一〇日、川越で母（二五）がえい児を米袋で圧殺。四児を残して夫は家出していた。

（1・11読売）

二三日、豊明市で植物人間になった長男（二九）を父（五七）が刺殺。

（1・24読売）

二九日、豊明市で難病赤ちゃん（四か月）を父（二六）が刺殺。六日前、同じ病院で類似の事件があったばかり。

（1・30読売）

一日、川越で母（二八）が首

児（三か月）を。（2・2毎日）

八日、前橋駅止まりの上越線車内にへそのおのついた女児の死体が紙袋に入って。

（2・9毎日）

八日、東京で看護婦（二一）がえい児殺し。（2・9各紙）

一九日、富士市で母（二六）が一歳児を壁に投げつけて。四九年にも一児を殺している。

一九日、盛岡で母（二八）が四歳と二か月の二児を。産後の過労。（2・20各紙）

九日、母（六九）が精神異常になった子（三〇）を。「生まれ変わってくれ」と。

（3・10毎日）

二四日、栃木で父（三三）が八、七、四歳を。アル中。妻

(三三) はキャバレー勤め。

(3・25各紙)

二八日、生まれたばかりの七番目の男の子を殺して三か月近くも自宅の押し入れに隠していた夫婦が発覚。人工中絶しようとしたがその費用もなく、育てる自信がなくなつた。

(3・29読売)

三一日、横浜で母(四六)が育児に疲れ自閉症児を殺し、七日後自首。

(4・8毎日)

九日、福生市で母(三六)が六か月を、ハイハイしないのは小児マヒと思ひ込み。

(4・10朝日/毎日)

東京の家出少女施設を逃げ出し鹿児島に来ていた一五歳の少女が昨年十一月に産んだ子を殺し死体を埋めていたことが発覚、逮捕された。

(4・14朝日)

一九日、大宮市で父(四八)が小児マヒの子(二七)を。而倒みされぬと。

(4・19各紙)

二二日福岡市で母(二七)が長男を絞殺、二男は重体。精神異常で発作的にか?

(4・21西日本)

六日、高知市で母(四一)が身障の子(八)を絞殺。つききりで世話し、夫と別居してまで盲学校に入学させた末。

(5・7朝日)

二五日、札幌市で母(三四)が九、四歳を絞殺。いうことをきかないので子育ての自信がないと。

(6・26朝日/毎日)

一五日、茨城で夫に先立たれ生活苦から母(二六)が二児(二歳二〇か月と六か月)を絞殺。

(7・15朝日)

二四日、横浜市で父(五七)が子(二〇)を。八年前妻が家出、二児を施設に預けていたのを連れ出したが、貧乏でも父さんと一緒に暮らしたいと泣きつかれ、ふびんになって。

(7・25各紙)

四年前と七月末、えい児を殺していた夫婦(三七、三〇)が逮捕された。八歳を頭に三児があり、車やクレーターの返済に追われて。

(8・18朝日)

一三日、世田谷で知恵遅れの子(七)を父(四二)が母(三六)と相談のうえ絞殺。ふびん悩みに悩んで、と。

(8・23毎日)

二二日、福岡で元ホステス(三三)を死体遺棄の疑いで逮捕。この一年間に生んだ赤ん坊二人を育てる自信がないと放置、遺体を持ち歩いてた。

(8・23西日本)

三〇日、千葉県原市で「生活が苦しくなる」と六年間に三人のえい児を殺していた父母(五〇、三二)を逮捕。

(9・1朝日)

二五日、埼玉県川口署に東京で病死した妹(二七)の荷物の中に双子の乳児の死体があったと姉から届け出あり。

(9・26読売)

二六日、兵庫県尼崎市で父(四〇)が長男(四)に重しをつけ池に沈める。他の姉妹(六、四)も不明。

(9・30読売)

東京小平署は市内の会社員の妻(二〇)を生後五か月の長男の殺人と死体遺棄で逮捕。

(10・1毎日)

三〇日、東京小金井市で会社

員の妻(二〇)が生後六か月の長男が泣くので一五分間ふんむしにしたところ死亡。殺人と死体遺棄で逮捕。(10・1朝日)

三日、北九州小倉署は泣き声がうるさいと子(生後五三日)にかみつき、腹をけて殺した父(二〇)を逮捕。(10・5読売)

一〇日、東京新宿の無職の父(二四)が生後一か月の息子を殴り死なせ、自分は競馬へ。(11・11読売)

一三日、岩手県水沢市の大工(二七)が子(生後九か月)の泣き声がうるさいと殴り死なす。自分も死のうと家を出たが弟に連れられ自首。(11・14読売)

一六日、札幌白石署は二四歳の母親を逮捕。長女(二歳一か月)を栄養失調により衰弱死

させた疑い。(11・17各紙)

## 〔心中〕

### 〔母子心中〕

一九日、横浜で母子ガス心中。母(二七)は死亡、長女(一)は危うく助かった。夫はけんかももどけ拘置中。母は去年長男が病死してからノイローゼ気味だった。(1・20毎日)

一三日、静岡では眼の悪い母(三三)が二児(四、二)を道連れにガス心中。夫は全盲、妻も極度の弱視。子供の成長について行動範囲が広がって養育に疲れてはてて。(1・24毎日)

二六日、東京で、未婚の母(二八)が子(一)を絞殺、自殺を図った。内縁の夫が認知しないのを苦に。(1・26朝日)

一日、木曾で母(二七)が脳性マヒの子(三)と栄養を殺し、森の中で凍死。(2・2信毎ほか)

九日、横浜で母(四四)が脳性マヒの子(二)を殺し、飛び降り自殺。(2・11読売)

一〇日、千葉で母(三〇)が一歳児を負い焼身。(2・11毎日)

一一日、栃木で母(二九)が三児(六、四、一)と排ガスを車内に引き込み、夫と口論して。(2・12各紙)

一九日、山梨で母(三三)が発音障害の次男(四)とふとんの中でガスで。

一九日、埼玉で母(三八)が三児(一、八、四)と焼身をはかったが、三児は逃れた。

一九日、鹿児島で母(三一)が三児(九、七、六)を殺し、自身は未遂。浮気がばれるのを恐れて。(2・20各紙)

二八日、市川で母(四〇)が一、九歳を道連れに。夫の両親と折り合いが悪く、母子三人で別居していた疲れ。(3・1毎日)

二八日、塩原で宇都宮の母(三四)が一、八歳と。病気を苦に。(3・1毎日)

一日、川崎で母(三〇)が子(四)と。夫の相場の失敗などのいざこざに疲れて。(3・2毎日)

九日、八王子で母(三〇)が三か月の初子を。保育器育ち失明の恐れを悲観。(3・9毎日)

一日、三郷市で母(三四)が

六歳と一か月の二児を。母は生命をとりとめた。出産後ノイローゼ気味だった。(4・2各紙)

六日、川崎で母(一九)が一年九か月を道連れに。夫(二二)が大学で二年連続落第、退学になるのを悲観して。(4・7毎日)

七日、広島市で母(二八)が六、三歳と。出生届を出しそびれ長女に入学通知がこないのを悲観して。(4・9朝日)

一〇日、神奈川県伊勢原市で母(三六)が八、四歳と。夫は行方不明中。(4・10毎日/読売)

一〇日、秩父で東京の母子(三三、六)が焼身。台湾人の夫と渡米したが英語がわからず帰国、子の小学校入学も父が外国人のため可能かどうかわからず。

ず心配して。(4・11毎日)

一二日、東京で母(三五)が六、一歳と灯油をかぶって焼死。交通事故で足を切斷した六歳がふびんだと。(4・12各紙/4・14朝日)

一九日、座間市で母(三一)が一〇か月児を殺し、自分は未遂。夫のノイローゼを苦し。(4・19朝日)

二二日、福岡市で母(三二)が子(九、五)とガス自殺を図ったが助かる。夫が働かず生活苦で。(4・21西日本)

二日、横浜で夫婦仲が悪いのを苦し母(二七)が長女(四)とガスで。母親は死亡。(5・3毎日)

九日、町田市で母(三九)が一、八歳と。乳がんを悲観して。(5・10読売)

一二日、所沢市で母(三四)が入院中の子(一か月)を殺し飛び降り。子の水頭症を悲観して。(5・11朝日)

一三日、仙台で会社員の妻(一九)が二児(三、一〇か月)を連れガスで。(5・14毎日)

一三日、福島県郡山市で巡査の妻(二七)が二児(三、六か月)とプロパンガスで。母は死にきれず興奮状態のため病院に収容。(5・14毎日)

一七日、千葉県茂原で小児マヒの二男(五)の病気を苦しした母(三四)が長男(七)も連れて締め切ったライトバンの中で一酸化炭素中毒自殺。(5・18毎日)

一七日、尼崎で情緒障害の長男(二)のしついで悩んだ母(三四)が二男(八)の首も絞めた後、自らも首を吊って。(5・18毎日)

二三日、戸田市で母子(三四、一)が焼死。日頃から夫婦仲が悪かった。(5・23読売)

二六日、子(五)を負った母(三四)の死体が横浜の岸壁に漂着。子の登園拒否を心配して。(5・26朝日/毎日)

二六日、多摩市で子(二)を負った母(二八)が飛び降り即死。(5・26朝日)

三一日、府中市で母(三一)が子(九、五)と。近所づきあいが下手なのを悲観。(6・1各紙)

三一日、横浜市で母(三〇)が四、二歳と焼死。家庭不和で。(6・1各紙)

二日、京都市で四、一歳をく  
くった母(三二)の水死体が。  
サラ金告。(6・2朝日)

二日、三鷹市で母(三六)が  
子(五)を刺し飛び込み自殺。  
(6・3朝日/毎日)

三日、山梨県下で母子三人  
(二八、二一、一一か月)が焼身  
心中。子の大やけどを悲観して。  
(6・3朝日)

一八日、熊谷の母(二七)が  
生後二七日を抱いて新中川に入  
水。実家を訪ねたが不在で。家  
庭不和を苦に。(6・22毎日)

二二日、愛知県下で母(二八)  
が二児(二、六か月)を絞殺後  
自殺を図り未遂。病気の遺伝を  
恐れて。(6・23毎日)

一三日、埼玉で母(三一)が  
二児(六、二)と。一〇年間あ

りがとう、幸せでしたの遺書を  
残して。(6・23毎日)

二三日、足利市で母(三〇)  
が子(三)とマンホールに入っ  
て。(6・23読売/毎日)

二四日、飯山市で母(二四)  
が五か月児を負って入水。離婚  
問題を苦に。(6・25中目)

二五日、北海道千歳市外の湖  
に母子三人(二八、七、四)が  
入水。(6・26毎日)

二六日、蒲郡の夜の海に赤ん  
坊の泣き声。入水寸前の母子  
(二二、一一)が救出された。夫  
との不和を悲観したもの。(6・28中目)

三日、北九州市で母子三人  
(二七、五、三)が入水。しゅ  
うとめとの不和を苦に。(7・3西日本)

五日、東京で母(五一)が一  
一、八歳と焼死。夫は失職して  
失そう中。(7・5朝日/読売)

九日、名古屋市中で母子(三一、  
四、四か月)が。長子の発育が  
遅れていると思い込み。(7・10中目)

一七日、江の島で母子三人  
(二八、四、二)が入水。やさ  
しくしてくれてありがとうと遺  
書して。(7・18毎日)

一九日、国分寺で母子(三五、  
七)が焼身。出産後のノイロー  
ゼ。(7・19毎日)

三二日、横浜市で母(三三)  
が一〇、八歳を強打して投身。  
(7・31毎日/読売)

八日、久喜市で母(三三)と  
子(四、二)が庭先で焼身。暑  
さと育児疲れで。(8・9朝日)

一二日、病苦で家出した島根  
県の母(二九)が八歳、八か月  
の二児と東京で。(8・12各紙)

一四日、横浜市で母(三四)  
が一〇、八歳と。交通事故の後  
遺症を苦に。(8・14朝日/読売)

一五日、大磯で母(三七)が  
一か月の子を殺し未遂。三児を  
育てる自信がないと。(8・16読売)

一七日、佐賀で母(四二)が  
言語障害の長女(一一)の将来  
を悲観して、入水。子はこわが  
て婦り助かった。(8・18西日本)

二三日、福井県下で母(三〇)  
が子(六、一、三か月)を道連  
れに放火、一歳児だけ助かった。  
夫はサラ金を苦に家出、田を売っ  
ても借金を返せず。

(8・24各紙)

二四日、佐世保市で、六月に病死した夫のあとを受け農業をしていた母(三五)が三児(一一、九、六)を追連れに、軽トラックごと海中に。夫の後を追うと。(8・25西日本)

二日、埼玉県新座市で夫をガンで失い、身障児を抱えた母(二七)が「これ以上がんなばれない」と二児(五、四)を連れ。(9・3各紙)

四日、すし職人の夫に内証でサラ金から借金していた妻(二三)が子(一歳八か月)の口をふさいで殺し、自分も刃物で。母は助かる。(9・4読売)

四日、埼玉県戸田市の工場経営者の妻(三四)が小三の長女と熱海のホテル六階から飛び降り。(9・5毎日)

六日、東京で夫の浮気に悩んだ妻(二九)が就寝中の夫の首を絞め、二児(六、四)と自分は包丁で。(9・6毎日)

七日、東京深川の一〇階建てアパートから二五―二八歳の女性が一歳前後の子と飛び降り即死。(9・7朝日)

一日、宮城県でサラ金苦から母(二六)が二児(四、二歳四か月)を絞殺し、自分は死にきれず。(9・12読売)

二日、埼玉県富士見市で父親(四二)が定年までに子(生後五か月)が成長しないと悩んだ母(三七)が子を殺し、トイレ用消毒液を飲み重体。(9・13朝日)

二日、岩手県釜石市の無職の女性(四九)が病弱を苦に長女(二〇)を絞殺し、自分はガ

スで。(9・23読売)

四日、埼玉県栗橋町で夫の家の苦にした妻(三六)が四児(二、一〇、七、四)を連れ自宅に放火、五人焼死。(10・4各紙)

四日、栃木県塩原で睡眠薬を飲み、車に排ガスをひいて。母(四〇)のみ助かり、三児(一三、九、五)は死亡。(10・5朝日)

八日、北茨城市の踏み切りに会社員(二九)が飛び込み。近くのホテルで子供(四)死亡。一年半前に夫をガンで亡くし。(10・9朝日)

八日、新潟県下で教員の妻(三三)が二児(五、一)を連れ踏み切りに飛び込む。五歳児は助かる。仕事熱心で不在がちな夫とけんか、発作的に。

(10・9朝日)

一九日、奥日光の山林で埼玉県草加市の運転手の妻(二五)が夫に内証のサラ金苦から車に排ガスを引き込み二児(五、二)と。(10・19各紙)

一日、軽井沢で会社員の妻(三四)が車の中に死んだ二児(六、三)を置き、自分は列車に飛び込み、重体。ノイローゼ気味だった。(11・2朝日)

九日、東京江戸川区の会社員の妻(三〇)が一歳九か月の子の首を絞めて。自分は刃物で。軽傷。夫が不在がちでノイローゼ気味だった。(11・9毎日)

一四日、埼玉県三郷市の会社員の妻(二五)が二児(三、四か月)を絞殺。自分は川崎市高津区の鉄道に飛び込み。ノイローゼ気味だった。(11・15毎日)

一九日、岐阜県大山市の主婦  
(三八) が病苦から三児(一二、  
七、四)を連れガスで。

(11・20 毎日)

二六日、東京大田区の自営業  
者の妻(五一)が意志の弱い息  
子(二四)の将来を安じ首を絞  
めたあと、フロ場で首をつつて。

(11・27 各紙)

二五日、東京八王子でクリス  
マス・イブにも愛人宅からもど  
らない夫との争いに疲れた妻  
(三八)が二児(七、四)の首  
を絞めたあと、首をつつて。

(12・26 毎日)

一九日、東京武蔵村山で夫が  
台湾で交通事故故死と知った妻  
(四三)が娘(九)を絞殺した  
あと首をつつて。(12・20 朝日)

二七日、山梨県山中湖のホテ  
ルで川崎市の看護助手(三二)

が二児(一〇、九)の首を絞め、  
自分の手首を切つて。母は重体。

(12・27 各紙)

### 〔父子心中〕

二八日、千葉県で、勤め先の  
町工場が倒産、離職して収入源  
を絶たれた父親(四四)が、小  
学生の娘二人をメッタ打ちにし  
て殺し、自分も首つり自殺。妻  
は、近くの会社に入社して勤め  
留守だった。(1・29 朝日)

三〇日、厚木市で足が不自由  
な父(三九)がキャバレー勤め  
をしている妻に面当て心中。一  
〇歳、六歳を道連れに。

(1・31 各紙)

一二日、大阪で父子四人(四  
二、小三、小二、四)が。母が  
出産のため入院中。

(4・13 毎日)

三日、船橋市で父(四九)が  
五歳を道連れ。妻(二八)が家  
出、子育てに疲れて。

(5・4 読売)

六日、茨城県下で夫(三一)  
が離婚した妻の家から二児(六、  
四)を連れ出し焼身。

(8・7 読売)

二二日、岐阜県下で父(三三)  
がダイナマイト心中。五歳児の  
み死に、三児(二三、一〇、九)  
は助かった。夫に無断でサラ金  
を借りた妻(三三)がいたたま  
れず蒸発したため。

(8・21 各紙)

二二日、宮崎県で父(四三)  
が妻の父母(七七、七五)の家  
に放火、子(一八)と焼死。妻  
(四二)はサラ金を苦に離婚・  
蒸発中。

(8・22 各紙)

二四日、大山市で父子三人

(三八、七、四)が入水。倒産、  
取り立てを苦し。

(8・25 大分合同)

二四日、秋田市で父(三八)  
が子(二〇、七)と車で入水。  
夫婦げんかのはて。

(8・25 各紙)

九日、新潟県下で会社員(二  
八)が海水浴場で車に排ガスを  
引き込み二児(七、四)と。妻  
(二八)が八月中頃家出をした  
のが許せない。 (10・9 朝日)

四日、山梨県下の山中で体が  
不自由な父(三九)と二児(一  
四、八)が首をつつて。継母が  
去り、寂しいと遺書が。

(11・5 朝日)

二日、東京世田谷の書道塾經  
営者(五六)が障害のある次男  
(九)の将来を悲観、子をコー  
ドで絞め、自分は刃物で。

(12・2朝日)

## 〔一家心中〕

札幌市で目の不自由な老女

(六九)が、母親(九〇)と病弱の弟を道連れにガス心中。病人ばかりの一家の前途を悲観して。  
(1・13読売)

前橋で一家四人心中。ビニールホースで排ガスを車内にひきこみ。「仕事が行き詰まった」と遺書。  
(1・24毎日)

二日、神戸で一家(三九、三三、一〇、八)が。会社倒産を助けようと借金した末。  
(3・3各紙)

五日、兵庫県下で一家(三八、三六、一五、一二、九)が。マイホームで借金。月給三万、金利は二五万だった。  
(3・6各紙)

一五日、熊本県下で宮崎の四

兄妹(三〇、二五、二三、一八)

が。血族結婚で兄妹が知恵遅れなのを悲観して。  
(4・16毎日/読売)

一九日、愛知県下で夫(三〇)

が母(五四)妻(三三)子(八)

に灯油をかけ焼身。浮気が原因のけんかから。  
(4・20毎日)

二三日、北海道の山中で旅館

の一家(三五、三五、一一、九)

が。よその子に交通事故させたのを苦に。  
(4・24毎日)

二六日、東京で夫(四三)が

妻(三七)と子(九)を刺して

飛び込み自殺。夫婦げんかの末。  
(4・27朝日)

五日、神戸港で夫(四三)が

妻(三八)と一六、一三、六歳

と共に車ごと海へ。一六歳だけは助かった。妻ががんの疑いで

入院するのを悲観。

(5・6各紙)

一〇日、香川県で東京の一家

四人(四五、四一、一四、一一)

が列車に飛び込み。家業不振で。  
(5・10各紙)

一五日、焼津市で夫(三七)

が妻(三四)と子(八)を絞殺

自殺を図ったが長女に泣かれ中止。妻と子も生命をとりとめた。経営難で。  
(5・15読売)

一七日、北九州市戸畑区で父

親の目の悪化と娘のゼン息に悩んだ家族四人がガスホースを引き。  
(5・18毎日)

三〇日、江東区で一家四人

(三八、三四、八、三)が。三歳の子の骨の病気を骨がんと勘違いして。夫婦重体。  
(5・31朝日)

三日、門司で一家(六四、三

九、一一、九、八)が車で海中

へ。父は前妻殺しで服役、出所したばかりだった。  
(6・4毎日)

四日、岡山のラーメン屋一家

五人(三一、三五、一〇、八、

五)が広島県下で。サラ金に追われて。  
(8・5朝日)

二二日、大阪で一家四人(四

一、三八、一一、五)が排ガス

心中。  
(8・23朝日)

二八日、茨城県下で父(四三)

が娘(高校生)を切り母(四二)

と焼身、重体。妻子ある男とつき合うのを怒って。  
(8・27毎日)

二八日、那須町で一家四人

(三三、三三、七、五)が排ガ

ス心中。妻の乳ガンの経過が悪いのを悲しんで。



(8・29毎日/朝日)

一日、相模原市で妻(三九)

のアルバイトでけんかしていた夫が妻の首を絞め、子供(一二)に大ケガを負わせ、小田急線に飛び込み重体。(9・1朝日)

五日、名古屋でサラ金の取り立てに追われた一家(三六、四二、九、六)が転居先の社宅でガス心中。爆発で大やけどの重体。(9・5朝日)

六日、東京台東区で会社員が自分の女性関係の争いから妻(一九)と二児(六、四)を刃物で。自分も。(9・6朝日)

一五日、水戸で不眠症の妻(三六)が夫を道具でなぐり頭の骨にヒビが入る重傷を負わせる。二女(一一、八)も死亡。自分は一か月のケガ。(10・6朝日)

一二日、埼玉県和光市で夫を

刺殺し二児と。長女(一三)は死亡。長男(一二)は軽傷。妻(三三)は一か月のケガ。(10・13朝日)

一三日、埼玉県和光市の自営業者の妻(三三)が夫の浮気を憎み、夫と中三の娘を刺殺。妻は腹に一か月の重傷。(10・13毎日)

一五日、茨城県水戸市で不眠ノイローゼの母(三六)が娘二人(一一、八)を殴り、包丁で切りつけたあと夫を襲い、自分も死のうとしたが死にきれず大けが。夫も一か月の重傷。(10・16読売)

二二日、東京福生市で会社員が妻(二四)と二児(三、一)の首を絞め、自分も首をつって原因は不明。(10・21朝日)

二九日、神奈川県湯河原で車に排ガスを引き込み一家三人(三九、三六、一三)が。事業不振から。(10・30朝日)

三〇日、鹿児島で一家四人が夫の麻雀狂い、使い込み、サラ金苦の果て、台所からガスを引き。(10・30毎日)

一日、埼玉県人間の山林で車の中に排ガスを引き込み一家四人(三七、三二、七、五)で。借金苦か。(11・1各紙)

六日、埼玉県所沢市の会社員(四七)方で娘(二三)と二人死亡。四三歳の妻は不明。一家心中か。(11・6朝日)

一〇日、千葉県勝浦の浅間トンネル内で栃木県の夫婦(三四、三五)が即死。四日から五日にかけて男児の遺体が近くの海でみつかったことから二児

(三、一)を海に捨て一家心中か。(11・11朝日)

七日、岐阜県下呂町の旅館でサラ金苦から兵庫県尼崎市のushi店員(三〇)の家族が。子供一人(二)死亡。あとの二児(四、七か月)は助かる。親は重体。(12・8朝日)

一七日、岐阜県大垣市で近鉄名古屋本線に三重県の夫婦(四二、三六)が飛び込み。夫は軽傷。妻は重体。二児(八、六)は絞殺。(12・18読売)

### 〔心中〕

八日、横浜で夫(四四)が妻(四三)と。住宅ローンを苦に。(2・8毎日)

一七日、東京で妻(二六)が夫(三四)を刺して。(2・17毎日)

六日、東京で妻(三三)が浮気(三五)を刺して。  
(3・6毎日)

一日、大分県で内縁の夫(七三)を殺し妻(六三)も服毒。寝たきりを苦に。  
(7・12読売)

一二日、名古屋市で妻(四五)が夫(五九)と。夫の看病に疲れて。  
(7・13中目)

二三日、東京の国電恵比寿駅ホームから病苦の母(七六)と娘(五〇)が手をつなぎ線路へ。  
(10・24各紙)

一五日、栃木県足利市で養護ホーム入り目の寝たきりの姉(七六)の看病に疲れた妹(七三)が、アパートの自室でビニール袋をかぶり二人で。  
(12・16朝日)

## 「女の自殺」

五日、国鉄上野駅ホームから栃木県の女性(三五)が夫婦げんかで家出し飛び込み。  
(1・6毎日)

六日、新宿区に住む主婦(四九)が「いやになった」とメモを残し、地下鉄千代田線に飛び込み。  
(1・6毎日)

九日、世田谷で医大受験を目ざし浪人中の姉(二〇)がマンションから飛び降り即死。ショックで高三の妹も。妹は重体。  
(1・9毎日)

八日、京王線八幡山駅ホームから線路に。「生きているのがいやになった」と強度のノイローゼの女性(二九)が。  
(1・9毎日)

東京都東村山市の老人ホーム

で、去年結婚の新妻(七二)が入水自殺。幸せいっぱいだが将来が不安と。  
(1・11毎日)

二二日、東京中野区のホテル(三六)が千葉の海で入水。  
(1・22毎日)

二七日、横浜で夫婦げんかの妻(三一)が近くの空き地で灯油をかぶり焼身。  
(1・27毎日)

二九日、東京で独身、身障の老女(六三)が首つり。アパートがとりこわされて、近所の人と離れ離れになるのを悲観。  
(1・30読売)

一八日、横浜で九一歳が。「足が立たなくなった」と。  
(2・19毎日)

二日、東京で三六歳が電車で飛び込み。病苦。  
(4・3毎日)

一七日、神戸で中二の少女(二三)が。母の自殺後、八歳と七歳の妹二人の母代わりに疲れて。  
(4・18毎日)

一八日、品川で主婦(四〇)が焼身。ノイローゼ。  
(4・18毎日)

一七日、酒田市で女高生(一六)が飛び降り。前日のテレビ番組「死に急ぐ十代」に刺激されて？  
(4・19毎日)

二二日、北九州市で共働きの主婦(二二)が焼身。夫の両親との折り合いが悪いのを苦に。  
(4・21西日本)

二〇日、三浦市で女教師(二二)の入水死体が発見された。大学で学んだことと現実の差に悩んでいたという。  
(4・22毎日)

二二日、埼玉県で東京の主婦(三三)が飛び込み。ガンと思いこんで。(4・22毎日)

二六日、川崎市で会社員(一九)が焼身未遂。初給料が契約より五千円安いので上司に言ったところ退職を申し渡されたため。(4・26読売)

二六日、板橋で老女(六四)が自宅に放火自殺。(4・27毎日)

一日、東京足立区で息子(四七)が有価証券偽造、同行使容疑で逮捕されたのを苦に母(七四)が自殺。(5・1毎日)

四日、国鉄目黒駅ホームから線路に女性(二五)が飛び込み。失恋が原因か。(5・5毎日)

六日、臼杵市で六六歳が。小児マヒで独身を続け、五二万円

を葬式費用に残して。

(5・7読売)

一六日、横浜市で女高生が。五日前投身自殺した学友を追って。(5・17朝日/読売)

一七日、文京区千駄木駅ホームから線路に中年の女性が飛び込み。(5・17毎日)

二三日、東京調布のホステス(二七)が小学四年の長女の病気を苦に包丁で自分を。(5・24毎日)

二五日、東京で母(三〇)が一四階から飛び降り。脳性マヒの子(七)の看護に疲れて。(6・26朝日/毎日)

二六日、三鷹市で六七歳が焼身。老人ホームに入居、生活には困っていなかったが、めいの世話になるのを心配。

(6・29、7・7読売)

二日、東京で主婦(四五)が。夫に殺された開成高校生の長男を追って。(7・3朝日/毎日)

二〇日、愛知県衣浦港付近に女の水死体。大府市の夫婦(三四)と判明。夫が女性関係で三月に家出したのを悲観して。(7・21朝日)

三一日、鎌倉で東大理学部長夫人(五〇)が病気を苦に首を突つて。(8・1毎日)

八日、東京で三八歳が三児を残し。三千万円の借金の金策がつかぬと夫から連絡を受けて。(8・9読売)

一六日、福岡市で車イスの婦人(六〇)が海中に。病苦を悲観。(8・16日本)

二二日、顔のできものを苦に主婦(五九)が京王高尾線に飛び込み。(8・22毎日)

二日、広島市で被爆し治療中の女性(七五)が五階から飛び降り。(9・2朝日)

三日、埼玉県本庄駅のホームから線路に千葉大生(一九)が飛び降り。(9・4朝日)

九日、長崎で被爆し、高血圧不眠症に悩んでいた川崎の主婦(四二)が自宅に放火、焼死体で。(9・9朝日/毎日)

八日、八王子で主婦(五六)が病気を苦に灯油をかぶり、焼身自殺。(9・9毎日)

一日、練馬区の主婦(二七)が持病の心臓病を苦しにマンションから飛び降り。(9・12毎日)

一三日、横浜市港北区で寝たきりで世話をかけることを憐んだ老女(九四)が自宅居間で首をつつて。(9・14毎日/読売)

一九日、会社員(二二)が豊島区で特急電車に飛び込む。(9・19毎日)

二〇日、東京府中で無職の女性(二五)が踏切りに。二年前離婚し、三歳の娘と母親との三人暮らしだった。(9・20朝日)

二二日、横浜市港北区の国鉄踏切りで近くに住む老女(七三)が。(9・21毎日)

一九日、東京大田区のマンションからホステス(二三)が飛び降り。「子供のことが心配」と遺書。サラ金苦から。(10・20毎日)

二四日、静岡県会の社員の妻

(三七)が新幹線のトイレで首つり。(10・25毎日)

二九日、東京豊島区の老女(七八)が娘と口論、生きるのがいやになったと神田川に入水。数人の協力で救助される。(10・30毎日)

四日、東京文京区の自営業者の妻(四九)が息子(二一)の就職を苦に自宅で灯油をかぶり。(12・4毎日)

六日、東京ホテルニューオータニの客室で旭川市の喫茶店経営者(四〇)が睡眠薬を飲み。(12・6毎日)

六日、東京日野市の主婦(三三)が離婚話で前途を悲観し、八王子で京王線に飛び込み。(12・7毎日)

一六日、東京大田区の大和銀

行女子寮に住む行員(二二)が寮の屋上から飛び降り。寮内で盗みの疑いをかけられ「私は潔白」の遺書を残し。(12・16毎日)

八日、東京世田谷の区道で近くの主婦(五二)が焼身。二年ほど前からノイローゼだった。(12・18朝日)

二三日、東京大田区内の京浜東北線に老女(八〇)が飛び込む。背森の二男のところに行くの家を出て。(12・24読売)

二七日、浦和市の団地で食堂経営者の妻(二八)が飛び降り。(12・28朝日)

## 〔事故・その他〕

息子と遊ぼうと無理して急死

心臓病の持病がある母親(三

〇)が長男(六)と夜の公園でなわ跳びをしているうち急死した。数年前に離婚、昼間勤めに出ているため息子と遊んでやれないのを悩んでいた。二三日、佐世保で。(6・25西日本)

身障の娘さん小屋に隔離

岐阜県大垣市内で身障の娘さん(一九)が三年近く鉄格子小屋に隔離されていたのを発見、緊急保護された。(9・12中日)

夫を告げ口した警部補の妻

一〇月二日、警部補が酔っ払い運転で逮捕されたが訴えたのは妻。結婚式のつきあいが一か月に一三回もあり、祝儀の重さに不満で。(11・4各紙)

投身の老女救われる

十五日、東京江東区の小名木

川に、財産処分で悩む老女（七五）が飛びこんだが、通行人ら二人が救出。（11・16各紙）

## 〔二〕の年の傾向

### 〔第二のヒロボン時代〕

今年上半年の覚せい剤・麻薬の取締まり状況は、昨年同様に比べ、覚せい剤は粉末で六〇％近く、液は一七〇〇倍に増え、昭和二〇年代後半に続く「第二のヒロボン時代」が裏づけられた。特に目立つのは主婦（四五％増）やバス、タクシーなどの運転手（四〇％増）などに急激に拡がっていること。

主婦の検挙は半年で三〇九人、動機は「好奇心から」「遊び」が約六割、「自ら求めて乱用の深みに落ち込むケースが目立つ」と警視庁は発表。

覚せい剤は暴力団の最大の資金源、昨年は一九一億円をかせ

いだが「眠げさまし」「夫婦の愛情を高める」と主婦と運転手を標的に。（7・30朝日）

### 〔激増するサラ金悲劇〕

借りる。厳しい取立て。返済に困って別な業者に……。ことし上半期だけでサラ金自殺・心中は七九件、九一人が死亡。根底にあるのは高金利・無差別融資のサラ金の体質。早くから指摘されながら関係省庁は及び腰。

（6・27朝日／7・1毎日）

\*

一家心中はじめ公金横領、家出・蒸発・売春はますます深刻化。悲劇は今に始まったことではないのに、政府の対策がスローテンポ、まさに政治の責任だ。

六省庁連絡会議ではいまだに法改正に責任をもつ監督官庁が決まらない頼りなさだが、大蔵省はとりあえず出資法を改正、金利を半分にし、金利表示を年

利建てに……を計画。法務省は「小口金融業規則法」を新規立法し、①適正な金利の設定②契約書・領収書・元利計算書と帳簿作成の義務化を主張、一方日弁連は「小口金融法案」を策定、届け出制を免許制に改める、小口金融業主任者制度導入など六三条にわたる貴重な提言をしているが、政府・政党は「業界の合意がとりつけられなくては実効があがらない」と傍観している。

「低利で借りやすい」庶民金融の基盤整備も貴重なことは言うまでもない。きびしい法規制と温かな対策を。

（9・16毎日「社説」）

\*

◆無知・弱味につけこむ高金利・利息のほか書類代・手数料をとり、実質は月一割から十日に一割◆貸付条件として、時計や絵画を時価の数倍で買わせる

◆グミーの保証会社を設立、保

証金をとるなど、巧妙な「地獄商法」ぶりを、警視庁が今年の「経済犯罪の概要」で浮き彫りに。（12・21毎日）

### 〔犯罪白書〕

高年層で女性「進出」

昭和五三年版「犯罪白書」は初の試みとしてコンピュータに記憶させた前科者に関する大量の犯歴データに基づき、累犯現象の推移や各種累犯者の実態を分析、解明した。

最近のとくに顕著な傾向は、①暴力団は昔からのドスやアイクチからけん銃、猟銃へと近代化。②覚せい剤の全事件に占める暴力団員の割合は五五・六％と半数以上。③過激派集団の今後の動向は厳戒を要する。④女性犯罪は増加の一途など。

# 海外

## アジア

### 〔アジア一般〕

アジアの女性の地位向上

シンガポールの首相が「もし女に生まれるならシンガポールに限る」と言ったり、香港の出版界の女王が「この女性の地位はアメリカより高い」と自負したり、アジアの女性の地位は徐々に向上しているが、まだバラつきがある。女の文盲率のところが男より高い国はアジアだけで二一、ネパールでは男の就学

率五八％、女は八％だ。

一般に「怒れる女」はアジアには少ない。欧米型のリブより奉仕と勤勉で実質的地位を獲得しようとしているが、法律と実生活のギャップは大きい。しかし、男たちは、「アジアの女は見かけだけ従順でおとなしい」とこぼしている。(1・26読者)

アジアに女性指導者台頭

ガンジー前首相、バンダラナイケ前首相、江青女史、イメルダ夫人、バキスタンのヌスラット夫人、スハルト夫人のティエ

ン女史などは、男まさりの政治力を発揮。後進性を指摘されがちなアジア女性史にとって画期的なこと。

若い世代でもマルコス夫妻の長女アイミーや、ブット夫妻の長女ベルジールも活躍。彼女らに共通するのは、親子代々の政治的名門で、その家柄自体が一国の顔としてカリスマ的名声に包まれていること。しかし、彼女たちの浮沈の中に、時として過度の権力集中、側近政治、身内びいきや政治的戦略の横行が見られる。(3・8朝日)

### 〔朝鮮〕

筋金入りの朝鮮の婦人たち

共和国創建三十周年記念で訪問して、朝鮮女性の優美さの背後に一本しゃんと通っている革命の闘士の伝統に胸打たれた。朝鮮民主女性同盟(一九二六年結成)は少年少女を後継者に教育。女性はいくも解放され能力を発揮することができるものかと感嘆。

(田中寿美子・参院議員)  
(10・24/27社会新報)

## 〔韓国〕

結婚で除籍、韓国の女子大

名門女子大は未婚者にのみ入学許可。在学中に結婚したら学長が除籍。「新婦候補の養成所」のイメージから抜け出るまでには時間がかかりそう。

(ソウル・前田特派員)

(11・22毎日)

## 〔中国〕

進む男女平等

四人組追放後明るさを取り戻した中国の女性たちの男女平等の状況を五回にわたり紹介。

(5・16―6・2読売)

中国の壁新聞に「性の解放」

北京の「民主の壁」の大論文  
「新生活の提唱」は「サンダカ

ン八番娼館」がぬれ場でカットされたことに抗議、「封建的意識が生活の上でいまだに支配的地位を占めている」と、性犯罪の実態も暴露。老人は「嘆かわしい」。(11・15毎日/1・4読売)

収入は夫と対等

「男女平等は完全に実施。ほとんどの既婚夫人が働いており、収入は夫と対等」と来日の中国婦人代表団。(12・5読売)

ジーンズや口紅も

サマ変わりが進む上海では、市民はホテルのバーのグラスも楽しんでる。(12・21朝日)

〔フィリピン〕

医師の半数は女性

この国の女性の役割は伝統的

にみえるが、実業界への進出がめざましく、登記会社の三分の一は女性経営者。大学生の約六〇％は女性。(7・24朝日)

〔ベトナム〕

ベトナムの国会議員兼女優

「愛は十七度線を越えて」で七三年度モスクワ国際映画祭の主演女優賞を獲得したグエン・チャ・ザンさん(三六)は六歳の娘が一人。「議員をしていると人民の生活に密着する機会がふえ、演技にも国民の声を十分反映できる」。(12・6毎日)

〔カンボジア〕

カンボジアにも女性パワー

イエン・サリ副首相夫人やソン・セン副首相夫人らが、代表団会見や歓迎宴で大活躍。全権

力は政權に就いた男の妻たちの掌中に。(10・15読売)

〔インドネシア〕

五万人も不妊手術

インドネシアの全国家族計画研究所は、これまで五万人の母が不妊手術を受け、避妊・不妊希望を登録した母ははかに九百万人いたと発表。(1・16朝日)

〔インド〕

「貧しい娘は二号に」でデモ

インド中部アンドラプラデシュ州議會で、女性大臣が「貧乏人の娘はアラブの金持ちの第二夫人になれ」と発言。学生や若者が議會へデモ、大臣は全面撤回。(10・8読売)

## 「カーストなき世界」へ挑戦

インドで、カーストの違う男女の集団結婚式が行なわれ、公然とタブーに挑戦。肝いり役の〈働く婦人の会〉は「カーストなき社会を実現する唯一の効果的な方法」と強調。(10・15朝日)

## ガンジー女史復活

一月七日のインド・カルナタカ州の下院補欠選挙でインディラ・ガンジー前首相が当選。

(11・8朝日)

## ガンジー女史、議席はく奪

一月七日、二〇か月ぶりに奇跡の政界復帰をしたガンジー前首相は、一九日インド議会から議会侮辱と権力乱用の罪で今議会終了まで監禁、議席はく奪された。

(12・20毎日)

## 「トルコ」

教師、医師に人気

女子高等技術師範学校の学生による勤労女性対象の「女性の勤労」に関するアンケートによると、女性の特性を生かしながらも束縛の少ない職業が人気。主婦業は最下位。七一%の女性が「家庭では夫が支配者」と。

(3・8朝日)

## 中絶認可を望むトルコ

産後の母子の死亡率が異常に高い。貧困が背景にあるが、中絶が禁止され、ヤミで行なわれていることも問題。国家による無料の中絶認可を求める論調が新聞にみえる。

(4・28朝日)

## 結納に農地や家も要求

諸物価値上げで結納金も値上

げ、花むこはお金以外に農地や家まで要求される。(10・21朝日)

## 「南イエメン」

南イエメンの女性解放

社会主義国になって一二年。

一番の変化は女性解放。ペールをとり日本の紡績工場や組み立て工場に就職。アルコールも自由。

(本多勝一)

(10・27朝日)

## オセアニア

### 「ニュージーランド」

きびしくなった中絶

一八九三年、世界で初めて婦人参政権を実現させたニュージーランドでは妊娠中絶法の改悪が目下の大問題になっている。

一六歳以下の性教育は禁止さ

れ、中絶には三人の医師の承認が必要となった。

(7・19毎日)

## アフリカ

### 「エジプト」

ケンカしても男に負けない国

エジプトは完全な男女平等と能力主義であり、性の違いによる差別はないと小池百合子さんは語る。

(4・20読売)

やっと父権凋落の兆し

イスラム法の下で父権と男性優位が徹底していたエジプトの生活も、ようやく変化がめだち、結婚に対する娘の発言権も強まった。職を求める若い女性がふえたのが一因。

(6・1読売)



## 〔チュニジア〕

要職への進出は日本以上

チュニジア共和国経済使節団の一人として来日したスアド・ディマスイさん(三六)は約半月の滞在後「先進国のイメージを持つ日本で要職についている女性が多すぎない。その点でチュニジアの方が進んでいるのでは」と言う。「女性よペールを脱げ、学校へ行け、学校は無料だ」「国を発展させるにはまず女性の参加を」と女性解放を進めたブルギバ大統領の下で育ち教育を受けた彼女は、独立後二三年の若い国で政府の要職にある。(6・12朝日)

## 〔アルジェリア〕

イスラム世界の女性の悲劇

異教徒のフランス青年と結婚

シカナダで暮らしていた若い女性が家長の兄により、「誘かい」され連れ戻された。民族解放戦争であれだけ女性を使いながら

女性解放を実現しようとしていないアルジェリアにフランスのマスコミ界は怒りの声。(8・19毎日)

## 〔マリ〕

美女一位は二五人の母

マリの「全アフリカ女性運動」創設一五年記念美人コンテスト一位は四五歳の主婦、双子五組を含む二五人の母。出場資格は六回以上出産した経験のある女性だけだったが。(8・1朝日)

## 〔タンザニア〕

タンザニアの女性解放

東アフリカの女性の地位は低く男性の奴隷。「夫婦は平等と

いう観念を植え、女性が教育を受け自力でできる力を」とムザレンド紙。(10・26朝日)

タンザニア女子高生の性道德

「性差別撤廃を叫んでいながら、一方では自ら男性の甘い言葉に誘われて陰の女や二号さんに。男性上位の生活に満足しているのでは地位向上は望めない」とサンニュース紙は警告。(12・28朝日)

## 北米

### 〔カナダ〕

平等意識強いカナダ女性

米国と同様婦人の地位向上運動が活発だが、最近同国に派遣された総理府の菅原真理子さんは、オタワでの生活から、男女平等の羨ましい実例を書き送っ

ている。同国でも特に男性の間で男女の役割分担意識は強いが、それでも夫の家事協力の度合いは驚くほどで、職場の上司が男女いずれでもよいと考える男性も多いという。(5・9読売)

選択の機会の多いカナダ

育児を終えてから大学に入ることも、再婚や再々婚も自由で、機会も多い。職業選択のコンピュータ・プログラムもあるが男女差なし。楽をしたい女性にはしんどいが、能力のある女にはおもしろい国だ。(8・25読売)

カナダに女性学専門大学誕生

モントリオール市にこの春小さな大学が誕生。学生百人余り(男性二人)、年齢一八歳から六八歳。研究内容は各人が自由に自分のテーマを追究するのが特徴。「指導力のある女性を育て

たい」と学長。(10・12読売)

## カナダの保育所運動

カナダの働く女性の数は全労働人口の四五%約三〇〇万。女性たちの最大の話題の一つは良質の保育所増設運動。カナダでは公私立の保育所のほかに幼稚園にあたるナーサリー・スクール、放課後の学童保育、必要に応じて二、三時間子供を預けられるドロップ・イン・プログラム、認可を受けた家庭が最高五人までの子供を預かる個人家庭保育などがある。ある家族社会学者は「母親が仕事を持つ持たないにかかわらず、保育所教育は子供の人格形成に必要」と説く。(10・14読売)

## 〔アメリカ合衆国〕

### 殺人課初の女刑事

ニューヨーク市警察は初めて殺人課に婦人刑事九人を配属。現在市警察に勤務する女性警官は四五〇人。一年前、昇級面では性別があると人権委に訴えた彼女らに歓迎されている。

(1・4朝日)

### 攻撃一本やりじゃ逆効果

米国では女性運動の影響で女性も自己主張のできる人間になろうというムードが高まり、「上手に自己主張をする方法(アサーティブ・トレーニング)」が花ざかりと聞き、即席コースをのぞいてみた。

「労働者と経営者の対話」では、生徒たちが順番に労働者の役を演じ、若い女性講師がテキパキ助言、受講者には男性も多

かった。ハウツー本も一六種類も出ているとか。

(深尾凱子記者)(1・5読売)

### 離婚後の父親は…

一番苦労しているのは子と共に暮らし全責任を負っている父親。特に昇進や旅行を断わる。職場では同僚や上司の支持はなかなか得られないが、父親であることの喜びと幸せはいっぱい。

一方、子供と暮らさず会う機会も少ない父は養育費の仕送りを、「所属していないクラブの会費を払うようなもの」と負担に感じる者が多い。ブランドデイス大の研究員二人が、一二九人にインタビューした報告。

(1・9朝日)

### 米国に「女性映画」旋風

ベトナムの終結、リブの台頭はハリウッドの流れも大きく変

えた。昨春以来、「結婚しない女」「三人の女」「真夜中の向う側」「アニー・ホール」「愛と喝采の日々」「ジュリア」「ミスター・グッドバーを探して」と「自立する女たちの映画」が大受け。このブーム、間もなく日本に上陸するが反響はどうだろう。

(1・9読売)

### 「ミス」定着

男性はミスター一本、女性は未婚、既婚でミス、ミセスと変わる。これは不平等だから女性もミス(MS)一本やりにしようというリブの主張は米国では定着。

結婚後の姓も夫婦別姓を認めている州がほとんどで、旧姓を名取る人、それを夫名と結びつける人などそれぞれ。

(1・10読売)

## 常時満員の駆け込み寺

サンフランシスコ市内にある駆け込み寺は常時満員。ひと月に二二〇本の電話相談。職員は三〇名で、全員専門家が献身的な女性運動家。

有志のカンパで始めたが、今では州の援助を受けている。正確な資料はないが、米国内の家庭暴力事件は少なくとも七五〇万組という。(1・11読売)

## 女性運動を男性も歓迎

「愛する娘たちが望む方向に進める世の中になる」「互いに自身の生き方を持った男女が励まし合って生きるのが本当の結婚生活」「妻に一流市民として生きてほしい」——米国の男たちは女性運動を喜び、理解している人が多い。

だが「夫は魅力的で有能、女性運動を恐れる理由は何もない

のに恐れる。自信がないのかしら。一年間別居して考えてる」という妻も。

(深尾凱子記者)(1・12読売)

米で唯一の女性上院議員

ミネソタ州で死亡した夫の議席をミューアル・ハンフリーさん(八五)がついだ。(1・26読売)

## 児童ポルノ禁止法

子供をポルノ雑誌や映画に出して食い物にしたり、売春行為をさせることを全面的に禁止する法案が下院本会議で可決。

(1・26朝日)

## 妊娠判定薬キット

妊娠したかどうか自分で簡単に判定できる薬品セットが発売された。正確度は医師が確認済みとのこと。(1・27朝日)

## 売春はレジャー?

売春は適法な余暇という理由で売春をした未成年を無罪にしたニューヨーク市家裁。この「画期的」判定に驚いたコッチ市長は即刻控訴。(1・27読売)

## 国が公許した女性銀行

女性が経営権を握る、いわゆる「女性銀行」は全米に六行あるが、いずれも州当局の認可によるもので、連邦政府の認可になるのは、この春オーブンする「ウイメンズ・ナショナル・バンク」が初めて。役員一五人のうち六人は男性。窓口にも男性も採用する。頭取のエミリー・ウォーマック夫人によれば「性別で排他的になるのがともないけないこと」(1・29朝日)

## 未成年の妊娠増加

米国で未成年の妊娠が増加。七五年には一〇歳から一四歳までの女子の出産が三〇三件、一五歳から一九歳までは一万二千年とニュージャージー州の調査。専門家は性教育不足だ、いや過多だと意見がまっ二つ。(2・5読売)

## 女性記者にも取材させて

リブ攻勢に名門ゴルフクラブやバーも次々に開放された米国だが、スポーツ選手の男性更衣室も侵略され始めている。米国の大半のスポーツは記者が更衣室に入って「生まれたままの」姿の選手に取材するのだが、七五年、プロバスケットボールの更衣室に入ったジェーン・グロスを第一号に、次々に……。しかし大リーグは頑として受け付けず「性的差別による業務妨

害」と告訴中。「ちっとも恥ずかしくないわ。私たちを看護婦か女医と思えばいい」と女性記者たちは意気さかん。

(2・9 毎日)

## 宇宙飛行も女性時代

米航空宇宙局が八〇年に打ち上げる宇宙連絡船の要員三五人を発表したが、うち六人は女性。三人の子持ちの生化学者ほか。応募者は八〇七九人、その七分の一、一一四二人が女性だった。

(2・10 読売)

## 母胎に戻し正常出産

先天性肢体不自由児を持つ親たちの願いをかなえようと、アメリカでは母胎から胎児を取り出して「手術」を加えたあと、再び胎内に戻して出産させるというのを目的に研究が続けられている。サルを使った実験で

はかなり成功。(2・27 読売)

## ノミのカップル流行

アメリカでは小柄な男性とノミボ女性のカップルが映画「アニー・ホール」にちなんで「アニー・ホール・カップル」と呼ばれて一種の流行に。「男が大きく女は小さいのを理想とする考えは家父長制度の産物」「もう背丈にこだわるなんてばかしい」とは街の声。

(3・3 朝日)

## 米の女性ボクサー

全米フライ級チャンピオンのキャシー・デービスさん(二五〇)と挑戦者のジョジョ・トーマスさん(二二)が調印。キャシーの今回のファイトマネーは二万ドル(約四八〇万円)と、女性ボクサーでは史上最高額。

(3・16 朝日)

増える夫いじめ、親いじめ

〈夫いじめ〉 AP電(ワシントン発)によれば、約二二〇〇万人の専主たちが、女房に暴力をふるわれ、ざっと一〇〇万人はとりわけひどく痛めつけられているとのこと。

〈親いじめ〉 UPI電(ワシントン発)によれば、ゲンコツや物で親をぶつては、無理やり親の意見を変えさせたりするなど、年老いた親や祖父母を虐待する事件が近年増加の傾向にあるとのこと。

(3・17 朝日)

## アメリカの「リブ雑誌」

〈ミズ〉 女性の解放と自立を説くミニコミ誌として発刊したのが一九七二年二月。わずか六年間に五〇万部という、堂々たる月刊雑誌に成長。現在スタッフは五五人。

〈ワーキング・ウイメン〉 働

く女性の問題を扱う雑誌。『出世・成功のための衣装の選び方』

『最小限の時間で作れる夕食メニュー』など、仕事を持つ女性に焦点を合わせてある。

『ツイン・シチーズ・ウーマン』形は新聞の大きさと内容は雑誌といった刊行物。『説教をしない女性誌』が編集方針。「まだ目覚めない女性を知らず知らずのうちに女性運動の意識の中にひきずりこんでしまおう」といずれも『男女平等』と叫ぶ段階はとくに過ぎた、というのが共通の見解。働く女性は四千万、全労働人口の四八・一％

女性運動は第二期に入った。

(3・17 読売)

## 女性のベルボーイ

ニューヨークのプラザホテルが市内のホテルとしては初の女性ベルボーイを正式採用。二五歳のキャスリーン・シエアラ

さん。腕の力が強く、旅行荷物運搬の適任者。(3・24朝日)

#### NGOの国際セミナー

「国際婦人の十年」活動の一環としてニューヨークでNGO主催の「国際セミナー」が開かれた。四六か国の民間代表一六〇人が参加。

アフリカ・ラテンアメリカ・西アジア・アジア・太平洋など四つの分科会に分かれて活発な討論が行なわれた。

日本からの参加者、河野貴代美さんは、日本女性に権利意識が欠如していることを指摘、女性のためのカウンセリングセンターを作りたいと発言。

各グループのまとめた婦人の地位向上などについての勧告案が報告され、八〇年のテヘラン会議に提出されることになった。

(3・31東京)

#### 男女平等を憲法条文に

米国では男女同権が憲法に明記されていない、これを求めるERRA運動が広がっている。国会を通過したものの、州議会の批准が必要だが、反対勢力の強い地方ではできない。このため婦人運動団体では批准しない州への旅行ボイコット、反対派の宣伝に対抗するための教宣活動などに力を注いでいる。

(4・4朝日)

#### 婦人部がない米国の労組

米国教員組合の副会長のサンドラ・フェルドマンさんは滞日中、米国の労組に婦人部がない理由をきかれ「男女平等が実現されたから必要ない。現在の米国女性運動の最大テーマは男女平等憲法修正案を可決させること」と答えた。

(4・8朝日)

#### 米海兵隊に初の女性将官

マーガレット・ブルーラさん(四七)。一九七五年、予備役少尉として入隊以来、海兵隊婦人局長・司令部情報局次長を歴任。海兵隊史上初の女性情報局長就任も間近。

(4・9朝日)

#### 男子野球チームに女子選手

女子の野球熱は最近米国でも高まっているが、ついに男子野球チームへの正選手に女子選手が登場。ヒューストンの高校での話。

(4・24朝日)

#### 女兒がほしい米女性

ある主婦向け雑誌で今度子供を作るとしたら男女どちらがいいかという問をだしたところ、女兒を望む回答が男児を上回った。理由は「女性の地位向上で職業機会がふえ、それが駄目で

も主婦業という結構な仕事にありつける」。

(4・27朝日)

#### 離婚後の育児ババ

離婚した後の育児は頭の痛い問題だが、最近米国では、週末は月のある期間だけ育児の面倒をみる離婚後のパートタイム・ババがふえる傾向にある。子供への影響については、識者の間でも意見が分かれるが、ともかく離婚後も子供に責任をもとうという良心の表われかも。

(5・5朝日)

#### 「妻を捜して」が増加

米国の行方不明者捜査専門会社の統計では、一九六〇年には「夫を」に比べ「妻を捜して」の依頼はずっと少なかったが、七四年以降は子を残して家出する妻がふえたため逆転しているという。

(5・8朝日)

黒人の未婚の母は半数以上

七六年に生まれた米国の黒人の半数以上が未婚もしくは離婚後の女性を母としているという事実がわかり関係者を驚かせている。白人女性の間でも未婚の母はふえているが、同年の白人の赤ん坊のうち独身者を母とするのは八%足らずで、人種間に大きな開きがある。原因は不明。(5・12読売)

儀礼兵にも女性が進出

ホワイトハウスの儀礼兵(現在約二二〇人)は今まではえり抜かれた男性兵士。性差別として猛攻を加えていた女性側の勝利。(5・17朝日)

女性政治家の母は偉大

インディラ・ガンジーなど世

界の著名な女性指導者の多くは、その政治への出発を母の生活態度から学んだという本が最近米国で出版された。『婦人政治家の誕生と背景』、著者は二人の女性大学教授。(5・21朝日)

ボストンの駆け込み寺

ボストンの下町にアル中などの暴力亭主から女性を避難させる施設がある。昨年一月にスタートして一年余で三五〇人の母子を保護。運営はスタッフと避難者の両者で自主的に行ない、被害女性の立ち直りをはかる明るい雰囲気だ。男性の暴力による離婚問題の多い米国には、他の都市にもこうした緊急避難所がある。(5・22東京)

炭鉱労働者にもっと女性を

アパラチア地方の婦人団体は「米国の石炭産業は性差別の最

も激しい業界、今後の新規採用は男三人に対し最低女一人を」と連邦政府に手紙で抗議。

米国には通称「タイトル7」と呼ばれる男女雇用差別禁止法(七二年改正)があり、連邦政府は当局が発注する業者が平等条項に違反する場合は行政命令で指定業者から排除することができ。(7・1朝日)

自立した女の映画が急増

アメリカの女性映画評論家パトリシア・エレンズさん(四〇)が「映画と女性」について語るため、女性たちにより作られた記録映画一〇本を持って来日。

「七〇年代に入ると自分で人生を切り開いていく女性たちを描く作品が次々に生まれ、男性たちは女たちがどう考え感じているかについて敏感になってきている」と。(7・3朝日)

夫の暴力に警察が介入

米国では妻に暴力をふるう夫がふえているが、ニューヨーク警察では暴力的な夫婦げんかに一般の暴力犯罪と同じ姿勢でぞむことを決定。(7・31読売)

一〇代の「未婚の父」に助力

二年前から南カリフォルニアでは二か所でカウンセリングを行ない、相談にのっている。(7・21朝日)

婦人問題補佐官が辞任

カーター政権発足当初から婦人問題担当補佐官として重要な地位を占めてきたミッジ・コスタンザ女史は、一日、政治姿勢の相違を理由に辞表を提出、受理された。(8・2日経)

捨てられた試験管ベビー

ニューヨーク連邦地裁は試験管ベビーの実験を中断された母親の打撃に対し、医師と病院に五万ドルの慰謝料を払うよう決定。  
(8・19読売)

米国の働く女性五六％に

七十七年度の米国女性の就業率は五六％で新記録と米労働統計局が発表。前年比一％、一六〇万の増加。男の就業率は八〇％。  
(8・20朝日)

夫が財布を握る米国

一家の予算書は夫が作り細かく監視、妻の口出しを許さぬ米国。したがって結婚は永久就職にならない。主婦が働くのは自立のためではなく、夫だけに家庭の経営権を握らせたくないからでもある。  
(8・22日経)

五年後には軍の一割は女性

いま米国の婦人将校・兵卒は約一二万人、全体の六・五％だが五年後には二〇万人に増加予定。七三年に徴兵を志願制にして以来、募集難と質の低下が問題になり、質のよい女性の大量採用にふみきったもの。折から女性の側から職業の機会均等・同一賃金の要求が高まり、この要求を積極的に満たす軍隊が歓迎されている。  
(8・23毎日)

増えた不妊手術

アメリカ全米健康統計センターが公表した調査では一五歳から四四歳までのカップル三組に一组が人口不妊状態。三〇歳から四四歳までの夫婦の約半分が不妊手術を受けているという。特に白人夫婦に多いがビルよりも手軽で効果的という理由らしい。  
(8・23読売)

スチュワーデスの抗議

全米のスチュワーデスの組織「フライト・アテンダント連盟」が、CBSテレビの連続ドラマに嚴重抗議。「スチュワーデスは「性の女神」じゃない」と。  
(9・7毎日)

ママは宇宙飛行士

米航空宇宙局が選んだ六人の女性宇宙飛行士の一人、シャノン・ルミットさん(三五)は一男一女の母で本職は生化学者。「すてきな挑戦です」。  
(9・9朝日)

新ドルに女性の顔

米国下院は、新ドル硬貨に十九世紀の米婦人参政権運動家スーザン・アンソニー女史の肖像を使うことを承認。  
(10・1毎日)

米国の女性商務長官来日

ファニータ・クレブス女史は、デューク大学経済学部長と副学長を勤めた人。頭脳もウデも男まさり。対日貿易セールのため来日。  
(10・6毎日)

男女平等の改憲批准延長

米上院は、六日、期限切れ寸前のERA(男女平等を明記する憲法修正案)の各州批准承認期限を三年三か月延長。賛成六〇・反対三六。  
(10・8読売)

米国で女性記者も幹部登用

ニューヨーク・タイムズの女子社員五五〇人は、女性であるばかりに社内的重要ポストに就けないと、会社側を相手取り、ニューヨーク連邦地裁に待遇改善の訴え。会社は、六日、女子社員に社幹部への道を開くこと

などを合意。

(10・7朝日/10・8毎日)

二四年間、男で通す

米国ウィスコンシン州で盗みの疑いで捕まったミッチ(四四)は通称マイケル。「五〇年代は男の方が就職しやすかった」と。

(10・11毎日)

米海軍で女性艦船勤務

女性将校、士官、下士官合わせて八三〇人が来月から正式に乗りこむ。二二隻、トイレなど大改造中。

(10・25朝日)

老人の町サン・シテイ

米国で二〇年の歴史を持つ老人ばかりの町サン・シテイは住民の自治とボランティア活動からなり、明るく活気に満ちている。配偶者が欠けると社交の場

からはずさるという問題点もあるが、とお茶の水女子大助教授袖井孝子氏はレポート。

(11・2読売)

多様化したアメリカの女性

「コスモポリタン」編集長ヘレン・ガレー・ブラウンさんは「専門的な仕事を持つ女性も増え、ライフスタイルは多様化してきたが、女らしさとは矛盾しない」と。

(11・7信毎)

米上院・知事選に女性当選

一月七日の中間選挙でカンサス州のナンシー・カッセバウムさん(共和党・四六)が上院議員に当選、知事選はコネチカットのエラ・グラッソさん(民主・現)が再選され、ハワイには初の女性副知事(ジーン・サタコ・キングさん・民主・日系)が誕生。(11・9朝日/毎日/読売)

女性活躍米国のTV界

すぐ腕女性を次々に起用、管理職の女性が多い。ABC娯楽部門副社長のブリジッド・ポターさん(三五)は「男性だって女性だって能力があれば関係ない」。

(11・10朝日)

NYタイムズに女性運動部長

レアン・シュライバーさん(三三)が就任。五五人の記者を指揮する。

(11・11信毎)

米国の子持ち花嫁二五%

二五歳以下の花嫁の二五%は結婚式場に臨む時点ですでに子持ちか妊娠しているか。

(11・12朝日)

女性ご法度「男の城」

ワシントンのコスモクラブは

創立百年。ノーベル賞やピューリッサー賞の受賞者など超一流メンバー三千人。が、女性会員は認めない伝統。(11・20中日)

アメリカ人の結婚思考

九六%は結婚し、三八%が離婚、その七九%が再婚する。よりよい結婚をめざし、より理想の人を求めて二度、三度とチャレンジする。結婚―離婚―結婚の繰り返し、その輪を広げてゆく。(11・23読売)

「高校男」は「大学女」より高給

高校中退の白人男性の年取平均一七八万円、大卒の白人女性は一三六万円。米労働省の「76報告書」。(12・1読売)

初の日系女捜査官誕生

FBI捜査官に日系三世ジョー



ン坂本さん(二二六)が採用された。FBI全局員七八〇〇人のうち、女性は一四七人。

(12・9毎日)

レイプは夫婦間に成立?

米国で初の裁判。被告は夫(二二)、原告は二歳年上の妻。昨年、オレゴン、デラウェア、アイオワの三州で、妻は夫をレイプ罪で訴え得るとする州法が成立。

(12・23毎日)

妻への暴行罪は成立しない

妻を暴力で犯したと訴えられたオレゴン州の夫に、巡回裁判所は無罪の判決。妻は「ケガまでして犯される妻の立場はどうなるの」と悲嘆。(12・28読売)

## 中南米

### 「トリニダード Tobago」

避妊具の自販機が出現

子供の数が四―五人がふつうというこの国では産児制限に力を入れていたがカトリック教徒の多いお国柄、自販機に反対の声も高かった。いざ目のあたりにすると「いちばん必要な家庭はそれを買う金さえまならない」。

(1・20朝日)

## 東・中欧社会主義国

### 「ソ連」

ソ連女性の反乱?

男女平等が制度の上では完全に実現されているはずの社会主義国ソ連でも、家庭生活では男性の横暴が今なお残るためか、

近年離婚件数がうなぎのぼり。

これとともに同国では珍しい女性権利論争が新聞紙上でたたかわされている。一方、男女間人口の不均衡と出生率低下を恐れる声が政府部内にも高まり、ある教育学者は未婚の母を奨励する論説を発表。この傾向をソ連社会変動の兆しとみる学者もいる。

(5・15読売)

ソ連、同一労働は男のウソ

ソ連の憲法は男女同一労働同一賃金を保障しているが、家事は結局女の仕事。(11・27読売)

義務教育を終えると大学進学以外は全員職につく。女性は教育・医療・軽工業分野に進出。結婚は二五から二七ぐらいが多く、酒タバコはたしなまない。

(12・1朝日)

### 「チェコ」

チェコの女性

女性は全労働人口の四七%、出産休暇は二六週間、生まれた子が二歳になるまで育児休暇がとれ、職場復帰の権利もある。児童手当も第一子が月額一八〇〇円、六人持てば働かなくても食べていける。(12・26読売)

### 「ポーランド」

女ひとりのヨット世界一周

ポーランドの女性、クリスチナ・チョイノフスカ・リスキエビッチさん(四一)は、約二年がかりでヨットによる単独世界一周に成功した。

「幸せです。もうダメと思ったことが何度あったが、とうとうやりました」(3・22読売)

## 〔東ドイツ〕

働く母奨励を方向転換

東独では子を託児所に預け母が労働参加することを勧めていたが、出産奨励に方針を転換、四―六か月の有給休暇を保障、希望ならさらに一年延長することにした。(6・24朝日)

## 東独と西独の女性

東独では一六―六〇歳の女性の八〇％が就労。一方、西独は六〇年代中ごろから結婚は二〇％減、出産数五〇％減、離婚三七％増。カネで結婚と出産を奨励中。(11・1朝日)

## 社会主義国一般

東欧社会主義国の性教育

「人間教育が性教育の基本。」

幼児期からの教育で正しい知識と敬い合う心が育つ」と東独など七か国を取材した伊地知優子さん。(11・22読売)

## 西欧

### 〔西ドイツ〕

リブの闘士が西独の怪盗

西独に「赤毛のソラ」を名乗る「女性の味方」が出現、ボルノショップを荒らし回り「今日、愛という言葉で表現されるのは、男性による女性支配以外の何物でもない、ボルノ業者は女性の体を飯のタネにしている」と各地の女性に怪盗団結成を呼びかけている。

業者側は三六万円の懸賞金つきで犯人探しにやっき。(2・6読売)

西独の駆け込み寺一年

西ベルリンに「虐待された女性のための避難所」ができて一年。この間援助を受けた女性は六一五人。

相手が暴力に及んだ原因は「アル中」、「しつと」「かんしゃく持ち」など。費用は厚生省とベルリン市で折半。

約半数が三日後に新しい道を得て出所。同じく約半数が同じ夫のもとに帰る。(2・28毎日)

西独離婚新法の効果

近代的な新離婚法が昨年七月成立した西独、当初予想と逆に離婚は激減。女性に有利とみられたこの法が手続きが複雑との批判も。(4・17朝日)

西独の老婦人

五人に一人が独り暮らしにス

トレスを感じているが、同居希望は一割以下。一方「男の独り暮らしはむずかしいと思う」は四〇％。(9・1毎日)

## 〔フランス〕

フランスの女性党

フランスの総選挙。パリでは妊娠中絶の自由化をとなえてきた女性グループ「ジョワジュール」が「既成政党にはもうたよれない」と、独自の候補五〇人を立てる。独立予算を持つ女性省の創設などの綱領を掲げると同時に、「女よ、めざめよ」と呼びかけている。(3・2朝日)

女性議員は七人増えたが

フランスの総選挙に六〇〇人の女性候補が立ち当選は一七人で七人増。うち一人が共産党一人社会党、五人が与党だった。

女性運動グループ「シヨワジュール」は二〇〇人立てたが、それぞれの選挙区で四・四％以上得票した人はなかった。(4・4読売)

#### 仏内閣のナンバースリー

シモーヌ・ベリュ厚相(五〇)。

七四年以来、妊娠中絶の合法化実現・家族手当の増額など実績は十分。初の女性首相という呼び声さえも。(4・8朝日)

#### ふえた飲酒女性

フランス女性で最もよくアルコールを飲むのは職業婦人。一人あたりの平均酒量は男性に比べ半分以下。アルコールを飲む女性を罪悪視するタブーは消えつつある。(5・12朝日)

#### 女性には後進国のフランス

自由と平等の国フランスでも

実際の職業生活では差別意識が根強い。離婚法、中絶法と、制度面の革新ぶりはめざましいが、女性の職種はお茶くみ程度、給料も低い。(7・7読売)

#### 史上初、女性の北極海横断

マリイ・イブ・チボーさんを含む六人の探検家の乗る小型帆船が二五日、北極海横断に成功。(10・17朝日)

#### 「スイス」

##### 女子中学生もスパスパ

スイスでは女が通りでタバコを吸うのははしらないとされてきたが、最近では中学も上級になると喫煙を親も黙認することが多い。バイクやジーンズ同様、「男のやっつてることなら女も認められるはず」というリブ思想の現われ。(2・14読売)

#### 「イタリア」

##### 中絶法で大揺れのイタリア

前首相の誘拐・殺人やあいかわらずの左右対立で揺れるイタリアでは難航する中絶法も政局

##### 女ばかりのテロ軍団

に対する女性の勝利だが、中絶は、一八歳以上・妊娠九〇日以内に限られ、一八歳未満の場合親が家裁の同意が必要。(6・9社会新報)

混乱の一因となったようだ。四月に少数野党の急進党は中絶法

イタリアで一〇月末から一

賛成派の共産・社会両党から裏切り議員が出たことに激怒、これを国民投票に持ち込む運動を始めた。国民投票で敗れて面目を失うことを恐れる政府与党は、逆に同法案の通過を急ぐという失態を演じた。(4・15読売)

#### 「ギリシャ」

伊の妊娠中絶法ついに成立

日本で知られている「女傑」

はメリナ・メルクーリくらいだが、古代からさまざまな女傑がいた。個性を自由に伸ばし、スバルタ教育はしない、と、在日ギリシャ政府観光局のスーラ・バナゴブルーウさん。(2・25朝日)

イタリア上院は、五月一八日、賛成一六〇、反対一四八で妊娠中絶法案を可決、七六年以来国を二分した問題に終止符を打った。墮胎罪は廃止され、中絶は無料に。離婚法につぐバチカン

## 〔スウェーデン〕

出産育児休暇が九か月に

スウェーデンでは、七八年一月一日から、従来七か月だった「出産育児休暇」を、九か月間に延長。九か月のうち最後の三か月は「特別保険」といって、子供が保育園や小学校の入学時まで休みをためておくこともできる。育児休暇は父親と母親のどちらか一方が取得できる。

(1・20朝日)

対等支える女性の経済力

「おむつの取替えなんか平気ですよ」とスウェーデンの若い父親。この国では父親にも育児休暇が規定されているのだから「ますらお派出夫」もあたりまえだが、それも職業の平等からくる女性の経済的地位の向上があればこそ。

(5・8読売)

## 保育園論争

スウェーデンの新聞紙上で保育園の意義が論議のヤマとなる。個性的な子供をという家庭派に対し、集団への適応を説く保育園派の勢いが強いが、保育園の設備が少ないのがこの国の悩みで、入園できるのはたった一〇％。

(6・5朝日)

高福祉高負担で育児期間も有給

スウェーデンは育児休業制度が完備し、最初の九か月は給料の九割支給、その後の九か月は三分の一欠勤しても有給。

(9・21毎日)

国が「再婚のすすめ」

スウェーデンでは六〇年代から七〇年にかけて結婚制度や性のモラルへの抵抗が激しく集団家族や未婚の母が流行したが、

離婚後に残された子の情緒不安定等の問題が出、いまは再婚奨励。絵本も「あっちのお母さん、こっちのお父さん、なんとすばらしい世界なんだろう」と洗脳

(12・28読売)

## 〔スペイン〕

スペインの女性闘牛士復活

四〇年ぶりの女闘牛士マリベル・アティエンサルさん（一八）。「女なんて料理しかできないとからかわれて飛び込んだ」。

(9・28朝日)

## 〔デンマーク〕

女子労働者に深刻な失業

女子労働人口の六三％が就労しているデンマークでも不況でまっ先にクビを切られるのは女性。千人のメンバーを持つ女性

運動「レッド・ソックス」は、「女の失業問題」「女と子供の立場の改善」を政府と企業、そして女性自身の意識につけていく。

(12・19読売)

## 〔イギリス〕

中絶は妻の一存で

英国リパブル地裁は妊娠中絶に夫の同意は不要との判決を示し、英国紳士にショックを与えている。

(5・25朝日)

急増している英国の離婚

イギリスで離婚が五〇〇組に一組の割合だったのは一〇〇年前。三組に一組が昨今。平均結婚期間は約一三年で、離婚率が低いのは再婚夫婦、と週刊誌「ウーマンズ・オウン」は伝える。

(6・12朝日)

## 英海軍の女艦長

伝統ある英国海軍にも女艦長。五一歳のハバード夫人は「最も優れた船乗り」と評価されている。(8・25毎日)

## イギリスで男性結婚難時代

二〇から三四の男は、その層の女より八〇万人多い。今世紀中は女が有利な立場。一九六四年以来年上の女と結婚する率が上昇中。(10・19朝日)

## 英の母親、婚前交渉を認知

お堅い英国母親連盟が「結婚の選択」を出版。「婚前交渉も結婚式前の妊娠もOK」。(11・7読売)

## 英国の性差別禁止法

「一九七五年、性差別禁止法

ができ平等機会委員会(EOC)ができた。性差別の監視、平等

の推進、法律の検討が義務づけられ、一四〇人のスタッフは立ち入り調査権まで持ったが、裁判官は全部男性でカベになっている。女性の賃金は男の七五%、同一労働の証明がむずかしい。教師の意識変革で子供を変えなくては」と来日したEOC教育部長、バレリー・ヘイルさん(三〇)は多難な前途を語る。(11・18朝日/12・1中日・信毎)

## 闘う夜の女たち

一月末、「ピッカーズ男爵夫人を囲む会」(夜の女たち)が、仕事を制限している法律に反対するキャンペーンを開始。「男を使って男から経済的に独立するのが何で悪いの」と、まづスト、次に「客」の名をバラす戦術。(12・9読売)

## 「北アイルランド」

ノーベル平和賞がアダ

新旧両教徒の対立で流血のつづく北アイルランドで長く非暴力運動にたずさわってきた二女性が昨年ノーベル平和賞を受賞したが、このほど二人は運動リーダーの地位を引退と表明。非暴力運動の限界論争とともに賞金の使途についてのいざこざも一因? (4・17読売)

## 海外一般

民間パイロットとして活躍

世界各国の民間航空会社で女性パイロットが誕生している。全世界のパイロット数三万三千人に対し五〇人という小さな比率ではあるが。(6・24読売)

ふえてる専門家女性関係

米国のクレプス商務長官、中国の陳慕華対外経済連絡相、仏のベルチエ婦人問題相らはいずれも専門畑の知識を持ち、その経験で活躍中。(10・9朝日)

ふえる離婚・進む夫婦別姓

中欧・東欧の社会主義国でふえている離婚。根源に夫が支配したがることへの不満がある。

が、男の九割は妻が職業を持つことを歓迎、花嫁に処女性を求めず、「性の一致」は結婚前に確認。(12・8・15読売)

# 資料 五三年度 国の婦人関係予算（案）

## ◆総理府婦人問題担当室の予算

婦人問題担当室では、具体的取組みとして次の二項目をとりあげた。

一・婦人の政策決定参加を促進する特別活動推進要項を作成、五二年六月に推進本部決定をし、政府部内で行政への婦人の参画の促進および外部の公的機関や民間機関、団体等へ、婦人参加のための総務・各官による依頼状をもって協力を要請した。二・国内行動計画の目標達成のため前期重点目標一一項目を策定。国連婦人の一〇年の中間、一九八〇年に行われる世界婦人会議をめぐりに一〇年計画の前期の実績をみて、後期の見直しをすべくたてたもの。

五三年度の予算は、①婦人の政策決

表1 総理府婦人問題担当室関係予算（単位百万円）

項 目	53年度	52年度	対前年増△減
婦人問題の総合推進経費	30	28	2
1 婦人の政策決定参加状況に関する調査	4	2	
2 国際協力推進経費	3	3	
3 婦人問題企画推進会議経費	23	23	
合 計	30	28	2

定参加状況に関する調査費四〇〇万円（地方公共団体の都道府県、市町村単位における婦人の地方公務員の登採用

離職状況、地方審議会等への婦人の参加状況および、民間企業や政党、団体等での婦人の活動状況等）。②国際協力費推進経費三〇〇万円（海外事情の情報交換および翻訳料等）。③婦人問題推進会議費二三〇〇万円（同会議の会場費、手当および年次報告書の作成費各省連絡会議費など）。

◆労働省の勤労婦人を中心とする婦人の地位向上対策推進予算

今年度の労働省婦人関係予算は、昨年度の八億を五〇％上まわる一二億四〇〇〇万円。

勤労婦人を中心とする婦人の地位向上対策として、雇用における男女平等促進対策では、若年定年制、結婚退職

表2 労働省婦人関係予算 (単位百万円)

項 目	53年度	52年度	対前年 増△減
勤労婦人を中心とする婦人の地位向上対策の推進	1,244	808	436
1 国内行動計画推進のための啓発活動の展開	71	74	△ 3
2 雇用における男女平等促進対策の推進	10	5	5
3 勤労婦人の母性健康管理対策の推進	28	12	16
4 職業生活と家庭生活の調和対策の推進	614	546	68
(1) 育児休業制度の普及促進	63	60	3
(2) 働く婦人の家拡充	360	270	90
(3) 内職対策の推進	191	216	△ 25
5 寡婦等就業援助対策の推進	521	171	350
合 計	1,244	808	436

制等の解消のための指導費等を新規に予算化。労働省は企業の女性差別実態調査を行なった結果、企業等に集団あるいは個別に指導するための庁費、旅費等を新規計上した。

勤労婦人の母性健康管理対策では母性健康管理の自主点検、健康管理講座

の開設を新規に予算化。既婚婦人三〇人以上を雇う企業等に母性管理指導医を置き、セミナー等の開催を行なってきたが、母性健康管理のための指導基準に基づく各企業の自主点検と指導のための費用と働く婦人の家を利用しての健康管理講座も開催する。

寡婦等の就業援助対策の推進では、

昨年度三か所設置した「婦人就業援助センター」を五三年度は六か所増設し計九か所とし、簡単な技能講習を二週間受ける者に訓練手当として九〇〇円程度の受講旅費を支給。なお今年度から「職場適応訓練制度」を設けた。これはあらかじめ雇用を予約、約半年間その職場で実地訓練を受け、訓練終了後に正式に就職するもの。雇用者には訓練経費として委託費を、訓練を受けた寡婦にはその間の生活手当を支給する。

寡婦対策で新規事業は、三〇か所の職業安定所に寡婦専門の非常勤職業相談員三〇名を置くことと決定。

そのほか、育児休業制度では五三年一月より法改正によって公共事業体の教員、看護婦等が休業中も雇用を継続されるには、賃金に見合った保険料を事業所側が負担することに準じて民間

表3 農林省生活改善関係予算

(単位千円)

項 目	53年度	52年度	対前年 増△減
1 農山漁村の婦人対策	469,226	339,815	129,411
(1) 農山漁村婦人対策推進連絡費	36,925	0	36,925
(2) 農村婦人高齢者活動促進事業費	34,383	35,893	△ 1,510
(3) 婦人農業従事者セミナー開催費	70,070	73,356	△ 3,286
(4) 農村婦人の家設置費	314,619	220,136	94,483
(5) 農家生活改善技術等普及推進費	13,229	10,430	2,799
2 農山漁家の健康対策	278,492	296,988	△ 18,496
(1) 農業者健康モデル地区育成事業費	205,300	233,440	△ 28,140
(2) 農業従事者健康推進特別事業費	73,192	63,548	9,644
3 生活環境対策	360,595	305,052	55,543
(1) 生活環境改善対策事業費	130,889	118,484	12,405
(2) 手づくりのむら整備費	100,905	0	100,905
(3) 農家高齢者創作活動施設設置費	128,801	184,002	△ 55,201
(4) 農村生活中核実験推進費	0	2,566	△ 2,566
4 漁村生活の改善対策	18,460	0	18,460
漁村生活改善推進費	18,460	0	18,460
5 生活改善普及活動体制の整備	4,748,245	4,487,382	260,863
(1) 普及職員設置費	4,513,922	4,253,270	260,652
(2) 指導旅費	37,863	40,077	△ 2,214
(3) 生活改良普及員普及器材整備費	6,853	7,214	△ 361
(4) 離休生活改良普及員代替職員費	33,929	32,044	1,885
(5) 巡回指導施設設置費	16,754	17,636	△ 882
(6) 生活改善専門技術員研修費	4,883	7,344	△ 2,461
(7) 生活改良普及員研修費	32,131	29,894	2,237
(8) 生活改良普及員通信講座委託費	2,796	2,814	△ 18
(9) 普及活動推進費	63,135	44,056	19,079
(10) 生活改善啓蒙推進事業委託費	35,979	35,998	△ 19
(11) 生活水準向上対策事業費	0	17,035	△ 17,035
6 生活改善技術の確保対策	169,274	152,892	16,382
(1) 生活改善技術等確立事業費	10,663	11,498	△ 835
(2) 農村生活総合研究センター運営費	158,611	141,394	17,217
合 計	6,044,292	5,582,129	462,163
農家生活改善資金	(貸付枠) 4,200,000	(貸付枠) 3,700,000	(貸付枠) 500,000

## ◆農林省の生活改善関係予算

看護婦等特定職種の育児休業利用助成  
給付金を、事業所に支給する。

社会上、農業上の変化とともに、農業を担う男女の比率も変化している。  
農業人口の六二%、基幹的農業従事者

の五四・六%がともに婦人。国際婦人年によって、こうした農業の女性化、高齢化などが明らかにってきた。

農山漁村の婦人対策としては、五二年度に新規事業であった高齢者活動の促進事業費、婦人農業従事者のセミナー開催、農村婦人の家の設置、農家生活

改善技術等普及推進費を二年次の事業として継続。

今年度新しく農山漁村婦人対策推進連絡会費が計上された。これは市町村や関係機関と連携して婦人のおかれて  
いる立場を明確にし、普及所(全国六三五か所)単位に婦人対策、生活改善



を推進する連絡検討会を開くもの。

婦人農業従事者セミナーでは、兼業農家の婦人の農業従事負担はもちろん、家事のインスタント化、家庭全体の負担の増大など、「適正な農業参加」をとりあげた。

農山漁家の健康対策については、健康推進の教育啓発費用「農業従事者健康推進特別事業費」を引き続き計上。

生活環境の改善対策では今年度新規に「手づくりのむら整備費」を設けた。これは、市町村―県―国でやるべきことと、自分たちでできることを見直し、身のまわりの子どもの遊び場、婦人の運動場、ゴミ処理、防火用水の管理等、住民の共同作業でできる生活環境と施設整備のための材料費を予算化、手間は農家自身が負担し合うことを強調したもの。

漁村生活の改善対策では、二〇〇カイリによる漁場の縮小等、漁村をとり

まく厳しい情勢に対処、把握するとともに改善策を講ずるため、新規に漁村生活改善推進費が三八県分予算化。

#### ◆文部省婦人教育関係予算

文部省の婦人対策関係予算は、三三億四五〇〇万円、前年より一九億八九〇〇万円の減額になっているが、これは主に国立婦人教育会館が完成間近で工事費が減少したため。

婦人教育の施策は、婦人学級、ボランティア活動、家庭教育学級等の事業費の補助と施設整備拡充の二つに大別できる。

生涯教育事業の充実では、成人婦人の学習条件の整備のための婦人教育と両親教育の学習条件の整備のための家庭教育があり、ハガキ通信、巡回相談による幼児期の家庭教育事業、婦人学級一八〇〇、家庭教育学級四〇〇〇、乳幼児学級一二〇〇、その他青年学級、

高齢者教室が六五四学級で、いずれも市町村への補助は前年と同額予算。

施設整備では、公立婦人教育会館施設補助に初めて二館分一億二〇〇〇万円がついた。婦人教育の施策は婦人学級、ボランティア活動、家庭教育等の事業費補助に重点がいき、青少年施策との対比をみても施設整備拡充は手つかずだった。社会教育の施策は公民館を充実するという観点で行ってきたが、今年度からさらに広域的な婦人の施設を整備するという観点で公立婦人教育会館をつくり、婦人教育の専門施設を持つ意味あいがある。この補助対象は人口三〇万以上の都市と都道府県指定都市に対するもので、会館の本身は婦人教育に関する研修、情報を提供する婦人相互の交流の場を図るもの（国立婦人教育会館は昨年十一月開館以来三月末まで約四万の利用者があった）。

表4 文部省婦人対策関係予算

(単位 百万円)

項 目	53年度	52年度	対前年 増△減
生涯教育の充実	1,260	1,787	△ 527
1. 生涯教育指導事業費補助	644	729	△ 85
2. 生涯教育学習事業費補助	347	655	△ 308
3. 生涯教育地域活動促進費補助	65	223	△ 158
4. 社会教育施設活動促進費補助	204	180	24
教育テレビ放送調査及実施委託	440	417	23
公立婦人教育会館施設費補助	120	0	120
国立教育婦人会館	1,367	2,969	△1,602
1. 運営経費	610	432	178
2. 施設費	757	2,537	△1,780
婦人・家庭教育団体補助	33	35	△ 2
その他	25	26	△ 1
合 計	3,245	5,234	△1,989

施設費は、残された体育棟と日本家屋のための工事費等の一三億六、七〇〇万円。当会館の事業には、婦人の実践的な研修と婦人教育の専門的な調査研究の二つの柱があるが、五三年度には情報交流課を新設、情報資料係、国際交流係を設け職員は一〇名増の二六

名になった。婦人家庭教育団体補助は補助金の整理統合が民間団体にも適用されたが、婦人団体、家庭教育団体の補助金は八四団体に減り、同じ目的、事業の団体は協力して実施するという方針が示された。補助を受けるのは全国地域婦人団体連絡協議会五五〇万、国際婦人教育振興会二六五〇万、全国婦人会館協議会四〇〇万、大学婦人協会五〇〇万円の四団体で、大学婦人協会への補助の内、高等教育を受けた婦人の職業生活の継続、中断等の実態調査、社会参加の課題の調査研究は大学婦人協会へ、国際理解親善

と婦人団体の相互理解、平和教育についての調査研究はW I Lへ、働く母親の家庭教育に関する調査研究は、日本有職婦人クラブ全国連合会への補助金。一団体三〇〇万円以下の補助は打ち切り。

#### ◆厚生省母子福祉関係予算

母子寡婦福祉対策としては母子福祉貸付金が一三億五〇〇〇万から二〇億円に増。これは母子家庭が事業を始める際の資金で、貸付原資の増額、また寡婦福祉貸付補助金も九億円となった。母子家庭介護人派遣事業費は母子家庭の母親が病気となった場合に育児等の世話をする介護人が一〇〇人増で、全国計一二〇〇人となる。

児童扶養手当は五三年八月から月額一万九五〇〇円から二万一五〇〇円に増額、子ども一人につき月二〇〇〇円加算。

現在保育所は二万九、〇〇〇か所  
二〇〇万人に達したが、保育対策費の

中の、保育所の措置費は新たに三項目  
の内容改善があった。一・特別管理費  
の新設で職員の人数割による備品等購  
入費以外に特別管理費として一か所年  
額一〇万円を計上。二・事務職員雇上  
げ費は今まで保母たちの負担となつて  
いた事務を事務員の雇用で本来の仕事  
にもどそうとするもの。定員二二一人  
以上の保育所に年額三〇万四七二〇円  
を負担。三・職員の健康管理費は措置  
費の中に含まれてきたが、今年はじめ  
て項目をたてて計上された。

特別保育事業費は、特別保育事業—  
僻地における保育、季節保育所の保育  
材料費、保母給与の増額。今年度から  
はこの保育所でも入所できるように  
した。

その他、産休等代替保母費が一九〇  
〇人の増。同和対策特別保育事業費で

は従来の保母七〇〇人から八〇〇人に  
加配することになった。

保母養成対策費は、保母養成所が二  
校増え四〇校に、保母修学資金貸与は、  
五三年度入学者から一千元増の一万円  
に上げられる。

児童健全育成対策費は、家庭児童相

表 5 厚生省母子福祉関係予算 (単位 百万円)

項 目	53年度	52年度	対前年 増△減
1. 母子、寡婦福祉対策費	3,014	2,455	559
2. 児童扶養手当	87,667	67,303	20,364
3. 保育対策費			
(1) 保育所施設整備費	(50,406)	(40,706)	(9,700)
(2) 保育所措置費	258,020	238,820	19,200
(3) 特別保育事業費	4,024	3,594	430
4. 保母養成対策費	696	670	26
5. 児童健全育成対策費	1,764	1,716	48

(注) 保育所施設整備費は、社会福祉施設整備費に一括  
計上されている。

談室の充実強化として、児童館を二三  
〇か所増の二二三六か所設置。母親ク  
ラブの活動費は盛り場の巡回、交通事  
故防止の巡回等母親のクラブ二四〇〇  
クラブ(二〇〇〇増)への補助金。都  
市に於ける学童保育対策として、五万  
以上の市を対象に一〇〇市分、都市児  
童健全育成事業費が一億二二〇〇万円  
ついた。

#### ◆厚生省母子保健対策予算

母子保健対策として予防、治療、研  
究、福祉の四つがあげられる。特に五  
二年度を初年度として予算化した心身  
障害研究費と一歳半児童健康調査費は母  
と子の健康づくりの路線を継続のため  
予算確保に重点がおかれている。

予防面では妊娠婦乳幼児健康調査費  
と地域母子保健事業費、先天性代謝異  
常検査費がある。

市町村母子保健事業費は、市町村対

象のメニュー方式事業で、母子保健指導、妊婦乳児等保健相談、家族計画指導、母子保健推進員活動、母子保健地域組織育成、妊産婦等栄養強化の六事業がある。一歳六か月児健康診査費は、実施要領を示すのが遅れたことにより市町村への定着が遅れたのでスタートした昨年は実施した市町村が約半分にすぎなかった。同和対策妊婦健康診査費は今年新規に一八・一五万円同和地区の婦人を対象にした市町村への補助。

医療面では未熟児養育等対策費の中に未熟児養育医療費と妊娠中毒症等対策費がある。また小児慢性特定疾患対策費は入院治療のものを対象とするが、今年からこびと症も対象となった。注射治療のための通院が認められる。

心身障害研究費は一億七〇〇〇万円が進行性筋ジストロフィー症等の成因と特殊治療に関する研究費として医務局の予算に移替されて減。

表6 厚生省母子保健対策予算

(単位 千円)

項 目	53年度	52年度	対前年 増△減
母子保健対策費	9,632,861	9,187,917	444,944
1. 妊産婦乳幼児健康診査費	2,743,315	2,356,314	387,001
(1) 健康診査費	2,427,760	2,028,367	399,393
(2) 妊産婦幼児保健指導費	204,534	191,064	13,470
(3) 先天性代謝異常検査費	111,021	136,883	△ 25,862
2. 地域母子保健事業費	761,128	714,266	46,862
(1) 市町村母子保健事業振興費	550,000	530,000	20,000
(2) 1歳6か月児健康診査費	160,260	150,261	9,999
(3) 同和対策妊婦健康診査費	18,155	0	18,155
(4) 家族計画特別相談事業費	15,260	15,633	△ 373
(5) 民間母子保健事業推進費	17,453	18,372	△ 919
3. 母子医療対策費	5,618,418	5,437,337	181,081
(1) 未熟児養育等対策費	836,397	714,409	121,988
(2) 小児慢性特定疾患対策費	2,479,802	2,471,515	8,287
(3) 身体障害児育成医療等対策費	2,302,219	2,251,413	50,806
4. 心身障害研究費	510,000	680,000	△ 170,000
計	9,632,861	9,187,917	444,944

この他厚生省は婦人の健康づくり対策として公衆衛生局栄養課の予算として太りすぎと貧血の女性の増えている現状を調査し、一〇人中二〜三人が肥満、四人が献血不適格という調査をもとに今年度から一二〇市町村をモデルとして三年間家庭婦人、自営業の婦人

を対象に検診及事後指導費として八二〇〇万円を計上した。

◆厚生省売春対策予算

最近の売春の特徴として、①暴力団員のリンチを伴う売春、②外国女性(特に東南アジア)の監視つき売春、

③トルコ風俗営業を中心とした売春、

④年少者、家庭主婦、特に主婦売春の場合サラ金がらみによる暴力団との関係が問題となっている。

現在婦人相談所四七か所、婦人相談員四七九名、婦人保護施設は全国に六〇か所ある。

婦人相談所では、年間約一七〇〇件を受付けているが、年齢別では三〇代が三二%、二〇代が二八%で計六割になっている。相談の内容は家庭問題が二七%、結婚離婚問題一九%、経済問題が一七%。

婦人保護施設には現在九七七名を収容しているが、年齢別では五〇代が二五%、四〇代が二九%、三〇代が二四%で全体の七五%を占めている。収容期間は五年以上が三割おり、いわば高齢化、長期化の現象にある。

各省にわたる五三年度の売春関係予算は下記の通り。

○総理府（売春対策審議会経費）

一二二万二〇〇〇円

○厚生省（婦人保護対策費）

・婦人相談等事業費

四億九三〇〇万円

・収容保護事業費

一五億〇三〇〇万円

計 一九億九七〇〇万円

○法務省

・婦人補導院経費

一億三一九二万八千円

・婦人補導院収容経費

一三二八万六千円

計 一億四五二〇万四千円

〔編集後記〕

◆78年私的ニュースといえ、  
「中学三年生にして初めてフラれた」この件につきます。世の中にこんなに沢山のニュースがあったとは……失恋にかまけて気付かなかった。

（れ）

◆78年、伊豆・宮城で大地震、南米ガイアナで新興宗教の信者が集団自殺——何やら現在の日本社会の不安と通ずるような出来事。

“過去”はそれほど“過去”ではない。

（色）

◆育児の真っ最中で世の中の情報や動きに鈍になっていた時期なので、78年は私にとって意外に新鮮で、その頃の自分をニュースとできごとの中にゆっくり見直すこともできました。

（綿）

◆みんな苦労したのだな……切り抜きを編集する度に思うことです。一つ一つの問題提起、一つ一つの勝訴。女のたたかいのビビッドな記録に改めて深い感銘を受けています。

（千）

I  
それぞれの旅

II  
自治体派遣の実情

III  
NGOフォーラムで語られたこと

IV  
マスメディアは何を伝えたか

V  
政府間会議の討議と資料

VI  
ポスト北京——問題点と行動

これからの行動、そして5年後の会議を目指して  
北京会議の総括をしています。

皆様の印象記、報告会の様子、おもしろかった外国のワークショップ等々、原稿・写真・資料をお待ちしています。

〒160 東京都新宿区新宿1-9-4-303

あごら「北京会議記録集」係

---

あごら 215号(特集41号) ●発行 1996年2月10日

●編集 『新聞切り抜きに見る女の16年VI』編集会議

●発行所 BOC出版部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-4-303

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●振替00100-0-5264

●発行人 あごら企画会議 ●定価2575円(2500円+税75円)

---

この ひろい宇宙に  
たった一つの地球

その 大きな地球に  
たった一人のわたし  
そして あなた

かけがえのない地球

かけがえのないわたし

かけがえのないあなただから

たいせつに たいせつに しよう

あなたも

わたしも

地球も

たった一度きりの人生だから

思いきり

のびやかに生きよう

だれもが だれをも

ふみしだくことなく

胸の底まで深く息をし

ああ 生きててよかったねと

ほほえみあえる地球にしよう

へあこら

人と人の出会うひろば

へあこら

人と人の共に生きるひろば